



2012年度入学者用

履修ガイド

—大学での学習方法について—

**この「履修ガイド」は入学した時だけ一人一冊配布されます。
卒業するまで使用しますので大切に保管し、十分活用してください。**

- ◆「履修ガイド」は卒業するために必要な単位の修得方法や資格取得に必要な単位についてなど重要な項目が掲載されています。よく読んで履修計画を立ててください。
- ◆本ガイドは訂正される場合があります。訂正された場合は、本学ホームページのオペリンナーサイトにある「授業・履修情報」の「履修ガイド」(http://obiriner.obirin.ac.jp/campus_life_guide/registration/registration_guide.html)で確認できます。
- ◆本ガイドと共に「講義案内」「授業時間割表」「大学施設の案内」「学生生活ガイド」が配布されます。大学生活を送るために必要な事柄が掲載されていますのでよく読んでください。
- ◆「授業時間割表」「講義案内」は毎年度始めに配布します。
- ◆教育支援課からのお知らせは、掲示板で行いますので登下校の際には必ず掲示板を見てください。掲示板の場所は「学生生活ガイド」を参照してください。また e-Campus 上でもお知らせしますので、掲示板とあわせて随時確認してください。
なお、教室変更と休講は掲示板及び本学ホームページのオペリンナーサイトにある「授業・履修情報」(http://obiriner.obirin.ac.jp/lecture_information/list.html)で確認できます。

目次

はじめに	1
1. 本学の教育目標	1
2. 建学の精神	1
3. 大学生活を始めるにあたって	1
4. 「チャペル・アワー」について	3
5. アカデミック・アドバイザーについて	3
I 本学の教育課程	4
1. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	4
2. ディプロマポリシー(学位授与の方針)	4
II 本学における履修	5
1. 本学の単位制と授業科目の区分	5
2. 授業方法と単位	5
3. 単位の計算方法	5
4. 授業科目の種類と履修のレベル	5
5. メジャーとマイナー	6
6. 成績評価と単位認定	6
7. GPA制度	7
8. 履修登録の手順	9
9. 授業と学習	10
10. 単位の修得	10
11. 他大学等で修得した科目の単位認定	10
12. 卒業	11
13. 学生証	11
III 授業科目と履修方法	12
1. 基盤教育院	12
1. 基盤教育院について	12
2. コア科目(全学必修)	12
3. 基盤教育科目	13
4. 外国語科目	14
2. リベラルアーツ学群	18
1. リベラルアーツ学群について	18
2. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	19
3. ディプロマポリシー(学位授与の方針)	19
4. 卒業要件	20
5. 専攻プログラム案内	21
6. 専攻科目と諸注意	98
3. 総合文化学群	138
1. 総合文化学群について	138
2. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	138
3. ディプロマポリシー(学位授与の方針)	138
4. 卒業要件	140
5. 専攻コース案内	141
6. ガイダンス ・専攻科目と諸注意	145
4. ビジネスマネジメント学群	153
1. ビジネスマネジメント学群について	153
ビジネスマネジメント学類	153
1. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	153
2. ディプロマポリシー(学位授与の方針)	154
3. 卒業要件	155
4. プログラム案内	156
5. ガイダンス ・専攻科目と諸注意	162

アビューションマネジメント学類	168
1 カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	168
2 ディプロマポリシー(学位授与の方針)	168
3 卒業要件	169
4 専攻コース案内	170
5 ガイダンス ・専攻科目と諸注意	173
5. 健康福祉学群	179
1 健康福祉学群について	179
2 カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)	179
3 ディプロマポリシー(学位授与の方針)	179
4 卒業要件	181
5 専攻コース案内	182
6 ガイダンス ・専攻科目と諸注意	186
IV 他大学等における履修	194
1. 海外留学による修得単位の認定	194
2. 特別聴講学習プログラム	194
V 技能審査による単位認定	195
VI 資格等等	196
本学で取得できる資格等一覧	196
1. 教育職員免許状(国家資格)	197
1. 教育職員免許状の取得について	197
2. 本学の教職課程	198
3. 教職課程履修上の注意事項	199
4. 教職課程の構成	201
5. 「教職に関する科目」の履修方法	202
6. 「教科に関する科目」の履修方法	206
7. 「教科または教職に関する科目」の履修方法	226
8. 「教育職員免許法施行規則66条の6で定める科目(一般教養科目)」の必要単位数	226
9. 「介護等体験」「教育実習」について	227
10. 他学群聴講による免許状取得について	231
11. 教育職員免許状の申請	231
12. 各種証明書	231
2. 学校図書館司書教諭(国家資格)	233
3. 博物館学芸員課程(国家資格)	234
4. 社会福祉士(国家資格)	238
5. 精神保健福祉士(国家資格)	240
6. 認定心理士(公益社団法人日本心理学会認定資格)	242
7. 健康心理士(日本健康心理学会認定資格)	244
8. 健康運動実践指導者(公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格)	245
9. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会(共通科目I+II)免除適用コ	247
10. 公認障害者スポーツ指導者(公益財団法人日本障害者スポーツ協会資格)	248
11. 保育士(国家資格)	249
12. 幼稚園教諭1種免許状(国家資格)	252
13. 社会福祉主事任用資格	256
14. 児童指導員任用資格	257
15. 操縦士(国家資格)	258
16. ECO-TOPプログラム(東京都認定)	260
参考資料	262
1. 桜美林大学学則	262
2. 桜美林大学卒業規則	275
17. 日本語教員養成課程	276
18. 児童福祉司任用資格	277
19. 児童心理司任用資格	278

はじめに

1. 本学の教育目標

本学は、キリスト教精神に基づいて、教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基礎とし、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、深く専門学芸の研究と教育を行うことを目的とする。

2. 建学の精神

学園創立者 清水安三（1891～1988）

桜美林学園はキリスト教主義の教育によって、国際的人物（International Character）の育成を目的としています。本学園の理事だった故大原総一郎博士はそのご生前、「百年後の日本」と題する懸賞文を募ってはどうかと、政府に提案されたが、果たして百年後に日本なる国が、世界の地図の上になお存在しているであろうか、私はひそかに心配している。日本国民は、世界にかつてない非攻非戦主義のパシフィックな憲法を持っているが、果たしてパシフィスト精神を持っているであろうか。

そこに、日本の存亡の問題が存している。日本国民が、軍備を用いずに祖国を護ろうと思うならば、少なくとも周囲の各国民の感情を害してはならぬ。常に、周囲の各国民との間に、意思の疎通を図るべく努めねばならぬ。では誰が、周囲の国民に、本国民程にbeloved nation “愛好すべき国民”はないと、思わせ得るであろうか。それは、語学の達人である。よって本学は、我が国の周囲の国々の言語を教えんと欲するのである。

更に、語学だけでは足りない。己を愛する如く隣人をも愛せよ、と教えるキリスト教を、みっちり教えるべきである。

かくてキリスト教主義と語学、この二つをよく体得した人材を能うだけ多数教育せんとするのが、本学の建学の趣旨である。

3. 大学生活を始めるにあたって

学長 三谷高康

「あなたたちは真理を知り、真理はあなた方を自由にする」という有名な言葉があります。これは新約聖書のヨハネによる福音書の一節ですが、聞くところによりますと、国会図書館の壁には、この言葉がギリシャ語で書かれています。おそらく、訪れる人に対して、たくさんの本を読んで知識を広げれば、「真理」、つまり「本当のこと、まことの道理」（広辞苑）を知ることができる。そうすれば、根拠のない偏見や先入観、間違った判断から自由になれる。これが、真理はあなたたちを自由にするのだと伝えたかったのでしょうか。

でも、頭の中の知識を増やすことだけでは十分ではありません。安曇野の「碓山美術館」には、「万巻の書を読み、千里の道を行く」という萩原守衛（碓山）の言葉が掲げてありますが、「万巻の書を読む」ことで得た知識を、「千里の道を行く」ことで身をもって確認する、という意味でしょう。そこには、実際に「旅行をして見聞を広げる」という意味もあるでしょうが、もう少し

2 はじめに

深い意味もこめられているように思われます。人生そのものが「千里の道」なのだということです。その遥かな道をたゆまずに歩み、知識を実生活に生かして行くことによって初めて、人は真理を本当に「知る」ことができる。この彫刻家は、そう考えたのでしょう。

大学での学習は、学問と表現するのが適切だと思いますが、その学問とは真理の探究を目的にした知的営みです。そして、そこには二つの基本的な姿勢が求められます。一つは、継続的な姿勢です。礫山の言葉を借りれば、道をたゆまず歩むということです。つまり学問とは生涯にわたって学び続ける姿勢が重要だということです。大学とは、そうした向上心を培う教育の場です。21世紀は知識の量が飛躍的に増大し、グローバル化によりその知識は常に変化し続けています。そうした状況下ですので、学び続けることの重要性がますます問われるようになってきました。その為に、皆さん方はまず基礎的な学力を身につける必要があります。コミュニケーションスキルや語学力、或いは特定の学問分野の基礎的な知識、さらにはIT機器の活用能力など、初年度の科目群をしっかりと履修することが重要です。そして、そのうえで専攻する特定の学問分野を体系的に理解し、自己と歴史・社会・自然との関連付けを探ることへと進んでいきます。そうした学びの過程で、私たちは自分で考える主体的な能力を養い、課題を発見しそれを解決する、いわゆる考え抜く力が身につけていきます。

二番目の姿勢は、真理への謙虚さです。「学問」の「学」は「学ぶ」ということですが、これは「まねぶ」すなわち「まねる」という意味を含んでいます。優れた教えや態度を吸収するという意味合いがあります。そのためには「優れたものに対する謙虚さ」が必要です。私はもう足りています、十分です、と思ったら「学び」はストップしてしまいます。

「真理に対する謙虚さ」は人格を「陶冶」(bildung)する、即ち、道徳性を培うと言われてきました。これは19世紀のドイツの哲学者フンボルトの教えですが、今の時代に言いかえると、大学での学習を通して私たちは自己完結の人生観から解放放たれて、他者の立場に身を置く共感の姿勢を獲得するということです。国際社会に生きる私たちは、異文化を持つさまざまな人々と相互の理解をふかめていかねばなりません。更に、学ぶことは自分自身の為だけではなく、隣人や社会の為であるとする建学の精神「学而事人」(学んで人に仕える)を体現する、そのような人になってほしいと願っています。

こうした学びのために、本学では2005年から学群制を導入し、隣接する科目を広く学ぶ事が出来るようにしています。健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群、総合文化学群の3つの学群には、専門性の高い実践的な技能習得を目的として科目をそろえ、それぞれの教育目標に合わせて学ぶべき科目を履修できるようにしています。またリベラルアーツ学群は、人文/社会/自然/学際・統合科学の学問領域を設定し、37の多彩な専攻プログラムから専門を選択するシステムを整えています。これらの学群の科目を通じて多様な価値観を理解し、自主的で幅広い思考力を養い、国際的な視野を持つことを目指して下さい。

4年間の学生生活は長いようで短いものです。貴重なこの時期ですから、学生生活の中で多くの仲間と出会い友情を育て、また学業を通じて教育と信頼関係を築き、いろいろなことを学び取ってください。分からないことは積極的に問い、教員の知識や経験を媒介に一人一人が、自分の人間性を豊かに育ててください。

最後に、自由に伸び伸びと大学生活を過ごすことを期待しています。なぜなら、「真理はあなた方を自由にする」からです。

4. 「チャペル・アワー」について

本学には「チャペル・アワー」が設けられていますが、「チャペル」とは「学校・病院等、教会以外の施設にある礼拝堂」を指しています。本学のチャペル・アワーとは「大学で行われるキリスト教の礼拝の時間」を表しています。キリスト教の礼拝自体が教育的側面を持っていますが、特に、教育機関である学校における礼拝はそれが強く前面に出されています。「絶対的な存在」「究極的な存在」との出会いを通し、諸学問への真理探求が喚起されると共に、自己を相対化し、真実なる自己との出会いが可能となります。その意味において、大学というアカデミックな機関において、「チャペル・アワー」は大変重要なものであります。教鞭に立っている先生方や近隣の牧師の方など、それぞれの学問的領域や現場からの豊かな「メッセージ」を通し、多くの啓発を得ることができます。自由参加のプログラムですが、自己探求、真理探求のための重要な機会として受け止め、積極的に出席することを期待しています。

チャペルアワーの開催日時等につきましては、明々館1階・太平館2階・崇貞館2階・栄光館2階のスタンド式案内板および其中館・荊冠堂の掲示板をご覧ください。

5. アカデミック・アドバイザーについて

本学には、教員がアカデミック・アドバイザー（以下「アドバイザー」とする）として学生ひとりひとりを担当し、学習に関する指導を行う制度が設けられています。アドバイザーは、学生の履修登録と成績を絶えずモニターし、1学期に最低1回は学生に指導や助言を行います。

学生は学群長に対して、アドバイザーの変更を願い出ることができます。総合文化学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群の学生が「専攻演習」を履修した場合は、その担当教員をアドバイザーにすることができます。

(1) アドバイザーとの連絡のとり方

アドバイザーは授業の他に、オフィスアワーという時間を設けています。これは学生との相談に当てられる時間です。時間帯はe-Campus 及び教育支援課に掲示してあります。

オフィスアワーには基本的にアドバイザーが教員オフィスに在室していますが、学内の急用で席を外す場合もあります。アドバイザーとのすれ違いを無くすため、学生は可能な限りEメール等でアドバイザーと面会時間の約束をしてください。

(2) アドバイザーとの関係について

① プライバシーの保護

相談や指導に際して、アドバイザーは必要に応じて家庭や個人的な事情にふれる場合があります。ただし、プライバシーに関わる事項の回答については、各学生の意志に任されます。

② 不服の申し立て

アドバイザーの指導について不服があるときは、学群長に申しでてください。学群長は、公平な立場で問題の解決にあたります。

I 本学の教育課程

1. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目指します。

この教育目標を達成するために、各授業科目を有機的に履修できるようカリキュラム(教育課程)を編成しています。

1. 基礎教育科目

「基礎教育科目」では、本学における学習に必要な基礎知識と技能を身につけ、ます。専攻分野の授業の内容を十分に吸収できる基礎学力を養成し、大学における4年間の学習が充実したものとなるよう、全学必修の「コア科目」、各学群指定の基礎的な科目、外国語科目等で構成されています。

「コア科目」は、本学の建学の精神や大学における学習・生活の基礎を学ぶための科目であり、所属学群に関わらず、必ず履修しなければなりません。

2. 専攻科目

「専攻科目」は、各学群の専攻プログラム、コース、専修それぞれの専門性の高い学術体系によって構成されています。各学問分野を系統的かつ集約的に履修することで、体系的に専門性を養います。

3. 自由選択

「自由選択」は、個々の学生の多様な関心や要望及び目的を達成するために、学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修する構成となっています。自他学群の専攻科目や国内外の提携大学の授業科目等を履修することにより、学びの幅を広げることができます。様々な分野を幅広く学んだり、特定分野を一定程度学ぶなど、自主的・自律的な学びが可能となります。

各学群のディプロマポリシーについては、「Ⅲ.授業科目と履修方法」のページを参照してください。

2. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

本学、学群及び学類の教育目標を達成し、定められた在学期間、単位数、GPA(Grade Point Average)を満たした者に対し、学位を授与します。

各学群のディプロマポリシーについては、「Ⅲ.授業科目と履修方法」のページを参照してください。

II 本学における履修

1. 本学の単位制と授業科目の区分

本学の授業科目は、必修科目・選択科目の2種類に分かれます。

授業科目にはすべて所定の単位が配当され、授業を履修し、試験等に合格することによって、その科目及び単位を修得したことが認められます。

1. 必修科目 全学必修の科目、及び学群ごとに定められている必修科目は、すべて履修し、修得しなければなりません。
2. 選択科目 学群ごとに、いくつかの科目の中から選択して履修し、修得しなければなりません。

3. 授業方法と単位

本学の授業は、原則として週5日(月曜日～金曜日)の授業を組み、春学期~~15~~¹⁴週、秋学期~~15~~¹⁴週のセメスター制(学期制)の授業を行っています。

1. 週1時限の授業科目——春学期又は秋学期において、週1回(1時限~~90~~¹⁰⁰分)の授業を行います。講義・演習の授業科目には2単位、語学は1単位、実験・実習・体育実技の授業科目には1単位が与えられます。
2. 週2時限の授業科目——春学期又は秋学期において、週2回(2時限計~~180~~²⁰⁰分)の授業を行います。講義・演習の授業科目には4単位、語学は2単位、実験・実習等の授業科目には2単位が与えられます。
3. 春学期～秋学期継続の授業科目——年間を通して週1回(1時限~~90~~¹⁰⁰分)の授業を行います。講義・演習の授業科目には4単位、実験・実習等の授業科目には2単位が与えられます。本学はセメスター制を基本としているため、この授業形式は例外的なものです。

2. 単位の計算方法

本学の卒業に必要な単位数は124単位です。各授業科目の単位数は、1単位に相当する授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし(学則第38条参照)、次の基準によって計算します。

1. 講義及び演習の授業——毎週1時間、~~15~~¹⁴週の教室内講義をもって1単位とします。
2. 実験、実習及び体育実技等の授業——毎週2時間、~~15~~¹⁴週の実験又は実習をもって1単位とします。
3. 講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う授業——組み合わせに応じ、1.2.に規定する基準を考慮して定められた時間の授業をもって1単位とします。
4. 卒業論文、卒業制作、卒業研究等の授業——別途、適切な単位を定めます。

※以上が単位計算の基本ですが、実際の授業形式と関連させてみると、以下のようになります。

4. 授業科目の種類と履修のレベル

本学には基盤教育院が提供する科目と学群が提供する科目があります。科目によっては、先修

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

6 II 本学における履修

条件、履修年次、レベルが定められているものがあります。それぞれの卒業要件に従って計画的に学習することが肝要です。

先修条件

科目によっては先修条件が付いているものがあります。先修条件とは、「ある科目を履修するためには別の科目の単位を修得済みであることが条件となる」ということです。授業科目一覧表を確認し、充分注意してください。

履修年次

科目には履修することのできる年次が定められています。例えば、履修年次が「2」と示されている授業科目は2年次以上であれば履修することができます。

レベル

科目にはその内容に応じて、レベルが定められています。それぞれ100、200、300、400で設定されており、100から400へと段階的にレベルが高くなります。レベルに沿って学習を進めることにより、段階的かつ系統的な学習ができます。

5. メジャーとマイナー

所属する学群の専攻科目で構成される専攻プログラム・専攻コースを登録し、所定の単位を修得することによって、その専攻プログラム・専攻コースの修了が認定されます。

メジャー：どの学群でもメジャーを修了することが卒業の要件となっています。ただし、所属の学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、所属する学群の専攻プログラム・専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

6. 成績評価と単位認定

成績は、A・B・C・D・Fの5段階によって評価し、**A～Dを合格**として単位を与えます。**Fは不合格**とします。SまたはUでの評価が認められている場合は、Sを合格、Uを不合格とします。「成績・履修記録通知表」および「学業成績単位修得証明書」には、A・B・C・D・F・S・U・TCの成績が記載されます。

成績評価等の評語と意味

A	Excellent:特に優秀な成績
B	Good:すぐれた成績
C	Fair:一応その科目の要求を満たす成績
D	Minimal Pass:合格と認められる最低の成績
F	Failure:不合格
S	Satisfactory:合格(合否のみで成績を評価する場合)
U	Unsatisfactory:不合格(合否のみで成績を評価する場合)
TC	Transferred Credit:他大学等で修得した単位等の認定
I	Incomplete:履修未完了または成績評価の一時保留

I Incomplete:履修未完了(後記の7.を参照)
H Hold:成績評価の一時保留(同上)

試験、レポート、出席、平常点等に基づき、各授業の目標達成率を評価します。具体的な評価対象項目は各授業のシラバスに記載します。

メジャーとマイナーを変更(追加・削除)する場合は、以下期間に教育支援課で変更手続きを行ってください。

受付期間:オリエンテーション期間初日～定期試験期間最終日まで

成績評価に関する質問期間について

成績評価に質問がある場合は、直接担当教員に連絡をしてください。教員が不在等により連絡がつかない場合は、教育支援課にて「成績質問書」を受け付け、教育支援課より担当教員に連絡します。成績質問の対象は直前の学期のみとします。

質問期間：成績開示日～次学期履修登録締切日

※卒業を希望する学期のみ：成績開示日から5日間。ただし、最終日が土・日・祝日の場合は、次の平日を締切とする。

7. GPA制度

本学では、各科目の成績の平均値(Grade Point Average = 以下「GPA」とする)を用いて、アドバイザーが履修指導を行っています。このGPA制度は、学習を効果的に進めてその質を高めるため、導入されました。GPAは学生の成績を数値化し、客観的にモニターするためのツールです。GPAにより、学生は学習効果を自分自身で把握することができるため、個人の能力や意欲に合わせて主体的かつ充実した履修を行い、学習効果をあげることができます。GPA制度のもとでは、学生は一度登録した科目は責任を持って確実に履修することが求められます。GPAは卒業判定にも用いられます。学生は各自のGPAを常に認識し、学習計画をたてる必要があります。

1. GPAの算出方法

「A」「B」「C」「D」「F」の5段階の成績評価に、次のとおりグレードポイント(Grade Point)を付します。

A=4.0 B=3.0 C=2.0 D=1.0 F=0

履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものがGPAです。

【例】 授業科目名	(単位数)	評価	ポイント数
キリスト教入門	(2単位)	B	2 × 3.0 = 6.0
政治経済学 I	(4単位)	C	4 × 2.0 = 8.0
口語表現 I	(2単位)	A	2 × 4.0 = 8.0
コンピュータリテラシー I	(2単位)	B	2 × 3.0 = 6.0
英語コア I A	(2単位)	A	2 × 4.0 = 8.0
英語コア I B	(2単位)	D	2 × 1.0 = 2.0
英語エクステンション B A	(1単位)	A	1 × 4.0 = 4.0
心理学	(4単位)	F	4 × 0 = 0
スポーツ(ウィークリー)テニス I	(1単位)	B	1 × 3.0 = 3.0
合計	①20単位		②45.0
	GPA = ② ÷ ①		→ 45.0 ÷ 20 = 2.25

※ GPAの算出は、小数点第2位までとし、第3位以下は切り捨てます。(四捨五入はしません。)

※成績が「F」の科目は再履修することができます。再履修してA~Dの評価を受けた場合、通算GPAは再履修後の成績評価で算出されます。

2. GPAに基づく指導及び卒業要件等

(1) 履修登録単位数の上限の変動

学期ごとに履修登録できる単位数の上限は、入学した最初の学期は20単位を上限とします。

この上限は、次学期以降、前学期のGPAにより次のとおり変動します。

- | | |
|----------------------|------|
| ① 前学期のGPAが3.0以上 | 24単位 |
| ② 前学期のGPAが2.0以上3.0未満 | 20単位 |
| ③ 前学期のGPAが2.0未満 | 16単位 |

(2) GPAによる指導等

- ① 前学期のGPAが2.0未満となった学生に対しては、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ② GPA2.0未満が2期連続、または通産で3学期になった学生に対しては、本人及び保証人(保護者等)を呼び出し、アドバイザーによる注意と指導を行います。
- ③ GPA2.0未満が3学期連続、または通算で4学期となった学生に対しては、教授会の議を経て ~~退学を勧告~~ **書面にて強く注意を喚起**します。
- ④ 入学時から卒業時までの通算GPAが3.5以上の学生は、卒業時に、成績優秀者として表彰します。

(3) 卒業要件

卒業するには、本学において定められた期間の在学、定められた授業科目を含む124単位以上の修得のほか、**入学時からの通算GPAが1.5以上**であることを要します。

※上記の卒業要件は本学としての最低基準です。詳細は**各学群の卒業要件を参照**してください。

3. GPAが適用されない成績評価

(1) 「S」と「U」

履修者本人の希望がある場合には、可否のみで成績を評価することができます。これは、自分の専攻分野以外の授業科目について、GPAの変動を憂慮せずに挑戦できるようにとの趣旨で設けられた評価方法です。この方法で評価を受けるためには、各学期の履修登録期間中に、~~アドバイザーの承認および学群長の許可を得なければなりません。~~ ←

評価は「S」または「U」をもって表し、「S」を合格、「U」を不合格とします。「S」、「U」とともにGPAの計算には含めません。

※次に該当する科目は適用外です。

- ①所属する学群・学科の専攻科目、マイナーの科目
- ②基礎教育科目で必修となる科目
- ③教職課程、博物館学芸員課程等、本学で取得できるすべての資格に関わる授業科目

※履修できる単位数は、在学期間を通じて20単位(編入学者は10単位)を上限とします。

※キャリアデザインⅠ・Ⅱ、フィールドスタディーズ科目は、申請の有無に関わらず、「S」

または「U」で成績評価します。履修した場合、上記の上限単位数に含まれます。

※一度成績評価Fを受けた科目を、S/U評価にして再履修しても成績は上書きされません。

(GPAは変動しません)

(2) 他大学等の授業科目の履修等

他大学等において履修した授業科目について修得した単位や、各種資格等について単位認定する場合の評価は「TC」とし、GPAの計算には含めません。

4. 履修未完了の場合

授業期間外に行われる実習や集中講義などの場合、または天災地変、近親者の死亡、交通事

S / U評価の申請をe-CampusのWeb申請から手続きを行ってください。

5. GPAの再計算

前学期のGPAが再計算された場合、以下の時期によって再計算後のGPAが適用されるか否かが決定されます。

学期開始～Drop&Add(履修登録変更)期間内:再計算後のGPAは前学期分に適用されます

Drop&Add(履修登録変更)期間終了後:再計算後のGPAは前学期分に適用されません

Ⅱ 本学における履修 9

故、疾病その他の正当な理由で試験やレポートの提出ができなかった場合など、やむを得ない事情で本人の申し出により担当教員が認めた場合には、成績表に「I」と表示され、当該授業科目はGPAの計算に含めません。次学期所定の期日までに担当教員の指定する方法(追試験・課題等)で必要な補足をすれば成績評価が確定され、GPAの再計算が行われます。ただし、期日までに必要な補足がなされない場合には、「I」は自動的に「F」となってGPAの再計算が行われます。

また、学期内に授業が完了できないと担当教員が判断した場合は、成績表に「H」と表示され、当該科目はGPAの計算に含めません。担当教員が成績採点可能と判断したタイミングで成績評価が確定され、GPAの再計算が行われます。

8. 履修登録の手順

各年度または学期に履修する科目については、当該年度または学期初めの指定期間内に、以下の手順に従って履修登録してください。

その際、履修ガイド・講義案内・授業時間割表・シラバス(e-Campus)を必ず参照してください。

履修説明・ガイダンス

各学群ごとに行います。

時間割の作成

各学群の履修条件に照らして各自で履修プランを立て、時間割を作成します。その際、次の各項に注意してください。

1. 時間割記載の授業科目名・授業コード・曜日・時限・教室番号を確認してください。
2. 同一時限は1科目しか履修登録できません。
3. 週2科目の授業コードは、最初の時限に記載されています。
※ペアとなる時間帯で他の科目と重複しないか、注意してください。
4. 履修登録単位の上限を超えては登録できません。
※学期ごとに履修登録できる単位数の上限は入学した最初の学期は20単位を上限とします。この上限は、次学期以降、前学期のGPAによって変動します(前記の7.を参照)
なお、学期～秋学期継続の授業科目については、原則として、単位数の2分の1を当該各学期の履修登録単位数として計算します。
5. 既に修得した授業科目については、再履修の登録はできません。ただし、一部の重複履修が認められている授業科目を除きます。

アドバイザーとの履修相談

必ずアドバイザーの履修指導を受け、確認を得てください。

※アドバイザーの確認を得ていない場合は、履修登録が無効となる場合があります。

履修登録確認

履修登録

登録期間内にセルフアクセスセンター、アドバイザーのオフィス、自宅その他のパソコンからe-Campusを利用して履修登録を行ってください。

※e-Campusについては「ネットワーク利用ガイド」を参照してください。

Drop&Add

履修登録締め切り日から約1週間を、Drop&Add期間(履修登録変更期間)とします。必要に応じ、アドバイザーの確認を得て、履修登録の削除・追加をすることができます。

履修登録最終確認

e-Campusで各自の履修登録の最終確認を必ず行ってください。

※履修登録されていない科目については、出席しても単位は修得できません。

履修登録完了

Drop&Add期間に追加で履修登録した授業について、履修登録前の授業は原則として欠席とみなされるため、十分にご注意ください。

※ Drop&Add 期間（履修登録変更期間）後、**所定の期日までに** 授業担当教員及びアドバイザーの承認がある場合に限り、「履修放棄」を認めます。学期の授業期間内において病気等正当な事由が確認できればこの限りではありません。

※ 必修科目の単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度に再履修の登録をしてください。

9. 授業と学習

本学の授業科目は、原則として週5日（月曜日～金曜日）の授業を組み、春学期14週、秋学期14週のセメスター制（2学期制）の授業を行っています。各学期末には、定期試験期間を1週間設けます。

<授業時間帯>

キャンパス	0時限	1時限	2時限	L時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
町田キャンパス									
新宿キャンパス	7:00 ～	8:50 ～	10:40 ～	12:20 ～	13:10 ～	15:00 ～	16:50 ～	18:40 ～	20:30 ～
多摩アカデミー ヒルズ（多摩AH）	8:40 ～	10:30 ～	12:20 ～	13:10 ～	14:50 ～	16:40 ～	18:30 ～	20:20 ～	22:10 ～
ブラネット淵野辺 キャンパス（PFC）	6:30 ～	8:20 ～	10:10 ～	11:50 ～	12:40 ～	14:30 ～	16:20 ～	18:10 ～	20:00 ～
	8:10 ～	10:00 ～	11:50 ～	12:40 ～	14:20 ～	16:10 ～	18:00 ～	19:50 ～	21:40 ～

- 欠席の取り扱い—— ~~欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた者は試験を受けられません。~~
~~本学に「公欠」の制度はなく、欠席等の扱いは担当教員の判断に任せられます。担当教員によっては追試等を実施する事もあります。~~
- 休講・補講—— 授業が休講になる場合は、事前に教育支援課掲示板及び本学ウェブサイトに掲示されます。授業時間数の不足を補う必要が生じた場合は、原則月曜日から金曜日の6時限目及び土曜日の1時限目から4時限目等に補講を行います。
休講掲示が無いに関わらず、授業開始時刻より20分以上経過しても担当教員が来ない場合には、教育支援課で指示を受けてください。
- 履修制限—— 履修希望者があらかじめ定められた数より多い場合には、抽選によって履修者を決定する場合があります。また、科目によっては、所属する学群等の学生を優先させる場合や、所属する学群等の学生のみ制限する場合があります。
- 授業の統合・閉講—— 履修登録者数が5名に満たないクラスについては、同一科目の別クラスと統合、または当該授業科目を閉講することがあります。

10. 単位の修得

各科目の単位修得には、次の諸条件を満足させる必要があります。

- 年度または学期初めに履修登録をすること。
- 登録した科目の授業に3分の2以上出席し、試験を受けること。定期試験は各授業期間終了後に1週間設定しています。試験はレポート提出等を含みます。
- 授業料その他の学納金を所定の期日中に納入していること。未納者は試験を受けられません。
- 成績評価が、A・B・C・D・Sのいずれかであること。FまたはUの場合は単位を与えません。

欠席回数が授業回数3分の1を超えた場合（14回授業の場合は5回以上）は、原則として成績は「F（不合格）」となります。本学に「公欠制度」はありませんが、自己都合による欠席でなく、次に掲げるような場合は、授業担当教員に相談することができます。ただし、成績評価における欠席等の扱いは授業担当教員の判断に任せられています。なお、Drop&Add期間（履修登録変更期間）に追加で履修登録した授業について、履修登録前の授業は原則として欠席とみなされるため、十分にご注意ください。

- 1) 大学が登校を禁止する「学校保健安全法で定められている感染症」
- 2) 本学で取得できる資格に関する各種実習（履修ガイド「資格等」参照）
- 3) 公認団体課外活動（公式戦、公式行事）及び左記活動と同等と認められる学外公認団体における全国、又は国際規模の公式戦、公式行事
- 4) 索引

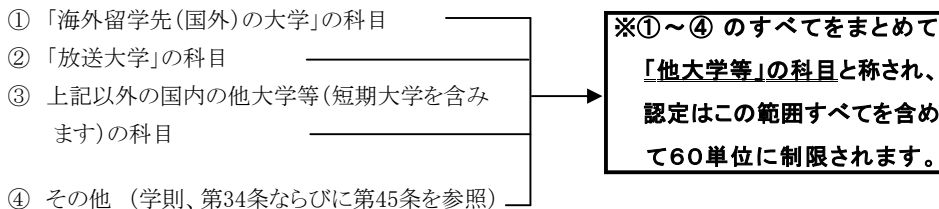
欠席する場合は、所定の「欠席届（e-Campus 掲示）」に必要事項を記入し、シラバス掲載の「教員との連絡方法」を確認のうえ、授業担当教員に連絡してください。

11. 他大学等で修得した科目の単位認定

本学に入学する以前、または在学中に他大学等で単位を修得した学生には、申請があればその科目を本学の単位として、上限60単位を条件に認定することがあります。
(詳細は「参考資料-1 学則：第34条、第44条ならびに第45条を参照）。

ただし、「他大学で修得した科目の単位」とは、以下に示すいずれかに該当する科目を指します。その認定可能な単位数の上限である60単位は、それら全ての中から任意に認定されることとなります。
したがって、以下①～④の全項目の範囲で修得した科目においては、その認定された科目の単位数が合計60単位に達した時点で、それ以上の単位認定がなされることはありません。

〈「他大学等」の科目の範囲〉



12. 卒業

卒業するためには、原則として4年以上在学し、所属する学群で定めるところにより124単位以上を修得し、かつGPAが1.5以上であることを必要とします(学則第58条)。卒業した者には、所定の学位が授与されます(学則第59条参照)。

卒業を希望する者は、当該学期の所定の期日までに、届け出る必要があります。届出がない場合には、卒業審査の対象とならず、卒業要件を満たしていても卒業が認められないことがあるので、注意してください。また、8年を超えて在学することはできません(学則第26条第2項)。

なお、必修となる授業科目、単位数その他の卒業要件は、入学時の規定が卒業まで適用されるので、履修にあたっては十分に注意してください。詳細は卒業規則を確認してください。

早期卒業制度

本学に3年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.6以上の者には、本人の希望により、卒業を認めることがあります。また、各学群において別に要件を付加することがあります。

※ビジネスマネジメント学群においては、上記に加えてTOEIC®700点以上を有していることを要件とします。

、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること

13. 学生証

1. 学生証は大学における履修と学生生活にとって重要なものです。紛失した場合、ただちに教育支援課に届け出て、再発行を受けてください。
2. 学生証は最長4年間有効であり、有効期限は学生証に記載されています。期限を超えて在籍する学生については、有効期限後に再発行します。
3. 試験を受験するときは、学生証を提示しなければなりません。

Ⅲ 授業科目と履修方法

1. 基盤教育院

1. 基盤教育院について

基盤教育院は大学全体としての教育を行います。それぞれの学群は、学問領域や教育目標に従って専門教育を行う組織ですが、基盤教育院は大学での学びの基盤となるような教育を行う組織です。みなさんがそれぞれの学群で学習を行っていくための基礎基盤となる知識や技芸、体験・経験等を基盤教育院のプログラムでしっかり身につけることとなります。従って、入学後最初の1年から1年半の間に基盤教育院の科目を集中的に履修します。

2. コア科目（全学必修）

本学における建学の精神を具体化した授業科目である「キリスト教入門」、日本語・英語を用いたコミュニケーション能力を身につける授業科目、基礎的な情報機器の操作スキルを身につける「コンピュータリテラシー」からなり、原則として合計16単位をすべて修得しなければなりません。

授業科目	単位数	履修年次	先修条件ほか
キリスト教入門	2	1	
口語表現 I	2	1	
文章表現 I	2	1	(注1)
コンピュータリテラシー I	2	1	(注2)
英語コア I A	2	1	(注1) (注2)
英語コア I B	2	1	(注1) (注2)
英語コア II A	2	1	英語コア I A(注1) (注2)
英語コア II B	2	1	英語コア I B(注1) (注2)
日本語専門基礎A I	2	1	外国人留学生等のみ履修可
日本語専門基礎A II	2	1	外国人留学生等のみ履修可
日本語専門基礎B	1	1	外国人留学生等のみ履修可

<注意事項>

(注1) 外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現 I」、「英語コア I A・I B・II A・II B」に替えて「日本語専門基礎 A I・A II・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注2) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

3. 基盤教育科目

基盤教育科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

区分	授業科目	単位数	履修年次	先修条件
キリスト教理解	聖書	2	1	
	キリスト教と他宗教	2	1	
	キリスト教と社会	2	1	
	キリスト教と芸術	2	1	
コミュニケーションスキルズ	コンピュータリテラシーⅡ	2	1	コンピュータリテラシーⅠ
	口語表現Ⅱ	2	1	口語表現Ⅰ
	文章表現Ⅱ	2	1	文章表現Ⅰ
	文章構成法	2	2	
アカデミックガイダンス	リベラルアーツセミナー	2	1	リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修
	大学での学びと経験	2	1	
	自己実現とキャリアデザイン	2	1	
	キャリアデザインⅠ	2	3	「S」または「U」で成績評価(注1)
	キャリアデザインⅡ	2	3	「S」または「U」で成績評価(注1)
フィールドスタディーズ	語学研修	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
	国際協力研修	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
	海外企業研修	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
	国際理解教育	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
	自主研究	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
	地域社会参加	2	1	「S」または「U」で成績評価(注2)
学問基礎	人文科学基礎	2	1	リベラルアーツ学群生は必修(注3)
	社会科学基礎	2	1	リベラルアーツ学群生は必修(注3)
	自然科学基礎	2	1	リベラルアーツ学群生は必修(注3)
	学際・統合科学基礎	2	1	リベラルアーツ学群生は必修(注3)
専攻入門	専攻入門	2	1	リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修(注3)

<注意事項>

- (注1)「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」はリベラルアーツ学群生における基盤教育科目の必修の単位には含まれず、自由選択の単位となります。
- (注2)フィールドスタディーズ科目区分における授業科目は、それぞれ複数のプログラムが開講されており、プログラムが異なれば、複数のプログラムを履修することが可能です。ただし、同一学期に複数プログラムを履修できない場合があります。
- (注3)「人文科学基礎」「社会科学基礎」「自然科学基礎」「学際・統合科学基礎」「専攻入門」は()内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

4. 外国語科目

外国語科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

授 業 科 目	単位数	履修年次	先修条件ほか
英語エクステンションA	2	1	
英語エクステンションB	1	1	
日本語Ⅰ	6	1	短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅱ	6	1	短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅲ	4	1	短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅳ	4	1	短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅴ	2	1	短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅵ	1	1	短期留学生等のみ履修可
日本語演習	1	1	(初級)は短期留学生等のみ履修可 (中級・上級)は担当教員の許可を得て履修可
アラビア語Ⅰ	2	1	
アラビア語Ⅱ	2	1	
アラビア語Ⅲ	2	2	
アラビア語Ⅳ	2	2	
イタリア語Ⅰ	2	1	
イタリア語Ⅱ	2	1	
イタリア語Ⅲ	2	2	
イタリア語Ⅳ	2	2	
イタリア語Ⅴ	2	3	
イタリア語Ⅵ	2	3	
インドネシア語Ⅰ	2	1	
インドネシア語Ⅱ	2	1	
インドネシア語Ⅲ	2	2	
インドネシア語Ⅳ	2	2	
カンボジア語Ⅰ	2	1	
カンボジア語Ⅱ	2	1	
カンボジア語Ⅲ	2	2	
カンボジア語Ⅳ	2	2	
ギリシア語Ⅰ	2	1	
ギリシア語Ⅱ	2	1	
ギリシア語Ⅲ	2	2	
ギリシア語Ⅳ	2	2	
ロシア語Ⅰ	2	1	
ロシア語Ⅱ	2	1	
ロシア語Ⅲ	2	2	

(次のページに続く)

授業科目	単位数	履修年次	先修条件ほか
コリア語Ⅳ	2	2	
コリア語Ⅴ	2	3	
コリア語Ⅵ	2	3	
スペイン語Ⅰ	2	1	
スペイン語Ⅱ	2	1	
スペイン語Ⅲ	2	2	
スペイン語Ⅳ	2	2	
スペイン語Ⅴ	2	3	
スペイン語Ⅵ	2	3	
タイ語Ⅰ	2	1	
タイ語Ⅱ	2	1	
タイ語Ⅲ	2	2	
タイ語Ⅳ	2	2	
ドイツ語Ⅰ	2	1	
ドイツ語Ⅱ	2	1	
ドイツ語Ⅲ	2	2	
ドイツ語Ⅳ	2	2	
ドイツ語Ⅴ	2	3	
ドイツ語Ⅵ	2	3	
ビルマ語Ⅰ	2	1	
ビルマ語Ⅱ	2	1	
ビルマ語Ⅲ	2	2	
ビルマ語Ⅳ	2	2	
フランス語Ⅰ	2	1	
フランス語Ⅱ	2	1	
フランス語Ⅲ	2	2	
フランス語Ⅳ	2	2	
フランス語Ⅴ	2	3	
フランス語Ⅵ	2	3	
ベトナム語Ⅰ	2	1	
ベトナム語Ⅱ	2	1	
ベトナム語Ⅲ	2	2	
ベトナム語Ⅳ	2	2	
ポルトガル語Ⅰ	2	1	
ポルトガル語Ⅱ	2	1	
ポルトガル語Ⅲ	2	2	
ポルトガル語Ⅳ	2	2	

(次のページに続く)

授業科目	単位数	履修年次	先修条件ほか
ラテン語 I	2	1	
ラテン語 II	2	1	
ラテン語 III	2	2	
ラテン語 IV	2	2	
ロシア語 I	2	1	
ロシア語 II	2	1	
ロシア語 III	2	2	
ロシア語 IV	2	2	
中国語 I	2	1	
中国語 II	2	1	
中国語 III	2	2	
中国語 IV	2	2	
中国語 V	2	3	
中国語 VI	2	3	

<注意事項>

履修方法 **母語または母語に準ずる言語は履修できません。**

原則として英語以外の外国語は I→II→III→IV→V→VI の順で履修しなければなりません。ただし、一定以上の能力を有すると認められた学生は、学生からの申請により II 以上の授業科目から履修できる場合があります（先修条件解除）。申請期間は Drop&Add（履修登録変更）期間と同じです（ただし、受付時間は 9:00～17:00）。期間外の申請はできません。

先修条件解除により、II 以上の授業科目から履修する場合は、以下 2 点にご注意ください

- a. II 以上の授業科目から修得した場合は、それより低い授業科目を履修することはできません。

〔（例）先修条件解除により、「スペイン語 IV」を修得した学生
⇒「スペイン語 I～III」は履修できません。〕

- b. 同時に同一言語の授業科目を、複数履修できません。

〔（例）「中国語 III」と「中国語 IV」を同一学期に履修することはできません。〕

リベラルアーツ学群

日本語以外の同一言語 8 単位または同一言語 4 単位を 2 言語 8 単位必修。

〔（○の例）コリア語 I②、コリア語 II②、英語エクステンション A②、英語エクステンション B①、英語エクステンション B① 計 8 単位
（×の例）コリア語 I②、コリア語 II②、コリア語 III②、英語エクステンション A② 計 8 単位〕

※ ○数字は科目の単位数を表します。

※ 「英語エクステンション A」「英語エクステンション B」は（ ）内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

2. リベラルアーツ学群

1. リベラルアーツ学群について

リベラルアーツ学群は、大学の教育課程で身につけておくべき基礎学術としての学問分野を幅広く用意しています。学生は、この学群で複合的かつ専門的に学ぶことを通して、社会で活躍するための総合的な知識だけでなく、主体的な行動力も獲得することができます。リベラルアーツ学群で用意されているプログラムは、「多様性」と「専門性」を同時に追究することをその特徴としており、学生を「自立した学習者：Independent Learner」として位置づけて、自らが学ぶものを自由かつ主体的に選択できるような仕組みになっています。

リベラルアーツ学群には人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学という、4つの学問分野からなる幅広い領域の科目が用意されています。具体的には言語学・外国語、コミュニケーション学、文学、哲学・思想、宗教学、歴史学、人類学、地域研究、法・政治学、社会学、心理学、教育学、経済学、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学、環境学、メディアといった分野が網羅されており、高い専門性を習得するために必要な科目からなる、37の「専攻プログラム」が提供されています。

リベラルアーツ学群の学生は、まず基礎教育科目の「コア科目」、「外国語科目」、「基盤教育科目」を重点的に学びます。特に基盤教育科目の「学問基礎」では、上記4分野の学問領域の基礎知識を学ぶとともに、「専攻入門」や「専攻科目」の履修を通して、各自の「メジャー（主たる専攻）」を何にするのか、時間をかけて選んでいきます。したがって、入学当初から自分の専門を決めておく必要はなく、さまざまな分野を学ぶことを通して、学問のおもしろさや新しい発見に触れながら、自分で本当に学びたい専門を選択・決定することが可能です。学生は、4セメスター目に、自らが選択した専攻プログラムをメジャーとして登録し、その中で専門性を深めていきます。なお、メジャーの選択と登録においては、学生の自由な意志を尊重しますので、人数制限等はありません。

メジャーの選択後は、指定された履修方法にもとづき、専門的な知識を本格的に学んでいきます。少人数クラスによる「専攻演習」（ゼミ）も用意されていますので、是非、履修しましょう。学生には、メジャー完成の要件として各専攻プログラムで設定された授業単位数の修得に加えて、専攻科目の総修得単位が62以上であることが求められます。また、各専攻プログラムには「マイナー（副次的な専攻）」も用意されており、メジャーよりも少ない単位修得数で完成させることができます。したがって、複数の専攻プログラムを組み合わせ、1つをメジャーで他をマイナーに、あるいは2つのメジャー（ダブル・メジャー）等の複合的な学習が可能です。これらすべてが、学生の選択に任されていますので、アドバイザーや教員と相談しながら自分で決めてください。

さらに、リベラルアーツ学群の学びでは、広い国際的な視野を養うための外国語の修得や海外体験が重視されます。学群のために用意された海外研修プログラム（GOプログラム）や、他のさまざまな留学プログラムには、少なくとも1回は参加することが勧められています。

最後に、学生の学びをサポートするために用意されているのが、アカデミック・アドバイザー制度です。リベラルアーツ学群では、すべての学生一人一人に対して教員であるアドバイザーが付きまします。アドバイザーは、必修のリベラルアーツ・セミナーや履修相談等を通して、この学群で学ぶことの意義や目標、必要な学習計画の立て方を指導します。なお、専攻プログラムの選択や専攻科目の履修上の相談については、各専攻プログラムで決められた相談員の教員もサポートします。

2. カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

リベラルアーツ学群の教育課程は、基礎教育科目、専攻科目、自由選択の3つに分けられており、それぞれの区分において科目を履修していきます。

基礎教育科目は主として1～2年次に履修し、大学での学びの基礎的なスキルを習得します。また、「学問基礎」や「専攻入門」などの導入教育を通じて、専門分野を自らが選ぶための情報と理解力を身につけていきます。

専攻科目はリベラルアーツ学群の教育の中枢をなすものであり、37の専攻プログラム（内、メジャーとして選択できるのは34専攻プログラム）から、1つ以上のメジャー（主専攻）を選び、その学問分野のなかで専門性の高い体系的な学習を行います。また、リベラルアーツ教育の特徴である幅広い教養を得るため、上記の専攻プログラムからマイナー（副専攻）を選択することができます。メジャーおよびマイナーとして、それぞれ複数の専攻プログラムを選ぶことも可能です。

最後に、自由選択では、学生の多様な興味や関心に対応して、さらに広い学びを提供するために、自学群だけでなく他学群の科目を含めて、基本的には自由に科目を選択して履修することができます。自由選択には最低単位数の要件が設けられていませんので、自分が選択したメジャーあるいはマイナーの科目を、必要単位数を超えて履修することもできますし、同様に、基礎教育科目について必要単位数を超えて履修することが可能です。

このように、リベラルアーツ学群の教育課程は、この学群の目的である、深い専門性と幅広い知識と教養の探求を実現するために編成されています。

3. ディプロマポリシー（学位授与の方針）

リベラルアーツ学群は以下の要件を満たす学生に対し、「学士（学術）」を授与します。

- ①本学の基礎教育科目を修めながら、自らの力で学問的な興味や関心を見極め、自立した学習者（Independent Learner）」として問題探求の能力を身につける。
- ②学群の多彩な専攻科目を修めながら、専門的な知識を学習すると同時に、学際的な幅広い教養を獲得し、問題に直面したときに多角的なアプローチから対処できる能力を身につける。
- ③人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学といった学問体系を総合的に学習することで、客観的思考能力、批判的思考能力、分析的思考能力、解決思考能力、コミュニケーション能力を身につける。
- ④本学群の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位（基礎教育科目42単位以上、専攻科目62単位以上、その他自由選択、計124単位）を修得していること。

4. 卒業要件

リベラルアーツ学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

※○数字は科目の単位数を表します。

		リベラルアーツ学群	
基礎教育科目 (注2) 42単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門 ② 口語表現Ⅰ ② 文章表現Ⅰ ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ ②	
	外国語科目 (注1)(注2) 8単位必修	外国語 (※同一言語8単位、または 同一言語4単位を2言語8単位)	
	基盤教育科目 18単位必修	キリスト教 理 解 2単位必修	聖書② キリスト教と他宗教② キリスト教と社会② キリスト教と芸術② (※上記4科目から2単位必修)
		コミュニケーション スキルズ	コンピュータリテラシーⅡ② 口語表現Ⅱ② 文章表現Ⅱ② 文章構成法②
		アカデミック ガイダンス 2単位必修	リベラルアーツセミナー② 必修
			自己実現とキャリアデザイン ② 大学での学びと経験 ②
		フィールド スタディーズ	語学研修② 国際協力研修② 海外企業研修② 国際理解教育② 自主研究② 地域社会参加②
		学問基礎 (注3) 8単位必修	人文科学基礎② 社会科学基礎② 自然科学基礎② 学際・統合科学基礎② (※上記の4つの学問分野から各2単位必修)
		専攻入門 (注3) 2単位必修	専攻入門②
その他 4単位必修		上記で必修として 士記で修得した科目に加えて、 基盤教育科目よりさらに4単位必修	
専攻科目 62単位 (最低必要単位)	以下の2つの要件を満たすこと 1. 専攻プログラムを1つ選び、メジャーとして修了すること 合計32～36単位(専攻プログラムにより単位数は異なる) 2. メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ 学群専攻科目から62単位を修得すること		
自由選択	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位 ・他学群専攻科目 ・基盤教育院の科目 ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む)認定単位(P.194) ・各種技能審査による認定単位(P.195) 		
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位	【その他の要件】 入学時からの通算 GPA が1.5以上		

基礎教育科目：コア科目16単位必修、外国語科目 8 単位必修、基盤教育科目のキリスト教理解より 2 単位必修、アカデミックガイダンスより「リベラルアーツセミナー」 2 単位必修、学問基礎より「人文科学基礎」 2 単位必修、「社会科学基礎」 2 単位必修、「自然科学基礎」 2 単位必修、「学際・統合科学基礎」 2 単位必修、専攻入門より「専攻入門」 2 単位必修。その他、基盤教育科目より 4 単位必修。合計42 単位

専攻科目：以下の 2 つの要件を満たすこと

- (1) 専攻プログラムを 1 つ選び、メジャーとして修了すること。合計32～36単位（専攻プログラムにより単位数は異なる）
- (2) メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ学群専攻科目から62単位を修得すること。

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算 G P A が1.5以上

<注意事項>

(注 1) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「文章表現Ⅰ」、「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注 2) G O プログラム参加者は、審査の上、外国語科目 8 単位の履修が免除され、基礎教育科目単位数が34単位となります。

外国人留学生等は、外国語科目 8 単位の履修が免除されます。免除された 8 単位は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

(注 3) 学問基礎及び専攻入門の科目は、それぞれ（ ）内のサブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。また、同じ科目名で異なるサブタイトルを 2 科目以上修得した場合は、**2 科目めからの単位を基礎教育科目のその他4単位必修の単位数として繰り入れることができます。**

5. 専攻プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻プログラムが置かれています。リベラルアーツ学群の専攻科目で構成される専攻プログラムを登録すると、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たし、卒業時のメジャー及びマイナー申請により、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件の 1 つとなっています。ただし、リベラルアーツ学群以外の学群の専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーは、メジャーほどの深い専門性を要求されませんが、各専攻分野で体系的に学習することで、副次的な専攻として認められるプログラムです。他学群の専攻コー

スもマイナーとして登録することもできますが、そこで修得した単位は自由選択の単位となります。

メジャー及びマイナーの登録は、4セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。

専攻プログラムの種類は、次ページのとおりです。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

リベラルアーツ学群

専攻プログラム	メジャー	マイナー
英語	○	○
中国語	○	○
日本語日本文学	○	○
日本語教育	○	○
言語学	○	○
コミュニケーション学	○	○
英米文学	○	○
中国文学	○	○
現代・世界文学	○	○
キリスト教学	○	○
宗教学	○	○
哲学	○	○
倫理学	○	○
文化人類学	○	○
アメリカ地域研究	○	○
アジア地域研究	○	○
日本地域研究 (J)	○	○
歴史学	○	○
国際関係	○	○
国際協力	○	○
社会学	○	○
心理学	○	○
教育学 (教職教育)	○	○
国際経済	○	○
ビジネスエコノミクス	○	○
公共政策	○	○
数学	○	○
物理学	○	○
化学	○	○
生物学	○	○
地球科学	○	○
情報科学	○	○
環境学	○	○
メディア (ジャーナリズム)	○	○
博物館学		○
日本地域研究 (E)		○
日本地域研究 (C)		○

英語専攻プログラム

1. 教育目的

現代社会において英語は、政治、ビジネス、メディア、インターネット等のあらゆる分野における主要な言語として位置づけられ、世界の英語話者は10億人から15億人もいっているとされています。つまり英語を身につけることは、新たな可能性や出会いを生み出す契機となるわけです。

英語専攻プログラムでは、1年次より英語の4技能（話す・読む・書く・聴く）を最大限に高めていきます。また2年次以降は、「英語」を英語学、英語教育の観点から具体的かつ実践的に学習し、更に英語の背景にある文化的な事柄やコミュニケーション法に関して理解を深めることによって、真に「使える英語」を習得することを目指します。

英語専攻プログラムでは、「使える英語」はもちろんのこと、英語を通して英語圏社会や文化に関する知識を深めることで、複眼的な視点から世界を理解して自ら行動することができる「英語を武器に国内外で活躍できる国際人の育成」を目的としています。

2. カリキュラムの特徴

英語を専攻する学生は、ELP (English Language Program) で4技能の基礎を固め、さらに3つのカテゴリーから科目を選択、履修していくことになります。その3カテゴリーは、(1) 英語の基礎力を鍛える〈入門基礎〉、(2) 英語を研究対象とする〈英語学〉、(3) 英語の背景にある文化やコミュニケーションについて学ぶ〈文化とコミュニケーション〉から構成されています。学生の皆さんは自分のニーズや興味にあった独自の英語専攻プログラムを作って学んでいくことになります。

具体的な科目を一部紹介すると、〈入門基礎〉は、英語の読解力を養う「英語文献講読」、英語の文法力を養う「英文法」、TOEICなどの資格試験対策を行う「資格英語」、〈英語学〉は、英語の発音方法を研究する「英語の音声」、英語の文のしくみを研究する「英語の構造」など、〈文化とコミュニケーション〉は、英語圏の文化を扱う「アメリカ文化」、「イギリス文化」、「英語圏の映画と文化」など、英語のコミュニケーション力を養う「Speech Communication Skills」や「Written Communication Skills」などの科目から構成されています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
入門基礎	英語文献講読Ⅰa	1	1	100	×		1単位 選択必修	1単位 選択必修	
	英語文献講読Ⅰb	1	1	100	×				
	英語文献講読Ⅱa	1	2	200	×	英語文献講読Ⅰa又はⅠb	1単位 選択必修	1単位 選択必修	
	英語文献講読Ⅱb	1	2	200	×	英語文献講読Ⅰa又はⅠb			
	英文法Ⅰ	2	1	100	×		6単位 選択必修		
	英文法Ⅱ	2	2	200	×				
	資格英語Ⅰ	1	2	200	△				
	資格英語Ⅱ	1	2	200	△				
英語学	英語学入門	4	1	200	△			必修	20単位 選択必修
	英語の音声	4	1	100	△				
	英語の意味	4	2	300	△	英語学入門		12単位 選択必修	
	英語の語彙	4	2	300	△	英語学入門			
	英語の構造	4	3	400	△	英語学入門			
	英語の歴史	4	3	300	△	英語学入門			
	早期英語教育	4	2	300	△	英語学入門			
	応用言語学	4	2	300	△	英語学入門			
文化とコミュニケーション	英米文化講読	4	2	300	△		12単位 選択必修		
	テーマで読む英米文学	4	2	300	△				
	アメリカ文化	4	2	200	△				
	イギリス文化	4	2	200	△				
	コモンウェルスの文化	4	2	200	△				
	英語圏の映画と文化	4	3	300	△				
	翻訳（英→日）	4	3	300	△	英文法Ⅱ			
	翻訳（日→英）	4	3	400	△	Written Communication Skills (G) または (A)			
	英語通訳Ⅰ	4	3	300	△	Speech Communication Skills (G) または (A)			
	英語通訳Ⅱ	4	3	400	△	英語通訳Ⅰ			
	Speech Communication Skills (G)	4	2	300	△				
	Speech Communication Skills (A)	4	3	400	△				
	Written Communication Skills (G)	4	2	300	△				
Written Communication Skills (A)	4	3	400	△					
							上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位	

中国語専攻プログラム

1. 教育目的

中国語専攻プログラムは、「聞く・話す・読む・書く」という4技能を最大限に高めることにより、「使える中国語」を身に付けると共に、中国の文化・社会・経済・日中文化の違いを学び、国際感覚を持つ、時代に求められている人材の育成を目的とします。

「世界の工場」から「世界の市場」に変貌した中国は、ますます世界に注目されています。2005年、日中間の貿易額はついに日米間の額を超え、中国は日本の最大貿易国となりました。

このような時代に最先端で活躍できる人材を育てることは中国語専攻プログラムの使命だと我々は思っています。

グローバル化時代であるからこそ、「あなたは他人とどう違うのか」が求められます。中国語専攻プログラムはあなたの価値を最大限に引き出すことを最大目標としています。

2. カリキュラムの特徴

中国語専攻プログラムは、〈中国語技能〉・〈中国語学・中国文化〉2つのカテゴリーから36単位を修得することを修了要件としています。ただし、ぜひ理解していただきたいのは、この36単位は専攻修了の最低条件であることです。

中国語専攻カリキュラムの特徴は、(1)中国語技能科目の充実。「聞く・話す・読む・書く」4技能の養成の内在的な要求に従って科目が編成されています。(2)カリキュラム編成の国際化。最低半年間中国語圏への留学をカリキュラムの一環と位置づけ、極力推奨します。(3)孔子学院「中国語特別課程」との連動。中国語を専攻とする学生は、半年間若しくは1年間中国語技能を本格的に集中訓練する本学孔子学院の「中国語特別課程」で学習できます。ただし、事前にレベルチェックを受け、一定の履修条件を満たす必要があります。(4)中国文化・社会・歴史、幅広い中国教養科目の提供。中国と付き合うための「今日に必要な知識」と「明日に必要な知識」は専攻プログラムの一部としてカリキュラムに編成されています。(5)日本での学習も留学先での学習も常に国際感覚が身につくことを重視しています。「国際人になる難しさ」から「国際人になる楽しさ」・「国際人になる充実感」まで体験してもらうことがカリキュラムの1つの狙いです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ中国語専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

メジャー	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
中国語	中国語会話Ⅰ	2	1	100	○			
	中国語会話Ⅱ	2	1	100	○			
	中国語発音トレーニング	1	1	100	○			
	中国語リスニングⅠ	1	1	200	○	(注1)		
	中国語リスニングⅡ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語リスニングⅢ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	○	(注1)		
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	○	(注1)		
	中国語会話Ⅴ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語会話Ⅵ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	○	(注1)		
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	○	(注2)		
	ビジネス中国語Ⅰ	2	1	200	○	(注1)		
	ビジネス中国語Ⅱ	2	2	300	○	(注2)		
	ビジネス中国語Ⅲ	2	2	300	○	(注2)		
	時事中国語	2	2	300	○	(注2)		
	日中翻訳技法	2	2	300	○	(注2)		
	日中通訳技法	2	2	300	○	(注2)		
検定・資格中国語A	2	2	200	○	(注1)			
検定・資格中国語B	2	2	200	○	(注1)			
中国語作文Ⅰ	2	2	300	○	(注2)			
中国語作文Ⅱ	2	2	300	○	(注2)			
中国語学・中国文化	中国語学概論	2	1	100	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	中国語音声学	4	1	200	○			
	中国語文法	4	1	200	○			
	中国語教育研究	4	2	300	○	(注3)		
	中国文字学研究	4	2	300	○	(注3)		
	日中対照言語研究	4	2	300	○	(注3)		
	中国文学概論	4	1	100	○			
	中国近現代文学史	4	2	200	○			
	中国地域研究	4	2	300	○			
	日中比較文化	4	2	200	○			
中国文化史	4	2	200	○				
							上記選択必修科目を含め、計 36単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位

中国語母語話者若しくは既習者・留学経験者と認められた者は、先修条件を免除されることがあります。
 (注1) 中国語技能カテゴリーにおけるレベル200の科目を履修するには、同カテゴリー内のレベル100の科目を2単位修得していることを必要とします。
 (注2) 中国語技能カテゴリーにおけるレベル300の科目を履修するには、同カテゴリー内のレベル200の科目を4単位修得していることを必要とします。
 (注3) これらの科目を履修するには、中国語学概論、中国語音声学、中国語文法より1科目修得していることを必要とします。

日本語日本文学専攻プログラム

1. 教育目的

日本語日本文学専攻プログラムは、日本語や日本文学についての知識・教養や専門的な研究方法を身に付けるとともに、日本語を通じた理解力・表現力・思考力を磨くことを目的としています。

国際化、情報化、価値観の多様化の進展する今日、しっかりとした自己を確立し、様々な価値観を持つ人々や異文化を背景とする人々と柔軟にコミュニケーションを図りながら活躍できる人材が求められます。我が国の言語や文化に対する造詣を持ち、日本語の優れた使い手であることは、これからの時代を生きる教養ある国際人に必要な条件と言ってよいでしょう。日本語や日本文学を深く学ぶことは、自己理解・自己確立のための大きな力となります。もちろん、それらの素養を活かして、国語の教員となったり、報道や出版の分野などに進んだりすることも考えられるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは〈言語〉〈文学〉〈技能〉の3カテゴリーから成っています。

〈言語〉は、日本語を中心とした言語に関する知識と研究方法に関するカテゴリーです。これらを学んで日本語を多面的に理解し、言語一般への目も広げることができます。

〈文学〉は、古代から現代に至る日本文学と、日本語・日本文学に大きな影響を与えてきた中国古典文学（漢文）に関するカテゴリーです。日本人の心性や教養の原点とも言える古典や、近現代の人間・社会を映した文学を、深く読み込み、学んでいきます。

〈技能〉は、文字言語・音声言語にわたる日本語の表現力を養うことを中心としたカテゴリーです。書道やコンピュータによる言語分析、漢字検定対応の科目もあります。

教職課程を登録し、上記科目群から指定された科目を履修することにより、中学・高校の「国語」教員免許状を取得することも可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ日本語日本文学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 区	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	他学群学 生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー																								
言 語	日本語学概論	2	1	100	○		必修	必修																								
	言語習得法	2	1	200	△			4単位 選択必修																								
	日本語の表現	4	1	200	○				12単位 選択必修																							
	日本語の文字・表記	2	1	100	○					6単位 選択必修																						
	日本語の語彙・意味	4	1	100	△																											
	日本語の音声	2	1	200	△	日本語の語彙・意味																										
	日本語の文法	4	2	300	○																											
	言語と文化	4	2	200	○																											
	談話分析	4	2	200	○	言語学への招待																										
	年少者日本語教育	2	3	300	○																											
	応用言語学	4	2	300	△	英語学入門																										
	プラグマティックス	4	3	300	○	談話分析																										
日本語史	2	3	400	○																												
文 学	日本文学史A	4	1	100	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修																								
	日本文学史B	4	1	100	○				20単位 選択必修		10単位 選択必修																					
	中国文言文講読	2	2	100	○					4単位 選択必修																						
	古代文学講読	2	1	200	○								4単位 選択必修																			
	平安文学講読	2	1	200	○										4単位 選択必修																	
	中世文学講読	2	1	200	○												4単位 選択必修															
	江戸文学講読	2	1	200	○														4単位 選択必修													
	近代文学講読	2	1	200	○																4単位 選択必修											
	中国古典文学史	4	1	100	○																		4単位 選択必修									
	平安文学の世界	4	2	300	○																				4単位 選択必修							
	中世文学の世界	4	2	300	○																						4単位 選択必修					
	江戸文学の世界	4	2	300	○																								4単位 選択必修			
	近代文学の世界	4	2	300	○																										4単位 選択必修	
	現代文学の世界	4	2	300	○																											
児童文学研究	2	2	300	○		4単位 選択必修																										
中国古典文学研究	4	2	300	○				4単位 選択必修																								
技 能	書写	2	1	100	○						2単位 選択必修	4単位 選択必修																				
	国語・漢字検定Ⅰ	2	1	100	○								4単位 選択必修	4単位 選択必修																		
	国語・漢字検定Ⅱ	2	1	100	○										4単位 選択必修	4単位 選択必修																
	オーラルコミュニケーション(書く)	2	1	100	○												4単位 選択必修	4単位 選択必修														
	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100	○														4単位 選択必修	4単位 選択必修												
	言語表現A	2	1	200	○																4単位 選択必修	4単位 選択必修										
	言語表現B	2	1	200	○																		4単位 選択必修	4単位 選択必修								
	創作の技法	2	2	300	○																				4単位 選択必修	4単位 選択必修						
	編集の技法	2	2	300	○																						4単位 選択必修	4単位 選択必修				
	書道研究Ⅰ	2	2	200	○																								4単位 選択必修	4単位 選択必修		
	書道研究Ⅱ	2	2	200	○																										4単位 選択必修	4単位 選択必修
	対人コミュニケーション	4	2	200	○					現代コミュニケーション理論																						
	言語データ分析	2	2	300	○		4単位 選択必修			4単位 選択必修																						
						計 36単位		計 20単位																								

日本語教育専攻プログラム

1. 教育目的

日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるにつれ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースはことばです。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学習目的に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の教育方法、日本語教育事情、異文化理解などについて学びます。

将来、国の内外で日本語教育や関連する仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。国際的な場で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。

2. カリキュラムの特徴

本プログラムは以下の4つのカテゴリーから成っています。

〈言語知識〉文字、音声、語彙、文法など、さまざまな側面から、日本語の仕組みを客観的に学びます。さらに、人々はどのように言語を運用しているのか、社会の中でどのような言語現象が起きているのかなど、多角的な視点から言語を観察します。

〈教育・習得〉日本語を、学ぶ立場と教える立場から考察し、日本語教育に携わる者として備えておくべき実践的な知識、技能の獲得を目指します。留学生を対象とした教壇実習も行ないます。

〈スキル〉人間関係の基本であるコミュニケーション能力を養うとともに、書写・漢字・表現・作品鑑賞など種々の側面から日本語の運用力を高めます。コンピュータを用いて言語を分析する手法を学ぶ科目もあります。

〈文化・共生〉多様な文化を学ぶことにより、自文化・他文化に対する意識を高め、相互理解の手だてを身につけます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ日本語教育専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

メジャー	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
言語知識	日本語の表現	4	1	200	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本語の文字・表記	2	1	100	○			
	日本語の音声	2	1	200	△	日本語の語彙・意味		
	日本語の語彙・意味	4	1	100	△			
	日本語の文法	4	2	300	○			
	言語と文化	4	2	200	○			
	ことばの比較	2	1	100	○			
	日中対照言語学	2	3	300	○			
	プラグマティックス	4	3	300	○	談話分析		
	談話分析	4	2	200	○	言語学への招待		
	日本語史	2	3	400	○			
教育・習得	日本語教育学A	2	1	100	○		必修	必修
	日本語教育学B	2	1	100	○		必修	必修
	言語習得法	2	1	200	△			
	日本語教育文法	2	2	200	○			
	日本語教授法	4	2	300	○		必修	必修
	日本語教材開発	2	3	300	○			
	年少者日本語教育	2	3	300	○		18単位 選択必修	12単位 選択必修
	マルチメディア日本語教育	2	3	300	○			
	日本語教育実習	4	3	300	×	日本語教授法	必修	
	日本語の評価法	2	2	300	○			
	カリキュラムデザイン	2	3	400	○			
海外教育実習	2~4	2	300	×				
海外教育実習事前研修	4	3	400	×				
スキル	国語・漢字検定Ⅰ	2	1	100	○		4単位 選択必修	
	国語・漢字検定Ⅱ	2	1	100	○			
	書写	2	1	100	○			
	言語表現A	2	1	200	○			
	言語表現B	2	1	200	○			
	対人コミュニケーション	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論		
	言語データ分析	2	2	300	○			
文化・共生	多言語交流演習	2	1	200	○		2単位 選択必修	
	文化人類学	4	1	100	△			
	韓国文化論	4	2	200	○			
	現代文学の世界	4	2	300	○			
							計 36単位	計 20単位

言語学専攻プログラム

1. 教育目的

ことばは様々な側面を持つ多面体です。最初は動物学や論理学などできるだけ離れた専攻プログラムと言語学を組み合わせ、5セメスター目以降は興味を一つに集中させてください。しかし、最も効き目のある強い薬は一年間海外に出かけ、身をもって「外国人」になることの意味を知ることです。こうした経験を経た後に、ことばは以前とはまったく違った問題として意識されるようになります。地球上にことばは7000近く現存するといわれます。ことばに関わる職業もまた人間が活動するあらゆる分野に広がっています。四年間を通して、最低母国語で書いて思考することの意義と技術の体得を目標にしてください。

2. カリキュラムの特徴

一つのことばは移住によって広がりますが、その広がりには戦争によって分断されるかもしれません。こうした問題に興味がある人には歴史、地理、法律、国際関係についての知識が必要です。一方、せまい局面でもことばの実相をとらえることに興味がある人もいるでしょう。対極する例も挙げておきます。私たちはことばを使うと同時に、身体動作もそれに附随させます。この種の問題には人類学、プラグマティックス、コミュニケーション理論、心理学などが不可欠な知識を提供してくれるはずです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入 門	言語学への招待	2	1	100	○		必修	必修
	日本語の語彙・意味	4	1	100	△		必修	
	言語習得法	2	1	200	△			
	日本語の表現	4	1	200	○			
	数学概論	2	1	100	○			
	現代コミュニケーション理論	4	1	100	○			※
基 礎	談話分析	4	2	200	○	言語学への招待	必修	必修
	日本語の音声	2	1	200	△	日本語の語彙・意味	必修	
	社会言語学	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論	必修	※
	言語政策論	4	2	200	○	社会言語学	必修	※
	英語の音声	4	1	100	△			
	中国語音声学	4	1	200	○			
	動物学Ⅰ	2	2	200	○			
	動物学Ⅱ	2	2	200	○	動物学Ⅰ(同時履修可)		
	論理学	4	2	300	○			
	世界史における日本	4	2	300	○			
	社会調査法	4	2	200	○			
認知の科学	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ			
理 論	プラグマティックス	4	3	300	○	談話分析	必修	※
	対照言語学	4	2	300	○	言語学への招待		
	音韻論	2	2	300	△	日本語の音声	必修	
	言語学隣接研究	4	2	300	○	日本語の音声		
	レトリックの歴史	2	2	300	○	論理学	必修	※
	テキスト研究理論	4	2	300	○			
	言語とジェンダー	4	2	300	○			
							計 36単位	計 20単位

4単位
選択必修

20単位
選択必修
左記必修
科目に加
え、※の
中から14
単位選択
必修

コミュニケーション学専攻プログラム

1. 教育目的

21世紀を生き抜く現代の若者は、国際化が進み、多様化し複雑化する社会の中で、自分のもっている能力を十分に発揮して、これからの社会に貢献することが強く期待されています。そのためには、円滑な人間関係が築くことのできるコミュニケーション能力が、今まで以上に、ますます求められる時代になってきました。コミュニケーション学専攻プログラムの教育目的は、このような社会の中で、物事を深く理論的に捉えることができる知識を身につけ、その考えを自分の言葉で豊かに表現できる人材、そして日本人だけではなく、文化背景の異なる人でも、人と人とのつながりを大切にしながら、共感力あふれるコミュニケーション能力を身につけたリーダーシップの発揮できる人材の育成をめざしています。そのためには、思考力育成のための知識である「表現内容」と同時に「表現（コミュニケーション）方法」の実践教育が不可欠です。コミュニケーション・コースでは「内容表現」だけではなく「表現方法」にも重点をおいた教育を行います。

2. カリキュラムの特徴

コミュニケーション学専攻プログラムでは、話すことだけではなく、聴くこと的能力も兼ね備えた総合的なコミュニケーション能力のある優れた人材育成のために、多岐にわたる科目が用意されています。コミュニケーションの基礎概念を学ぶ「現代コミュニケーション理論」「オーラルコミュニケーション（話す）（きく）」から、「対人コミュニケーション」「集団コミュニケーション」「組織コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」「言語とジェンダー」「コミュニケーション学特論（きくことの科学）」の分野まで、将来自分が就きたい職業も視野に入れて、幅広い科目の中からコミュニケーションを学ぶことができます。

例えば、コミュニケーション教育や企業研修に携わる人には、集団でのリーダーシップのとり方や組織内での円滑なコミュニケーションのとり方を、国際的な場で活躍したい人には、国際的な視野に立って物事を考えると同時に文化背景の異なる人とよりよい人間関係を築くための異文化コミュニケーション能力や交渉力の養成が望まれます。さらに、上記のさまざまなコミュニケーション能力を総合的に支える「きく力」を高めることや、日常生活の中の言語を性や差別語という視点から考え、言葉の使い方によって人が規定され束縛されてしまうといった現実を学ぶことも大切です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
コミュニケーション理論	現代コミュニケーション理論	4	1	100	○		必修	必修
	集団コミュニケーション	2	1	100	○		18単位 選択必修	8単位 選択必修
	組織コミュニケーション	4	2	200	○	集団コミュニケーション		
	対人コミュニケーション	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論		
	異文化コミュニケーション	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論		
	コミュニケーション学特論(非言語)	4	2	300	○			
	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	2	200	○	オーラルコミュニケーション(きく)		
	言語とジェンダー	4	2	300	○			
	異文化理解教育	4	3	300	○	異文化コミュニケーション		
	国際コミュニケーション	4	2	200	○			
	メディアコミュニケーション	2	2	200	○			
コミュニケーション調査研究	4	2	300	×				
実践・演習	オーラルコミュニケーション(きく)	2	1	100	○		2単位 選択必修	
	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100	○			
	話し言葉の技法	2	2	200	×	オーラルコミュニケーション(話す)		
	プレゼンテーション演習	2	2	200	○			
	議論とディベート	2	2	300	○			
	ミディエーション	2	2	300	○	集団コミュニケーション		
言語・レトリック	日本語の音声	2	1	200	△	日本語の語彙・意味		
	レトリックの歴史	2	2	300	○	論理学		
	現代レトリック論	4	3	300	○			
	談話分析	4	2	200	○	言語学への招待		
	プラグマティックス	4	3	300	○	談話分析		
応用社会学	社会心理学	4	2	200	○			
	社会学概論	4	1	100	○			
							上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

英米文学専攻プログラム

1. 教育目的

優れた文学作品は、他者の人生に触れ人間について考えさせてくれると共に、そこに映しだされている地域とその時代の歴史、文化について知るためのまたとない材料です。英米文学専攻プログラムでは、文学作品を読む楽しみを知ることと、英語圏文化について学ぶことを2本の柱にしています。ここでは、文学作品の理解を深めるために、作品と分かちがたく結びついている文化を学ぶということも可能ですし、文化について深く学ぶためにその地域、時代を文学作品という切り口から眺めることも可能です。そしてこれらの学びを支えるために必要なのが、作品や資料を読みこなすための英語運用能力です。英米文学専攻プログラムは、英米の文学・文化を学ぶことで培われた異文化理解と人間に対する豊かな洞察力、文学作品を読むことで獲得したしっかりとした語学力を兼ね備え、バランスの取れた、広く社会で活躍できる人材を育てることを目指しています。

2. カリキュラムの特徴

英米文学専攻プログラムは〈入門・基礎〉、〈文学〉、〈文化・歴史〉の3つのカテゴリーから成っています。

〈入門・基礎〉は、文学作品や文学・文化に関する資料を読む上で必要とされる英語運用能力を高めるための演習科目で構成されています。〈文学〉は、文学の基礎を学ぶ科目をはじめ、分野やテーマ別に作品を精読して解釈・分析を行う科目、文学作品の批評や翻訳について学ぶ科目などから、〈文化・歴史〉は、英語圏の文化を知る上で前提となる英米の歴史を学ぶ科目や、英語圏の文化の基礎を学ぶ科目、映画なども用いてさまざまな角度から英語圏の文化について理解を深めるための科目で構成されています。

2年次から本格的に専攻科目の履修が始まりますが、英米文学専攻プログラムの科目だけにとどまらず、他の専攻プログラムの科目も自由に履修し、またはマイナーとして組みあわせることで、個々の興味にあわせた、幅広い学習が可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
入門・基礎	英語文献講読Ⅰa	1	1	100	×		1単位 選択必修	6単位 選択必修	
	英語文献講読Ⅰb	1	1	100	×				
	英語文献講読Ⅱa	1	2	200	×	英語文献講読Ⅰa又はⅠb	1単位 選択必修		
	英語文献講読Ⅱb	1	2	200	×	英語文献講読Ⅰa又はⅠb			
	英文法Ⅰ	2	1	100	×				
	英文法Ⅱ	2	2	200	×				
	資格英語Ⅰ	1	2	200	△				
	資格英語Ⅱ	1	2	200	△				
文学	英米文学入門	4	2	200	△		必修	12単位 選択必修	8単位 選択必修
	英米詩	4	2	300	△				
	英米演劇	4	2	300	△				
	英米小説	4	2	300	△	重複履修可			
	英米文学講読	4	2	300	△				
	テーマで読む英米文学	4	2	300	△				
	英米児童文学	4	2	300	△				
	コモンウェルスの文学	4	2	300	△				
	イギリス文学研究	4	2	400	△				
	アメリカ文学研究	4	2	400	△				
	英米文学と宗教	4	2	300	△				
	批評理論	4	2	400	△				
翻訳（英→日）	4	3	300	△	英文法Ⅱ				
文化・歴史	イギリスの歴史	4	2	200	△		12単位 選択必修	8単位 選択必修	
	アメリカの歴史	4	2	200	○				
	イギリス文化	4	2	200	△				
	アメリカ文化	4	2	200	△				
	コモンウェルスの文化	4	2	200	△				
	英米文化講読	4	2	300	△				
	英米文化研究	4	2	300	△	重複履修可			
	英語圏の映画と文化	4	3	300	△				
							上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位	

中国文学専攻プログラム

1. 教育目的

中国の文学・思想は、近代以前には、中国はもちろん日本においても、学問的枠組みから人々の思考様式までを幅広く規定する文化の骨格的要素を担っていました。このプログラムは、中国文学・思想を学び基本的な知識を習得するとともに、その学びを通じて、中国・日本の文化・思考様式に対してより深く理解することを目的とするものです。西洋的価値観では捕えきれない巨大かつ体系的な世界観に触れることとなりますので、このプログラムを学習していくことで、モノゴトを複眼的に見るための新しい視点を得られるでしょう。また、みなさんが人生をより豊かに送るために必要な広く見て深く考える力を習得することも可能となるでしょう。もちろん、漢詩や三国志演義(いわゆる三国志)、あるいは鲁迅の文学など、中国文学には非常に興味深い作品がたくさん含まれています。そのような作品そのもののおもしろさにも、ぜひ触れてみてください。

2. カリキュラムの特徴

中国文学専攻プログラムは、中国語の能力を無理なく高め、同時にそれと並行して中国知識人の教養の基礎となっている（また東アジアの伝統的な枠組みにおける学問的基礎でもある）中国の文学・思想について順を追って理解を深めていくことができるよう、「中国語→文学概論・講読→文学史・思想史・文化史→文学研究・思想研究・文字学研究」という順番で段階的に少しずつ学習を進めていけるようなカリキュラム構成になっています。中国語・中国文学・中国思想に関する科目はもちろん、「中国文字学研究」や「中国の芸術」など豊富な科目がプログラムに組み込まれていますので、みなさんの興味に沿って履修する科目を選択していきましょう。それから、中国語を履修しなくても修了要件を満たすことができるようになっています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
語学	中国語会話Ⅰ	2	1	100	○			
	中国語会話Ⅱ	2	1	100	○			
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	○	(注1)		
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	○	(注1)		
	中国語会話Ⅴ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語会話Ⅵ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	○	(注1)		
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語作文Ⅰ	2	2	300	○	(注2)		
	中国語作文Ⅱ	2	2	300	○	(注2)		
文学・思想・文化	中国文学概論	4	1	100	○		20単位 選択必修	10単位 選択必修
	中国文言文講読	2	2	100	○			
	中国古典文学史	4	1	100	○			
	中国近現代文学史	4	2	200	○			
	中国思想史	4	1	200	○			
	中国文化史	4	2	200	○			
	中国古典文学研究	4	2	300	○			
	中国近現代文学研究	4	2	300	○			
	中国の芸術	4	2	300	○			
	中国文字学研究	4	2	300	○	(注3)		
	中国古代思想研究	4	2	300	○			
中国近現代思想研究	4	2	300	○				
歴史・社会	中国のマスコミ	4	2	300	○			
	中国地域研究	4	2	300	○			
	アジア研究概論	4	1	100	○			
	東アジア研究	4	2	300	○			
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200	○			
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	中国経済論	4	2	300	○			
							上記選択必修科目を含め、計 36単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位

注意

文学・思想・文化カテゴリーにおけるレベル200の科目を履修するには、レベル100の科目を1科目以上修得していることが望まれます。また、レベル300の科目を履修するには、レベル200の科目を1科目以上修得していることが望まれます。

(注1) 中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから2単位

(注2) 中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bから4単位

(注3) 中国語学概論、中国語音声学、中国語文法から1科目

現代・世界文学専攻プログラム

1. 教育目的

19世紀初め、ドイツの文豪ゲーテは、世界各国の国民文学が成立し、各国間の通信連絡手段の発達した段階で、世界各国文学を人類共有の精神的財貨として、積極的に相互交流する必要を感じて、「世界文学の時代を招致すべく急がねばならぬ」と主張しました。現代は、インターネットなどの普及によって、ゲーテの時代とは比べようもないほど諸国民間のコミュニケーションの機会が飛躍的に高まり、まさに文字通り「世界文学の時代」がやってきたと言ってよいでしょう。イラクやパレスチナなど世界各地で生じている敵意に満ちた民族間対立、宗派間対立を見るにつけ、文明間の対話、異文化交流の必要を感じます。文学こそは国民性を理解するもっとも有力な手段です。なぜなら優れた文学は作家の良心の結晶であり、国民大衆の生活のこだまとなって、鏡のようにその国の現実と国民性を反映しているからです。日本と諸外国の優れた文学を学ぶことによって、自己のみならず他者をも認識することが条件とされる国際人として、必須の教養を身につけることが本専攻の目的です。

2. カリキュラムの特徴

1年次では、「専攻入門」で世界文学史の概観をつかみ、主として日本の近現代文学を世界文学の中に位置づけて学びます。2年次以降は「批評理論」、「比較文学」などの理論科目と並行して、日本のほかイギリス、アメリカ、ロシア、韓国、中国、フランス、ドイツ、8ヶ国の文学科目が置かれています。本専攻の名称が「現代・世界文学」となっているのは、現代に力点が置かれているということであって、世界文学の古典的名作が度外視されているわけではありません。したがって、20世紀文学が重視されていますが、それ以前の古典的名作も対象としており、「近代文学の世界」と「現代文学の世界」は日本文学を中心とした講義となります。現代の社会・文化全般との関わりも重視していますので、「中国近現代文学史」、「中国近現代思想研究」などの科目も置かれています。「比較文学」という科目もあるので、2カ国文学の比較研究も可能です。優秀な卒業論文は、年1回発行の雑誌「桜美林世界文学」に掲載することと致します。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	古代文学講読	2	1	200	○		4単位 選択必修	
	平安文学講読	2	1	200	○			
	中世文学講読	2	1	200	○			
	江戸文学講読	2	1	200	○			
	近代文学講読	2	1	200	○			
歴 史	ロシアの社会と文化	4	2	200	○		必修	必修
	日露文化交流史	4	2	400	○		必修	
	中国近現代文学史	4	2	200	○			
理 論	批評理論	4	2	400	△		必修	必修
	中国文化論	4	2	200	○			
	比較文学	4	2	300	○		必修	必修
	中国近現代思想研究	4	2	300	○			
世 界 文 学 研 究	イギリス文学研究	4	2	400	△			
	アメリカ文学研究	4	2	400	△			
	ロシア文学研究	4	2	300	○		必修	必修
	韓国文化論	4	2	200	○			
	フランス文学	4	2	200	○			
	ドイツ文学Ⅰ	2	2	200	○			
	ドイツ文学Ⅱ	2	2	200	○			
	近代文学の世界	4	2	300	○			
現代文学の世界	4	2	300	○		必修		
							上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

キリスト教学専攻プログラム

1. 教育目的

日本は近代化への道を歩み始めたころからキリスト教文化圏の国々との交流を重んじてきました。それ以来、教育と文化の面でキリスト教は日本に少なからぬ影響を与えてきました。たとえばキリスト教主義の学校は、本学も含めて大学・短大だけで120校以上あり、小学・中学・高校の数は約400校にもなります。世界を見渡すと、世界総人口60億人のうち三分の一がキリスト教徒です。特に近年はアフリカ各地で急速にキリスト教人口が増えつつあります。

キリスト教学専攻プログラムは、キリスト教研究を手掛かりにして世界を見る目、歴史を見る目を養い、諸文化の価値観・世界観を吟味することのできる知性と感性を養うことがその目的です。キリスト教にかかわる分野はもちろんのこと、人権尊重の感性や国際的な視野を必要とする分野で働きたいと考えている人に奨めます。どのような宗教上の立場の学生でも専攻することができます。

2. カリキュラムの特徴

キリスト教は二千年の歴史を歩んできました。その間にいろいろの変化や展開を見ていますが、この専攻プログラムでは、キリスト教に関する基本的知識を学問的な成果に基づいて学びます。そのために聖書について、キリスト教の歴史について、そして現代キリスト教の考え方について、大学にふさわしい学問的な方法によって探究します。専門科目の多くは少人数による授業となるので、ゼミナール（演習）に近い形態となり、密度の高い勉強ができるでしょう。

他方、「隣接」区分の科目や、政治や経済、文学、芸術さらには人権、平和、環境等に関する科目を選択的に履修し（他の専攻プログラム科目も可）、そのような分野とキリスト教を関連付けて学び、差別・紛争・貧困・環境破壊等、現代世界が抱えている諸問題の解決のためにキリスト教はどのような貢献ができるかをみずから探求することもできます。

卒業論文の提出は自由選択となりますが、大学で勉強した事はしっかりと自分のものにするためにぜひ論文にまとめることを奨めます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
基礎	キリスト教古典入門	2	1	100	○		必修 10単位 選択必修	10単位 選択必修	
	キリスト教史	2	1	100	○				
	キリスト教神学概論	2	2	200	×				
	聖書学概論	2	2	200	○	聖書			
	宗教学概論	4	2	100	○				
	一神教研究	2	2	300	○				
展開	旧約聖書研究	2	3	300	○	聖書学概論	16単位 選択必修	10単位 選択必修	
	新約聖書研究	2	3	300	○	聖書学概論			
	キリスト教の理論	4	3	300	×	キリスト教神学概論			
	現代キリスト教の諸問題	2	3	300	○				必修
	キリスト教とジェンダー	2	2	100	○				
	キリスト教と教育	2	1	200	○				
	宗教と教育	2	2	300	○				
	キリスト教文化論	4	2	300	△				
	西洋文明と思想	4	2	200	○				
専門書講読	4	3	400	×					
隣接	宗教心理学	2	2	300	△	リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可	10単位 選択必修		
	宗教人類学	4	2	200	○				
	イスラーム文化論	4	2	300	○				
	仏教文化論	4	2	300	○				
	宗教学の諸問題	2	3	300	○				
	倫理学概論	4	2	200	○				
	社会思想史	4	3	300	○				
	西アジア研究	4	2	300	○				
							計 36単位	計 20単位	

宗教学専攻プログラム

1. 宗教学専攻の特質

人は皆、自己を根底から支える「偉大なるもの」との関係において「生き、動き、存在し」、この世界の中に自己を位置づけようと願っています。ですから人は皆、「何処から来て何処へゆくのか」「なぜ生まれて死ぬのか」「愛とは何か」「救済とは何か」といったテーマに惹かれるのです。そして、これが宗教学の問題意識の始まりです。

どうしてこういう問題意識を持つのかといえば、人は皆、自己の存在のはかなさと同時に自己の魂の永遠性を意識しているからでしょう。「宗教的生のダイナミズム」は、自己の限界性と現実を見据えながらも、なお可能性と理想に向かって邁進する人の姿の中に見ることができます。またそれは、捉えたと思った途端に指の間をすり抜けてゆく「究極的な実在」に魅了され、追求して止まない真摯な人間の姿の中に見ることができます。

宗教学とは、世界中に見られる「宗教」という営みを人間の生活現象の一局面として捉え、それがどのように生起し、人間生活の中でどのような位置を占め、どのような役割を演じているのかを、事実即して客観的に整理して、体系的にまとめることです。こうした課題は、自己を理解すると同時に他者を理解することになり、風土・歴史・文化を超えた相互理解の基本形を産み出すことに繋がっていくのです。

2. カリキュラムの特徴

宗教学は、それぞれの宗教の優劣を論じるものでも、ある特定の宗教の正当性を論じるものでもありません。世界に存在する諸宗教をあるがままに受け止め、比較し、整理することを基本的な作業とします。ですから、世界の諸宗教を学ぶための基本的な理論が、この専攻プログラムにはあります。しかし、各自が関心を持つ具体的な地域における諸宗教に関する学びについては、当学群の他分野から積極的に見つけて学習することをお勧めします。

また、生と死について、魂の永遠性について、愛について、救済について、等々の答えはすぐには見つけられないかもしれませんが、それでもこうした大きなテーマに真摯に取り組むことは無駄ではありません。問い続け、戸惑い、苦悩する中で「考える力」が身につきます。また、人間を根底から支える「大いなるもの」「聖なるもの」「究極的な実在」との関わりから、物事を客観的に見つめる視点も養われます。

宗教学専攻プログラムでは、「宗教多元主義」の理論を学び、諸宗教の実態を積極的に学び、理解することを特徴としています。それは同時に、自分の生まれ育った国、文化、宗教についてのより深い理解へと結びつき、他宗教に生きる人々への「寛容の精神」を養うことへと発展することでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導人・基礎	文化地理学	4	1	100	○			
	人と自然	2	2	200	○			
	宗教学概論	4	2	100	○		必修	必修
	キリスト教史	2	1	100	○			
	宗教人類学	4	2	200	○			
理論	宗教心理学	2	2	300	△	リベラルアーツ学群学生/ 健康福祉学群学生のみ履修可		
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○			
	中国思想史	4	1	200	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	日本の宗教	4	2	200	○		必修	必修
	アジアの思想と宗教	4	2	200	○			
	西洋文明と思想	4	2	200	○			
	アメリカ思想史	4	2	300	○			
	社会思想史	4	3	300	○		32単位 選択必修	20単位 選択必修
	儒教文化論	4	2	300	○			
	韓国文化論	4	2	200	○			
	仏教文化論	4	2	300	○			
	キリスト教文化論	4	2	300	△			
イスラーム文化論	4	2	300	○				
応用	宗教学研究特論	2	2	300	○		必修	必修
	倫理学研究特論A	2	2	200	△			
	哲学研究特論A	2	2	300	○			
	哲学研究特論B	2	2	300	△			
	宗教学の諸問題	2	3	300	○		必修	必修
	一神教研究	2	2	300	○			
	倫理学の諸問題A	4	3	300	△	倫理学概論		
	哲学の諸問題A	4	2	200	○			
	哲学の諸問題B	4	2	200	○			
							計 32単位	計 20単位

哲学専攻プログラム

1. 教育目的

哲学とは、「真理」の存在やその認識方法、そして「人間の在り方とそれを取り巻く世界の在り方」などについて、人間だけがもつ「理性」によって理論的に考察する学問のことです。したがって、「哲学専攻プログラム」の教育目的は、人間性についての深い洞察力を^{つちか}培い、またそれを的確に表現することのできる人間を育成することにあります。そのためには、哲学的知識だけでなく、文明や文化に関する幅広い教養を身につけることが重要です。

このような思索と教養は、職業の違いを問わず、あらゆる人間に必要なものであることは言うまでもありませんが、混迷をつづける現代社会においては、特に、世論を導く役割を担う文筆業者、ジャーナリスト、出版業者、教員などに、最も強く求められているものですので、このような分野で活躍できる人材の育成にも力を注ぎます。

2. カリキュラムの特徴

哲学的思考を確立するには、古代ギリシャ哲学、キリスト教哲学、近世哲学などの正確な知識の獲得が不可欠です。それを習得するために、必修科目（「哲学概論」、「哲学の諸問題」、「哲学研究特論」、「論理学」）が用意されています。

ほかに多彩な科目が選択科目として用意されています。世界の思想、宗教、文化を知るための科目として、「宗教学概論」、「キリスト教文化論」、「イスラーム文化論」、「仏教文化論」、「西洋文明と思想」、「国際関係思想」、「中国思想史」、「日本思想史」、「アメリカ思想史」などが配置され、社会と人間の関わりを考えるために、「倫理学概論」、「社会学概論」、「社会思想史」などが用意され、また自分の思考を的確に表現するために、「ジャーナリストへの道」などが用意されています。

さらに哲学的思索を深めたい人のためには、少人数で指導を受けることのできる「専攻演習」と「卒業論文」が用意されています。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎関連科目	出版の世界	2	1	200	○			
	ジャーナリストへの道	2	1	100	○			
	新聞社説を読む	2	2	300	○			
専門関連科目	心理学	4	1	100	○			
	心理学概論	4	1	100	○			
	社会学概論	4	1	100	○			
	世界史概論	4	1	100	○			
	国際関係思想	4	2	300	○			
	教育思想	2	1	200	○			
	宗教心理学	2	2	300	△	リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可		
環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○				
思想史	アメリカ思想史	4	2	300	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	中国思想史	4	1	200	○			
	中国古代思想研究	4	2	300	○			
	中国近現代思想研究	4	2	300	○			
	社会思想史	4	3	300	○			
宗教と思想	英米文学と宗教	4	2	300	△			
	西洋文明と思想	4	2	200	○			
	キリスト教文化論	4	2	300	△		12単位 選択必修	4単位 選択必修
	仏教文化論	4	2	300	○			
	イスラーム文化論	4	2	300	○			
哲学概論	4	2	300	○	必修	必修		
論理学	4	2	300	○	必修	必修		
理 論	哲学の諸問題A	4	2	200	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	哲学の諸問題B	4	2	200	○			
	哲学研究特論A	2	2	300	○		2単位 選択必修	2単位 選択必修
	哲学研究特論B	2	2	300	△			
	宗教学概論	4	2	100	○			
	倫理学概論	4	2	200	○			
	倫理学研究特論A	2	2	200	△			
	倫理学研究特論B	2	2	200	△			
	倫理学の諸問題A	4	3	300	△	倫理学概論		
	倫理学の諸問題B	4	3	300	△	倫理学概論		
	宗教学の諸問題	2	3	300	○			
	宗教学研究特論	2	2	300	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計 32単位

倫理学専攻プログラム

1. 教育目的

倫理学専攻プログラムでは、人類社会の根源にある倫理や道德の世界から深く学びながら、私たちが人生や社会をより善く生き抜くための実践知を身につけていきます。そのためには、はじめに倫理学の基本となる考え方を学問の導入・基礎として学習します。また同時に、倫理や道德の世界を学説史や思想史などの学知に学びながら、バランスのとれた知識を習得していきます。そして今日の世界が強く求めている現実社会の切実な問題群にとりくむ現代倫理学を学習します。

このように今日の世界や社会にあって私たちが倫理学を学ぶのは、現実の社会問題を的確に分析し正しい解決へと導く力量が鋭く問われているからです。この倫理学専攻は、正義、自由、平等、幸福、生命、人権、善などの人間社会を支える基本的な諸価値をしっかりと理解した成熟社会にふさわしい世界市民の育成をめざしています。卒業後は、有為な人材として各界での活躍が期待されます。

2. カリキュラムの特徴

倫理学専攻プログラムの第一の特徴は、倫理学だけではなく、隣接する他の3専攻（キリスト教、宗教学、哲学の各専攻）と密接に補い合いながら学習計画を立てられる点にあります。また、この間、哲学・思想系の学習にとって大切な言語（とくに英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語、ギリシャ語その他の外国語）の学習にも積極的に取り組みます。

倫理学専攻の第二の特徴は、倫理学を基礎にして人権や生命・福祉(生老病死)、平和、開発、環境、歴史、政治、経済、社会、文化、科学・技術などのテーマ群をも学習できる点にあります。この世界は実践倫理学の領域であり、今日、世界的に注目されています。倫理学専攻では、まず古典倫理学から現代倫理学まで（例えば規範倫理学やメタ倫理学など）を視野に入れた倫理学概論（必修）を導入・基礎として学習し、次いで倫理学研究特論や倫理学説史をはじめ社会思想史や環境倫理学などの理論（選択必修）を学習し、さらに倫理学の諸問題や応用倫理学などの現代倫理学の応用領域（選択必修）を学びます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 科	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入 ・ 基 礎	倫理学概論	4	2	200	○		必修	必修
	哲学概論	4	2	300	○			
	宗教学概論	4	2	100	○			
理 論	哲学研究特論A	2	2	300	○		12単位 選択必修	6単位 選択必修
	哲学研究特論B	2	2	300	△			
	宗教学研究特論	2	2	300	○			
	社会思想史	4	3	300	○			
	環境倫理学	2	2	200	○			
	国際関係思想	4	2	300	○			
	平和論	4	3	300	○			
	アメリカ思想史	4	2	300	○			
	中国思想史	4	1	200	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	倫理学研究特論A	2	2	200	△		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	倫理学研究特論B	2	2	200	△			
	倫理学研究特論C	2	2	200	△			
倫理学説史	2	2	200	△				
応 用	応用倫理学	2	2	200	○		12単位 選択必修	4単位 選択必修
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○			
	哲学の諸問題A	4	2	200	○			
	哲学の諸問題B	4	2	200	○			
	論理学	4	2	300	○			
	国際人権法	4	2	300	○			
	人間の安全保障	4	2	200	○			
	情報と倫理	2	1	100	○			
	環境と文明	4	1	100	○			
	宗教学の諸問題	2	3	300	○			
	倫理学の諸問題A	4	3	300	△	倫理学概論	4単位 選択必修	4単位 選択必修
倫理学の諸問題B	4	3	300	△	倫理学概論			
							計 36単位	計 20単位

文化人類学専攻プログラム

1. 教育目的

文化人類学の専攻プログラムでは、地球上のさまざまな異文化について学ぶことを通して自文化をも相対化して捉える鍛錬をし、より広い視野で人間社会や文化の諸現象への洞察力と理解力を深めることを目標とします。すなわち、異文化理解力をもった人材の育成を目差しますが、こうした人材は、特にグローバル化時代とよばれる現在、文化交流、教育分野、開発援助、ジャーナリズム、観光産業など、国際的な業務と関わる分野でますます必要とされています。また一人の地球市民として現代社会で生きていくうえでも、重要な基本的価値と意味をもつものです。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは、学習の系統としては、導入的な「文化人類学」を必修科目として履修し、より専門的な理論・方法論の科目を選択必修として履修しながら、具体的な地域や宗教に関わる科目とを交差させ組み合わせて学習していき、かつそれらを現地で調査する「文化人類学フィールドワーク」などの実習科目が用意されている点が、カリキュラムの特徴と言えます。専門的な理論や方法論は、文化人類学の専門講義や「文化人類学特論」などの科目を通して、また具体的地域としてはアジア、アメリカ、日本を対象とする地域研究に関わる科目や、宗教に関わる科目などを、それぞれの学生の関心に合わせて履修し、体系的に学習していきます。さらに実践的な現地調査などの実習も行い、それらの成果は演習の授業などでより深められ、最終学年において卒業論文として集大成されていくことが目標となります。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ文化人類学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

名 字	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	他学群学 生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	文化人類学	4	1	100	△		必修	必修
	社会学概論	4	1	100	○			
	地理学概論	4	1	100	○			
	宗教学概論	4	2	100	○			
理 論 ・ 方 法 論	同時代の人類学	4	2	200	○		20単位 選択必修	12単位 選択必修
	ジェンダーの人類学	4	2	200	○			
	宗教人類学	4	2	200	○			
	文化人類学特論(性の人類学)	4	2	200	○			
	文化人類学特論(実践の人類学)	4	2	200	○			
	文化人類学特論(遊牧文化論)	2	2	200	×			
	比較社会学	4	2	200	○			
	文化人類学フィールドワーク	2	2	300	×	文化人類学		
	国際協力フィールドワーク	1~4	2	300	○	重複履修可		
社 会 ・ 宗 教 研 究	東アジア研究	4	2	300	○			
	東アジアの現代社会	4	2	200	○			
	東南アジア研究	4	2	200	○			
	東南アジアの現代社会	4	2	200	○			
	東北アジア研究	4	2	300	○			
	南アジア研究	4	2	300	○			
	西アジア研究	4	2	300	○			
	中国地域研究	4	2	300	○			
	中国文化史	4	2	200	○			
	中国文化論	4	2	200	○			
	韓国文化論	4	2	200	○			
	アジア女性論	4	2	300	○			
	アメリカの文化	4	1	200	○			
	アメリカ社会史	4	2	200	○			
	アメリカ民族論	4	2	200	○			
	アメリカの社会	4	2	200	○			
	アメリカ女性論	4	2	300	○			
	ロシアの社会と文化	4	2	200	○			
	日本文化論	4	2	300	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	日本の宗教	4	2	200	○			
	イスラーム文化論	4	2	300	○			
キリスト教文化論	4	2	300	△				
儒教文化論	4	2	300	○				
仏教文化論	4	2	300	○				
							上記選択必修科目を 含め、計 32単位	上記選択必修科目を 含め、計 20単位

アメリカ地域研究専攻プログラム

1. 教育目的

アメリカ合衆国を主な対象として、多民族多文化社会アメリカの成立とその歴史的展開を跡付け、いまやグローバリゼーションの核として存在している現代アメリカ社会の諸相を分析します。私たちが身近な文化を通して日常的に接しているアメリカと、軍事的・経済的覇権を通して日本にも大きな影響を及ぼしているアメリカという存在を、立体的かつ統合的にとらえることが、アメリカ地域研究の目的です。

アメリカという「地域」についてさまざまな知識を得るだけでなく、ものごとを歴史的に、そしてさまざまな関係性の中でとらえること。自分なりのアメリカ理解を通して、それを世界への認識にひろげ、同時に自らの生まれ育った社会を相対化してとらえること。そのような力をもって、人々とつながり、変化し続ける現実の世界に関与し、学び続けていける人。このプログラムを通して育てていきたいのはそういう人です。

2. カリキュラムの特徴

アメリカ地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、専攻の諸領域をカバーする科目の多彩さを特徴としています。アメリカという存在を立体的かつ統合的にとらえるために、特定の学問分野に偏ることなく、幅広い分野からバランスよく科目が配置されています。

この専攻プログラムの科目は〈導入・概論〉〈歴史・民族・文化〉〈社会・政治・経済〉の3つのカテゴリーに分類されます。アメリカを理解するうえで基本となる幅広い教養を身につけるため、メジャー・マイナーとも各カテゴリーごとに選択必修（4単位～8単位）を課していますが、残りの単位数を各自の興味・関心に照らして自由に履修することで、特定の分野を深く学ぶこともできるしくみとなっています。

〈導入・概論〉では「アメリカ研究概論」「アメリカの歴史」「アメリカの文化」の3科目の中から1科目（4単位）が選択必修となっていますが、これらの科目は、この専攻プログラム全体の土台と位置づけられるため、その中から複数履修することを強く勧めます。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入・概論	アメリカ研究概論	4	2	200	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	アメリカの歴史	4	2	200	○			
	アメリカの文化	4	1	200	○		8単位 選択必修	8単位 選択必修
	世界史概論	4	1	100	○			
	地理学概論	4	1	100	○			
	政治学概論	4	1	100	○			
	経済学概論	4	1	100	○			
	文化人類学	4	1	100	△			
	民族研究	4	2	200	○			
	比較社会学	4	2	200	○			
歴史・民族・文化	アメリカ社会史	4	2	200	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	アメリカ思想史	4	2	300	○			
	アメリカ民族論	4	2	200	○			
	アメリカ女性論	4	2	300	○			
	日米交流史	4	2	300	○			
	アメリカ文化	4	2	200	△			
	英語圏の映画と文化	4	3	300	△			
社会・政治・経済	アメリカの社会	4	2	200	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	アメリカの政治	4	2	300	○			
	アメリカの外交	4	2	300	○			
	アメリカの経済	4	2	300	○			
	アメリカ経済論	4	2	300	○			
	アメリカのジャーナリズム	2	2	200	○			
	日米関係論	4	2	300	○			
	アメリカ研究特論	2	2	300	○			
							上記選択必修科目を含め、計 32単位	上記選択必修科目を含め、計 20単位

アジア地域研究

1. 教育目的

社会科学の諸研究手法を手がかりに、アジアの社会事象を自分自身で構造化して捉えることができるようになることを目指します。アジア地域研究の専攻プログラムでは、多様なアジアの社会事象を、歴史学、政治学、経済学、社会学、文化人類学等の様々な研究手法を用いて多面的に捉える能力を養います。偏見や一面的なものの見方でなく、複眼的な思考ができる学生の育成を重視し、最終的にはアジア諸国と積極的に国際交流ができる人材に育てることを目標とします。東南アジア、東北アジアの人々の価値観や歴史観、宗教に対する姿勢を学ぶ中で、日本人のものの考え方が実はかなり特殊なものであることを理解することが大切です。

2. カリキュラムの特徴

1年生では、「リベラルアーツセミナー」を通じて、学問の基礎となる読解・文章表現・プレゼンテーションの仕方の基礎を学び、同時に将来の専攻地域を見据えて、英語や地域言語を学びます。2年生以降は、各自の問題関心に応じて、入門基礎科目（「世界史概論」、「政治学概論」、「宗教学概論」、「文化人類学」、「アジア研究概論」）をまず学びます。その後、「アジアの歴史と文化」科目群と、「世界の中のアジア」科目群の各科目を選択履修します。「アジアの歴史と文化」は歴史科目（「アジアの歴史Ⅰ、Ⅱ」、「日韓交流史」等）、宗教を含むアジア文化研究科目（「儒教文化論」、「イスラーム文化論」等）から成ります。「世界の中のアジア」は、地域科目（「東北アジア研究」、「東南アジア研究」、「南アジア研究」、「西アジア研究」等）や、広域アジア科目（「オセアニアの政治と経済」等）のほか、横断的な科目（「発展途上国論」、「アジアの政治」等）から成ります。学びの系統は、〈アジア歴史研究〉、〈東北アジア研究〉、〈東南アジア研究〉、〈広域アジア研究〉、〈アジア文化研究〉の5つです。科目の選択にあたっては、自分の学びの系統を意識しながら、なおかつバランスのとれた履修を心がけてください。なお、〈広域アジア研究〉は、南アジアやオセアニア等の他、東アジア共同体などもテーマとすることができます。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入門基礎	世界史概論	4	1	100	○		4単位 選択必修	
	政治学概論	4	1	100	○			
	宗教学概論	4	2	100	○			
	文化人類学	4	1	100	△			
	アジア研究概論	4	1	100	○			
アジアの歴史と文化	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200	○		8単位 選択必修	20単位 選択必修
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	ユーラシア文化交流史	4	2	300	○			
	日韓交流史	4	2	300	○			
	アジアの思想と宗教	4	2	200	○			
	儒教文化論	4	2	300	○			
	仏教文化論	4	2	300	○			
	韓国文化論	4	2	200	○			
	イスラーム文化論	4	2	300	○			
中国文化論	4	2	200	○				
世界の中のアジア	発展途上国論	4	2	200	○		8単位 選択必修	
	アジアの政治	4	2	300	○			
	アジアの経済	4	2	200	○			
	東北アジア研究	4	2	300	○			
	東アジア研究	4	2	300	○			
	東アジアの現代社会	4	2	200	○			
	東南アジア研究	4	2	200	○			
	東南アジアの現代社会	4	2	200	○			
	南アジア研究	4	2	300	○			
	西アジア研究	4	2	300	○			
	オセアニアの政治と経済	4	2	200	○			
	アジア女性論	4	2	300	○			
	アジア研究特論	4	2	300	○	重複履修可		
上記選択必修科目を含め、計 32単位							計 20単位	

日本地域研究（J）専攻プログラム

1. 教育目的

日本地域研究専攻プログラムは、日本をよく知ることを目指すものです。桜美林大学の教育目的である「国際人の育成」のためには、生きた外国語を学ぶことも必要です。また、急速に変化する世界の諸地域の政治や経済、文化についての知見も必要でしょう。しかし、日本のあり方、歴史や文化、政治や経済、社会の動向などを、国際的な視野からきちんと把握できる成熟した人間となることも、同時に重要ではないでしょうか。その「学び」の中で、各自の関心に応じて個別の問題を探求することも可能です。

このようにして日本のあり方を広い視野から知り、日本の抱えている問題点を考察することは、批判的思考能力を身につけることでもあります。こうした「学び」を重ねることは、日本社会においてであれ日本以外の社会においてであれ、各自の将来設計に関係を持つし、自分の将来を主体的に切りひらいていく際の力になるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

日本地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、多様な分野にわたるもので、大きく分けて〈導入・歴史〉〈文化〉〈政治経済〉のカテゴリーの科目を用意しています。この3つのカテゴリーのいずれか1つを中心にする学部や学科は数多くありますが、桜美林大学LA学群の「日本地域研究」は、それらを組み合わせているのです。

ですから、学生各自の関心に応じて、日本を中心とする国際交流を勉強するとか、日本の政治を勉強するとか、日本文化を中心に勉強するとかが可能で、そういう勉強を重ねて「日本地域研究」の専攻ということになります。比較的に概説的な科目を用意するとともに、上記3つのカテゴリーに沿った個別的なテーマに関する勉強ができるよう配慮しています。幅広い一般的な教養を得ることとともに、あるテーマに関しては、各人の問題意識に即した専門的知識を持つことが大事だと考えられるからです。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
歴史	日本史概論	4	2	100	○		必修	4単位 選択必修
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200	○			
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	世界史における日本	4	2	300	○			
	日本古代中世史	2	2	300	○			
	戦後日本史	2	2	200	○			
	日米交流史	4	2	300	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	日本教育史	2	2	200	○			
文化	日本研究概論	4	2	200	○		必修	8単位 選択必修
	日本文化論	4	2	300	○		必修	
	地誌学概論	2	1	100	○			
	日本の宗教	4	2	200	○			
	日本の民俗	2	1	100	○			
	近代文学の世界	4	2	300	○			
	現代文学の世界	4	2	300	○			
	日韓交流史	4	2	300	○			
	日露文化交流史	4	2	400	○			
	日中比較文化	4	2	200	○			
	日中交流史	2	2	200	○			
	日中交流論	2	2	200	○			
政治経済	日米関係論	4	2	300	○			20単位 選択必修
	日本の政治	4	2	200	○			
	現代日本の政治	4	2	200	○			
	近代日本の外交	4	2	300	○			
	日本国憲法	2	1	100	○			
	日本経済論	4	2	200	○			
	日本経済史	4	2	200	○			
	日本研究特論(日米文化社会比較)	4	2	200	○			
	日本のジャーナリズム	2	2	200	○			
							上記選択必修科目を含め、計32単位	計 20単位

歴史学専攻プログラム

1. 教育目的

「歴史とは過去について学ぶこと」ですが、「過去について学んでいる私たち自身は、現在を生きている」とも付け加えておきましょう。歴史を学ぶことは、実は、「現在」を考えることでもあるのです。私たちの周りで起きていることの原因や意味を、過去にさかのぼって探り、現在の私たちが「当たり前」と思っていることが、過去においてもそうだったのかを知ろうとする姿勢。歴史学専攻プログラムでは、その名前の通り、歴史について考える場を提供するとともに、過去や現在の社会状況に対する、そのような好奇心を育みたいと思っています。過去の人々が残した歴史史料に向かうと、自分の思い込みや価値観が崩されることもあれば、逆に、同じ史料を自分の視点から解釈することも出来ます。そのような史料との対話のなかから、一つの歴史イメージが作られ、それをめぐる議論が生じる。その議論こそが、現在の自分を見つめ直すという、歴史学の重要な作業なのです。

2. カリキュラムの特徴

歴史学専攻プログラムの科目は、〈導入と理論〉、〈歴史学の方法〉、〈グローバル社会と歴史〉という3つのカテゴリーに分類されており、基本的には、学年が進むとともに、これらのカテゴリーから科目を履修できるようになっています。まず、1年次は、他の専攻プログラムと同様に、「リベラルアーツセミナー」、語学、情報などの授業を受講するとともに、数多く用意されている専攻入門や学問基礎の講義を受けます。2年次からは、〈歴史学の方法〉の科目が履修できるようになり、各地域の歴史について学びます。それと同時に、〈グローバル社会と歴史〉から、より具体的なトピック（文化、思想など）に焦点を当てた科目や、複数の地域にまたがった歴史を学ぶ多彩な科目を履修します。さらに、専門的な歴史のトピックを追究したい人は、3年次からの演習を履修した後に、4年次には卒業論文として、自分の研究をまとめることができます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入と理論	世界史概論	4	1	100	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本史概論	4	2	100	○			
	文化人類学	4	1	100	△		4単位 選択必修	
	アメリカ研究概論	4	2	200	○			
	アジア研究概論	4	1	100	○			
	日本研究概論	4	2	200	○			
歴史学の方法	日本の歴史Ⅰ	4	2	200	○		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	アメリカの歴史	4	2	200	○			
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200	○			
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	国際関係史Ⅰ	4	2	200	○			
	国際関係史Ⅱ	4	2	200	○			
グローバル社会と歴史	政治学概論	4	1	100	○		20単位 選択必修	12単位 選択必修
	中国思想史	4	1	200	○			
	中国文化史	4	2	200	○			
	アメリカ思想史	4	2	300	○			
	アメリカ社会史	4	2	200	○			
	アメリカの文化	4	1	200	○			
	日本思想史	4	2	200	○			
	日韓交流史	4	2	300	○			
	ユーラシア文化交流史	4	2	300	○			
	世界史における日本	4	2	300	○			
	民族研究	4	2	200	○			
	日米交流史	4	2	300	○			
	日露文化交流史	4	2	400	○			
	近代日本の外交	4	2	300	○			
	冷戦後の国際関係	4	2	300	○			
社会思想史	4	3	300	○				
							計 36単位	計 20単位

国際関係専攻プログラム

1. 教育の目的

本学建学の精神である「教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」のために国際関係プログラムでは、何よりもまず世界を知ること学びます。国際関係とは一体何でしょう。国と国との関係でしょうか。いえそれだけではありません。人と人の国境を越えた交流も国際関係の重要な要素です。国際関係での国や人の動きは複雑です。平和な時もあれば戦争になる時もあります。何故でしょうか。国と国との関係に原因があるのでしょうか。それとも民族や宗教などに原因があるのでしょうか。こうした疑問に自らが答えるために、国際関係に関するさまざまな知識を国際政治、国際法を中心に、国際関係に関わるさまざまなトピックを通じて学びます。その知識をもとに、貧困や飢餓、戦争のない、自由、平等で平和な世界を構築するために私たちに何ができるのか、その手掛かりを一人一人がつかみ、平和に向けて実践できるよう皆と一緒に学んでいきます。

2. カリキュラムの特徴

国際関係を理解する上で基礎となる「国際関係基礎」、国際関係を学ぶ上で核となる「理論」、その理論を手がかりに、具体的な問題関心に沿って学ぶ「テーマ別」というカテゴリーから成り立っています。国際関係論においては国際政治が重要ですので、基礎科目には「国際関係論」の他、「国際政治論」「政治学概論」が配置されています。「理論」の科目としては、国際関係の歴史、国際関係の基礎をなす国家や民族についての理論、戦争と平和についての理論・思想、国際法や国際機構、政治学関連の科目を学びます。さらに「テーマ別」としては、アメリカ、アジア、日本、ヨーロッパ各地域について具体的に学ぶとともに、国際関係論とつながりの深い国際協力の科目も配置しています。

国際関係論は、経済学を含む社会・人文科学の多様な学問分野とつながりのある学問ですから、関連が比較的深い国際協力、アメリカ・アジア・日本地域研究、あるいは社会学、文化人類学、歴史学、国際経済、倫理学といった専攻とのダブルメジャー、メジャー・マイナーの組み合わせを推奨しています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 科	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
国際関係基礎	国際政治論	4	1	100	○		4単位 選択必修	
	政治学概論	4	1	100	○			
	国際関係論	4	1	100	○			
理 論	国際関係史Ⅰ	4	2	200	○		4単位 選択必修	20単位 選択必修
	国際関係史Ⅱ	4	2	200	○			
	国家論	4	2	200	○			
	紛争論	4	2	200	○			
	民族研究	4	2	200	○			
	国際法	4	2	200	○			
	平和論	4	3	300	○			
	国際関係思想	4	2	300	○			
	難民・移民の人権	4	2	300	○			
	国際機構論	4	2	300	○			
	国際人権法	4	2	300	○			
	国際協力法	4	2	300	○			
比較政治学	4	2	300	○				
政治過程論	4	2	300	○				
テ マ 別	国際協力入門 (NGO 論)	4	1	100	○			
	国際交流論	4	2	200	○			
	人間の安全保障	4	2	200	○			
	アメリカの外交	4	2	300	○			
	発展途上国論	4	2	200	○			
	日本の政治	4	2	200	○			
	現代日本の政治	4	2	200	○			
	アジア女性論	4	2	300	○			
	アジアの政治	4	2	300	○			
	冷戦後の国際関係	4	2	300	○			
	ヨーロッパの政治	4	2	300	○			
近代日本の外交	4	2	300	○				
国際協力特論(グローバル・ガバナンス)	4	3	400	○				
							上記選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

国際協力専攻プログラム

1. 教育目的

人類が直面する地球規模の課題（平和、貧困、難民・子どもや女性などマイノリティの人権、環境）の解決には、国や文化背景の異なる多くの人々の国境を越えた協力が必要です。国際協力専攻プログラムでは、これらの地球規模の現状やその原因を学び、同時に、問題解決にあたっている国際機関、政府機関、NGO などの支援活動や法政策、そして、課題を理解します。また、現状や活動を講義で理解するだけでは不十分であり、行動と実践を伴ってはじめて国際協力が動き出すため、実践的な学びや行動力も重視します。国際協力専攻の目的は、こうした理論と実践の学習によって、国際協力を職業とすることを目指す人の育成はもとより、学生が地球規模の課題についての幅広い知識と深い共感、そして行動力をもった市民となり、卒業後には、社会人として自立しながら地球規模の課題にも関心と関与を保ち続ける、そんな「地球市民の育成」を目指します。

2. カリキュラムの特徴

1 年生では、第 3 世界の貧困問題を中心に国際協力を概説する科目、移民や多文化などの問題を概説する科目、夏休みや春休み中のフィリピン、インド、バングラデシュでの国際協力研修など開発途上国での体験学習を行います。語学は国際協力に必要な英語とさらにもう 1 言語の習得を期待します。2 年生以降は、国際法、国際人権法、国際機構論、現代倫理学などの国際協力の基礎的な学問、また、開発経済学、国際政治や平和論などの政治学分野の学問を学びます。さらに、難民・移民、子ども、ジェンダー、環境、平和構築、人間の安全保障など国際協力分野での個別の課題についての講義が用意されています。そして、実習を重視する立場から、国際協力フィールドワーク、NGO 等の国際協力機関でのインターンシップ、NGO や NPO で働くための実務実習、NGO/NPO 起業のための社会起業実習も用意されています。更に、3、4 年生では、自分が関心を持つ国際協力のテーマを絞り深く研究するために専攻演習と卒業論文の作成を奨励し、そのためのゼミの履修を強く勧めます。その他、学習方法として、各自の興味にそって、教育、環境、経済などの他の専攻とのダブルメジャーや、また、実践の場としての学生の自主活動への参加も奨励します。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	国際協力入門 (NGO 論)	4	1	100	○		4 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	発展途上国論	4	2	200	○			
	法律学概論(国際法を含む)	4	1	100	○			
基礎	倫理学概論	4	2	200	○		4 単位 選択必修	
	社会学概論	4	1	100	○			
	国際関係論	4	1	100	○			
	国際政治論	4	1	100	○			
トピックス	国際交流論	4	2	200	○		8 単位 選択必修	12 単位 選択必修
	難民・移民の人権	4	2	300	○			
	人間の安全保障	4	2	200	○			
	アジア女性論	4	2	300	○			
	持続可能な開発	4	2	300	○			
	子どもと開発	4	2	300	○			
	ジェンダーと開発	4	2	300	○			
	平和構築論	4	2	300	○			
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○			
理論	国際協力論	4	2	200	○		8 単位 選択必修	12 単位 選択必修
	経済開発論	4	2	300	○			
	国際法	4	2	200	○			
	国際協力法	4	2	300	○			
	国際人権法	4	2	300	○			
	国際機構論	4	2	300	○			
	比較政治学	4	2	300	○			
	平和論	4	3	300	○			
	国際協力特論(グローバル・ガバナンス)	4	3	400	○			
実習	国際学インターン A	2	2	200	△		4 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	国際学インターン B	2	2	200	△			
	国際協力フィールドワーク	1~4	2	300	○	重複履修可		
	NGO/NPO 実務実習 A	1~4	2	200	△			
	NGO/NPO 実務実習 B	1~4	2	300	△			
							上記選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

~~【重要】~~ 基盤教育院のフィールドスタディーズ科目「国際協力研修」(P.13参照)は、国際協力専攻プログラムを完成する上で重要な科目なので、履修することを強く推奨します。これを修得した場合、実習カテゴリーの選択必修が2単位免除され、修了要件単位数はメジャーが34単位、マイナーが18単位となります。
~~なお、重複履修可ですが、免除となるのは2単位までです。~~

社会学専攻プログラム

1. 教育目的

社会学は経済学、政治学などと並ぶ社会科学の1つであり、社会と文化を研究対象とする学問です。私たちにとって、自分の社会・文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっています。そのため、日常生活の中では、社会・文化に関する「常識」的なものの見方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一步距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。

社会学専攻プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

2. カリキュラムの特徴

社会学専攻プログラムは、以下の①～③のカテゴリーから成るカリキュラムです。

①〈導入〉カテゴリーとして、「社会学概論」が置かれています。「社会学概論」は1年生の段階から履修できますので、1年生のうちに履修しておくとういでしょう。

②〈理論・方法〉カテゴリーには、「社会学史」「比較社会学」といった理論系科目と同時に、「社会調査法」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく身につけていただければと思います。

③〈トピックス〉カテゴリーには、「文化社会学」「家族社会学」「現代社会研究」「地域社会学」などをはじめとして、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 群	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	社会学概論	4	1	100	○		必修	必修
	社会学史	4	2	200	○		必修	} 4単位 選択必修
	社会調査法	4	2	200	○		必修	
	比較社会学	4	2	200	○			
	社会統計学	2	2	300	△			
	社会環境調査法	2	2	300	○			
ト ピ ク ス	家族社会学	4	2	200	○		} 36単位 選択必修	} 20単位 選択必修
	文化社会学	4	2	200	○			
	地域社会学	4	2	300	○			
	現代社会研究	4	2	300	○			
	社会学特講	2	3	300	○			
	アメリカの文化	4	1	200	○			
	国際協力入門 (NGO 論)	4	1	100	○			
	文化人類学	4	1	100	△			
	国家論	4	2	200	○			
	アメリカ女性論	4	2	300	○			
	社会心理学	4	2	200	○			
	民族研究	4	2	200	○			
	アジア女性論	4	2	300	○			
	持続可能な開発	4	2	300	○			
	社会思想史	4	3	300	○			
環境社会学	4	2	300	△				
社会政策	4	2	300	○				
							計 36単位	計 20単位

心理学専攻プログラム

1. 教育目的

心理学専攻プログラムでは、心理学関連科目を幅広く、体系的に学ぶことができます。社会における価値観の多様化やIT化に代表されるような情報量の拡大は、人間理解をますます困難にしているだけでなく、新しいタイプのコミュニケーションの問題も生じさせています。また、いじめや不登校に代表される教育現場での心の問題、人間関係における心の問題、非行や犯罪・社会問題の背後にある心の問題、ストレス社会という言葉に代表されるように心身の健康の背後にある心の問題など、現代社会の病とも言うべき諸問題は身近なところに数多くみられます。こうした状況の中で、私たちはいかに心身の健康を維持・増進していくのか、社会が心理学に期待する事柄は実に無数にあるといえるでしょう。心理学専攻プログラムでの学びを通して、これらの諸問題への関心を深めるとともに、問題解決へ立ち向かえる人を育てたいと思います。

2. カリキュラムの特徴

まずは「専攻入門（心理学）」や「心理学」などの講義で心理学とはどのような学問であるかを体験します。次に、「心理測定法」や「心理学研究法」などの履修を通して心理学研究の方法について学びます。展開科目群では幅広い分野の科目を学習することができますが、心の問題や心の病について学ぶ臨床心理学関連の科目と心身の総合的な健康について学ぶ健康心理学関連の科目に注目してください。これらの分野には特に力が入れています。最後に実習・演習科目ですが、ここではより実践的な学習に取り組みます。さらに専門的な学習のために、専攻演習や卒業研究へ進む人も多いでしょう。本カリキュラムでは、認定心理士と健康心理士の資格取得に対応しています（P.242～244参照）。より深く学びたい人は、大学院に臨床心理士の受験資格が取得できる臨床心理学専攻（第一種指定校）と専門健康心理士の資格が取得できる健康心理学専攻のコースを設置していますので、進学を目指すという道もあります。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・方法論	心理学	4	1	100	○		必修	6単位 選択必修
	健康教育概論	2	2	100	○			
	心理測定法	2	1	100	○			
	心理学研究法	2	2	200	○	心理学		
	心理統計法	2	2	200	○	心理測定法		
展開科目	生涯発達心理学	4	1	200	○		26単位 選択必修	12単位 選択必修
	教育心理学(心理学)	4	2	200	○			
	学習心理学	4	2	200	○			
	認知心理学	4	2	300	○			
	生理心理学	2	2	200	○			
	社会心理学	4	2	200	○			
	家族心理学	4	2	300	○			
	産業・組織心理学	4	2	300	○			
	人間関係論	4	2	200	○			
	人格心理学	4	2	200	○			
	臨床心理学	4	2	200	○			
	心理療法概論	4	2	300	○			
	精神保健学	4	2	200	○			
	精神医学	4	2	300	○			
	健康心理学	4	2	200	○			
健康心理カウンセリング概論	2	3	300	○	健康心理学			
健康心理アセスメント概論	2	3	300	○	健康心理学			
学校カウンセリング論	2	3	300	△	リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可			
人間性心理学	2	2	300	△	リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可			
宗教心理学	2	2	300	△	リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可			
実習・演習	社会心理学調査実習	2	2	300	△	心理測定法 リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可	2単位 選択必修	2単位 選択必修
	心理学基礎実験	2	2	300	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可		
	心理学実験実習	2	3	300	△	心理学基礎実験 リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可		
	心理統計法演習	2	3	300	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可		
	健康心理学基礎実習	2	3	300	△	健康心理カウンセリング概論、 健康心理アセスメント概論 リベラルアーツ学群生/ 健康福祉学群生のみ履修可		
計 36単位							計 20単位	

教育学（教職教育）専攻プログラム

1. 教育目的

本専攻では、人間の成長と発達を教育という普遍的でかつ歴史的な現象からとらえます。教育という働きが人間と人間社会にどのように関係して作用しているかを研究します。教育の本質、教育思想、教育の歴史、諸外国の教育構造の比較などを通して教育を学びます。このような学習と研究をすることで、将来、人間社会の発展に貢献する資質を身につけ、教育関連の職業のみならずよりよい社会の形成をリードしていくことを目指しています。また、この専攻プログラムでは教職課程の科目とも一部相乗りしています。教員免許の取得をして教職を強く希望する学生は、教職課程に登録して、取得しようとする免許（教科）の必修科目はもとより法令上及び本学が指定する必要な単位を修得することになります。

2. カリキュラムの特徴

教職課程のカリキュラムとも一部連動します。「教職実践演習（中・高）」、教育実習に関する科目や各教科の指導法を除いた専門科目を最低36単位履修します。

本専攻プログラムでは、〈基礎・入門〉科目の「教育学概論」「教育思想」など4科目から6単位以上を選択必修としています。そして「教育哲学」「西洋教育史」「日本教育史」「比較教育学」などの〈理論〉科目、「家庭と教育」「宗教と教育」「現代アジアの教育と文化」などの〈トピックス〉科目から30単位以上を選択していきます。

なお、教職課程に登録して教職を目指す学生は、教職課程（P.197～）を参照してください。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 群	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生 の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・入門	教育学概論	2	1	100	○		6単位 選択必修	選択必修
	教育思想	2	1	200	○			選択必修
	教職入門	2	1	100	○			
	日本国憲法	2	1	100	○			
理 論	教育哲学	2	2	200	○			選択必修
	西洋教育史	2	2	200	○			選択必修
	日本教育史	2	2	200	○			選択必修
	比較教育学	2	2	300	○			選択必修
	教育原理（教職課程）	2	1	200	○			選択必修
	教育心理学（教職課程）	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可		
	教育制度論	2	2	200	○			
	教育課程論	2	2	200	○			
	道徳教育論	2	2	300	○			
	特別活動論	2	2	300	○			
	教育方法論	2	2	300	○			
	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	2	2	300	○			
	進路指導論	2	2	300	○			
	学習心理学	4	2	200	○			
	生涯発達心理学	4	1	200	○			選択必修
家族心理学	4	2	300	○			選択必修	
生涯学習概論	2	1	200	○			選択必修	
ト ピ ッ ク ス	キリスト教と教育	2	1	200	○			選択必修
	家庭と教育	2	1	200	○			選択必修
	宗教と教育	2	2	300	○			選択必修
	現代アジアの教育と文化	2	2	300	○			選択必修
	読書と豊かな人間性	2	3	300	○			
	情報メディアの活用	2	3	300	○			
							上記選択必修科目を 含め、計 36単位	計 20単位

選択必修
の中から
20単位

国際経済専攻プログラム

1. 教育目的

グローバル化した今日の国際経済においては、諸外国の経済や社会の動きは、互いに深い依存関係にあります。我々の日常生活や各国の景気や政策も、こうした国際経済の動きによって、さまざまなところで大きな影響を受けています。

国際経済専攻プログラムでは、こうした国際経済の動きに関して、貿易、国際資本移動、国際労働移動、国際通貨変動といった諸要因が動くメカニズムを理解するとともに、アジア、アメリカ、ヨーロッパその他各国、地域の経済に関する幅広い知識、教養を身につけることを目的としています。こうした学習を通じて、一般の製造、サービス業に加え、貿易や金融といった国際間の経済取引に関わるさまざまな仕事や、国・地方・国際公務員、あるいは近年、企業活動のグローバル化が進む中で重要性が増している、企業の国際展開に有用な人材を育成することを目指しています。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラム科目は「国際経済論」や「国際貿易論」、「経済開発論」、「国際金融論」、「国際投資論」や「多国籍企業論」といった国際経済の一般的理論に関わる科目と、「アメリカ経済論」、「中国経済論」、「ヨーロッパ経済論」、「アジアの経済」といった、世界の各国、地域の経済の実状に関する科目とに分かれます。

また、他の専攻プログラムのなかからも、専攻分野と関連するさまざまな科目を、それぞれの関心に応じて学ぶことができます。例えば開発経済学に興味のある方は、「発展途上国論」「国際協力論」「国際協力入門（NGO論）」「ジェンダーと開発」といった科目を、また、アジア経済に興味のある方は、本専攻プログラムの「アジアの経済」のほか、「アジアの歴史Ⅰ・Ⅱ」「アジアの政治」「東南アジア研究」「中国地域研究」その他さまざまな科目を履修することができます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	基礎ミクロ経済学	2	1	100	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100	○			
	政治経済学	4	1	100	○			
理論・歴史	経済史	4	1	100	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100	○			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100	○			
	経済学史	4	2	200	○			
	マクロ経済学	4	2	200	○			
	ミクロ経済学	4	2	200	○			
	経済統計論	4	2	200	○			
	日本経済史	4	2	200	○			
	日本経済論	4	2	200	○			
	金融論	4	2	200	○			
	労働法	4	2	200	○			
	経済法Ⅰ	2	2	300	○			
	経済法Ⅱ	2	2	300	○			
	計量経済学	2	2	300	○			
	経済変動論	4	2	300	○			
	現代資本主義論	4	2	200	○			
ゲーム理論	2	2	300	○				
社会経済学	4	2	200	○				
経済学特殊講義	2	2	200	○				
応用・その他	国際経済論	4	2	300	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	国際金融論	4	2	300	○			
	経済開発論	4	2	300	○			
	多国籍企業論	4	2	300	○			
	アメリカ経済論	4	2	300	○			
	ヨーロッパ経済論	4	2	300	○			
	中国経済論	4	2	300	○			
	ロシア東欧経済論	4	2	300	○			
	国際マクロ経済学	4	2	300	○			
	国際投資論	4	2	300	○			
	国際貿易論	4	2	300	○			
	アジアの経済	4	2	200	○			
							計 36単位	計 20単位

ビジネスエコノミクス専攻プログラム

1. 教育目的

企業活動のグローバル化やインターネットを活用した新たなビジネスモデルの出現など、企業や産業をめぐる環境は複雑になり、企業組織や産業組織は従来とは異なる対応が求められています。

ビジネスエコノミクス専攻プログラムは、このように変化しつつある企業活動を経済学の観点から深く学ぶことを目的としています。個別産業を対象とする科目群や産業調査や経営分析などの科目を通じて、企業や産業についてその現状や問題点を学ぶことができます。

こうした「学び」を通じて、農業や製造業、金融・保険業、卸売・小売業、情報通信業などで幅広い産業や企業で活躍するための基礎的な知識や能力を習得する事ができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、基礎科目から専門科目を無理なく積み上げていけるように、各科目群が有機的に配置されています。1年生から2年生春学期にかけて学ぶ基盤科目には、経済学の基礎科目として、専攻入門などの入門科目が配置されています。その後、本格的に経済学を学びたい人は、1年生秋学期から2年生にかけて、経済学の理論、歴史に関わる基礎科目（経済系3プログラム共通）を履修し、2年生の秋学期頃から、「企業経済論」、「産業組織論」、「産業構造論」、「企業金融論」、「産業調査論」や「企業分析論」など、ビジネスエコノミクスに関する基礎的な科目の履修を始め、3年生で本格的に個別産業科目群などの専門科目を履修していきます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	基礎ミクロ経済学	2	1	100	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100	○			
	政治経済学	4	1	100	○			
理論・歴史	経済史	4	1	100	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100	○			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100	○			
	経済学史	4	2	200	○			
	マクロ経済学	4	2	200	○			
	ミクロ経済学	4	2	200	○			
	経済統計論	4	2	200	○			
	日本経済史	4	2	200	○			
	日本経済論	4	2	200	○			
	金融論	4	2	200	○			
	労働法	4	2	200	○			
	経済法Ⅰ	2	2	300	○			
	経済法Ⅱ	2	2	300	○			
	計量経済学	2	2	300	○			
	経済変動論	4	2	300	○			
現代資本主義論	4	2	200	○				
ゲーム理論	2	2	300	○				
社会経済学	4	2	200	○				
経済学特殊講義	2	2	200	○				
応用・その他	企業経済論	4	2	300	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	中小企業論	4	2	300	○			
	情報経済論	4	2	300	○			
	サービス経済論	4	2	300	○			
	産業組織論	4	2	300	○			
	工業経済論	4	2	300	○			
	農業経済論	4	2	300	○			
	流通経済論	4	2	300	○			
	企業分析論	4	2	300	○			
	産業調査論	4	2	300	○			
	企業金融論	4	2	300	○			
	産業構造論	4	2	300	○			
	労働経済論	4	2	300	○			
計 36単位							計 20単位	

公共政策専攻プログラム

1. 教育目的

現代社会は「市場」を中心に動いています。市場の競争がうみだす効率的な経済と技術革新のおかげで、私たちの生活は確かに便利になりました。しかしその一方で、いま私たちの社会は、市場の様々な副作用に直面しています。競争の結果、人々が「勝ち組」と「負け組」に分かれる「格差社会」が到来し、フリーターやニートなど、働くことに意義を見出せない若者も増えています。年金や福祉、医療など人々の暮らしを下支えする「セイフティ・ネット」が破綻し、中国やインドの経済発展もあって、環境・資源問題は地球的規模にまで拡大しています。

本専攻プログラムは、身近な問題からグローバルな問題まで、私たちが直面する様々な問題を分析し、その解決にはどのような「政策」が必要なのかを考えていきます。そのことを通じて、仕事や人生で直面する問題や課題に果敢に取り組む、具体的な解決策を提示できる人材を育成することが、本専攻プログラムの目的です。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムのカリキュラムは、大きく〈基礎〉〈理論・歴史〉〈応用・その他〉の3つのカテゴリーからなる積み上げ型の構成をとっています。現代社会の様々な問題を考える際には、そのおもとをなす「市場メカニズム」に関する知識が欠かせません。〈基礎〉〈理論・歴史〉では、経済学を通じて市場メカニズムの基礎を学びます。その上で〈応用・その他〉では、現代の様々な経済・社会問題の現状とそれを解決する「政策」を学びます。例えば、景気対策を考える「経済政策」、税金の使い道を考える「財政学」、福祉や年金を考える「社会政策」、環境問題を考える「環境経済論」などです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	基礎ミクロ経済学	2	1	100	○		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100	○			
	政治経済学	4	1	100	○			
理論・歴史	経済史	4	1	100	○		16単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100	○			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100	○			
	経済学史	4	2	200	○			
	マクロ経済学	4	2	200	○			
	ミクロ経済学	4	2	200	○			
	経済統計論	4	2	200	○			
	日本経済史	4	2	200	○			
	日本経済論	4	2	200	○			
	金融論	4	2	200	○			
	労働法	4	2	200	○			
	経済法Ⅰ	2	2	300	○			
	経済法Ⅱ	2	2	300	○			
	計量経済学	2	2	300	○			
	経済変動論	4	2	300	○			
現代資本主義論	4	2	200	○				
ゲーム理論	2	2	300	○				
社会経済学	4	2	200	○				
経済学特殊講義	2	2	200	○				
応用・その他	金融政策	4	2	300	○		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	財政学	4	2	300	○			
	社会政策	4	2	300	○			
	生活経済論	2	2	300	○			
	環境経済論	4	2	300	○			
	行政学	4	2	300	○			
	経済政策	4	2	300	○			
	社会保障論	2	2	300	○			
	労働経済論	4	2	300	○			
	地方財政論	4	2	300	○			
	厚生経済学	2	2	300	○			
	公共経済学	4	2	300	○			
	資源・エネルギー論	4	2	300	○			
							計 36単位	計 20単位

数学専攻プログラム

1. 教育目的

現代科学の基盤とも言える数学は代数的な分野、幾何的な分野、解析的な分野等、様々な分野に分かれているように見えながらも、渾然一体となって統一的な数学を形作っています。本専攻では、文明社会に貢献するために数学を体系的に学ぶことと、リベラルアーツの観点からも意義のある数学の力を培うことを目的とします。ややもすれば断片的知識の詰め込みであった入学前までの数学の知識を整理・統合し、現代も発展し続ける数学の一層高い知識と思考能力を身につけ、多様な自然・社会現象及び数学的現象を観察し、数学的な手法で分析し、解明することが出来るようになるための手助けをすることを数学専攻は目標としています。学習の過程で数学のいろいろな定理を理解できたときの喜びを味わうことは、人生にとって何事にも代え難い経験となることでしょう。情報通信・金融・保険・出版・教育といった各種の職場では、社会の高度化に伴って高い数学的素養を持って様々な出来事・対象を数理的に、かつ、独創的に分析できる人材がますます求められており、これらの職場で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

数学専攻では〈導入〉(100レベル)・〈基礎〉(200レベル)で数理的思考の基礎を培います。〈専門〉(300・400レベル)では、数学の学習基盤を培うと同時に、数学の最新の話題なども扱う予定です。そして、リベラルアーツの観点から数学の知識に幅を持たせるための〈応用・総合〉には、他の専攻プログラムの中からも多くの選択必修科目が用意されています。このように本専攻では、数学に関する幅広い教養を培うことができるカリキュラムになっています。

本専攻では、コンピュータを利用した講義や実験も用意されており、体験を通して数理的思考を養うことも配慮されています。

さらには、数学を基礎から体系的に学び、大学院における専門的な数学の学びへと発展させることも可能なカリキュラムになっています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ数学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	数学概論	2	1	100	○		必修 4単位 選択必修 (注1)	2単位 選択必修 (注1)
	物理学概論	2	1	100	○			
	化学概論	2	1	100	○			
	生物学概論	2	1	100	○			
	地学概論	2	1	100	○			
基礎	線形代数学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数入門と微分積分学入門	必修	必修
	微分積分学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数入門と微分積分学入門	必修	必修
	数学演習	2	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数入門と微分積分学入門	必修	必修
専門	解析学	4	3	300	○	線形代数学、微分積分学	14単位 選択必修	8単位 選択必修
	確率論と統計学	4	3	300	○	微分積分学		
	離散数学	4	3	400	○	線形代数学		
	代数学	4	3	300	○	線形代数学、微分積分学		
	幾何学	4	3	400	○	線形代数学、微分積分学		
コンピュータとデータ解析	2	3	300	○	確率論と統計学			
応用・総合	力学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)	4単位 選択必修	
	力学Ⅱ	2	2	200	○	力学Ⅰ(同時履修可)		
	電磁気学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)		
	電磁気学Ⅱ	2	2	200	○	電磁気学Ⅰ(同時履修可)		
	熱力学	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)		
	統計力学	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学、 力学Ⅰ、力学Ⅱ、熱力学		
	量子力学Ⅰ	2	3	300	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ、 電磁気学Ⅱ(同時履修可)		
	量子力学Ⅱ	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ(同時履修可)		
	物理学特論Ⅰ	2	3	400	○	物理学概論(注2)		
	物理学特論Ⅱ	2	3	400	○	物理学概論(注2)		
	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×			
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×	物理学実験Ⅰ		
	化学熱力学・反応速度	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)		
	量子化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)		
	地球物理学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)(注3)		
	地球物理学Ⅱ	2	3	300	○	地球物理学Ⅰ(同時履修可)		
	情報システム論	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	応用表計算	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	プログラミングⅠ	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	プログラミングⅡ	2	2	300	○	プログラミングⅠ		
ソフトウェア概論	4	3	300	○	情報システム論			
							上記必修・選択必修科目を含め、計 36単位	計 20単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

(注5) 熱力学との同時履修を認める場合があります。

物理学専攻プログラム

1. 教育目的

物理学は、自然科学の一分野であり、自然界に見られる現象において人間の恣意的な解釈に依らない普遍的な法則があると考えられる学問です。自然界の現象とその性質について、物質とその間に働く相互作用によって理解することの力学的理解、及び物質をより基本的な要素に還元して理解することの原子論的理解を目的とします。

物理学専攻プログラムでは、物理学を中心として、身の回りの「不思議」の発見から始め、問題と仮説を設定し、モデル化を行い、検証する科学的な営みを体験的に学びます。また、物理学の基礎ばかりではなく、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえて人格の幅を広げかつ広い視野から諸事象を俯瞰できる能力が養えるように考慮しています。

本専攻プログラムでは、自然科学及び科学技術に対する広い視野とともに論理的に思考する能力及びコミュニケーション能力を養い、科学技術の急速な発展に対処しうる人材の育成を目指します。また、大学院課程への緩やかな一貫性を考慮しています。卒業後に、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケーター、情報通信などの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

物理学は積み上げの学問でもあります。物理学の知識・能力・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉(100レベル)では、高等学校で物理学を履修していない学生にも対応した概論科目により、物理学に閉じることなく自然科学一般に通用する基礎学力を養成します。〈基礎〉(200・300レベル)では、物理学で使用する数学を含めて物理学を修得する上で重要な科目についての学習をします。〈実験〉(200・300レベル)では、実験を通して講義内容の理解をさらに深めます。〈応用・総合〉では、物理学の基礎を利用した学問分野について学習し、物理学の知識・能力・技能を深めます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、一般企業を志望する学生はもちろんのこと、大学院進学、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。また、マイナー修了要件でも、最低限の物理学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が、科学・技術・社会の視点から社会の様々な問題を考察する上でとても有効な学びとなるはずです。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ物理学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導入	数学概論	2	1	100	○		必修	6単位 選択必修 (注1)	4単位 選択必修 (注1)	
	物理学概論	2	1	100	○		必修			
	化学概論	2	1	100	○					
	生物学概論	2	1	100	○					
	地学概論	2	1	100	○					
基礎	線形代数学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修	20単位 選択必修		
	微分積分学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修			
	力学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)	必修			必修
	力学Ⅱ	2	2	200	○	力学Ⅰ(同時履修可)	必修			必修
	電磁気学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)	必修			必修
	電磁気学Ⅱ	2	2	200	○	電磁気学Ⅰ(同時履修可)	必修			必修
	熱力学	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)				
	統計力学	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学、 力学Ⅰ、力学Ⅱ、熱力学	(注5)			
	量子力学Ⅰ	2	3	300	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ、 電磁気学Ⅱ(同時履修可)				
量子力学Ⅱ	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ(同時履修可)					
実験	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×		必修	6単位 選択必修	16単位 選択必修	
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×	物理学実験Ⅰ	必修			
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×	化学概論(注2)				
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×	化学実験Ⅰ				
	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×					
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ				
	地学実験Ⅰ	2	2	200	△					
	地学実験Ⅱ	2	3	300	△	地学実験Ⅰ				
応用・総合	解析学	4	3	300	○	線形代数学、微分積分学	2単位 選択必修	4単位 選択必修		
	物理学特論Ⅰ	2	3	400	○	物理学概論(注2)				
	物理学特論Ⅱ	2	3	400	○	物理学概論(注2)				
	化学熱力学・反応速度	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)				
	量子化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)				
	地球物理学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)(注3)				
	地球物理学Ⅱ	2	3	300	○	地球物理学Ⅰ(同時履修可)				
	気象学Ⅰ	2	2	300	○	物理学概論(注2)(注3)				
	気象学Ⅱ	2	2	300	○	気象学Ⅰ(同時履修可)				
	天文学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)				
	天文学Ⅱ	2	3	300	○	天文学Ⅰ(同時履修可)				
							計 36単位	計 20単位		

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

(注5) 熱力学との同時履修を認める場合があります。

化学専攻プログラム

1. 教育目的

私たちが生きている世界は、物質によって構成されています。さまざまな物質が存在し、それが組み合わされることによって人体のような高度な機能を持った組織が実現しているだけでなく、物質はたえず変化しており、それらの変化も私たちが生活する空間を特徴づける役割を果たしています。このように、私たちが私たちの住む世界や私たち自身のしくみを理解することが、これまでの人類の進歩に貢献してきましたし、これからも貢献していくことは間違いありません。

化学専攻プログラムは、身の回りに存在するさまざまな物質を切り口として、その化学構造や化学反応のしくみを理解することを通じて、自然科学の基礎を体系的に学ぶこととともに、科学的なものの見方や考え方を身につけることを目的としています。これらを学ぶことを通じて、身の回りや地球上の自然に対する理解を深め、新しい自然観を培うことをめざします。

本専攻プログラムでは、リベラルアーツの精神に沿って、化学だけに閉じることなく、幅広い自然科学の分野にふれつつも、化学を中心に学び、それを社会に活かせる人材を養成することを目的としています。高等学校で化学を履修してこなかった学生も受け入れるために、導入科目にも力を入れています。この専攻プログラムを選択することで、化学の基本的な知識とそれを活かす能力・技能を修得することができるようなプログラムになっています。また、さらに高度な知識を求めようとする学生に対しては、大学院課程に継続できるような配慮も行っています。具体的な進路としては、化学系を中心とする企業や、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケーターなどの様々な分野が考えられます。

2. カリキュラムの特徴

化学の学問体系は、積み上げの学問であると同時に複数分野が並列する学問でもあります。本専攻プログラムでは、化学の基本的な知識・能力・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉(100レベル)では、高等学校で理科をあまり履修してこなかった学生にも対応した概論科目により、化学に閉じることなく理学一般をカバーする基礎学力を養成します。〈基礎〉(200・300レベル)では、化学の代表的分野である「無機化学」、「有機化学」、「分析化学」、「物理化学」、「生化学」を学ぶほか、理科の他分野の科目の履修も奨励されます。〈実験〉(200・300レベル)では、実験をとおして講義の内容をさらに理解するとともに、実験の技術を身につけることを目標とします。〈応用・総合〉では、化学の基礎を利用した応用分野・関連分野について学ぶことで、より広い化学の知識を身につけることが出来ます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、大学院進学希望者へのカリキュラム上の配慮を重視しており、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。またマイナー修了要件でも、最低限の化学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が知識の幅を広げる場としても有効です。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ化学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 年	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レ ベ ル	他学群学 生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導 入	数学概論	2	1	100	○		必修(注1)	4単位 選択必修 (注1)	必修(注1)	4単位 選択必修 (注1)
	物理学概論	2	1	100	○					
	化学概論	2	1	100	○					
	生物学概論	2	1	100	○					
	地学概論	2	1	100	○					
基 礎	無機化学Ⅰ	2	2	200	○	化学概論(注2)(注3)	16単位 選択必修	20単位 選択必修	必修	12単位 選択必修
	無機化学Ⅱ	2	2	200	○	無機化学Ⅰ(同時履修可)				
	基礎有機化学	2	2	200	○	化学概論(注2)(注3)				
	有機合成化学	2	2	200	○	基礎有機化学(同時履修可)				
	基礎分析化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注3)				
	機器分析化学	2	2	300	○	基礎分析化学(同時履修可)				
	化学熱力学・反応速度	2	2	300	○	化学概論(注2)(注3)				
	量子化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注3)				
	生化学	2	3	300	○					
	生物物質化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注3)				
	微分積分学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	線形代数学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	微分積分学入門	2	1	100	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	線形代数学入門	2	1	100	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	力学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注4)				
電磁気学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注4)					
実 験	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×		6単位 選択必修		必修	16単位 選択必修
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×	物理学実験Ⅰ				
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×	化学概論(注2)				
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×	化学実験Ⅰ				
	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×					
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ				
	地学実験Ⅰ	2	2	200	△					
地学実験Ⅱ	2	3	300	△	地学実験Ⅰ					
応 用 ・ 総 合	化学特論	2	3	400	○	化学概論(注2)	6単位 選択必修			
	エネルギー化学	2	3	300	○					
	化学と人間社会	2	2	200	○					
	環境化学	2	2	200	○					
	資源・エネルギー論	4	2	300	○					
	環境リスク論	2	2	200	○					
	食品安全論	2	3	300	○					
	熱力学	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注4)				
	統計力学	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学、 力学Ⅰ、力学Ⅱ、熱力学				
	量子力学Ⅰ	2	3	300	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ、 電磁気学Ⅱ(同時履修可)				
	生理学Ⅰ	2	3	300	○					
地質学Ⅰ	2	2	200	○						
気象学Ⅰ	2	2	300	○	物理学概論(注2)(注4)					
計							36単位	計		20単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された場合は導入カテゴリーの選択必修は2単位となります。減少した2単位分は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修得要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注5) 熱力学との同時履修を認める場合があります。

生物学専攻プログラム

1. 教育目的

生物学は分子・細胞から個体・集団・生態系にいたるまで、さまざまなレベルの生命現象を研究対象としています。また、医学、農学、環境学などに応用されて、医療、環境、食糧、エネルギーなどの諸問題の解決にも役立っている学問分野です。

生物学専攻プログラムでは生物学の専門分野について広く基本知識や技術を身につけるとともに科学的な見方や考え方を培うことを目標としています。とくに、マクロな生物学に強い、たとえば身近な生物の生態や多様性に目を向けるような人材を育てたいと考えています。

生物学を学ぶことをとおして、私たち人間も生物の一種であり、自然界を構成する一員であるという視点を持つことができます。このような視点を持つことは生命科学の技術の進歩が著しく、多くの環境問題が生じている現代に生きる私たちにとって極めて重要です。人格の幅を広げかつ広い視野から諸事情を俯瞰できる能力を養うというリベラルアーツ学群の教育目標とも合致します。卒業後は大学院進学、教員、公務員、生物や環境関連企業、サイエンス・コミュニケーターなどの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

生物学専攻プログラムでは、生物学の知識・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉では、高等学校で生物などの理科を履修していない学生にも対応した概論科目により、理学一般に通用する基礎学力を身につけます。〈基礎〉では、生物学の中心となる分野を5科目の中に集約し学ぶように設定してあり、また生物学を履修する上で重要な他分野の科目を学びます。〈実験〉では「生物学実験Ⅰ」で基本的な内容を「生物学実験Ⅱ」で応用的な内容を扱います。他分野の実験もいくつか履修し、理科の広い技能も身につけるようにします。〈応用・総合〉では生物学をより深め、環境科学、情報科学などの応用分野を学びます。

本専攻プログラムは、生物学ばかりでなく、関連分野を広く学べるように考慮されていますので、卒業後の大学院進学、教員、自然科学や環境科学分野の職業で役に立つ知識・技能が身につくように設計されています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ生物学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導入	生物学概論	2	1	100	○		4単位 選択必修 (注1)	2単位 選択必修 (注1)		
	数学概論	2	1	100	○					
	物理学概論	2	1	100	○					
	化学概論	2	1	100	○					
	地学概論	2	1	100	○					
基礎	植物学Ⅰ	2	2	200	○		必修	必修		
	植物学Ⅱ	2	2	200	○	植物学Ⅰ(同時履修可)	必修			
	動物学Ⅰ	2	2	200	○		必修	必修		
	動物学Ⅱ	2	2	200	○	動物学Ⅰ(同時履修可)	必修			
	生態学Ⅰ	2	2	300	○					
	生態学Ⅱ	2	2	300	○	生態学Ⅰ(同時履修可)				
	生理学Ⅰ	2	3	300	○					
	生理学Ⅱ	2	3	300	○	生理学Ⅰ(同時履修可)				
	生化学	2	3	300	○					
	遺伝と進化	2	3	300	○					
基礎	線形代数学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	12単位 選択必修			
	微分積分学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	微分積分学入門	2	1	100	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	線形代数学入門	2	1	100	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	力学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)				
	力学Ⅱ	2	2	200	○	力学Ⅰ(同時履修可)				
	無機化学Ⅰ	2	2	200	○	化学概論(注2)(注4)				
	無機化学Ⅱ	2	2	200	○	無機化学Ⅰ(同時履修可)				
	基礎有機化学	2	2	200	○	化学概論(注2)(注4)				
	有機合成化学	2	2	200	○	基礎有機化学(同時履修可)				
実験	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×		必修	必修		
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ	必修			
	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×		6単位 選択必修	8単位 選択必修		
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×	物理学実験Ⅰ				
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×	化学概論(注2)				
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×	化学実験Ⅰ				
	地学実験Ⅰ	2	2	200	△					
	地学実験Ⅱ	2	3	300	△	地学実験Ⅰ				
応用・総合	生物学特論	2	3	400	○	重複履修可			4単位必修	
	生体物質化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)				
	化学と人間社会	2	2	200	○		6単位 選択必修			
	環境化学	2	2	200	○					
	エネルギーと環境	2	2	200	○					
	人と自然	2	2	200	○					
	環境生物学	2	2	200	○					
	自然環境調査法	2	3	300	○					
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○					
	データベースⅠ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ				
応用表計算	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ					
									計 36単位	計 20単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

地球科学専攻プログラム

1. 教育目的

地球科学専攻プログラムで学べる分野には、地質学、地震学、気象学、天文学などがあります。これらの分野での学びを通して、自然科学の基礎を体系的に学ぶことを目的とします。また、地球の理解を通して自然に対する理解を深め、21世紀の自然観を培い、科学的な見方や考え方を培うことも目的とします。

自然と共生する持続可能な社会の構築には、科学・技術が重要な役割を果たし、様々な業種において地球科学的素養が要求されます。そこで、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえ、人格の幅を広げ、かつ広い視野から科学的に物事を見て考える能力を培い、論理的な判断力と行動力とを有する人材を育成します。本専攻プログラムでは、このような人材がこれからの社会を担うにふさわしい人と考えるからです。

2. カリキュラムの特徴

〈導入〉(100レベル)、〈基礎〉(200・300レベル)、〈実験〉(200・300レベル)、〈応用・総合〉(200・300・400レベル)が設定されています。〈導入〉では、大学入学までに高等学校での科目「理科総合B」や「地学Ⅰ」、「地学Ⅱ」など、教科「理科」での地学分野を履修していない学生にも対応した「地学概論」から学びを始めます。〈基礎〉及び〈応用・総合〉では、地球を理解するために重要な科目の学習を行います。〈実験〉では、地球科学分野における研究手法を体験するだけでなく、実験を通して講義の内容をさらに理解することを目標とします。

本専攻プログラムでは、講義科目でも実験やコンピュータを利用した演習など、具体物や体験を通して学習が進められます。また、博物館を利用した学習や、丹沢や多摩丘陵をフィールドとした学習も行われます。

卒業後、理科の教員、防災等に携わる公務員や NGO 職員など、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指すカリキュラムとなっています。また、大学院進学や博物館学芸員、サイエンス・コミュニケーション、天気キャスターなどをを目指す学生にとっても、役に立つ知識・技能が身につく学習プログラムが組めるように設計されています。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ地球科学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△の場合、担当教員の許可を得れば履修できます。×の場合、他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導入	数学概論	2	1	100	○		6単位 選択必修 (注1)	6単位 選択必修 (注1)	
	物理学概論	2	1	100	○				
	化学概論	2	1	100	○				
	生物学概論	2	1	100	○				
	地学概論	2	1	100	○	必修			必修
基礎	線形代数学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門	18単位 選択必修	8単位 選択必修	
	微分積分学	4	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門			
	数学演習	2	2	200	○	数学概論(注2) 又は線形代数学入門と微分積分学入門			
	微分積分学入門	2	1	100	○	微分積分学の既修得者は履修不可			
	線形代数学入門	2	1	100	○	線形代数学の既修得者は履修不可			
	電磁気学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)			
	電磁気学Ⅱ	2	2	200	○	電磁気学Ⅰ(同時履修可)			
	力学Ⅰ	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)			
	力学Ⅱ	2	2	200	○	力学Ⅰ(同時履修可)			
	地球物理学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)(注3)			
	地球物理学Ⅱ	2	3	300	○	地球物理学Ⅰ(同時履修可)			
	気象学Ⅰ	2	2	300	○	物理学概論(注2)(注3)			
	気象学Ⅱ	2	2	300	○	気象学Ⅰ(同時履修可)			
	天文学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)			
天文学Ⅱ	2	3	300	○	天文学Ⅰ(同時履修可)				
地質学Ⅰ	2	2	200	○		Iのつく 科目から 8単位 選択必修	Iのつく 科目から 6単位 選択必修		
地質学Ⅱ	2	2	200	○	地質学Ⅰ(同時履修可)				
実験	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×		6単位 選択必修	必修	
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×	物理学実験Ⅰ			
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×	化学概論(注2)			
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×	化学実験Ⅰ			
	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×				
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ			
	地学実験Ⅰ	2	2	200	△				必修
	地学実験Ⅱ	2	3	300	△	地学実験Ⅰ			必修
応用・総合	確率論と統計学	4	3	300	○	微分積分学	6単位 選択必修	4単位 選択必修	
	熱力学	2	2	200	○	物理学概論(注2)(注3)			
	統計力学	2	3	300	○	線形代数学、微分積分学、 力学Ⅰ、力学Ⅱ、熱力学			
	化学熱力学・反応速度	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)			
	量子化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)			
	基礎分析化学	2	2	300	○	化学概論(注2)(注4)			
	機器分析化学	2	2	300	○	基礎分析化学(同時履修可)			
	生態学Ⅰ	2	2	300	○				
	生態学Ⅱ	2	2	300	○	生態学Ⅰ(同時履修可)			
	古生物学	2	3	400	○				
	地球科学特論	2	3	400	○	重複履修可			
	コンピュータとデータ解析	2	3	300	○	確率論と統計学			
	海洋学	2	3	400	○				
	地球科学演習	2	3	400	○	重複履修可			
地球規模環境論Ⅰ	2	2	200	○					
地球規模環境論Ⅱ	2	2	200	○	地球規模環境論Ⅰ(同時履修可)				
計 36単位							計 20単位		

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。

(注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

(注3) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。

(注4) 化学概論との同時履修を認める場合があります。

(注5) 熱力学との同時履修を認める場合があります。

情報科学専攻プログラム

1. 教育目的

ますます高度化する情報化の大きな波の中で、社会で活躍するためにはコンピュータの操作技法のみならず情報処理に関する知識の習得が不可欠になっています。本専攻プログラムは、「情報科学に関する広い知識と高度な専門性を修得し、情報化時代の社会で活躍できる人物の育成」を目的としています。

この専攻プログラムは、コンピュータ全般にかかわる様々な演習科目や講義科目で構成されています。演習科目では、コンピュータの基礎操作技術をマスターした後、マルチメディアやデータベースの扱い方、プログラミング技術等のコンピュータ操作技法を身につけます。これと同時に、情報の社会に与える影響、コンピュータの構造と仕組み、ネットワークの動作原理やデータベースの概念・操作法等、情報科学に関する知識の習得も講義科目を通して行います。

本プログラムで専門性を身につけた学生は、社会の様々な分野で活躍することが期待されます。特に情報関連企業の専門職（SE）や総合職（営業）、あるいは一般企業における情報システム部門の専門職等で活躍することができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムを構成する科目は、〈基礎〉、〈演習〉、〈応用〉の3つのカテゴリーで提供されています。さらに科目レベルが設定されていて、導入部分から高度な専門的分野に至るまで体系的に学ぶことができるように構成されています。

1年次では基盤科目の「コンピュータリテラシーⅠ／Ⅱ」を学びながら、「情報と社会」などの基礎科目を学びます。同時に自然科学分野についても関連する知識を習得します。2年次からは本格的に専攻科目が始まります。講義科目では「情報システム論」、「情報分析論」、「情報デザイン論」など、演習科目として「プログラミングⅠ／Ⅱ」、「マルチメディア表現Ⅰ」などを学びます。3年次からは「データベースⅡ」、「情報ネットワーク演習」、「ソフトウェア概論」など高度な専門を学びます。

科目にコンピュータの演習が多く取り入れられていることが情報科学専攻プログラムの特徴です。EXCELの高度な利用方法、PhotoshopやIllustratorの操作、Javaでのプログラミングなど多様な演習を行うことができます。

3. 修了要件

メジャー：合計36単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 科	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基 礎	数学概論	2	1	100	○			
	微分積分学入門	2	1	100	○	微分積分学の既修得者は履修不可		
	線形代数学入門	2	1	100	○	線形代数学の既修得者は履修不可		
	情報と社会	2	1	100	○		必修	
	情報と倫理	2	1	100	○			
	情報システム論	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修	必修
	データベースⅠ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	認知の科学	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報ネットワーク	2	3	300	○	情報システム論	必修	
演 習	応用表計算	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	プログラミングⅠ	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修	
	プログラミングⅡ	2	2	300	○	プログラミングⅠ		
	プレゼンテーション演習	2	2	200	○			
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	Web ページプログラミング	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	データベースⅡ	4	3	300	○	データベースⅠ		
	マルチメディア表現Ⅱ	4	3	300	○	マルチメディア表現Ⅰ		
	情報ネットワーク演習	2	3	300	○	情報ネットワーク		
応 用	情報分析論	4	2	300	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報デザイン論	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報と職業	2	3	300	○	情報システム論		
	システム設計論	4	3	300	○	情報システム論		
	ソフトウェア概論	4	3	300	○	情報システム論		
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報セキュリティ論	2	3	400	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	知識表現とプログラミング	2	3	400	○	情報システム論、プログラミングⅠ		
						計 36単位	計 20単位	

環境学専攻プログラム

1. 教育目的

21世紀は「環境の世紀」といわれています。地球温暖化や生物多様性の劣化といった、人類の生存基盤に関する問題にすべての人が取り組まねばなりません。環境学は、環境問題を考え、解決を目指す実践的な学問です。

環境学はまた「総合の学」と位置づけられ、あらゆる学問分野と関連します。その意味で、最もリベラルアーツ学群にふさわしい学問といえるでしょう。

また、環境問題を学ぶ上で重要な点は、「机上の学問だけではだめ」ということです。自ら判断し、行動する力をつけることが求められます。本学では、これまでも学生参加で学内に発電用風車を建てたり、モンゴルに小型風車を贈ったりして自然エネルギーの普及に取り組んできました。専攻演習では、フィールド調査や、環境問題の現場訪問など、実践的な経験の機会を提供します。これらの学びの中から、「持続可能な社会」を見据えた、しなやかな思考の学生の育成を目指し、企業、官公庁などの環境部門担当者や環境関連会社の調査担当者として十分活躍できる人材を養成したいと考えています。

2. カリキュラムの特徴

この専攻では人文科学、社会科学、自然科学の科目を揃え、幅広い分野を学ぶことができます。全体で30を超える科目から、社会系科目、自然系科目、人文科学を目的に合わせ選択することにより、環境問題へアプローチができます。カリキュラムは科目を学習内容の難易度のレベル別カテゴリーに分け、学習の目的に合わせ選択し易い構成にしています。なお、環境学の特徴として、各科目は縦に積み上げていくよりも、横に広がりを持っています。専攻演習では少人数で、個々の環境問題について調査、発表、議論などを通して深く学ぶことができます。

環境学の知識はあらゆる現場で必要とされています。将来の就職先として企業や官公庁での環境担当部門を志望する方は、「環境法学」、「文系のための環境科学」、「環境マネジメント論」、「環境社会学」、「環境と地域」、「都市環境政策」、「社会環境調査法」などを、環境関連の調査担当を志望する方は、「社会環境調査法」、「自然環境調査法」、「感覚公害論」、「環境リスク論」などを中心に学ぶとよいでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

次ページ環境学専攻プログラム表中の注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学 年	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	他学群学 生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基 礎	環境と文明	4	1	100	○		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	文系のための環境科学	2	2	200	○			
	環境とまちづくり	2	2	200	○			
	環境と地域	2	2	200	○			
	環境とキリスト教	2	2	200	○			
	社会統計基礎	2	2	200	○			
専 門	エネルギーと環境	2	2	200	○		14単位 選択必修	10単位 選択必修
	人と自然	2	2	200	○			
	環境生物学	2	2	200	○			
	化学と人間社会	2	2	200	○			
	環境化学	2	2	200	○			
	地球規模環境論Ⅰ	2	2	200	○			
	地球規模環境論Ⅱ	2	2	200	○	地球規模環境論Ⅰ(同時履修可)		
	感覚公害論	2	2	200	○			
	環境リスク論	2	2	200	○			
	人間環境学	4	2	200	○			
	環境倫理学	2	2	200	○			
	環境思想概論	2	2	200	○			
	江戸から学ぶ環境	2	2	200	○			
	エコロジー・デザイン特殊講義	2	2	200	○			
	環境ビジネス論	2	2	200	○			
	国際環境交渉論	2	2	200	○			
	社会統計学	2	2	300	△			
野外安全管理	1	2	300	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可			
救急救命演習	1	2	300	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可			
ECO-TOP インターンシップ事前研修	1	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可			
ECO-TOP インターンシップ事後研修	1	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可			
ECO-TOP インターンシップⅠ	2	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可			
ECO-TOP インターンシップⅡ	2	2	200	○	ECO-TOP インターンシップ事前研 修、ECO-TOP インターンシップⅠ ECO-TOP 登録者のみ履修可			
発 展	生態学Ⅰ	2	2	300	○		14単位 選択必修	8単位 選択必修
	生態学Ⅱ	2	2	300	○	生態学Ⅰ(同時履修可)		
	生体物質化学	2	2	300	○	化学概論(注)		
	環境経済論	4	2	300	○			
	環境法学	4	3	300	○			
	都市環境政策Ⅰ	2	3	300	○			
	都市環境政策Ⅱ	2	3	300	○			
	環境教育論	2	2	300	○			
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○			
	環境社会学	4	2	300	△			
	環境マネジメント論	2	2	300	○			
	資源循環論	4	3	300	○			
	社会環境調査法	2	2	300	○			
	自然環境調査法	2	3	300	○			
	食品安全論	2	3	300	○			
	環境 NPO・NGO	2	3	300	○			
	社会環境と知的財産	2	3	300	○			
資源・エネルギー論	4	2	300	○				
海洋学	2	3	400	○				
地球科学演習	2	3	400	○	重複履修可			
環境科学総合演習	2	4	400	△	秋学期に履修登録すること			
計 32単位							計 20単位	

(注) 化学概論との同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

メディア（ジャーナリズム）専攻プログラム

1. 教育目的

情報の多様化や大衆化によって、メディアそのものが変化しています。加えて、政府や企業の情報操作技術は高まるばかりで、メディアの変質はいつそう拍車がかかっています。その一方で、私たちは情報の大半を、新聞やテレビ、インターネットなどのメディアから得ているにもかかわらず、国民のメディア意識は低下してきています。メディアを「読み・解き、考える力」、「表現し、発信する力」＝メディア・リテラシーがいまほど求められる時代はありません。

このプログラムでは、メディアの歴史や仕組み、社会的役割や影響などを学び、メディアとどう向き合うか、メディア・リテラシーについて学ぶものです。

またメディアの歴史や理論、現場報告や検証、演習などを通して、将来、メディア（マスコミ）業界をめざす人材の育成にも注力します。しかしニュースを「読み解き、考え、そして伝える」ことのできる能力は、既存のメディア業界だけでなく、企業や行政の宣伝・広報活動の担い手にとって、教育や福祉、ボランティア活動や市民運動の担い手にとって、必須の資質であり今日的な能力とも言えます。その意味では、これからの時代に適合できる人材を、幅広く育成するカリキュラムと位置づけています。

2. カリキュラムの特徴

導入講座として「メディア ―きのう 今日 明日―」「ジャーナリストへの道」（各2単位）から始まり、その後、「テレビ・放送の世界」をはじめ、新聞、出版、広告など各ジャンル別に、それぞれの歴史や現状の動向など、概括的にとらえる「世界シリーズ」が用意されます。ひと通りの基礎的な知識が身につくと、次はより専門的な「検証」科目へと進みます。「検証」科目は、「新聞社説を読む」、「広告コピーを読む」、「若者とメディア」などメディアの伝え方を検証する講座や、最新のメディアの動きについて考える「現代メディア研究」など幅広い科目群から選択できます。さらに上級クラスの「演習」科目では、「メディアと人権」「女性とメディア」などテーマを掘り下げて考察する講座や、マスコミ志望学生のための「マスコミ特訓講座」「雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）」など実践的な科目が用意されているのもこのプログラムの特徴です。

3. 修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	メディアーきのう 今日 明日ー	2	1	100	○		必修	必修
	ジャーナリストへの道	2	1	100	○		必修	必修
	テレビ・放送の世界	2	1	200	○		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	新聞の世界	2	1	200	○			
	出版の世界	2	1	200	○			
	広告の世界	2	1	200	○			
	現代コミュニケーション理論	4	1	100	○			
	情報と社会	2	1	100	○			
	日本国憲法	2	1	100	○			
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ		
検証証	新聞社説を読む	2	2	300	○		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	地方紙を読む	2	2	300	○			
	英字紙を読む	2	2	300	○			
	広告コピーを読む	2	2	200	○			
	出版ジャーナリズム	2	2	200	○			
	スポーツジャーナリズム	2	2	200	○			
	日本のジャーナリズム	2	2	200	○			
	アメリカのジャーナリズム	2	2	200	○			
	若者とメディア	2	2	200	○			
	集団コミュニケーション	2	1	100	○			
	現代日本の政治	4	2	200	○			
	社会調査法	4	2	200	○			
	現代社会研究	4	2	300	○			
	アメリカ文化	4	2	200	△			
	中国のマスコミ	4	2	300	○			
現代メディア研究	2	2	300	×	重複履修可			
環境社会学	4	2	300	△				
演習	メディアと人権	4	2	300	×		8単位 選択必修	
	環境とメディア	4	2	300	×			
	女性とメディア	4	2	300	×			
	子供とメディア	4	2	300	×			
	スポーツにんげん学	4	2	300	×			
	雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)	4	2	300	×			
	マスコミ特訓講座	2	3	300	×	文章表現Ⅱ 重複履修可		
							上記必修・選択必修科目を含め、計 32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計 20単位

博物館学マイナープログラム

1. 教育目的

博物館は、人類が生んだ最高の文化装置の一つと言われ、社会の近代化と国民文化や教育の振興のために、重要な貢献をしてきました。

本専攻プログラムは、博物館学芸員資格の取得のみにこだわらず、純粋に博物館研究を志す学生を対象としたものです。日本で博物館は、社会教育のための機関と法律で定められていることから、社会教育学的観点を重視しつつ、歴史的・文化的・社会的・心理的・経済的観点など、さまざまな視点から、現代社会における博物館の機能や市民生活における博物館の役割を学び、追求することを目的とします。

「もの」をベースとした人類の知の集結場所としての博物館の研究を通して、社会とともに変化する博物館の地位や役割を知るとともに、博物館的ものの見方や考え方を身に付け、個性ある文化性豊かな暮らしを送る生活者、社会人を養成することを目標とします。

2. カリキュラムの特徴

本プログラムは、実務的な博物館学芸員を目指すコースとは切り離し、博物館を学問的に追求することを目的として設定された、国内でも数少ないコースです。

本学では、全学学生を対象として、東京国立博物館キャンパスメンバーズ及び、国立科学博物館パートナーシップに加入し、これら博物館常設展示の無料利用を実現しました。このような博物館利用環境を活用して、1年次では博物館概論などの講義を設定し、まず博物館や学芸員とは何かを学び、2年次以降に博物館の基本である資料（資料論）や、展示（展示論）、経営（経営論）などに関する専門的事項を学ぶ仕組みとなっています。

さらに、博物館の専門的・技術的領域として博物館資料保存論、日本考古学、日本民俗学をはじめ、国内ではまだ開設講座の少ない文化遺産論、文化政策論などを学ぶほか、メディア関連の科目も履修します。

3. 修了要件

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
- ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

学群	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	マイナー	
基礎	博物館概論	2	1	100	○		必修	
	生涯学習概論	2	1	200	○		必修	
	博物館教育論	2	1	200	○		必修	
	博物館経営論	2	2	200	○	博物館概論	必修	
	博物館情報・メディア論	2	2	200	○	博物館概論	必修	
	博物館資料論	2	2	200	○	博物館概論	必修	
	教育原理(教職課程)	2	1	200	○		4単位 選択必修	
	生涯発達心理学	4	1	200	○			
	教育方法論	2	2	300	○			
	日本教育史	2	2	200	○			
	博物館資料保存論	2	2	300	○	博物館概論		
	博物館展示論	2	2	300	○	博物館概論		
	博物館学特論(文化遺産論)	2	3	300	○			
	博物館学特論(文化政策論)	2	3	300	○			
実習	博物館実習	3	3	300	○	博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論		
トピックス	文化人類学	4	1	100	△			4単位 選択必修
	文化地理学	4	1	100	○			
	日本文化論	4	2	300	○			
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200	○			
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200	○			
	植物学Ⅰ	2	2	200	○			
	動物学Ⅰ	2	2	200	○			
	地質学Ⅰ	2	2	200	○			
	地球物理学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注1)(注2)		
	気象学Ⅰ	2	2	300	○	物理学概論(注1)(注2)		
	天文学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論(注2)		
	生態学Ⅰ	2	2	300	○			
	日本考古学	2	3	300	○			
	日本民俗学	2	3	300	○			
	地方財政論	4	2	300	○			
	公共経済学	4	2	300	○			
学校図書館メディアの構成	2	3	300	○				
情報メディアの活用	2	3	300	○				
計							20単位	

(注1) 物理学概論との同時履修を認める場合があります。
 (注2) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

日本地域研究（E）マイナープログラム

1. 教育目的

RJ (Reconnaissance Japan) マイナープログラムとは、日本の文化、社会、歴史、経済など日本研究の様々なテーマについて英語で学ぶプログラムです。もともと短期留学中の外国人学生のために作られたプログラムですが、相応の英語力を持つ日本人学生にも受講を奨励してきました。英語を母国語とする学生に混じって授業を受けることは、異文化について学ぶ絶好の機会ともなります。将来国際的な舞台で活動するとき、外国人と英語で自然に交流できる人材を育てることがこのプログラムの目的です。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムの魅力は外国人留学生とともに学べるという点にあります。日本人の学生にとって、クラスは英語を学ぶ場ではなく、英語を使って勉強する場となります。講義や宿題などが英語であるのはもちろんのこと、授業中の討論やグループプロジェクトなど全ての活動を外国人留学生と共同で行わなければなりません。これらのクラスワークをこなすためには相当の英語力が必要とされるので、このプログラムのコースを選択する際にはアドバイザーに相談しなくてはなりません。

3. 修了要件

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	マイナー	
Comparative Culture	4	2	300	○			
History of U. S. - Japan Exchanges	4	2	300	○			
Intercultural Communication	4	2	300	○			
Intro. to Japanese Folklore	4	2	300	○			
Japan Seen in Real Time	4	2	300	○			
Japanese Art	4	2	300	○			
Japanese Cinema (E)	4	2	300	○			
Japanese Classical Dance	4	2	300	○			
Japanese Cultural Exchanges	4	2	300	○			
Japanese Culture	4	2	300	○			
The Japanese Economy	4	2	300	○			
Japanese Literature	4	2	300	○			
Japanese Management I	2	2	300	○		20単位 選択必修	
Japanese Management II	2	2	300	○			
Japanese Photography	4	2	300	○			
Japanese Politics	4	2	300	○			
Japanese Society	4	2	300	○			
Japanese Women's Literature	4	2	300	○			
Modern Japanese History	4	2	300	○			
Modern Japanese Literature	4	2	300	○			
Political Geography of East Asia	4	2	300	○			
Postwar Business and Finance	4	2	300	○			
Premodern Japanese History	4	2	300	○			
Selected Topics in Japanese Studies	4	2	300	○	重複履修可		
Sino-Japanese Relations	4	2	300	○			
計							20単位

注意

この専攻プログラムは、英語圏からの短期留学生用の科目群と同じです。

日本地域研究（C）マイナープログラム

1. 教育目的

日本地域研究（C）マイナープログラムは、中～上級の中国語能力を持ち、将来中国語圏への留学や就職、また中国人とともに国際社会で活躍したい学生を対象としています。このプログラムの目的は、中国語による日本学の講義を受けることによって、日本を中国の視点で理解し、中国語で説明する力を養うことです。これにより留学の準備、または留学を終えた学生の学力維持のために最適なプログラムとなっています。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、「日本産業」「日本政治」「日本経済」「日本映画」「日本教育論」「日本文学作品講読（古典）」「日本文学作品講読（現代）」「日本古典文学史」「日中関係」「日中跨文化交際」「日中環境問題概論」「日本企業管理」「日本社会」「日本文化」「日本歴史」「日本地域研究特論（日本宗教）」など、日本に関する人文・社会科学の科目を網羅し、これを中国語で講義するところに特徴があります。履修生は主に中国語圏の約20校の提携校から来た交換留学生や中国人正規留学生、そして日本人学生です。留学生とともに受講することにより、中国人の日本理解を学ぶことができ、また中国留学効果を期待することができます。なお、このプログラムは、授業中の主言語は中国語ですが、日本語を補助言語として使用するので、中国語中級者でも参加できる柔軟性のある授業方式と内容を持っています。

3. 修了要件

マイナー：合計20単位以上

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	マイナー
日本政治	4	2	300	○		20単位 選択必修
日中関係	4	2	300	○		
日本社会	4	2	300	○		
日本文化	4	2	300	○		
日本古典文学史	4	2	300	○		
日本文学作品講読（古典）	4	2	300	○		
日本文学作品講読（現代）	4	2	300	○		
日中跨文化交際	4	2	300	○		
日本経済	4	2	300	○		
日本産業	4	2	300	○		
日本企業管理	4	2	300	○		
日中環境問題概論	4	2	300	○		
日本教育論	4	2	300	○		
日本映画	4	2	300	○		
日本歴史	4	2	300	○		
日本地域研究特論	4	2	300	○	重複履修可	
						計 20単位

注意

この専攻プログラムは、中国語圏からの短期留学生用の科目群と同じです。

6. 専攻科目と諸注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文学系科目群	英文法Ⅰ	2	1	100	×	
	英文法Ⅱ	2	2	200	×	
	資格英語Ⅰ	1	2	200	△	
	資格英語Ⅱ	1	2	200	△	
	英語学入門	4	1	200	△	
	英語の音声	4	1	100	△	
	英語の意味	4	2	300	△	英語学入門
	英語の語彙	4	2	300	△	英語学入門
	英語の構造	4	3	400	△	英語学入門
	英語の歴史	4	3	300	△	英語学入門
	早期英語教育	4	2	300	△	英語学入門
	応用言語学	4	2	300	△	英語学入門
	英米文化講読	4	2	300	△	
	アメリカ文化	4	2	200	△	
	イギリス文化	4	2	200	△	
	コモンウェルスの文化	4	2	200	△	
	翻訳(英→日)	4	3	300	△	英文法Ⅱ
	翻訳(日→英)	4	3	400	△	Written Communication Skills(G)または(A)
	英語通訳Ⅰ	4	3	300	△	Speech Communication Skills(G)または(A)
	英語通訳Ⅱ	4	3	400	△	英語通訳Ⅰ
	Speech Communication Skills(G)	4	2	300	△	
	Speech Communication Skills(A)	4	3	400	△	
	Written Communication Skills(G)	4	2	300	△	
	Written Communication Skills(A)	4	3	400	△	
	中国語会話Ⅰ	2	1	100	○	
	中国語会話Ⅱ	2	1	100	○	
	中国語発音トレーニング	1	1	100	○	
	中国語リスニングⅠ	1	1	200	○	中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	中国語リスニングⅡ	2	2	300	○	中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位

③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

④専攻プログラム欄に○がある場合、科目がその専攻プログラムのメジャーまたはマイナーの修了要件として指定されていることを表します。

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア ジ ア 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究 (<u>1</u>)	日 本 地 域 研 究	歴 史	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (<u>教 職 教 育</u>)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	公 共 政 策	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア シ ャ ー ナ リ ズ ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (<u>E</u>)	日 本 地 域 研 究 (<u>C</u>)			
英文法 I	○					○																																
英文法 II	○					○																																
資格英語 I	○					○																																
資格英語 II	○					○																																
英語学入門	○																																					
英語の音声	○			○																																		
英語の意味	○																																					
英語の語彙	○																																					
英語の構造	○																																					
英語の歴史	○																																					
早期英語教育	○																																					
応用言語学	○	○																																				
英米文化講読	○					○																																
アメリカ文化	○					○						○																							○			
イギリス文化	○					○																																
コモンウェルスの文化	○					○																																
翻訳 (英→日)	○					○																																
翻訳 (日→英)	○																																					
英語通訳 I	○																																					
英語通訳 II	○																																					
Speech Communication Skills (G)	○																																					
Speech Communication Skills (A)	○																																					
Written Communication Skills (G)	○																																					
Written Communication Skills (A)	○																																					
中国語会話 I		○					○																															
中国語会話 II		○					○																															
中国語発音トレーニング		○																																				
中国語リスニング I		○																																				
中国語リスニング II		○																																				

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文学系科目群	中国語リスニングⅢ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	中国語会話Ⅴ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	中国語会話Ⅵ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	ビジネス中国語Ⅰ	2	1	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	ビジネス中国語Ⅱ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	ビジネス中国語Ⅲ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	時事中国語	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	日中翻訳技法	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	日中通訳技法	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	検定・資格中国語A	2	2	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	検定・資格中国語B	2	2	200	○		中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングの中から2単位
	中国語作文Ⅰ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	中国語作文Ⅱ	2	2	300	○		中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bの中から4単位
	中国語学概論	2	1	100	○		
	中国語音声学	4	1	200	○		
	中国語文法	4	1	200	○		
中国語教育研究	4	2	300	○		中国語学概論、中国語音声学、中国語文法の中から1科目	
中国文字学研究	4	2	300	○		中国語学概論、中国語音声学、中国語文法の中から1科目	
日中対照言語研究	4	2	300	○		中国語学概論、中国語音声学、中国語文法の中から1科目	
日中比較文化	4	2	200	○			

専攻プログラム 授業科目	英	中	日	言	英	中	現	キ	宗	哲	倫	文	ア	日	歴	国	国	社	心	教	国	公	数	物	化	生	地	情	環	博	日	
	国	国	本	語	米	国	代	リ	教	理	化	メ	本	史	際	際	会	理	育	際	共	物	理	物	物	球	報	境	物	本		
	語	語	語	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学
中国語リスニングⅢ		○																														
中国語会話Ⅲ		○																														
中国語会話Ⅳ		○																														
中国語会話Ⅴ		○																														
中国語会話Ⅵ		○																														
中国語講読Ⅰ		○																														
中国語講読Ⅱ		○																														
ビジネス中国語Ⅰ		○																														
ビジネス中国語Ⅱ		○																														
ビジネス中国語Ⅲ		○																														
時事中国語		○																														
日中翻訳技法		○																														
日中通訳技法		○																														
検定・資格中国語A		○																														
検定・資格中国語B		○																														
中国語作文Ⅰ		○																														
中国語作文Ⅱ		○																														
中国語学概論		○																														
中国語音声学		○																														
中国語文法		○																														
中国語教育研究		○																														
中国文字学研究		○																														
日中対照言語研究		○																														
日中比較文化		○																														

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
人文学科	日本語学概論	2	1	100	○	
	日本語の文字・表記	2	1	100	○	
	日本文学史A	4	1	100	○	
	日本文学史B	4	1	100	○	
	古代文学講読	2	1	200	○	
	平安文学講読	2	1	200	○	
	中世文学講読	2	1	200	○	
	江戸文学講読	2	1	200	○	
	近代文学講読	2	1	200	○	
	平安文学の世界	4	2	300	○	
	中世文学の世界	4	2	300	○	
	江戸文学の世界	4	2	300	○	
	近代文学の世界	4	2	300	○	
	現代文学の世界	4	2	300	○	
	児童文学研究	2	2	300	○	
	書写	2	1	100	○	
	国語・漢字検定Ⅰ	2	1	100	○	
	国語・漢字検定Ⅱ	2	1	100	○	
	言語表現A	2	1	200	○	
	言語表現B	2	1	200	○	
	書道研究Ⅰ	2	2	200	○	
	書道研究Ⅱ	2	2	200	○	
	創作の技法	2	2	300	○	
	編集の技法	2	2	300	○	
	日本語の表現	4	1	200	○	
	日本語の文法	4	2	300	○	
	言語と文化	4	2	200	○	
	ことばの比較	2	1	100	○	
	日中対照言語学	2	3	300	○	
	日本語史	2	3	400	○	
日本語教育学A	2	1	100	○		
日本語教育学B	2	1	100	○		
言語習得法	2	1	200	△		
日本語教育文法	2	2	200	○		
日本語教授法	4	2	300	○		

専攻プログラム 授業科目	英 国 語		中 国 語	日 本 語	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	公 共 政 策 学	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ア シ ョ ナ リ ス ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)				
	日本語学概論				○																																				
日本語の文字・表記				○	○																																				
日本文学史A				○																																					
日本文学史B				○																																					
古代文学講読				○						○																															
平安文学講読				○						○																															
中世文学講読				○						○																															
江戸文学講読				○						○																															
近代文学講読				○						○																															
平安文学の世界				○																																					
中世文学の世界				○																																					
江戸文学の世界				○																																					
近代文学の世界				○						○								○																							
現代文学の世界				○	○					○								○																							
児童文学研究				○																																					
書写				○	○																																				
国語・漢字検定 I				○	○																																				
国語・漢字検定 II				○	○																																				
言語表現A				○	○																																				
言語表現B				○	○																																				
書道研究 I				○																																					
書道研究 II				○																																					
創作の技法				○																																					
編集の技法				○																																					
日本語の表現				○	○	○																																			
日本語の文法				○	○																																				
言語と文化				○	○																																				
ことばの比較				○																																					
日中対照言語学				○																																					
日本語史				○	○																																				
日本語教育学A				○																																					
日本語教育学B				○																																					
言語習得法				○	○	○																																			
日本語教育文法				○																																					
日本語教授法				○																																					

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文学系科目群	日本語教材開発	2	3	300	○		
	年少者日本語教育	2	3	300	○		
	マルチメディア日本語教育	2	3	300	○		
	日本語教育実習	4	3	300	×		日本語教授法
	日本語の評価法	2	2	300	○		
	カリキュラムデザイン	2	3	400	○		
	海外教育実習	2~4	2	300	×		
	海外教育実習事前研修	4	3	400	×		
	言語データ分析	2	2	300	○		
	多言語交流演習	2	1	200	○		
	プラグマティックス	4	3	300	○		談話分析
	言語学への招待	2	1	100	○		
	談話分析	4	2	200	○		言語学への招待
	対照言語学	4	2	300	○		言語学への招待
	日本語の音声	2	1	200	△		日本語の語彙・意味
	日本語の語彙・意味	4	1	100	△		
	音韻論	2	2	300	△		日本語の音声
	社会言語学	4	2	200	○		現代コミュニケーション理論
	言語学隣接研究	4	2	300	○		日本語の音声
	言語政策論	4	2	200	○		社会言語学
	レトリックの歴史	2	2	300	○		論理学
	テキスト研究理論	4	2	300	○		
	現代コミュニケーション理論	4	1	100	○		
	集団コミュニケーション	2	1	100	○		
	組織コミュニケーション	4	2	200	○		集団コミュニケーション
	対人コミュニケーション	4	2	200	○		現代コミュニケーション理論
	異文化コミュニケーション	4	2	200	○		現代コミュニケーション理論
	コミュニケーション学特論(非言語)	4	2	300	○		
	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	2	200	○		オーラルコミュニケーション(きく)
	言語とジェンダー	4	2	300	○		
異文化理解教育	4	3	300	○		異文化コミュニケーション	
国際コミュニケーション	4	2	200	○			
メディアコミュニケーション	2	2	200	○			
コミュニケーション調査研究	4	2	300	×			
オーラルコミュニケーション(きく)	2	1	100	○			

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究	歴 史	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	公 共 政 策 学	数 理 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア シ ョ ー リ ズ ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)													
日本語教材開発				○																																														
年少者日本語教育				○	○																																													
マルチメディア日本語教育					○																																													
日本語教育実習				○																																														
日本語の評価法				○																																														
カリキュラムデザイン				○																																														
海外教育実習				○																																														
海外教育実習事前研修				○																																														
言語データ分析				○	○																																													
多言語交流演習					○																																													
プラグマティックス				○	○	○	○																																											
言語学への招待						○																																												
談話分析				○	○	○	○																																											
対照言語学						○																																												
日本語の音声				○	○	○	○																																											
日本語の語彙・意味				○	○	○																																												
音韻論						○																																												
社会言語学						○																																												
言語学隣接研究						○																																												
言語政策論						○																																												
レトリックの歴史						○	○																																											
テキスト研究理論						○																																												
現代コミュニケーション理論						○	○																																											
集団コミュニケーション							○																																											
組織コミュニケーション							○																																											
対人コミュニケーション				○	○		○																																											
異文化コミュニケーション							○																																											
コミュニケーション学特論(非言語)							○																																											
コミュニケーション学特論(きことの科学)							○																																											
言語とジェンダー						○	○																																											
異文化理解教育							○																																											
国際コミュニケーション							○																																											
メディアコミュニケーション							○																																											
コミュニケーション調査研究							○																																											
オーラルコミュニケーション(きく)				○			○																																											

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文学系科目群	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100	○		
	話し言葉の技法	2	2	200	×		オーラルコミュニケーション(話す)
	議論とディベート	2	2	300	○		
	ミディエーション	2	2	300	○		集団コミュニケーション
	現代レトリック論	4	3	300	○		
	英語文献講読Ⅰa	1	1	100	×		
	英語文献講読Ⅰb	1	1	100	×		
	英語文献講読Ⅱa	1	2	200	×		英語文献講読Ⅰa又はⅠb
	英語文献講読Ⅱb	1	2	200	×		英語文献講読Ⅰa又はⅠb
	英米文学入門	4	2	200	△		
	英米詩	4	2	300	△		
	英米演劇	4	2	300	△		
	英米小説	4	2	300	△		重複履修可
	英米文学講読	4	2	300	△		
	テーマで読む英米文学	4	2	300	△		
	英米児童文学	4	2	300	△		
	コモンウェルスの文学	4	2	300	△		
	イギリス文学研究	4	2	400	△		
	アメリカ文学研究	4	2	400	△		
	英米文学と宗教	4	2	300	△		
	批評理論	4	2	400	△		
	英米文化研究	4	2	300	△		重複履修可
	英語圏の映画と文化	4	3	300	△		
	中国文学概論	4	1	100	○		
	中国文言文講読	2	2	100	○		
	中国古典文学史	4	1	100	○		
	中国近現代文学史	4	2	200	○		
	中国思想史	4	1	200	○		
	中国文化史	4	2	200	○		
	中国古典文学研究	4	2	300	○		
	中国近現代文学研究	4	2	300	○		
	中国の芸術	4	2	300	○		
中国古代思想研究	4	2	300	○			
中国近現代思想研究	4	2	300	○			
中国のマスコミ	4	2	300	○			

専攻プログラム 授業科目	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語 教育学	言語学	英米学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(Ⅰ)	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコミクス	公共政策学	数学	物理学	化学	生物科学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・リテラシー	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)		
オーラルコミュニケーション(話す)			○			○																																
話し言葉の技法						○																																
議論とディベート						○																																
メディアーション						○																																
現代レトリック論						○																																
英語文献講読Ⅰ a	○						○																															
英語文献講読Ⅰ b	○						○																															
英語文献講読Ⅱ a	○						○																															
英語文献講読Ⅱ b	○						○																															
英米文学入門							○																															
英米詩							○																															
英米演劇							○																															
英米小説							○																															
英米文学講読							○																															
テーマで読む英米文学	○						○																															
英米児童文学							○																															
コモンウェルスの文学							○																															
イギリス文学研究							○	○																														
アメリカ文学研究							○	○																														
英米文学と宗教							○			○																												
批評理論							○	○																														
英米文化研究							○																															
英語圏の映画と文化	○						○							○																								
中国文学概論		○					○																															
中国文言文講読			○				○																															
中国古典文学史			○				○																															
中国近現代文学史		○					○	○																														
中国思想史							○		○	○	○						○																					
中国文化史		○					○					○					○																					
中国古典文学研究			○				○																															
中国近現代文学研究							○																															
中国の芸術							○																															
中国古代思想研究							○			○																												
中国近現代思想研究							○	○		○																												
中国のマスコミ							○																													○		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文科学系科目群	中国地域研究	4	2	300	○		
	ロシアの社会と文化	4	2	200	○		
	比較文学	4	2	300	○		
	ロシア文学研究	4	2	300	○		
	フランス文学	4	2	200	○		
	ドイツ文学Ⅰ	2	2	200	○		
	ドイツ文学Ⅱ	2	2	200	○		
	キリスト教古典入門	2	1	100	○		
	キリスト教史	2	1	100	○		
	キリスト教神学概論	2	2	200	×		
	聖書学概論	2	2	200	○		聖書
	一神教研究	2	2	300	○		
	旧約聖書研究	2	3	300	○		聖書学概論
	新約聖書研究	2	3	300	○		聖書学概論
	キリスト教の理論	4	3	300	×		キリスト教神学概論
	現代キリスト教の諸問題	2	3	300	○		
	キリスト教とジェンダー	2	2	100	○		
	専門書講読	4	3	400	×		
	宗教学概論	4	2	100	○		
	日本の宗教	4	2	200	○		
	宗教学研究特論	2	2	300	○		
	宗教学の諸問題	2	3	300	○		
	西洋文明と思想	4	2	200	○		
	キリスト教文化論	4	2	300	△		
	哲学概論	4	2	300	○		
	論理学	4	2	300	○		
	哲学の諸問題A	4	2	200	○		
	哲学の諸問題B	4	2	200	○		
	哲学研究特論A	2	2	300	○		
	哲学研究特論B	2	2	300	△		
倫理学概論	4	2	200	○			
社会思想史	4	3	300	○			
環境倫理学	2	2	200	○			
日本思想史	4	2	200	○			
倫理学研究特論A	2	2	200	△			

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	公 共 政 策 学	数 理 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア リ セ ア ル 学	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)			
中国地域研究		○						○						○																										
ロシアの社会と文化									○					○																										
比較文学									○																															
ロシア文学研究									○																															
フランス文学									○																															
ドイツ文学 I									○																															
ドイツ文学 II									○																															
キリスト教古典入門										○																														
キリスト教史											○	○																												
キリスト教神学概論										○																														
聖書学概論										○																														
一神教研究											○	○																												
旧約聖書研究										○																														
新約聖書研究										○																														
キリスト教の理論										○																														
現代キリスト教の諸問題										○																														
キリスト教とジェンダー										○																														
専門書講読										○																														
宗教学概論										○	○	○	○	○		○																								
日本の宗教											○		○			○																								
宗教学研究特論											○	○	○																											
宗教学の諸問題										○	○	○	○																											
西洋文明と思想										○	○	○																												
キリスト教文化論										○	○	○	○		○																									
哲学概論												○	○																											
論理学					○							○	○																											
哲学の諸問題A											○	○	○																											
哲学の諸問題B											○	○	○																											
哲学研究特論A											○	○	○																											
哲学研究特論B											○	○	○																											
倫理学概論										○	○	○								○																				
社会思想史										○	○	○	○					○		○																				
環境倫理学													○																								○			
日本思想史											○	○	○	○			○	○																						
倫理学研究特論A											○	○	○																											

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文科学系科目群	倫理学研究特論B	2	2	200	△		
	倫理学研究特論C	2	2	200	△		
	倫理学説史	2	2	200	△		
	応用倫理学	2	2	200	○		
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○		
	倫理学の諸問題A	4	3	300	△		倫理学概論
	倫理学の諸問題B	4	3	300	△		倫理学概論
	心理学	4	1	100	○		
	健康教育概論	2	2	100	○		
	心理測定法	2	1	100	○		
	心理学研究法	2	2	200	○		心理学
	心理統計法	2	2	200	○		心理測定法
	生涯発達心理学	4	1	200	○		
	教育心理学（心理学）	4	2	200	○		
	学習心理学	4	2	200	○		
	認知心理学	4	2	300	○		
	生理心理学	2	2	200	○		
	社会心理学	4	2	200	○		
	家族心理学	4	2	300	○		
	産業・組織心理学	4	2	300	○		
	人間関係論	4	2	200	○		
	人格心理学	4	2	200	○		
	臨床心理学	4	2	200	○		
	心理療法概論	4	2	300	○		
	精神保健学	4	2	200	○		
	精神医学	4	2	300	○		
	健康心理学	4	2	200	○		
	健康心理カウンセリング概論	2	3	300	○		健康心理学
	健康心理アセスメント概論	2	3	300	○		健康心理学
	学校カウンセリング論	2	3	300	△		リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	人間性心理学	2	2	300	△		リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	宗教心理学	2	2	300	△		リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
社会心理学調査実習	2	2	300	△		心理測定法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可	
心理学基礎実験	2	2	300	△		心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可	

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 〔 J 〕	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 ・ 教 職 教 育	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	公 共 政 策 学	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ア シ ン ・ リ ア シ ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 〔 E 〕	日 本 地 域 研 究 〔 C 〕							
倫理学研究特論B												○	○																														
倫理学研究特論C												○																															
倫理学説史												○																															
応用倫理学												○																															
環境・生命・人権の哲学										○	○	○							○											○						○							
倫理学の諸問題A										○	○	○																															
倫理学の諸問題B											○	○																															
心理学											○											○																					
健康教育概論																						○																					
心理測定法																						○																					
心理学研究法																						○																					
心理統計法																						○																					
生涯発達心理学																						○	○																	○			
教育心理学（心理学）																						○																					
学習心理学																						○	○																				
認知心理学																						○																					
生理心理学																						○																					
社会心理学																						○	○																				
家族心理学																						○	○																				
産業・組織心理学																						○																					
人間関係論																						○																					
人格心理学																						○																					
臨床心理学																						○																					
心理療法概論																						○																					
精神保健学																						○																					
精神医学																						○																					
健康心理学																						○																					
健康心理カウンセリング概論																						○																					
健康心理アセスメント概論																						○																					
学校カウンセリング論																						○																					
人間性心理学																						○																					
宗教心理学										○	○	○										○																					
社会心理学調査実習																						○																					
心理学基礎実験																						○																					

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文科学系科目群	心理学実験実習	2	3	300	△		心理学基礎実験 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	心理統計法演習	2	3	300	△		心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	健康心理学基礎実習	2	3	300	△		健康心理カウンセリング概論、健康心理 アセスメント概論 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	文化地理学	4	1	100	○		
	日本考古学	2	3	300	○		
	日本民俗学	2	3	300	○		
	心理学概論	4	1	100	○		
社会科学系科目群	イギリスの歴史	4	2	200	△		
	文化人類学	4	1	100	△		
	同時代の人類学	4	2	200	○		
	ジェンダーの人類学	4	2	200	○		
	宗教人類学	4	2	200	○		
	文化人類学特論（性の人類学）	4	2	200	○		
	文化人類学特論（実践の人類学）	4	2	200	○		
	文化人類学特論（遊牧文化論）	2	2	200	×		
	文化人類学フィールドワーク	2	2	300	×		文化人類学
	イスラーム文化論	4	2	300	○		
	儒教文化論	4	2	300	○		
	仏教文化論	4	2	300	○		
	アメリカ研究概論	4	2	200	○		
	アメリカの歴史	4	2	200	○		
	アメリカの文化	4	1	200	○		
	アメリカ社会史	4	2	200	○		
	アメリカ思想史	4	2	300	○		
	アメリカ民族論	4	2	200	○		
	アメリカ女性論	4	2	300	○		
	アメリカの社会	4	2	200	○		
アメリカの政治	4	2	300	○			
アメリカの外交	4	2	300	○			
アメリカの経済	4	2	300	○			
日米関係論	4	2	300	○			
アメリカ研究特論	2	2	300	○			
アジア研究概論	4	1	100	○			

専攻プログラム 授業科目	英	中	日	言	英	中	現	キ	宗	哲	倫	文	ア	ア	日	歴	国	国	社	心	教	国	公	数	物	化	生	地	情	環	博	日	
	語	語	本	語	米	国	代	リ	教	学	理	化	メ	ジ	本	史	際	際	会	理	育	際	共	理	物	物	球	報	境	物	本		
	語	語	語	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学
心理学実験実習																				○													
心理統計法演習																				○													
健康心理学基礎実習																				○													
文化地理学								○																									○
日本考古学																																	○
日本民俗学																																	○
心理学概論										○																							
イギリスの歴史					○																												
文化人類学			○									○	○	○		○			○													○	
同時代の人類学												○																					
ジェンダーの人類学												○																					
宗教人類学								○	○			○																					
文化人類学特論(性の人類学)												○																					
文化人類学特論(実践の人類学)												○																					
文化人類学特論(遊牧文化論)												○																					
文化人類学フィールドワーク												○																					
イスラーム文化論							○	○	○		○	○	○																				
儒教文化論								○			○	○	○																				
仏教文化論								○	○	○	○	○	○																				
アメリカ研究概論													○			○																	
アメリカの歴史					○								○			○																	
アメリカの文化												○	○			○			○														
アメリカ社会史												○	○			○																	
アメリカ思想史									○	○	○	○	○			○																	
アメリカ民族論												○	○																				
アメリカ女性論												○	○							○													
アメリカの社会												○	○																				
アメリカの政治													○																				
アメリカの外交													○				○																
アメリカの経済													○																				
日米関係論													○		○																		
アメリカ研究特論													○																				
アジア研究概論						○								○		○																	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200	○		
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200	○		
	ユーラシア文化交流史	4	2	300	○		
	日韓交流史	4	2	300	○		
	アジアの思想と宗教	4	2	200	○		
	韓国文化論	4	2	200	○		
	中国文化論	4	2	200	○		
	発展途上国論	4	2	200	○		
	アジアの政治	4	2	300	○		
	アジアの経済	4	2	200	○		
	東北アジア研究	4	2	300	○		
	東アジア研究	4	2	300	○		
	東アジアの現代社会	4	2	200	○		
	東南アジア研究	4	2	200	○		
	東南アジアの現代社会	4	2	200	○		
	南アジア研究	4	2	300	○		
	西アジア研究	4	2	300	○		
	オセアニアの政治と経済	4	2	200	○		
	アジア女性論	4	2	300	○		
	アジア研究特論	4	2	300	○		重複履修可
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200	○		
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200	○		
	世界史における日本	4	2	300	○		
	日本古代中世史	2	2	300	○		
	戦後日本史	2	2	200	○		
	日米交流史	4	2	300	○		
	日本研究概論	4	2	200	○		
	日本文化論	4	2	300	○		
	地誌学概論	2	1	100	○		
	日本の民俗	2	1	100	○		
	日露文化交流史	4	2	400	○		
	日中交流史	2	2	200	○		
日中交流論	2	2	200	○			
日本研究特論(日米文化社会比較)	4	2	200	○			
世界史概論	4	1	100	○			

専攻プログラム 授業科目	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	英文学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(Ⅰ)	歴史学	国際関係学	国際社会学	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済学	ビジネスエコミクス	公共政策学	数学	物理学	化学	生物科学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・リサーチ	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)		
アジアの歴史Ⅰ							○									○	○																						
アジアの歴史Ⅱ							○										○	○																					
ユーラシア文化交流史																	○	○																					
日韓交流史																	○	○																					
アジアの思想と宗教											○						○																						
韓国文化論			○					○		○			○				○																						
中国文化論								○					○				○																						
発展途上国論																	○		○	○																			
アジアの政治																	○		○																				
アジアの経済																	○							○															
東北アジア研究														○			○																						
東アジア研究							○							○			○																						
東アジアの現代社会														○			○																						
東南アジア研究														○			○																						
東南アジアの現代社会														○			○																						
南アジア研究														○			○																						
西アジア研究									○					○			○																						
オセアニアの政治と経済																	○																						
アジア女性論														○			○		○	○	○																		
アジア研究特論																	○																						
日本の歴史Ⅰ																		○	○																			○	
日本の歴史Ⅱ																		○	○																				○
世界史における日本				○													○	○																					
日本古代中世史																	○																						
戦後日本史																	○																						
日米交流史															○		○	○																					
日本研究概論																	○	○																					
日本文化論														○			○																						○
地誌学概論																	○																						
日本の民俗																	○																						
日露文化交流史								○									○	○																					
日中交流史																	○																						
日中交流論																	○																						
日本研究特論(日米文化社会比較)																	○																						
世界史概論											○				○	○	○																						

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	国際政治論	4	1	100	○	
	政治学概論	4	1	100	○	
	国際関係論	4	1	100	○	
	国際関係史Ⅰ	4	2	200	○	
	国際関係史Ⅱ	4	2	200	○	
	国家論	4	2	200	○	
	紛争論	4	2	200	○	
	民族研究	4	2	200	○	
	国際関係思想	4	2	300	○	
	国際機構論	4	2	300	○	
	国際人権法	4	2	300	○	
	比較政治学	4	2	300	○	
	政治過程論	4	2	300	○	
	日本の政治	4	2	200	○	
	現代日本の政治	4	2	200	○	
	冷戦後の国際関係	4	2	300	○	
	ヨーロッパの政治	4	2	300	○	
	近代日本の外交	4	2	300	○	
	国際協力入門（NGO論）	4	1	100	○	
	国際交流論	4	2	200	○	
	難民・移民の人権	4	2	300	○	
	人間の安全保障	4	2	200	○	
	持続可能な開発	4	2	300	○	
	子どもと開発	4	2	300	○	
	ジェンダーと開発	4	2	300	○	
	平和構築論	4	2	300	○	
	国際協力論	4	2	200	○	
	国際法	4	2	200	○	
	国際協力法	4	2	300	○	
	平和論	4	3	300	○	
	国際協力特論（グローバル・ガバナンス）	4	3	400	○	
	国際学インターンA	2	2	200	△	
国際学インターンB	2	2	200	△		
国際協力フィールドワーク	1～4	2	300	○	重複履修可	
NGO/NPO 実務実習A	1～4	2	200	△		

専攻プログラム 授業科目	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	英米文学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(1)	歴史学	国際関係学	国際協力学	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコマニクス	公共政策学	数学	物理学	化学	生物科学	地球科学	情報科学	環境学	メディアリサーチ	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)	
国際政治論																				○	○																	
政治学概論															○	○		○	○																			
国際関係論																				○	○																	
国際関係史 I																		○	○																			
国際関係史 II																		○	○																			
国家論																			○	○																		
紛争論																			○																			
民族研究															○		○	○		○																		
国際関係思想												○	○						○																			
国際機構論																			○	○																		
国際人権法													○						○	○																		
比較政治学																			○	○																		
政治過程論																			○																			
日本の政治																	○	○																				
現代日本の政治																	○	○																		○		
冷戦後の国際関係																		○	○																			
ヨーロッパの政治																			○																			
近代日本の外交																	○	○	○																			
国際協力入門(NGO論)																			○	○	○																	
国際交流論																			○	○																		
難民・移民の人権																			○	○																		
人間の安全保障												○							○	○																		
持続可能な開発																				○	○																	
子どもと開発																				○																		
ジェンダーと開発																				○																		
平和構築論																				○																		
国際協力論																				○																		
国際法																			○	○																		
国際協力法																			○	○																		
平和論												○							○	○																		
国際協力特論(グローバル・ガバナンス)																			○	○																		
国際学インターン A																				○																		
国際学インターン B																				○																		
国際協力フィールドワーク													○							○																		
NGO/NPO 実務実習 A																				○																		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	NGO/NPO 実務実習B	1~4	2	300	△		
	社会学概論	4	1	100	○		
	社会学史	4	2	200	○		
	社会調査法	4	2	200	○		
	比較社会学	4	2	200	○		
	社会統計学	2	2	300	△		
	家族社会学	4	2	200	○		
	文化社会学	4	2	200	○		
	地域社会学	4	2	300	○		
	現代社会研究	4	2	300	○		
	社会学特講	2	3	300	○		
	教育学概論	2	1	100	○		
	教育思想	2	1	200	○		
	教職入門	2	1	100	○		
	日本国憲法	2	1	100	○		
	教育哲学	2	2	200	○		
	西洋教育史	2	2	200	○		
	日本教育史	2	2	200	○		
	比較教育学	2	2	300	○		
	教育原理（教職課程）	2	1	200	○		
	教育心理学（教職課程）	2	2	200	○		教職課程登録者のみ履修可
	教育制度論	2	2	200	○		
	教育課程論	2	2	200	○		
	道徳教育論	2	2	300	○		
	特別活動論	2	2	300	○		
	教育方法論	2	2	300	○		
	生徒指導論(生徒理解と教育相談)	2	2	300	○		
	進路指導論	2	2	300	○		
	キリスト教と教育	2	1	200	○		
	家庭と教育	2	1	200	○		
	宗教と教育	2	2	300	○		
	現代アジアの教育と文化	2	2	300	○		
読書と豊かな人間性	2	3	300	○			
情報メディアの活用	2	3	300	○			
学校図書館メディアの構成	2	3	300	○			

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 〔J〕	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 〔 教 職 教 育〕	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	公 共 政 策 学	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア リ セ ア ル ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 〔E〕	日 本 地 域 研 究 〔C〕				
NGO/NPO 実務実習B																					○																				
社会学概論					○						○	○									○	○																			
社会学史																						○																			
社会調査法				○																		○																	○		
比較社会学													○	○								○																			
社会統計学																						○																	○		
家族社会学																						○																			
文化社会学																						○																			
地域社会学																						○																			
現代社会研究																						○																		○	
社会学特講																						○																			
教育学概論																								○																	
教育思想											○													○																	
教職入門																								○																	
日本国憲法																	○							○															○		
教育哲学																							○																		
西洋教育史																							○																		
日本教育史																	○							○																○	
比較教育学																								○																	
教育原理 (教職課程)																							○																	○	
教育心理学 (教職課程)																							○																		
教育制度論																							○																		
教育課程論																							○																		
道徳教育論																							○																		
特別活動論																							○																		
教育方法論																							○																	○	
生徒指導論 (生徒理解と教育相談)																							○																		
進路指導論																							○																		
キリスト教と教育										○													○																		
家庭と教育																							○																		
宗教と教育										○													○																		
現代アジアの教育と文化																							○																		
読書と豊かな人間性																							○																		
情報メディアの活用																							○																	○	
学校図書館メディアの構成																																								○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	基礎ミクロ経済学	2	1	100	○	
	基礎マクロ経済学	2	1	100	○	
	政治経済学	4	1	100	○	
	経済史	4	1	100	○	
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100	○	
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100	○	
	経済学史	4	2	200	○	
	マクロ経済学	4	2	200	○	
	ミクロ経済学	4	2	200	○	
	経済統計論	4	2	200	○	
	日本経済史	4	2	200	○	
	日本経済論	4	2	200	○	
	金融論	4	2	200	○	
	労働法	4	2	200	○	
	経済法Ⅰ	2	2	300	○	
	経済法Ⅱ	2	2	300	○	
	計量経済学	2	2	300	○	
	経済変動論	4	2	300	○	
	現代資本主義論	4	2	200	○	
	ゲーム理論	2	2	300	○	
	社会経済学	4	2	200	○	
	経済学特殊講義	2	2	200	○	
	国際経済論	4	2	300	○	
	国際金融論	4	2	300	○	
	経済開発論	4	2	300	○	
	多国籍企業論	4	2	300	○	
	アメリカ経済論	4	2	300	○	
	ヨーロッパ経済論	4	2	300	○	
	中国経済論	4	2	300	○	
	ロシア東欧経済論	4	2	300	○	
	国際マクロ経済学	4	2	300	○	
	国際投資論	4	2	300	○	
国際貿易論	4	2	300	○		
企業経済論	4	2	300	○		
中小企業論	4	2	300	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リス ト 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 〔J〕	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 〔 教 職 教 育 〕	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	公 共 政 策 学	数 学	物 理 学	化 学	生 物 学	地 球 科 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア リ セ ア ル 学	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 〔E〕	日 本 地 域 研 究 〔C〕					
基礎ミクロ経済学																								○	○	○															
基礎マクロ経済学																									○	○	○														
政治経済学																									○	○	○														
経済史																									○	○	○														
経済数学入門Ⅰ																									○	○	○														
経済数学入門Ⅱ																									○	○	○														
経済学史																									○	○	○														
マクロ経済学																									○	○	○														
ミクロ経済学																									○	○	○														
経済統計論																									○	○	○														
日本経済史																	○								○	○	○														
日本経済論																	○								○	○	○														
金融論																									○	○	○														
労働法																									○	○	○														
経済法Ⅰ																									○	○	○														
経済法Ⅱ																									○	○	○														
計量経済学																									○	○	○														
経済変動論																									○	○	○														
現代資本主義論																									○	○	○														
ゲーム理論																									○	○	○														
社会経済学																									○	○	○														
経済学特殊講義																									○	○	○														
国際経済論																									○																
国際金融論																									○																
経済開発論																									○																
多国籍企業論																									○																
アメリカ経済論															○										○																
ヨーロッパ経済論																									○																
中国経済論								○																	○																
ロシア東欧経済論																									○																
国際マクロ経済学																									○																
国際投資論																									○																
国際貿易論																									○																
企業経済論																									○																
中小企業論																									○																

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	情報経済論	4	2	300	○		
	サービス経済論	4	2	300	○		
	産業組織論	4	2	300	○		
	工業経済論	4	2	300	○		
	農業経済論	4	2	300	○		
	流通経済論	4	2	300	○		
	企業分析論	4	2	300	○		
	産業調査論	4	2	300	○		
	企業金融論	4	2	300	○		
	産業構造論	4	2	300	○		
	金融政策	4	2	300	○		
	財政学	4	2	300	○		
	社会政策	4	2	300	○		
	生活経済論	2	2	300	○		
	環境経済論	4	2	300	○		
	行政学	4	2	300	○		
	経済政策	4	2	300	○		
	社会保障論	2	2	300	○		
	労働経済論	4	2	300	○		
	地方財政論	4	2	300	○		
	厚生経済学	2	2	300	○		
	公共経済学	4	2	300	○		
	資源・エネルギー論	4	2	300	○		
	博物館概論	2	1	100	○		
	生涯学習概論	2	1	200	○		
	博物館教育論	2	1	200	○		
	博物館経営論	2	2	200	○		博物館概論
博物館情報・メディア論	2	2	200	○		博物館概論	
博物館資料論	2	2	200	○		博物館概論	
博物館資料保存論	2	2	300	○		博物館概論	
博物館展示論	2	2	300	○		博物館概論	
博物館学特論（文化遺産論）	2	3	300	○			
博物館学特論（文化政策論）	2	3	300	○			
博物館実習	3	3	300	○		博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論	

専攻プログラム	英	中	日	言	英	中	現	キ	哲	倫	ア	ア	日	歴	国	国	社	心	教	国	ビ	数	物	化	生	地	情	環	メ	博	日
授業科目	語	語	本	語	米	国	代	リス	学	理	メ	ジ	本	史	際	際	会	理	育	際	ネ	公	理	物	地	報	境	ディア	物	本	
	語	語	語	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学	学
情報経済論																					○										
サービス経済論																					○										
産業組織論																					○										
工業経済論																					○										
農業経済論																					○										
流通経済論																					○										
企業分析論																					○										
産業調査論																					○										
企業金融論																					○										
産業構造論																					○										
金融政策																					○										
財政学																					○										
社会政策																		○				○									
生活経済論																					○										
環境経済論																					○						○				
行政学																					○										
経済政策																					○										
社会保障論																					○										
労働経済論																					○	○									
地方財政論																					○										○
厚生経済学																					○										○
公共経済学																					○										○
資源・エネルギー論																					○		○				○				
博物館概論																															○
生涯学習概論																				○											○
博物館教育論																															○
博物館経営論																															○
博物館情報・メディア論																															○
博物館資料論																															○
博物館資料保存論																															○
博物館展示論																															○
博物館学特論(文化遺産論)																															○
博物館学特論(文化政策論)																															○
博物館実習																															○

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学部 学系 科目	Comparative Culture	4	2	300	○		
	History of U. S. - Japan Exchanges	4	2	300	○		
	Intercultural Communication	4	2	300	○		
	Intro. to Japanese Folklore	4	2	300	○		
	Japan Seen in Real Time	4	2	300	○		
	Japanese Art	4	2	300	○		
	Japanese Cinema (E)	4	2	300	○		
	Japanese Classical Dance	4	2	300	○		
	Japanese Cultural Exchanges	4	2	300	○		
	Japanese Culture	4	2	300	○		
	The Japanese Economy	4	2	300	○		
	Japanese Literature	4	2	300	○		
	Japanese Management I	2	2	300	○		
	Japanese Management II	2	2	300	○		
	Japanese Photography	4	2	300	○		
	Japanese Politics	4	2	300	○		
	Japanese Society	4	2	300	○		
	Japanese Women's Literature	4	2	300	○		
	Modern Japanese History	4	2	300	○		
	Modern Japanese Literature	4	2	300	○		
	Political Geography of East Asia	4	2	300	○		
	Postwar Business and Finance	4	2	300	○		
	Premodern Japanese History	4	2	300	○		
	Selected Topics in Japanese Studies	4	2	300	○		重複履修可
	Sino-Japanese Relations	4	2	300	○		
	日本政治	4	2	300	○		
	日中関係	4	2	300	○		
	日本社会	4	2	300	○		
	日本文化	4	2	300	○		
	日本古典文学史	4	2	300	○		
	日本文学作品講読 (古典)	4	2	300	○		
	日本文学作品講読 (現代)	4	2	300	○		
日中跨文化交際	4	2	300	○			
日本経済	4	2	300	○			
日本産業	4	2	300	○			

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	日本企業管理	4	2	300	○		
	日中環境問題概論	4	2	300	○		
	日本教育論	4	2	300	○		
	日本映画	4	2	300	○		
	日本歴史	4	2	300	○		
	日本地域研究特論	4	2	300	○		重複履修可
	経済学概論	4	1	100	○		
	地理学概論	4	1	100	○		
	日本史概論	4	2	100	○		
	法律学概論（国際法を含む）	4	1	100	○		
	自然地理学概論	4	1	100	○		
自然科学系科目群	数学概論	2	1	100	○		
	線形代数学	4	2	200	○		数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。） 又は線形代数学入門と微分積分学入門
	微分積分学	4	2	200	○		数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。） 又は線形代数学入門と微分積分学入門
	数学演習	2	2	200	○		数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。） 又は線形代数学入門と微分積分学入門
	解析学	4	3	300	○		線形代数学、微分積分学
	確率論と統計学	4	3	300	○		微分積分学
	離散数学	4	3	400	○		線形代数学
	代数学	4	3	300	○		線形代数学、微分積分学
	幾何学	4	3	400	○		線形代数学、微分積分学
	コンピュータとデータ解析	2	3	300	○		確率論と統計学
	物理学概論	2	1	100	○		
	力学Ⅰ	2	2	200	○		物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	力学Ⅱ	2	2	200	○		力学Ⅰ（同時履修可）
	電磁気学Ⅰ	2	2	200	○		物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	電磁気学Ⅱ	2	2	200	○		電磁気学Ⅰ（同時履修可）
	熱力学	2	2	200	○		物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
統計力学	2	3	300	○		線形代数学、微分積分学、力学Ⅰ、力学Ⅱ、熱力学(同時履修を認める場合があります。)	
量子力学Ⅰ	2	3	300	○		力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ（同時履修可）	

専攻プログラム 授業科目	英	中	日	言	英	中	現	キ	宗	哲	倫	文	ア	ア	日	歴	国	国	社	心	教	国	公	数	物	化	生	地	情	環	博	日		
	語	語	本	語	米	国	代	リス	教	学	理	化	ジ	本	史	際	際	会	理	育	際	共	理	理	物	球	報	境	物	本	地			
日本企業管理																																○		
日中環境問題概論																																	○	
日本教育論																																	○	
日本映画																																	○	
日本歴史																																	○	
日本地域研究特論																																	○	
経済学概論													○																					
地理学概論												○	○																					
日本史概論														○	○																			
法律学概論(国際法を含む)																			○															
自然地理学概論																																		
数学概論				○																				○	○	○	○	○	○	○				
線形代数学																								○	○	○	○	○						
微分積分学																								○	○	○	○	○						
数学演習																							○				○							
解析学																								○	○									
確率論と統計学																								○				○						
離散数学																								○										
代数学																								○										
幾何学																								○										
コンピュータとデータ解析																								○				○						
物理学概論																								○	○	○	○	○						
力学Ⅰ																								○	○	○	○	○						
力学Ⅱ																								○	○		○	○						
電磁気学Ⅰ																								○	○	○		○						
電磁気学Ⅱ																								○	○			○						
熱力学																								○	○	○		○						
統計力学																								○	○	○		○						
量子力学Ⅰ																								○	○	○								

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
自然科学系科目群	量子力学Ⅱ	2	3	300	○		線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ（同時履修可）
	物理学実験Ⅰ	2	2	200	×		
	物理学実験Ⅱ	2	3	300	×		物理学実験Ⅰ
	物理学特論Ⅰ	2	3	400	○		物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	物理学特論Ⅱ	2	3	400	○		物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	化学概論	2	1	100	○		
	無機化学Ⅰ	2	2	200	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	無機化学Ⅱ	2	2	200	○		無機化学Ⅰ（同時履修可）
	基礎有機化学	2	2	200	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	有機合成化学	2	2	200	○		基礎有機化学（同時履修可）
	基礎分析化学	2	2	300	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	機器分析化学	2	2	300	○		基礎分析化学（同時履修可）
	化学熱力学・反応速度	2	2	300	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	量子化学	2	2	300	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	生体物質化学	2	2	300	○		化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×		化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×		化学実験Ⅰ
	化学特論	2	3	400	○		化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	エネルギー化学	2	3	300	○		
	生物学概論	2	1	100	○		
	植物学Ⅰ	2	2	200	○		
	植物学Ⅱ	2	2	200	○		植物学Ⅰ（同時履修可）
	動物学Ⅰ	2	2	200	○		
	動物学Ⅱ	2	2	200	○		動物学Ⅰ（同時履修可）
生態学Ⅰ	2	2	300	○			
生態学Ⅱ	2	2	300	○		生態学Ⅰ（同時履修可）	
生理学Ⅰ	2	3	300	○			

専攻プログラム 授業科目	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語 教育	言語学	英米文学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(1)	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネス エコミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア リサーチ	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)		
量子力学Ⅱ																										○	○											
物理学実験Ⅰ																										○	○	○	○	○								
物理学実験Ⅱ																									○	○	○	○	○									
物理学特論Ⅰ																									○	○												
物理学特論Ⅱ																									○	○												
化学概論																									○	○	○	○	○									
無機化学Ⅰ																											○	○										
無機化学Ⅱ																											○	○										
基礎有機化学																											○	○										
有機合成化学																											○	○										
基礎分析化学																											○	○										
機器分析化学																											○	○										
化学熱力学・反応速度																										○	○	○	○									
量子化学																										○	○	○	○									
生体物質化学																											○	○			○							
化学実験Ⅰ																										○	○	○	○									
化学実験Ⅱ																										○	○	○	○									
化学特論																											○											
エネルギー化学																											○											
生物学概論																										○	○	○	○	○								
植物学Ⅰ																											○								○			
植物学Ⅱ																											○											
動物学Ⅰ																											○								○			
動物学Ⅱ																											○											
生態学Ⅰ																											○	○	○	○					○			
生態学Ⅱ																											○	○	○									
生理学Ⅰ																										○	○											

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
自然科学系科目群	生理学Ⅱ	2	3	300	○	生理学Ⅰ（同時履修可）
	生化学	2	3	300	○	
	遺伝と進化	2	3	300	○	
	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×	
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ
	生物学特論	2	3	400	○	重複履修可
	地学概論	2	1	100	○	
	微分積分学入門	2	1	100	○	微分積分学の既修得者は履修不可
	線形代数学入門	2	1	100	○	線形代数学の既修得者は履修不可
	地球物理学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	地球物理学Ⅱ	2	3	300	○	地球物理学Ⅰ（同時履修可）
	気象学Ⅰ	2	2	300	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	気象学Ⅱ	2	2	300	○	気象学Ⅰ（同時履修可）
	天文学Ⅰ	2	3	300	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	天文学Ⅱ	2	3	300	○	天文学Ⅰ（同時履修可）
	地質学Ⅰ	2	2	200	○	
	地質学Ⅱ	2	2	200	○	地質学Ⅰ（同時履修可）
	地学実験Ⅰ	2	2	200	△	
	地学実験Ⅱ	2	3	300	△	地学実験Ⅰ
	古生物学	2	3	400	○	
地球科学特論	2	3	400	○	重複履修可	
海洋学	2	3	400	○		
地球科学演習	2	3	400	○	重複履修可	
自然科学実験	2	1	100	×		
学際・統合科学系科目群	化学と人間社会	2	2	200	○	
	環境化学	2	2	200	○	
	情報と社会	2	1	100	○	
	情報と倫理	2	1	100	○	
	情報システム論	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	データベースⅠ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	認知の科学	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報ネットワーク	2	3	300	○	情報システム論

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
学際・系統合科学系科目群	応用表計算	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	プログラミングⅠ	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	プログラミングⅡ	2	2	300	○	プログラミングⅠ
	プレゼンテーション演習	2	2	200	○	
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	Webページプログラミング	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	データベースⅡ	4	3	300	○	データベースⅠ
	マルチメディア表現Ⅱ	4	3	300	○	マルチメディア表現Ⅰ
	情報ネットワーク演習	2	3	300	○	情報ネットワーク
	情報分析論	4	2	300	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報デザイン論	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報と職業	2	3	300	○	情報システム論
	システム設計論	4	3	300	○	情報システム論
	ソフトウェア概論	4	3	300	○	情報システム論
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報セキュリティ論	2	3	400	○	コンピュータリテラシーⅡ
	知識表現とプログラミング	2	3	400	○	情報システム論、プログラミングⅠ
	環境と文明	4	1	100	○	
	文系のための環境科学	2	2	200	○	
	環境とまちづくり	2	2	200	○	
	環境と地域	2	2	200	○	
	環境とキリスト教	2	2	200	○	
	社会統計基礎	2	2	200	○	
	エネルギーと環境	2	2	200	○	
	人と自然	2	2	200	○	
	環境生物学	2	2	200	○	
	地球規模環境論Ⅰ	2	2	200	○	
	地球規模環境論Ⅱ	2	2	200	○	地球規模環境論Ⅰ(同時履修可)
	感覚公害論	2	2	200	○	
	環境リスク論	2	2	200	○	
	人間環境学	4	2	200	○	
	環境思想概論	2	2	200	○	
江戸から学ぶ環境	2	2	200	○		
エコロジー・デザイン特殊講義	2	2	200	○		
環境ビジネス論	2	2	200	○		

専攻プログラム 授業科目	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語 教育学	言語学	コミュニケーション学	英米文学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(Ⅰ)	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネス エコノミクス	公共政策学	数理化学	化学	生物科学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・リサーチ	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)	
応用表計算																										○		○									
プログラミングⅠ																										○				○							
プログラミングⅡ																										○					○						
プレゼンテーション演習						○																									○						
マルチメディア表現Ⅰ																															○						
Web ページプログラミング																															○						
データベースⅡ																															○						
マルチメディア表現Ⅱ																															○						
情報ネットワーク演習																															○						
情報分析論																															○						
情報デザイン論																															○						
情報と職業																															○						
システム設計論																															○						
ソフトウェア概論																										○					○						
ヒューマンコンピュータインターフェイス																															○						
情報セキュリティ論																															○						
知識表現とプログラミング																															○						
環境と文明													○																			○					
文系のための環境科学																																○					
環境とまちづくり																																○					
環境と地域																																○					
環境とキリスト教																																○					
社会統計基礎																																○					
エネルギーと環境																																○					
人と自然										○																					○						
環境生物学																														○							
地球規模環境論Ⅰ																															○						
地球規模環境論Ⅱ																																○					
感覚公害論																																○					
環境リスク論																												○				○					
人間環境学																																○					
環境思想概論																																○					
江戸から学ぶ環境																																○					
エコロジー・デザイン特殊講義																																○					
環境ビジネス論																																	○				

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
国際・統合集学系科目群	国際環境交渉論	2	2	200	○	
	野外安全管理	1	2	300	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	救急救命演習	1	2	300	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ECO-TOP インターンシップ事前研修	1	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ECO-TOP インターンシップ事後研修	1	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ECO-TOP インターンシップ I	2	2	200	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可
	ECO-TOP インターンシップ II	2	2	200	○	ECO-TOP インターンシップ事前研修、 ECO-TOP インターンシップ I ECO-TOP 登録者のみ履修可
	環境法学	4	3	300	○	
	都市環境政策 I	2	3	300	○	
	都市環境政策 II	2	3	300	○	
	環境教育論	2	2	300	○	
	環境社会学	4	2	300	△	
	環境マネジメント論	2	2	300	○	
	資源循環論	4	3	300	○	
	社会環境調査法	2	2	300	○	
	自然環境調査法	2	3	300	○	
	食品安全論	2	3	300	○	
	環境 NPO・NGO	2	3	300	○	
	社会環境と知的財産	2	3	300	○	
	環境科学総合演習	2	4	400	△	秋学期に履修登録すること
	メディア —きのう 今日 明日—	2	1	100	○	
	ジャーナリストへの道	2	1	100	○	
	テレビ・放送の世界	2	1	200	○	
	新聞の世界	2	1	200	○	
	出版の世界	2	1	200	○	
	広告の世界	2	1	200	○	
	新聞社説を読む	2	2	300	○	
	地方紙を読む	2	2	300	○	
	英字紙を読む	2	2	300	○	
	広告コピーを読む	2	2	200	○	
	出版ジャーナリズム	2	2	200	○	
	スポーツジャーナリズム	2	2	200	○	
日本のジャーナリズム	2	2	200	○		
アメリカのジャーナリズム	2	2	200	○		

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	若者とメディア	2	2	200	○	
	現代メディア研究	2	2	300	×	重複履修可
	メディアと人権	4	2	300	×	
	環境とメディア	4	2	300	×	
	女性とメディア	4	2	300	×	
	子供とメディア	4	2	300	×	
	スポーツにんげん学	4	2	300	×	
	雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)	4	2	300	×	
	マスコミ特訓講座	2	3	300	×	文章表現Ⅱ 重複履修可
学群共通	学外研修事後学習	2	2	200	○	
	学外研修事前学習	2	2	200	○	
	インターンシップⅠ	2	2	200	○	
	インターンシップⅡ	2	2	200	○	
	インターンシップⅢ	2	2	200	○	
	インターンシップⅣ	2	2	200	○	
	専攻演習Ⅰ	2	3	300	△	
	専攻演習Ⅱ	2	3	300	△	専攻演習Ⅰ
	卒業研究	4	3	400	△	専攻演習Ⅱ
卒業論文	4	3	400	△	専攻演習Ⅱ	

諸注意

①専攻演習と卒業論文・卒業研究

- (イ)「専攻演習」は4セメスター目に事前登録を行います。希望者が集中した場合は、選抜が行われることがあります。
- (ロ)「卒業論文」または「卒業研究」の指導は原則として「専攻演習」担当教員が引き続き指導することになります。「卒業論文」または「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」を修得してください。

専攻プログラム	英語	中国語	日本語 日本文学	日本語 教育	言語学	コミュニケーション学	英米文学	中国文学	現代・世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究(Ⅰ)	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	国際経済	ビジネスエコツミクス	公共政策学	数学	物理学	化学	生物科学	地球科学	情報科学	環境学	メディア・リテラシー学	博物館学	日本地域研究(E)	日本地域研究(C)				
若者とメディア																																							○		
現代メディア研究																																							○		
メディアと人権																																							○		
環境とメディア																																							○		
女性とメディア																																								○	
子供とメディア																																								○	
スポーツにんげん学																																								○	
雑誌をつくる(デジタル編集実践講座)																																								○	
マスコミ特訓講座																																								○	
学外研修事後学習																																									
学外研修事前学習																																									
インターンシップⅠ																																									
インターンシップⅡ																																									
インターンシップⅢ																																									
インターンシップⅣ																																									
専攻演習Ⅰ																																									
専攻演習Ⅱ																																									
卒業研究																																									
卒業論文																																									

3. 総合文化学群

1. 総合文化学群について

総合文化学群はキリスト教主義に基づいき、教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野を持って芸術文化の振興に貢献する人材を育成することを目的としています。

総合文化学群は、より専門性を高めた芸術教育をおこなうため、2005年度に文学部・総合文化学科から独立した学群へと発展しました。「演劇・音楽・造形デザイン・映画」の4つのコースを置き、芸術を総合的に学ぶ環境を整えています。

本学群の授業科目は理論系の講義科目と実技・実習系の科目がバランスよく配置されています。特に実技・実習系の科目ではプロの第一線で活躍する教員による指導を受け、プロフェッショナルの世界を体験し、実践的な知識と技術を身につけることが可能です。一方、演劇・音楽・造形デザイン・映画の各分野の学びをより深く追求するためには、他分野の知識や技術が必要になることもあります。総合文化学群では講義科目を中心に他のコースの科目を履修することも可能であり、幅広く芸術分野視を学ぶことができます。

理論と実践の融合、他分野を取り込んだ総合的な学習により、芸術作品・パフォーマンスを生み出すアーティストを養成するだけでなく、芸術文化の普及と支援に貢献する人材を育成します。

2. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

総合文化学群の教育課程は全学基礎教育の「コア科目」と学群の「専攻科目」から構成されます。「専攻科目」は各コースに共通する芸術論・芸術史・文化論・芸術マネジメント論などの学群共通科目と演劇・音楽・造形デザイン・映画各コースの専門科目から成り、これを並行して学ぶことにより芸術についての総合的な学識と各領域の知識・技能を兼ね備えます。各コースには多彩な講義理科目と実技・実習科目がバランスよく配置され、知識教育と実践的教育が緊密に連携しています。さらに「自由選択」として他コース・他学群・他大学科目の履修、留学・海外研修による異文化体験など、独自の学習プログラムを構築することもできます。このように総合文化学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成する構成となっています。

1年次にはコア科目によってキリスト教の理解、日本語・外国語のコミュニケーション能力、コンピュータ操作能力を育成するとともに、各コースの入門科目であるガイダンス科目をはじめとする基礎的な専門科目を履修します。そして3年次からは専任教員による少人数指導の専攻演習が置かれ、専門的知識の理解を深め各分野の技能を高めることを目指します。また学外のプロフェッショナルの現場における実習を通じて、実践的な体験をするインターンシップを履修する機会も多くなります。4年次には卒業研究に取り組み、上演・演奏・制作など各自の専門領域における4年間の学びを集大成します。

総合文化学群の演劇・音楽・造形デザイン・映画の各コースはそれぞれの専攻コースをメジャーとして修了することが卒業要件ですが、その他マイナーとして総合文化学群のカルチャー管理コースや他学群の専攻プログラムを登録することもできます。

3. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

総合文化学群は以下の要件を満たす学生に対し、「学士(総合文化学)」を授与します。

- ①キリスト教精神に基づき、国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、芸術を学ぶことで人格形成を行い、国際社会に貢献することができる。
- ②芸術分野において専門家として活躍するために必要な知識・技能を習得し、幅広い視野と豊かな感性を以って独自の作品・パフォーマンスを生み出すことができる。
- ③芸術の創作活動を通じて社会における芸術文化の発展に寄与する使命感を持ち、社会人としてふさわしい教養と考え方を身につけている。
- ④本学群の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位(基礎教育科目18単位以上、専攻科目56単位以上、その他自由選択、計124単位)を修得している。

総合文化学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

(1) 演劇専修

演劇専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目:コア科目16単位、ガイダンス科目「上演芸術入門」2単位、合計18単位

専攻科目:学群共通科目から16単位、演劇専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(2) 音楽専修

音楽専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目:コア科目16単位、ガイダンス科目「音楽入門」2単位、合計18単位

専攻科目:学群共通科目から16単位、音楽専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(3) 造形デザイン専修

造形デザイン専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目:コア科目16単位、ガイダンス科目「造形芸術入門」2単位、合計18単位

専攻科目:学群共通科目から16単位、造形デザイン専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

(4) 映画専修

映画専修の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目:コア科目16単位、ガイダンス科目「映像入門」2単位、合計18単位

専攻科目:学群共通科目から16単位、映画専修科目区分より科目を選んで40単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

4. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		総合文化学群			
		演劇専修	音楽専修	造形デザイン専修	映画専修
基礎教育科目 18単位 (最低必要単位)	コア科目 16単位必修 (注)	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ②			
	ガイダンス 科目 2単位必修	上演芸術入門②	音楽入門②	造形芸術入門②	映像入門②
専攻科目 56単位 (最低必要単位)		・学群共通科目より選択16単位以上 ・各自所属専修の専修科目区分より選択40単位以上			
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて履修した単位 ・自学群他専修科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育院の科目(外国語科目を含む) ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む)認定単位 (P.183) ・各種技能審査による認定単位 (P.184)			
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1.入学時からの通算GPAが1.5以上 2.各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること			

(注) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等(日本語を母語としない者)は、「文章表現Ⅰ」、「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

3. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。総合文化学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、学業成績単位修得証明書に、メジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー:メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、総合文化学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー:マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、総合文化学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

メジャーについては、入学時に専修に基づき、登録されています。

マイナーの登録は、5セメスター目より受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間終了日までマイナーの変更もできます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

総合文化学群

専攻コース	メジャー	マイナー
演劇	○	○
音楽	○	○
造形デザイン	○	○
映画	○	○
カルチャー管理		○※

※カルチャー管理コースのみ他学群登録可

演劇コース

1. 教育目的

実技と理論の両面から、総合芸術といわれる演劇を広く学び、日本の地域文化の中核を担える人材・実社会で通用する演劇人を育成します。俳優教育だけではなく、コンテンポラリーを中心としたダンス、劇作、演出から、舞台監督、舞台美術、照明、音響などのスタッフワーク、さらにプロデューサーとしての実務やアートマネジメントに至るまで、実際の演劇上演に関するあらゆる要素を学びます。理論面では、歌舞伎から新劇までの近代劇、アングラから始まる日本現代演劇、ギリシア悲劇、シェイクスピア、イプセン、チェホフ、ベケットなど海外演劇の歴史と概要を幅広く網羅しています。国際的な視野を身につけるため、英語劇のクラスを設け、短期間の海外研修、海外演劇学校への留学も推進しています。

2. カリキュラムの特徴

リアリズムを中心とする演劇だけでなく、日本舞踊や狂言の授業のほか、日本の大学で唯一、京劇の実技、舞台監督の実習も行っています。舞台技術に関する授業も基礎から応用まで舞台監督、舞台美術、照明、音響の専門家育成の実習科目が用意されています。ダンスもクラシックとコンテ

ンポラリーが基礎から応用まであります。理論科目では、日本及び海外の古代から現代までの演劇の概要について専門的な授業のほか、戯曲、演出、劇場文化、舞踊、ミュージカルなどについての講義があります。また演劇専修では、年に数本の、プロの演出家や振付家による本格的な舞台創作発表を行っています。桜美林パフォーミング・アーツ・プログラム（OPAP）と呼ばれるこのプログラムは、一般観客の鑑賞にも堪える高いレベルの作品づくりを目指しています。

メジャー: 学群共通科目から16単位。演劇専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー: 「上演芸術入門」を含む、演劇マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

音楽コース

1. 教育目的

桜美林大学音楽専修は、音楽についての広い学識と技術を身につけることにより、社会に貢献できる柔軟な応用力に富む人材を育成することを目標としています。本コースでは少人数制による丁寧な実技指導を行い、それを裏付ける音楽理論および音楽史を学びます。主要な分野として声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽学、キリスト教音楽があり、学生は興味のある授業を自身で選択することができます。本コースでは「主科・副科」のシステムにより、複数の専門実技を履修することが可能で、卒業まで自分に合ったプログラムを組み立てていくことができます。また音楽コースでは西洋音楽の源泉となるキリスト教音楽の演奏と理論を学ぶカリキュラムも用意されています。有意義な大学生活を送ることで、それぞれの可能性を伸ばし、創造力豊かな音楽家やバランスのとれた社会人になるような教育を行います。

2. カリキュラムの特徴

声楽、ピアノ、器楽実技は主科と副科のいずれかを選択します。全て個人レッスンです。声楽主科「声楽AI～IV」は一回30分、「声楽AV～VIII」は一回45分、副科「声楽BI～VIII」は1回15分のレッスンです。ピアノ主科「ピアノAI～VIII」は一回45分、副科「ピアノBI～VIII」は一回15分のレッスンです。器楽主科「器楽実技I～VIII」は各学期60分レッスンが11回あります。弦楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスより、管打楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニウム、チューバ、打楽器より選択できます。器楽副科「器楽実技BI～VIII」は各学期20分レッスンが11回、初心者対象にヴァイオリンと打楽器より選択できます。講義科目としては「音楽学」「和声学」「対位法」「西洋音楽史」「東洋音楽史」「音楽マネジメント論」「ヨーロッパの大衆音楽」「宗教音楽史」「民族音楽研究」などがあり、基礎的な知識習得から高度な専門性へと積み上げていくよう、履修年次に従って受講していきます。

メジャー: 学群共通科目から16単位。音楽専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上を修得してください。

マイナー: 「音楽入門」を含む音楽マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

造形デザインコース

1. 教育目的

桜美林大学造形デザイン専修は、“人にやさしいヴィジュアルカルチャーの創造”をコンセプトにしています。多様化し、加速化する情報社会の中で、アートやデザインが果たす役割は、生きていくことが楽しくなるようなことを提案することです。人びとがそれぞれの生の意味を理解し、確認し、創造的に行動することによって社会の活性化の一助となることを目指しています。

本専修では、あなたの心の中にあるメッセージを具体的な形にするために、従来の画材別コースの美術教育の枠にとどまらず、コンピュータを利用したアート・テクノロジーにも力をいれています。徹底した手づくりの基礎技術を磨くカリキュラムに加えて、未来を予感する情報テクノロジーのスキルを複合的に取り入れ、個々の表現の可能性を最大限に引き出す専攻コースで、多様化する社会に真に応えるクリエイターを育成します。

2. カリキュラムの特徴

[基礎演習課程]

1年次は徹底して造形基礎技術を学びます。2年次以降の専攻の基礎となるものを多角的に学習することによって将来の自分のビジョンを確立することを目的としています。

- ・基礎演習プログラム(平面デザイン演習・素描・デジタル編集・色彩構成)(学外美術鑑賞)

[専攻演習課程]

2年次からは、各専攻演習プログラムを組み合わせることで個々の創造性を育成します。以下の4つのジャンルを中心に専門性を深化させます。

- ・ファインアート(洋画／日本画／彫塑)
- ・グラフィックデザイン(広告デザイン／出版印刷デザイン／Webデザイン／イラストレーション)
- ・メディアアート(2D・3Dデジタル&映像アート／フォトアート)
- ・生活環境デザイン(ファッション／テキスタイルデザイン／建築・空間デザイン／陶芸)

メジャー: 学群共通科目から16単位。造形デザイン専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー: 「造形芸術入門」を含む造形マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

映画コース

1. 教育目的

20世紀は「映像の世紀」だったといわれますが、21世紀に入りますます私たちの映像依存は強まっています。にもかかわらず、これまでは映像を学問として考察したり、映像がどのように作られているのかを学んだりする場や機会が十分用意されているとはいえませんでした。映画(映像)は芸術作品であり商品でもあります、それと同時に人と人、国と国を結ぶ大切なメディアでもあるのです。その証拠に、世界の国々が自国の映画産業の支援や人材の育成に力を入れ始めていますし、わが国でもその動きが活発になってきました。

この映画コースでは映像文化を広く学び、映像に関する見識を深め、映画づくりの全過程を学ぶことで映像による表現力や人に夢をあたえる創造力を養って、映像を主なコミュニケーション手段として国内外で活躍できる人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

映画専修のカリキュラムは、映画表現や演出、映画技術の理論や歴史、文化、シナリオを学ぶ座学と、映画制作実習や映画技術演習などの実習（演習）科目から成っています。

座学も実習科目も、1年次の入門から始め、2年次、3年次と順次練成と経験を重ねて、4年次には学生たちの力だけで質の高い卒業研究を完成させることができるよう、配置されています。その際、2年次では、演出中心か脚本中心かそれとも映画技術中心に学んでいくのか、1年次のビデオ実習の経験を参考に、学生は各自の資質、適性、希望などによって、2年次以降の専門科目の履修計画を立てることになります。

映画制作実習は、映画制作の現状と将来を想定して、これまでのフィルムによる映画制作を基本に、最新のデジタル技術（撮影、録音、編集、整音）やビデオ技術との両方を学ぶことができます。

メジャー：学群共通科目から16単位。映画専修科目区分の中から40単位、合計56単位以上修得してください。

マイナー：「映像入門」を含む映画マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

カルチャー管理コース ※マイナーのみ

マイナー：「社会文化・メセナ論」「知的財産権通論」「シアターマネジメント論」「音楽マネジメント論」「アートマネジメント論」を含む、カルチャー管理マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

4. ガイダンス・専攻科目と諸注意

- ① 履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
- ② 他学群学生・他専修学生の履修欄が○の場合、他学群・他専修の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群・他専修の学生は履修できません。
- ③ 先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	他専修学生の履修	先修条件ほか	
		演劇	音楽	造形デザイン	映画	カルチャー								
ガイダンス	目	◎					上演芸術入門	2	1	100	×	○		
			◎				音楽入門	2	1	100	×	○		
				◎			造形芸術入門	2	1	100	×	○		
					◎		映像入門	2	1	100	×	○		
学群共通科目	目			○		○	美学	4	2	200	○	○		
		○					○	演劇の世界	2	1	100	○	○	
		○					○	ダンスの世界	2	1	100	○	○	
				○			○	芸術概論	4	2	200	○	○	
				○			○	芸術と人間	4	2	200	○	○	
				○			○	芸術と社会	4	2	300	○	○	
							○	日本文化論	4	2	300	○	○	
							○	西洋文化論	4	2	300	○	○	
							○	アジア文化論	4	2	300	○	○	
			○	○	○	◎	◎	社会文化・メセナ論	2	2	200	○	○	
			○	○	○	◎	◎	知的財産権通論	2	3	300	○	○	
			○			◎	◎	シアターマネジメント論	2	3	300	○	○	
			○			◎	◎	音楽マネジメント論	2	3	300	○	○	
				○		◎	◎	アートマネジメント論	2	3	300	○	○	
						○		メディア論	4	2	200	○	○	
				○		映像ビジネス論	4	2	200	○	○			
						インターシップ	1~4	1	100~400	×	○	年間4単位上限 重複して8単位まで履修可		
	○	○	○	○		専攻演習	4	3	300	×	○			
	○	○	○	○		卒業研究	6	4	400	×	○			
演劇専修	上演芸術・基礎	○				○	劇場文化史	4	1	100	○	○		
		○				○	海外演劇特殊研究 I	2	2	200	○	○		
		○				○	海外演劇特殊研究 II	2	2	200	○	○	海外演劇特殊研究 I	
							日本古典劇研究A(狂言)	2	1	100	×	×		
							日本古典劇研究A(日本舞踊)	2	1	100	×	×		
		○				○	日本古典劇研究B	2	2	200	○	○		
		○				○	日本近代劇研究	2	1	100	○	○		
○				○	日本現代劇研究	2	2	200	○	○				

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)				授業科目	単位数	履年	修次	レベル	他学群 学生の 履修	他専修 学生の 履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画 カルチャー								
演	上 演 芸 術 ・ 基 礎	○			○	戯曲基礎	2	2	200	×	○		
		○			○	戯曲演習	2	2	200	×	○	戯曲基礎	
		○			○	演出論A	2	2	200	×	○		
						演出研究	2	3	300	×	×	演出論A	
		○			○	舞踊論A	2	1	100	○	○		
		○			○	舞踊論B	2	1	100	○	○		
						身体原理入門	2	2	200	×	×	ダンス基礎	
		○			○	ミュージカル論	2	2	200	×	○		
		○			○	舞台芸術特講	2	1	100	×	○	重複して8単位まで履修可	
		○			○	分析批評入門	2	1	100	○	○		
劇	上 演 芸 術 演 習 ・ 実 技					舞台芸術基礎 I	4	1	100	×	△		
						舞台芸術基礎 II	4	1	100	×	△		
		○				上演実技 I	4	2	200	×	△		
		○				上演実技 II	4	2	200	×	△	上演実技 I	
		○				上演実技 III	4	3	300	×	△	上演実技 II	
		○				上演実技 IV	4	3	300	×	△	上演実技 III	
		○				身体訓練基礎	4	1	100	×	△		
		○				身体訓練演習	4	2	200	×	△		
		○				制作基礎 I	4	2	200	×	△	技術スタッフ入門	
		○				制作基礎 II	4	2	200	×	△	制作基礎 I	
		○				制作実地演習	2	3	300	×	△	制作基礎 II	
		○				技術スタッフ基礎	4	2	200	×	△	技術スタッフ入門	
		○				前衛の世界	4	2	200	×	△		
		○				ミュージカル演習	4	2	200	×	△		
		○				技術スタッフ入門	4	1	100	×	△	舞台芸術基礎 I、II	
		○				照明・音響演習	4	2	200	×	△	技術スタッフ基礎	
		○				舞台美術と舞台運営	4	2	200	×	△	技術スタッフ基礎	
		○				技術スタッフ応用 I	2	3	300	×	△		
		○				技術スタッフ応用 II	2	3	300	×	△	技術スタッフ応用 I	
		○				ダンス基礎	2	1	100	×	△		
○				ダンス基礎 II	1	1	100	×	△	ダンス基礎			
○				ダンス クラシック I	2	2	200	×	△				
○				ダンス クラシック II	2	2	200	×	△	ダンス クラシック I			
○				ダンス クラシック III	2	3	300	×	△	ダンス クラシック II			
○				ダンス コンテンポラリー I	2	1	100	×	△	ダンス基礎			
○				ダンス コンテンポラリー II	2	2	200	×	△	ダンス コンテンポラリー I			

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					授業科目	単位数	履年	修次	レベル	他学群 学生の 履修	他専修 学生の 履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カル チャー								
演劇 専修	上演芸術・基礎						ダンス コンテンポラリーⅢ	2	2	200	×	×	ダンス コンテンポラリーⅡ	
		○					Reading Drama in English A	4	2	200	○	○		
		○					Reading Drama in English B	4	2	200	○	○		
		○					Drama in Education	4	2	200	○	○		
		○					Drama in English	4	1	100	×	△		
		○					東洋演劇演習A	2	1	100	×	△	重複して8単位まで履修可	
		○					東洋演劇演習B	2	2	200	×	△		
		○					発声朗読法Ⅰ	4	2	200	×	△		
		○					発声朗読法Ⅱ	4	3	300	×	△	発声朗読法Ⅰ	
		○					上演美術研究	2	3	300	×	△		
		○					舞台監督の仕事Ⅰ	2	1	100	×	△		
		○					舞台監督の仕事Ⅱ	2	1	200	×	△	舞台監督の仕事Ⅰ	
					詩と朗読	1	2	200	×	△				
音楽 専修	音楽基礎						ソルフェージュⅠ	1	1	100	×	×		
							ソルフェージュⅡ	1	1	100	×	×	ソルフェージュⅠ	
			○			○	東洋音楽史	2	1	100	○	○		
			○			○	西洋音楽史	4	1	100	○	○		
			○			○	民族音楽研究	2	3	300	○	○		
			○			○	音楽学	4	1	100	○	○		
			○			○	器楽概論	2	1	100	○	○		
			○				和声学	4	2	200	○	○	音楽学	
			○				対位法	4	2	200	○	○	和声学	
			○			○	ヨーロッパの大衆音楽	4	1	100	○	○		
			○				芸術音楽特講	2	1	100	×	○	重複して8単位まで履修可	
			○				管弦楽概論	2	2	200	○	○		
音楽 専修	音楽演習・実技						舞台音楽演習	2	2	200	×	×		
							音楽制作演習	2	2	200	×	×		
							器楽実技AⅠ	2	1	200	×	×	器楽主科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 各学期60分個人レッスン 11回	
							器楽実技AⅡ	2	1	200	×	×		
							器楽実技AⅢ	2	2	300	×	×		
							器楽実技AⅣ	2	2	300	×	×		
							器楽実技AⅤ	2	3	400	×	×		
							器楽実技AⅥ	2	3	400	×	×		
							器楽実技AⅦ	2	4	400	×	×		
							器楽実技AⅧ	2	4	400	×	×		
					器楽実技BⅠ	1	1	100	×	×				
											器楽副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 各学期20分個人レッスン11回			

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)				授業科目	単位数	履年	修次	レベル	他学群 学生の 履修	他専修 学生の 履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画								
音 楽 演 習 ・ 実 技 専 修	音 楽 演 習 ・ 実 技					器楽実技BⅡ	1	1	100	×	×	器楽副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 各学期20分個人レッス ン11回	
						器楽実技BⅢ	1	2	200	×	×		
						器楽実技BⅣ	1	2	200	×	×		
						器楽実技BⅤ	1	3	300	×	×		
						器楽実技BⅥ	1	3	300	×	×		
						器楽実技BⅦ	1	4	400	×	×		
						器楽実技BⅧ	1	4	400	×	×		
						ピアノAⅠ	2	1	200	×	×		ピアノ主科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 45分の個人レッス ン
						ピアノAⅡ	2	1	200	×	×		
						ピアノAⅢ	2	2	300	×	×		
						ピアノAⅣ	2	2	300	×	×		
						ピアノAⅤ	2	3	400	×	×		
						ピアノAⅥ	2	3	400	×	×		
						ピアノAⅦ	2	4	400	×	×		
						ピアノAⅧ	2	4	400	×	×		
				○			ピアノBⅠ	1	1	100	×	△	ピアノ副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 15分の個人レッス ン
				○			ピアノBⅡ	1	1	100	×	△	
				○			ピアノBⅢ	1	2	200	×	△	
				○			ピアノBⅣ	1	2	200	×	△	
				○			ピアノBⅤ	1	3	300	×	△	
				○			ピアノBⅥ	1	3	300	×	△	
				○			ピアノBⅦ	1	4	400	×	△	
				○			ピアノBⅧ	1	4	400	×	△	
							声楽AⅠ	2	1	200	×	×	声楽主科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 Ⅰ～Ⅳ/30分の個人 レッスン Ⅴ～Ⅷ/45分の個人 レッスン
							声楽AⅡ	2	1	200	×	×	
							声楽AⅢ	2	2	300	×	×	
							声楽AⅣ	2	2	300	×	×	
							声楽AⅤ	2	3	400	×	×	
							声楽AⅥ	2	3	400	×	×	
							声楽AⅦ	2	4	400	×	×	
					声楽AⅧ	2	4	400	×	×			
		○			声楽BⅠ	1	1	100	×	△	声楽副科 Ⅰ～Ⅷの順で履修 15分の個人レッス ン		
		○			声楽BⅡ	1	1	100	×	△			
		○			声楽BⅢ	1	2	200	×	△			
		○			声楽BⅣ	1	2	200	×	△			
		○			声楽BⅤ	1	3	300	×	△			

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)				授 業 科 目	単位数	履年	修次	レベル	他学群 学生の 履 修	他専修 学生の 履 修	先修条件ほか	
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画									カル チャー
音 楽 演 習 ・ 実 技 教 会 音 楽			○			声楽BVI	1	3	300	×	△	声楽副科 I～VIIIの順で履修 15分の個人レッスン		
			○			声楽BVII	1	4	400	×	△			
			○			声楽BVIII	1	4	400	×	△			
							管楽合奏 I	1	1	200	×	×	I～VIIIの順で履修	
							管楽合奏 II	1	1	200	×	×		
							管楽合奏 III	1	2	300	×	×		
							管楽合奏 IV	1	2	300	×	×		
							管楽合奏 V	1	3	400	×	×		
							管楽合奏 VI	1	3	400	×	×		
							管楽合奏 VII	1	4	400	×	×		
							管楽合奏 VIII	1	4	400	×	×		
							弦楽合奏 I	1	1	200	×	×	I～VIIIの順で履修	
							弦楽合奏 II	1	1	200	×	×		
							弦楽合奏 III	1	2	300	×	×		
							弦楽合奏 IV	1	2	300	×	×		
							弦楽合奏 V	1	3	400	×	×		
							弦楽合奏 VI	1	3	400	×	×		
							弦楽合奏 VII	1	4	400	×	×		
							弦楽合奏 VIII	1	4	400	×	×		
							管弦楽合奏 I	2	1	200	×	△	I～VIIIの順で履修	
							管弦楽合奏 II	2	1	200	×	△		
							管弦楽合奏 III	2	2	300	×	△		
							管弦楽合奏 IV	2	2	300	×	△		
							管弦楽合奏 V	2	3	400	×	△		
							管弦楽合奏 VI	2	3	400	×	△		
							管弦楽合奏 VII	2	4	400	×	△		
							管弦楽合奏 VIII	2	4	400	×	△		
							伴奏法 I	2	2	200	×	×	ピアノまたはピアノを4 単位以上修得済みであること	
							伴奏法 II	2	2	200	×	×		伴奏法 I
								合唱A	1	1	100	×	○	重複して8単位まで履修可
								合唱B	1	2	200	×	○	重複して6単位まで履修可
						指揮法	2	2	200	×	×			
	教会音楽		○		○	礼拝学	4	1	200	○	○			
			○		○	賛美歌学	4	1	200	○	○			
			○		○	宗教音楽史	4	2	200	○	○			
						ハンドベル	1	1	100	×	△	重複して8単位まで履修可		

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					授業科目	単位数	履年	修次	レベル	他学群 学生の履修	他専修 学生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形 デザイン	映画	カル チャー								
音楽専修	教会音楽						パイプオルガン	1	1	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							ゴスペル	1	1	100	×	△	重複して8単位まで履修可	
							オラトリオ	1	1	100	×	×	重複して4単位まで履修可	
造形デザイン	造形基礎			○		○	西洋美術史A	4	1	100	○	○		
				○		○	西洋美術史B	4	1	100	○	○		
				○		○	日本美術史	4	1	100	○	○		
				○		○	東洋美術史	4	1	100	○	○		
				○		○	建築史	4	2	100	○	○		
				○		○	建築文化論	4	2	100	○	○		
				○		○	服飾文化史	2	1	100	○	○		
				○		○	現代美術論	4	3	300	○	○		
				○		○	ランドスケープ文化論	2	3	300	○	○		
				○		○	ファッション文化論	2	2	200	○	○		
				○		○	工芸概論	2	1	100	△	△		
				○		○	デザイン論	4	3	300	○	○		
				○		○	表現論A(メディア表現論)	4	3	300	○	○		
				○		○	表現論B(広告表現研究)	4	3	300	○	○		
				○		○	テキスタイル・マテリアル論	2	2	200	○	○		
造形演習・実技	造形演習						造形実技入門A(平面デザイン基礎)	2	1	100	×	×	重複して4単位まで履修可	
							造形実技入門B(素描)	2	1	100	×	×	重複して4単位まで履修可	
							造形実技入門C(デジタル編集基礎)	2	1	100	×	×	重複して4単位まで履修可	
							美術演習A(洋画-技法A)	2	1	100	×	×	重複して8単位まで履修可	
							美術演習A(洋画-技法B)	2	1	100	×	×	重複して8単位まで履修可	
							美術演習A(洋画-油彩)	2	1	100	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			美術演習A(洋画-コンテンポラリー)	2	1	100	×	△	重複して8単位まで履修可	
							美術演習B(日本画)	2	1	100	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			美術演習C(陶芸)	2	2	200	×	△	重複して8単位まで履修可	
							美術演習D(彫塑)	2	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							色彩構成演習	1	1	100	×	×	重複して4単位まで履修可	
				○			フォトアート演習	2	2	200	×	△	重複して8単位まで履修可	
							デザイン演習A(ドローイング)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							デザイン演習B(イラストレーション)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							デザイン演習C(グラフィックデザイン)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
					デザイン演習C(グラフィック広告表現)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可			
					デザイン演習D(グラフィック編集)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可			
					デザイン演習D(グラフィック技法A)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可			

(次のページに続く)

専修	科目区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					授業科目	単位数	履年	修次	レベル	他学群学生の履修	他専修学生の履修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造形デザイン	映画	カルチャー								
造形デザイン専修	造形演習・実技						デザイン演習D(グラフィック技法B)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							デザイン演習E(ヴィジュアルアート)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			デザイン演習F I (建築製図)	4	2	200	×	△		
				○			デザイン演習F II (建築・空間デザイン)	4	2	200	×	△	デザイン演習F I 重複して8単位まで履修可	
							デザイン演習G(メディアアート)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							テキスタイル演習A(染織)	2	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							テキスタイル演習B(染色)	2	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
							テキスタイル演習C(染織表現)	2	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
				○			テキスタイル演習D(服飾表現)	2	2	200	×	△	重複して8単位まで履修可	
							コンピュータ造形 I (CG&アート技法)	4	2	200	×	×	重複して8単位まで履修可	
					コンピュータ造形 II (3次元CG・動画)	4	3	300	×	×	コンピュータ造形 I 重複して8単位まで履修可			
映画基礎	映画基礎				○	○	脚本入門	2	1	100	○	○		
					○	○	映画演出原論	2	1	100	○	○		
							映画撮影技術論	2	1	100	×	×		
							映画特講	1~2	1	100	×	×	重複して8単位まで履修可	
					○	○	演出論B	2	2	200	○	○		
					○	○	映画史A	4	2	200	○	○		
					○	○	映画史B	4	2	200	○	○		
					○	○	映像論	4	2	200	○	○		
					○	○	ドキュメンタリー	2	2	200	○	○		
							ドキュメンタリー企画	2	3	300	×	×	フィールドワーク	
					映画音響デザイン論	2	2	200	×	×				
					映画演出研究	2	3	300	×	×				
			○	○	映画理論研究	2	3	300	○	○				
映画演習・実技	映画演習・実技						フィールドワーク	4	1	100	×	×		
							ドキュメンタリー実習	3	2	200	×	×	フィールドワーク、ドキュメンタリー	
							制作 I (ビデオ実習)	6	1	100	×	×		
							制作 II (フィルム実習)	6	3	300	×	×	制作 I	
							脚本演習	2	2	200	×	×	脚本入門	
							脚本実習A	1	2	200	×	×	脚本入門	
							脚本実習B	1	3	300	×	×	脚本入門	
							映画撮影実習 I	3	2	200	×	×	映画撮影技術論	
							映画撮影実習 II	3	2	200	×	×	映画撮影実習 I	
							映画撮影実習 III	2	3	300	×	×	映画撮影実習 II	
					編集演習 I	4	2	200	×	×				
					編集演習 II	4	2	200	×	×	編集演習 I			

(次のページに続く)

専修	科目 区分	マイナー指定科目 (◎印はマイナー必修科目)					授 業 科 目	単位数	履 修 年 次	レ ベ ル	他学群 学生の 履 修	他専修 学生の 履 修	先修条件ほか
		演劇	音楽	造 形 デザイン	映画	カル チャー							
映画 専修	映画 実技 演習						整音演習 I	4	3	300	×	×	
							整音演習 II	4	3	300	×	×	整音演習 I
					○		映像演技と演出	3	2	200	×	○	

諸注意

①専攻演習と卒業研究

- (イ) 3年次から「専攻演習」を履修することができます。この「専攻演習」は2年次の秋学期に事前登録を行います。希望者が集中した場合は選抜が行われることがあります。その際はそれまでに履修した科目の内容・成績が考慮されます。
- (ロ) 4年次に「卒業研究」を履修することができます。この「卒業研究」の指導は原則として3年次の「専攻演習」担当教員が引き続き指導することになります。4年次に「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習」を修得して下さい。「卒業研究」の複数回履修はできません。

②音楽専修実技科目について

音楽専修では、「声楽」「ピアノ」「器楽実技」において主科および副科を選択することができます。科目名にAとあるのが主科、Bとあるのが副科となります。

1・2年次は主科を2種類まで、3年次以降は1種類のみ選択することができます。

各授業とも、I～VIIIの順番で履修して下さい。

4. ビジネスマネジメント学群

1. ビジネスマネジメント学群について

ビジネスマネジメント学群では、「国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の育成」を目標として、「職業に直接結びつく」教育を行います。学群にはビジネスマネジメント学類（8プログラム構成）とアプリケーションマネジメント学類（3コース構成）の二つの学類がありますが、共通の学習・研究テーマは「マネジメント」です。マネジメントとは、簡単に言うと、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を上手に解決することです。皆さんがどちらの学類で学んでも、「マネジメント」能力が身につくように、きめ細かなカリキュラムを用意しています。

ビジネスマネジメント学類

1. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

ビジネスパーソンに要求されるのは、専門性を持ちながらも、多機能、多面的な職務をこなせる能力です。さまざまな業種・職種で活躍できるビジネスパーソンを育成するため、ビジネスマネジメント学類のカリキュラムは以下のような科目構成になっています。

基礎教育科目

コア科目: 本学の建学の精神や大学における学習・生活の基礎を学ぶ。

ガイダンス科目: 社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につけるとともに、学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成する。

専攻科目

学群共通科目: ビジネスマネジメント学類とアプリケーションマネジメント学類に共通する科目。(専攻演習、特別講義、留学準備用の科目など)

外国語科目: ビジネスの現場に必要な実践的な語学力(英語・中国語)の習得を目指す。英語については「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とする。

実習科目: 実務能力の習得(学園の精神「工且読書」、「学而事人」を实践)を目指す。ビジネスの現場に立ち会って初めて学ぶ意義が理解できる。

専門基礎科目: 専門的技能の習得に向けた経営の基礎学力向上を目指す。

専門応用科目: ビジネスパーソンに必要な特定範囲の専門的学力・能力の習得を目指す。

* 専門応用科目は、習得する知識・技能を業種(ビジネス)と機能(マネジメント)の視点から、ビジネス系科目群とマネジメント系科目群の2つに大きく分かれます。ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得できるように科目のとり方を決めています。ビジネスマネジメント学類ではこれをプログラムと呼んでいます。ビジネス系プログラムは、特定の業種に焦点をあてて専門応用科目を学んでいくので、将来、特定の業種で働いているイメージを強く持っている学生に適しています。これに対してマネジメント系プログラムは、経営の特定の機能に焦点をあてて専門応用科目を学んでいくので、将来、企業の特定の部署で働いているイメージを持っている学生や、まだ自分の将来について特定のイメージがつかめないでいる学生に適しています。

2. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

ビジネスマネジメント学類は以下の要件を満たす学生に対し、「学士(経営政策学)」を授与します。

- ① 学園の精神である、「工且読書」、「学而事人」を実践できる。
- ② 社会人としての常識とモラルを持つ。
- ③ 企業実務の基本を理解し、自らのキャリア開発について明確なビジョンを持つとともに絶えず学習して専門性を高める努力ができる。
- ④ 自分とは異なるさまざまな背景を持つ人々とお互いに理解し合いながら仕事を進めることができる。
- ⑤ 日々生ずるさまざまな問題に対して、失敗を恐れずに解決のための行動を起こすことができる。
- ⑥ たとえ困難が生じたとしても、あきらめずに最後までやり抜くことができる。
- ⑦ 本学群の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位(基礎教育科目28単位以上、専攻科目54単位以上、その他自由選択、計124単位)を修得していること。

ビジネスマネジメント学類の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目:コア科目18単位、「社会人基礎Ⅰ」2単位、「社会人基礎Ⅱ」2単位、「現代経営入門」2単位、「現代会計入門」2単位、「現代法入門」2単位、合計28単位
専攻科目:「BM TOEIC®」(クラス指定)8単位、「専門基礎科目」より選択14単位、「ビジネス系」「マネジメント系」の中から、プログラムを一つ選択しその科目群から選択20単位、選択したプログラムとは別の系統より自由に選択10単位、「実習科目」より選択2単位、合計54単位
基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位
入学時からの通算GPAが1.5以上

3. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		ビジネスマネジメント学類	
基礎教育科目 28単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門 ② 口語表現 I ② 英語コア I A ② 英語コア II A ② コンピュータリテラシー I ②	文章表現 I ② 英語コア I B ② 英語コア II B ②
	基盤教育科目 2単位必修	コンピュータリテラシー II ②	
	ガイダンス科目 10単位必修	社会人基礎 I ② 現代経営入門 ② 現代法入門 ②	社会人基礎 II ② 現代会計入門 ②
専攻科目 54単位 (最低必要単位)	外国語科目 (注2) 8単位必修	BM TOEIC® I A ② BM TOEIC® II A ②	BM TOEIC® I B ② BM TOEIC® II B ②
	専門基礎科目 14単位必修	選択14単位	
	専門応用科目 30単位必修	「ビジネス系」「マネジメント系」の中から、プログラムを一つ選択しその科目群から選択20単位、選択したプログラムとは別の系統より自由に選択10単位、合計30単位	
	実習科目 2単位必修	インターンシップ ②～⑥ 国内ビジネス研修 ②～⑥ ビジネス演習 ②～⑥	海外ビジネス研修 ②～⑥ フィールドトリップ ①～④
自由選択	<ul style="list-style-type: none"> ・学群共通科目 ・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位 ・自学群他学類専攻科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育院の科目 ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む)認定単位(P.194) ・各種技能審査による認定単位(P.195) 		
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、自由選択、あわせて 124単位	【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5以上 2. プログラムを1つ選び、メジャーとして必ず修了すること 【早期卒業の要件】 1. 本学に3年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.6以上 2. TOEIC® 700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること(注3)		

(注1) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等(日本語を母語としない者。以下同じ。)は、「文章表現 I」、「英語コア I A・I B・II A・II B」に替えて「日本語専門基礎 A I・A II・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注2) 外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。

(注3) 技能審査による単位認定の申請方法についてはP195を参照してください。

他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

4. プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶためのプログラムが置かれています。ビジネスマネジメント学類の専攻科目で構成されるプログラムを登録すると、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、ビジネスマネジメント

学類以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、ビジネスマネジメント学類のプログラムからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

ただし、メジャーとして修得した科目については、マイナーの修了要件科目として認定することはできません。

メジャーはビジネスマネジメント学類のプログラムより選択してください。メジャーの登録は、2セメスター目に受け付けます。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、5セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。

プログラムの種類は、以下のとおりです。

ビジネスマネジメント学類

ビジネス系プログラム	メジャー	マイナー
国際・金融ビジネス	○	○
流通・マーケティングビジネス	○	○
ICTビジネス	○	○
観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス	○	○

マネジメント系プログラム	メジャー	マイナー
経営戦略・管理	○	○
会計・財務	○	○
経済・法律	○	○
情報・環境	○	○

(1) ビジネス系プログラム

国際・金融ビジネス

1. 教育目的

企業の海外部門、総合商社、貿易会社、外資系企業、金融機関などへの就職を目指す学生向けのプログラムです。近年、国際的な資金や資材の調達、製造拠点・販売拠点の海外移転など、企業経営は最適を求め国境を超え、ますますグローバル化が加速しています。このプログラムでは、企業を取り巻くグローバルな経営環境の変化を分析し、重要度を増しつつある中国をはじめとする新興国でのビジネスを中心に、企業のグローバル経営全般について体系的に学習します。また、経済体制、文化や言語の違う異文化環境でのビジネス、グローバルなモノや資金の流れなどの視点を加え、理論と実践の両面においてバランスの取れた知識の形成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、国際・金融ビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に

置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。国際ビジネスに関連する科目には、「グローバル経営入門」、「アジア企業経営論」、「総合商社論」などがあります。金融ビジネスに関連する科目には、「外国為替入門」、「金融リスク管理」などがあります。

メジャー：「国際・金融ビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系に置かれた4つの科目群（「経営戦略・管理」、「会計・財務」、「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「国際・金融ビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

流通・マーケティングビジネス

1. 教育目的

商品は生産者が作り、この商品の小分け機能をもつ商社・卸業者が活躍し、小売業が色々な知恵を絞って消費者に提供されていきます。最近ではユニクロやZARA・GAPに代表されるようにSPA（製販一体型）方式が進み、安くてファッショナブルな商品が流通しています。一方、モノが市場に溢れ、消費者の消費志向が多様化すると、より消費者にマーケティング＝「売れる仕組みづくり」などと言われるような販売促進・立地条件の開拓・商品の研究が求められます。紙媒体（新聞・雑誌）や電波媒体（テレビ・ラジオ）による露出如何によってまるで売上が変わってきます。最近ではネットによる取引が10兆円にも上るともいわれ、ますますこの分野の研究から目が離せません。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、流通・マーケティングビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。流通ビジネスに関連する科目には、「物流入門」、「流通入門」、「国際ロジスティクス」などがあります。マーケティングビジネスに関連する科目には、「ブランド論入門」、「マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」、「顧客心理」などがあります。

メジャー：「流通・マーケティングビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」、「会計・財務」、「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「流通・マーケティングビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

ICTビジネス

1. 教育目的

産業社会が持続可能な成長をめざす時代へと変化しつつある中、ICT（情報通信技術）は、あらゆるビジネス、あらゆる企業活動において、もはや不可欠なマネジメントツールとなっています。ICTビジネスプログラムでは、ICTに関する基礎的な知識の習得からスタートし、ICTを用いていかに優れたビジネスモデルを構築するか、ICTでいかに企業経営を進化させるかについて学び、新しいビジネスを創出できる人材を育成することをめざします。ICTをビジネスマネジメントの場で役立てるため、あるいはICTが生み出す新しいビジネスチャンスをしっかりとつかむために必要な知識・ノウハウを着実に学んでいきます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、ICTビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。ICTビジネスに関連する科目には、「情報通信技術と社会」、「インターネットビジネス」、「コンテンツビジネス」などがあります。

メジャー：「ICTビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」、「会計・財務」、「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「ICTビジネスビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス

1. 教育目的

物質的な豊かさより心の豊かさが強く求められるようになり、癒し、楽しさ、感動、幸福感を与える観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネスの経済的・文化的影響力は年々向上し、21世紀の成長産業といわれています。

本プログラムは、卒業後、旅行、ホテル、ブライダル、外食、テーマパーク、映画、音楽、ゲーム、スポーツ、航空、鉄道、バス、クルーズなどの分野に進みたい人、接客サービスに携わりたい人を対象にしています。

旅行、ホテル・ブライダル、レジャーの3部門を柱に、それぞれのビジネスに求められる専門知識や管理技法、企画プロデュース力を、講義やインターンシップ、海外ビジネス研修などを通じて実践的に身につけます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、マネジメント系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。観光関連の科目には「レジャー論」、「観光学概論」などが、ホスピタリティ関連の科目には「ホテルビジネス」、「ブライダルビジネス」などが、エンターテインメント関連の科目には「テーマパーク論」、「レジャー産業論」などがあります。

メジャー：「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群」の中から20単位、マネジメント系にある4つの科目群（「経営戦略・管理」、「会計・財務」、「経済・法律」および「情報・環境」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス科目群」から20単位以上修得してください。

(2) マネジメント系プログラム

経営戦略・管理

1. 教育目的

企業経営に関する幅広い分野に関心をもち、将来のビジネスリーダーを目指す学生向けのプログラムです。近年の激変する経営環境のもと、企業は持続的発展を目標に、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）を有効に活用し、戦略を構築していく必要があります。このプログラムでは、経営学を中心に企業の運営や管理に関する様々な分野を取り上げ、企業の経営管理や組織のあり方、経営戦略などについて専門的に学びます。学習にあたっては、理論だけでなく、ケーススタディなどの手法も取り入れ、企業活動の実践的側面についても理解を深めていきます。また、中小企業やベンチャービジネス、地域振興などの分野も加え、幅広い知識の形成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、経営戦略・管理科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。経営戦略関連の科目には「経営戦略論Ⅰ・Ⅱ」などが、経営管理関連の科目には「経営管理論Ⅰ・Ⅱ」などがあります。

メジャー：「経営戦略・管理科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」、「流通・マーケティングビジネス」、「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「経営戦略・管理科目群」から20単位以上修得してください。

会計・財務

1. 教育目的

「経営数値」は、会社のみならず学校、病院などの公益法人を含むあらゆる企業の経営活動に関わっています。「経営数値」を表すものとして財務諸表がよく知られているところです。ビジネスを行うにあたって「経営数値」を理解していなければ、精度の高い経営分析や正しい意思決定を行うことはできません。「経営数値」に関係する分野には「会計・財務・簿記・税務」など広範囲の内容が含まれており、会計・財務プログラムではそれらの内容や企業活動との関係を明らかにしていきます。本プログラムを通じて「経営数値」を理解し、評価しながら的確な意思決定を行うことができるビジネスパーソンの育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、会計・財務科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。会計関連の科目には「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」、「国際会計Ⅰ・Ⅱ」などが、財務関連の科目には「財務管理論Ⅰ・Ⅱ」、「グローバル・コーポレート・ファイナンスⅠ・Ⅱ」などがあります。

メジャー：「会計・財務科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」、「流通・マーケティングビジネス」、「ICTビジネス」および「観光・

ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス」)の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー:「会計・財務科目群」から20単位以上修得してください。

経済・法律

1. 教育目的

経済・法律プログラムは、文字通り経済と法律を学ぶプログラムです。経済学や法律学は、とかく普段のビジネス現場にあまり関係がないように思われがちです。しかし、これらはビジネスをするために重要な基礎知識で、例えば、企業が経営方針を決めたり投資する際に欠かせない景気予測などには経済学の知識が必要です。また法律学は、社会・生活のルールを学ぶことで、取引相手とのトラブルの生じない契約の結び方や紛争の解決方法、また株式会社の仕組みや売買代金の回収方法などを知ることができます。特に企業の管理部門で活躍したい諸君に、欠かせない知識を学んでもらいたいプログラムだといえます。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、経済・法律科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、ビジネス系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。経済関連の科目には「マイクロ経済学」、「マクロ経済学」などが、法律関連の科目には「民法Ⅰ・Ⅱ」、「企業法Ⅰ・Ⅱ」などがあります。

メジャー:「経済・法律科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群(「国際・金融ビジネス」、「流通・マーケティングビジネス」、「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス」)の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー:「経済・法律科目群」から20単位以上修得してください。

情報・環境

1. 教育目的

情報・環境プログラムでは、現代の経営において不可欠な概念となっている「情報」と「環境」について専門的に取り扱っています。「情報」と「環境」とは、突き詰めて考えれば、「状態」と「論理」であり、人間あるいは全ての動物の活動を包含する概念です。観察して判断して実行することは、人間であればだれもが必要とする能力であって、組織の経営においても同様に必要な能力です。ある状況をどのように捉えるのか、その結果それをどのように処理するのか。このようなことについて、学び・考えることができるような専門科目がそろっているプログラムです。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムでは、情報・環境ビジネス科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランスよく習得するため、**ビジネス・マネジメント**系科目群に置かれた専門応用科目も履修しなければいけません。情報関連の科目には「経営情報リテラシー」、「企業の数量的意思決定」などが、環境関連の科目には「環境と情報」、「環境・エネルギー政策論」などがあります。

メジャー：「情報・環境科目群」の中から20単位、ビジネス系にある4つの科目群（「国際・金融ビジネス」、「流通・マーケティングビジネス」、「ICTビジネス」および「観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス」）の中から、自由に選択10単位、合計30単位以上修得してください。

マイナー：「情報・環境科目群」から20単位以上修得してください。

5. ガイダンス・専攻科目と諸注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

新宿キャンパス移転以降は、「 」や「 」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付加されたり、履修不可となる場合があります。詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
科 ガイ ダ ン ス 目 ス	社会人基礎Ⅰ	2	1	100	×	
	社会人基礎Ⅱ	2	1	100	×	社会人基礎Ⅰ
	現代経営入門	2	1	100	○	
	現代会計入門	2	1	100	○	
	現代法入門	2	1	100	○	
外 国 語 科 目	BM TOEIC® I A	2	2	200	×	英語コアⅡA、ⅡB
	BM TOEIC® I B	2	2	200	×	英語コアⅡA、ⅡB
	BM TOEIC® ⅡA	2	3	300	×	BM TOEIC® I A
	BM TOEIC® ⅡB	2	3	300	×	BM TOEIC® I B
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠA	2	2	200	○	
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠB	2	2	200	○	
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡA	2	2	300	○	
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡB	2	2	300	○	
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠA	2	2	200	○	
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠB	2	2	200	○	
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡA	2	2	300	○	
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡB	2	2	300	○	
専 門 基 礎 科 目	経済学入門	2	1	100	○	
	日本の経営者	2	1	100	○	
	ビジネス数字の読み方	2	1	100	○	
	はじめての金融	2	1	100	○	
	現代ホスピタリティ	2	1	100	○	
	ビジネスマナー	2	1	100	○	
	企業経営と情報入門	2	1	100	○	
	日本経済入門	2	2	200	○	
	経営戦略入門	2	2	200	○	
	マーケティング入門	2	2	200	○	
	消費者心理入門	2	2	200	○	
	ビジネス統計	2	2	200	○	
	ビジネス法務	2	2	200	○	
	管理会計入門	2	2	200	○	
	組織と心理	2	2	200	○	
	ビジネス倫理	2	2	200	○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
実習科目	インターンシップ	2～6	2	300	○	
	国内ビジネス研修	2～6	2	300	○	
	海外ビジネス研修	2～6	2	300	○	
	ビジネス演習	2～6	2	300	○	
	フィールドトリップ	1～4	2	200	○	
学群共通科目	海外留学研修準備学習	2	1	100	○	
	職業指導Ⅰ	2	2	200	○	職業指導
	職業指導Ⅱ	2	2	200	○	
	留学のための英語TOEFL	2	1	200	○	
	留学生のためのビジネス書講読Ⅰ	2	1	100	○	
	留学生のためのビジネス書講読Ⅱ	2	2	200	○	
	特別講義Ⅰ	2	2	200	○	
	特別講義Ⅱ	2	2	200	○	
	特別講義Ⅲ	2	2	200	○	
	特別講義Ⅳ	2	2	200	○	
	特別講義Ⅴ	2	2	200	○	
	専攻演習Ⅰ	2	2	200	○	
	専攻演習Ⅱ	2	3	300	○	
	専攻演習Ⅲ	2	3	300	○	
	専攻演習Ⅳ	2	4	300	○	
	卒業論文	2	4	400	○	
国際・金融ビジネス系	異文化経営論	2	2	200	○	
	グローバル経営入門	2	2	200	○	
	外国為替入門	2	2	200	○	
	家計と金融	2	2	200	○	
	貿易論	2	2	200	○	
	貿易実務	2	2	200	○	
	国際経済入門	2	2	200	○	
	アジア企業経営論	2	2	300	○	
	中国企業経営論	2	2	300	○	
	グローバル企業戦略論Ⅰ	2	2	300	○	グローバル企業戦略論Ⅰ
	グローバル企業戦略論Ⅱ	2	2	300	○	
	国際会計Ⅰ	2	3	300	○	
	国際会計Ⅱ	2	3	300	○	
	日本企業経営論(英語)	2	2	300	○	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	2	2	300	○	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	2	2	300	○	
	金融リスク管理	2	2	300	○	
	国際マーケティング	2	2	300	○	
国際ロジスティクス	2	2	300	○		
総合商社論	2	2	300	○		

(次のページに続く)

注意 「卒業論文」は、卒業を希望するセメスターに登録してください。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか	
流通・マーケティングビジネス科目群	物流入門	2	1	100	○		
	流通入門	2	1	100	○		
	ブランド論入門	2	1	100	○		
	広告論Ⅰ(広告の基本)	2	1	100	○		
	広告論Ⅱ(広告の理論と計画)	2	2	200	○		
	マーケティング論Ⅰ(マーケティングの基礎理論)	2	2	100	○		
	マーケティング論Ⅱ(マーケット戦略の実践)	2	2	200	○		
	国際ロジスティクス	2	2	300	○		
	ファッションビジネス	2	2	200	○		
	ベンチャー起業論	2	2	200	○		
	サービスマーケティング論	2	2	200	○		
	Webマーケティング	2	2	200	○		
	市場調査入門	2	2	200	○		
	商品企画の実際	2	2	200	○		
	小売店舗経営論	2	2	200	○		
	ブランドと商品	2	2	200	○		
	顧客心理	2	2	200	○		
	サービスマネジメント	2	2	300	○		
	環境マーケティング	2	2	300	○		
	市場調査フィールドワーク	2	2	300	○		
	消費者行動論	2	2	300	○		
	まちづくり論	2	2	300	○		
	ICTビジネス科目群	情報通信技術と社会	2	1	100	○	
		経営情報システム演習Ⅰ	2	2	200	○	
		経営情報システム演習Ⅱ	2	2	200	○	経営情報システム演習Ⅰ
		パソコン利用のグラフ意思決定	2	2	200	○	
		パソコン利用の管理シミュレーション	2	2	200	○	
ネットワーク管理		2	2	200	○		
SE・プログラマーのための会計知識		2	2	200	○		
ビジネス表計算演習		2	2	200	○		
ビジネスプログラミング		2	2	200	○		
インターネット・ビジネス		2	2	200	○		
ビジネスウェブデザイン		2	2	200	○		
コンテンツビジネス		2	2	200	○		
モバイルビジネス		2	2	200	○		
エコビジネス		2	2	200	○		
航空とICT		2	2	200	○		
観光とICT		2	2	200	○		
物流とICT		2	2	200	○		
ICTベンチャービジネス		2	2	300	○		
経営データベース管理		2	2	300	○		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
ビジネス系	データ処理の理論と手法	2	2	300	○	
	レジャー論	2	1	100	○	
	観光学概論	2	1	100	○	
	観光地理	2	1	100	○	
	旅行業経営論Ⅰ(経営の基礎)	2	2	200	○	
	旅行業経営論Ⅱ(ニューツーリズムの経営)	2	2	300	○	旅行業経営論Ⅰ(経営の基礎)
	旅行マーケティング	2	2	300	○	旅行業経営論Ⅰ(マーケティングの基礎理論) 旅行業経営論Ⅰ(経営の基礎)
	観光交通論	2	2	300	○	
	ホテルビジネスⅠ(営業)	2	2	200	○	
	ホテルビジネスⅡ(管理)	2	2	300	○	ホテルビジネスⅠ(営業)
	ホテルマネジメント	2	2	300	○	
	ブライダルビジネス	2	2	200	○	
	イベント・コンベンション(MICE)	2	2	300	○	
	フードサービス産業論	2	2	300	○	
	テーマパーク論	2	2	200	○	
	ホスピタリティ空間デザイン	2	2	300	○	
	観光リゾート開発論	2	2	300	○	観光学概論
	観光安全システム論	2	2	300	○	
	レジャー産業論	2	2	200	○	
	カルチャー・エンターテインメント産業論	2	2	200	○	
	スポーツ産業論	2	2	200	○	
航空輸送概論	2	2	300	○		
航空マーケティング	2	2	300	○		
マネジメント系	リスクマネジメント入門	2	2	200	○	
	経営史入門	2	2	200	○	
	中小企業経営論	2	2	200	○	
	ベンチャービジネス	2	2	300	○	
	保険と経営	2	2	200	○	
	経営管理論Ⅰ	2	2	300	○	
	経営管理論Ⅱ	2	2	300	○	
	経営戦略論Ⅰ	2	2	200	○	
	経営戦略論Ⅱ	2	2	300	○	経営戦略論Ⅰ
	人事管理論Ⅰ	2	2	300	○	
	人事管理論Ⅱ	2	2	300	○	
	生産管理論Ⅰ	2	2	300	○	
	生産管理論Ⅱ	2	2	300	○	生産管理論Ⅰ
	組織と集団	2	2	200	○	組織と心理
	ホスピタリティ経営論	2	2	200	○	現代ホスピタリティ
	ビジネス立地論	2	2	300	○	
	地域振興論	2	2	300	○	
地域ブランド論	2	2	300	○		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
経営戦略	経営と環境	2	2	300	○	
	ナレッジマネジメント	2	2	300	○	
会計・財務科目群	簿記Ⅰ	2	1	100	○	
	現代社会と監査	2	2	200	○	
	内部統制とリスクマネジメント	2	2	200	○	
	簿記Ⅱ	2	2	200	○	
	簿記Ⅲ	2	2	200	○	
	財務会計論Ⅰ	2	2	200	○	
	財務会計論Ⅱ	2	2	200	○	
	税法概説	2	2	200	○	
	財務管理論Ⅰ	2	2	200	○	
	財務管理論Ⅱ	2	2	200	○	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	2	2	300	○	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	2	2	300	○	
	意思決定のための管理会計	2	2	300	○	
	業績管理会計	2	2	300	○	
	簿記Ⅳ	2	3	300	○	
	簿記Ⅴ	2	3	300	○	
	国際会計Ⅰ	2	3	300	○	
	国際会計Ⅱ	2	3	300	○	
	税務会計Ⅰ	2	2	300	○	
	税務会計Ⅱ	2	2	300	○	
マネジメント系	ミクロ経済学	2	2	200	○	
	マクロ経済学	2	2	200	○	
	国際経済入門	2	2	200	○	
	環境と経済	2	2	300	○	
	民法Ⅰ(財産・取引)	2	2	200	○	
	民法Ⅱ(契約・不法行為・家族)	2	2	200	○	
	企業法Ⅰ(会社法)	2	2	300	○	
	企業法Ⅱ(商法・金融商品取引法)	2	2	300	○	
	国際取引法	2	2	300	○	
	不動産ビジネスと法律	2	2	300	○	
	民事紛争解決手続	2	2	200	○	
	登記と手続	2	2	200	○	
	自由な競争の法律(経済法Ⅰ)	2	2	300	○	
	公正な競争の法律(経済法Ⅱ)	2	2	300	○	
	ブランドと名称の法律(知的財産権法Ⅰ)	2	2	300	○	
	著作権ビジネスと法律(知的財産権法Ⅱ)	2	2	300	○	
	消費者法	2	2	200	○	
	情報ネットワークと法律	2	2	300	○	
	ホスピタリティと法律	2	2	200	○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
マネジメント系 情報・環境科目群	経営情報リテラシー	2	1	100	○	
	経営情報システム論Ⅰ	2	2	200	○	
	経営情報システム論Ⅱ	2	2	200	○	経営情報システム論Ⅰ
	情報科学基礎論Ⅰ(戦略・管理)	2	2	200	○	
	情報科学基礎論Ⅱ(テクノロジー)	2	2	200	○	
	経営情報論	2	2	200	○	
	情報戦略論	2	2	200	○	
	イノベーション経営	2	2	200	○	
	技術経営論	2	2	200	○	
	環境と情報	2	2	200	○	
	経営と環境	2	2	300 200	○	
	情報セキュリティ	2	2	200	○	
	プロジェクト・マネジメント	2	2	200	○	
	企業の数量的意思決定	2	2	300	○	
	非営利組織の数量的意思決定	2	2	300	○	
	環境・エネルギー政策論	2	2	300	○	
	ナレッジマネジメント	2	2	300	○	
	情報ネットワークと法律	2	2	300	○	

アビエーションマネジメント学類

1. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

本学類では、「エアライン・ビジネスコース」、「エアライン・ホスピタリティコース」、「フライト・オペレーションコース」と航空業界の基本となる分野において活躍できる人財の育成をカリキュラムの基本ポリシーとしています。「エアライン・ビジネスコース」では、航空関連企業のマネジメント分野で必要とされる理論や知識を中心に学習します。「エアライン・ホスピタリティコース」では、空港・機内でのサービスを担うグランドスタッフや客室乗務員の分野に必要な理論やスキルを学習します。「フライト・オペレーションコース」では航空機の操縦を担うパイロットになるために必要な専門知識と技術を修得します。特に「エアライン・ホスピタリティコース」では2年次秋学期に約4か月の留学、「フライト・オペレーションコース」では2年次秋学期より4年次春学期終了まで約2年、海外のフライト訓練学校での操縦実習を経て操縦資格取得を目指します。3つのコースでは単にそれぞれの分野の専門知識や技術を習得するだけでなく、ビジネスマネジメントの基礎理論、専攻コースの科目および、国際コミュニケーション力を高める外国語など多様なカリキュラム内容から選択し学習していきます。これにより、グローバル時代のニーズに応える幅広い視野と教養、豊かな人間性などの国際ビジネスセンスを身につけた人財となることを目標としています。

2. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

アビエーションマネジメント学類は以下の要件を満たす学生に対し、「学士(アビエーションマネジメント)」を授与します。

- ①学園の精神を受け継ぎ、「工且読書」、「学而事人」を実践できる。
- ②社会人としての常識とモラルを持つ。
- ③航空業界等で活躍できる職業人としての、確かな知識・技術と経営マインドを身につける。
- ④語学力を磨き、異文化を理解し、グローバルな視点から行動でき、相手の気持ちを思いやることができる豊かな人間性を持つ。
- ⑤日々生ずる諸問題に対して、失敗を恐れず解決のために行動を起こすことができる。
- ⑥たとえ困難が生じて、最後までやり抜くことができる。
- ⑦本学群の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位(基礎教育科目24単位以上、専攻科目56単位以上、その他自由選択、計124単位)を修得していること。

アビエーションマネジメント学類の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育:コア科目16単位、「社会人基礎Ⅰ」2単位、「社会人基礎Ⅱ」2単位、「現代経営入門」2単位、「現代会計入門」2単位、合計24単位

専攻科目:「BM TOEIC®」(クラス指定)または「アビエーション英語」8単位、各自が選択したコースごとに24単位、学群・学類共通科目・学類専攻科目の中から自由に選択24単位、合計56単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位

入学時からの通算GPAが1.5以上

3. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		アビエーションマネジメント学類	
基礎教育科目 24単位 (最低必要単位)	コア科目 (注1) 16単位必修	キリスト教入門 ② 口語表現 I ② 英語コア I A ② 英語コア II A ② コンピュータリテラシー I ②	文章表現 I ② 英語コア I B ② 英語コア II B ②
	ガイダンス 科目 8単位必修	社会人基礎 I ② 現代経営入門 ②	社会人基礎 II ② 現代会計入門 ②
専攻科目 56単位 (最低必要単位)	外国語科目 (注2) 8単位必修	BM TOEIC® I A ② BM TOEIC® II A ② (エアライン・ビジネスおよびホスピタリティコース生)	BM TOEIC® I B ② BM TOEIC® II B ②
	専門応用科目 48単位必修	アビエーション英語 I A ② アビエーション英語 II A ② (フライト・オペレーションコース生)	アビエーション英語 I B ② アビエーション英語 II B ②
自由選択		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位 ・自学群他学類専攻科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育院の科目 ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む)認定単位(P.194) ・各種技能審査による認定単位(P.195) 	
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、 自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5以上 2. 専攻コースを1つ選び、メジャーとして必ず修了すること 【早期卒業の要件】 1. 本学に3年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算GPAが3.6以上 2. TOEIC® 700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること(注3)	

(注1) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。外国人留学生等(日本語を母語としない者。以下同じ。)は、「文章表現 I」、「英語コア I A・I B・II A・II B」に替えて「日本語専門基礎 A I・A II・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

(注2) 外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。

(注3) 技能審査による単位認定の申請方法についてはP195を参照してください。

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務局教務担当に相談してください。

4. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。アビエーションマネジメント学類の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー:メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、アビエーションマネジメント学類以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー:マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、他学類・他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

アビエーションマネジメント学類の専攻コースは人数制限があるため2セメスター目に選考試験があります（フライト・オペレーションコースの選考は入学時に終了しています）。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、5セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで、変更もできます。

アビエーションマネジメント学類

専攻コース	メジャー	マイナー
エアライン・ビジネス	○	
エアライン・ホスピタリティ	○	
フライト・オペレーション	○	

エアライン・ビジネスコース

1. 教育目的

航空輸送産業は近年、変革と競争の時代を迎えています。国内では、羽田空港4本目の滑走路・国際線ターミナルの完成、成田空港発着枠拡大、国際線ハブ機能強化と新規格安航空会社（LCC）の設立など拡大基調があり、海外では近隣アジア諸国のハブ空港争い、中国航空市場拡大、LCCの路線網拡大など、国内外共に拡大成長が期待されています。

こうした状況を背景に、本コースでは航空会社旅客・貨物・運航部門、航空関連企業や航空関連商社、航空会社代理店などの分野において、時代の要請に応える「国際的センスとコミュニケーション力」、「価値創造力」と「豊かな人間性と教養」をもった人財育成を目標としています。

2. カリキュラムの特徴

エアライン・ビジネスコースのカリキュラムは、単に航空業界での「専門知識」を学ぶだけでなく、「幅広い教養」、「国際的センスとコミュニケーション力」の修得を目的とすることから、航空ビジネス専門分野としての安全管理、営業、旅客・貨物、運航、整備、航空関連法規、などの専門知識の習得とビジネスの広い視野と国際センスの修得を目指すカリキュラムとなっています。

具体的には、「航空輸送概論」、「エアラインの営業戦略」「エアラインの整備事業Ⅰ、Ⅱ」「航空貨物輸送論Ⅰ、Ⅱ」「航空実務概論」「航空関連法規基礎」「航空法入門Ⅰ、Ⅱ」などの科目や「異文化経営論」「グローバル経営入門」「貿易論」などがあります。この他、航空関連会社でのインターンシップ、航空業界関係者による特別講義、企業訪問などが織り込まれている講義科目も設定されています。

メジャー:「エアライン・ビジネス科目群」から24単位、学群共通科目、学類共通科目、学類専

攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー:なし

エアライン・ホスピタリティコース

1. 教育目的

航空会社が政府の厳しい規制と保護下におかれ、競争が抑制されていた時代には、企業の経営にとって重要な要件は制度によって定められていました。しかし、1980年代以降の世界的な規制緩和・競争促進政策の流れのもと、現代の航空会社は、政府に頼ることなく、自身の経営政策によって市場を切り開き、生き残っていくことを求められています。

このような中であって、現代に求められる航空輸送におけるサービス分野の人財とは、相手の気持ちを感じるホスピタリティ・マインドと実践力に加え、時々刻々変化するグローバルな市場におけるさまざまな変化要因に対して、自分の頭で考え、行動することのできる経営的なセンスも身につけた人財でなければなりません。

当コースは、そのような時代要請に基づいて、単に実用的な知識の習得だけではなく、航空市場とサービス業務についての基本を学び、そのあとは自らの頭で考えることのできる「経営センスとホスピタリティ・マインドにあふれたキャビン・アテンダントやグランド・スタッフ」を育てることを目的としています。

2. カリキュラムの特徴

エアライン・ホスピタリティコースの特徴は、上記の考え方に基づき、航空業界の基本的な経済・経営の基本を理解できるよう、「交通経済論」、「国際社会論」、「国際交通論」など、経済学・経営学の方法論に基づいたアカデミックな科目や、「国際ツーリズム論」、「グローバル教養論」、「国際ビジネス戦略論」など、国際的な視点を養う科目を用意していることです。航空輸送事業の採用は安定的ではなく、必ずしも希望どおりの就職が常に可能とは限りませんが、この基本的な理論や知識を習得しておけば、広範な他のビジネス分野への方向転換も容易です。

むろん、コンピュータ・リザベーション・システムを実際に扱って情報戦略を実践的に学ぶ「観光情報戦略論Ⅰ、Ⅱ」をはじめ、自己表現方法やホスピタリティの提供方法を学ぶ科目や、航空業界の実態を経験・見学する「海外航空実務概論」、インターンシップ科目など、実用的な科目も多彩に用意されています。そして、英語力と国際感覚を磨くために、2年次の秋に「海外留学」が組み込まれていることも、当コースのカリキュラムの大きな特徴です。

メジャー:「エアライン・ホスピタリティ科目群」から24単位、学群共通科目、学類共通科目、

学類専攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー:なし

フライト・オペレーションコース

1. 教育目的

経済、文化、芸術などあらゆる面でグローバル化が進む現代の社会においては、国境を越えた人の行き来を支える航空業界の役割がますます重要になっています。日本の航空産業も例外ではなく、近年、航空会社の新規参入や空港の拡充、新空港の開設が相次ぎ、航空機の保有数も増加するなど、飛躍的な発展を遂げてきました。また、国土交通省もアジアゲートウェイ構想や30ミリオンプラン等のキャンペーンを通して航空需要の喚起を行なっています。その一方で日本の空を支えるパイロットの不足は深刻な問題になっています。いまや航空業界はパイロットを確保するため、航空大学校や自社養成だけでなく、幅広い分野から人材を採用する必要に直面しています。また多くの人命を預かるパイロットの養成には、厳しい訓練と強靱な精神力が求められることは言うまでもありません。それに加えて、近年、特に必要とされてきているのが、英語能力とマネジメント能力の向上です。

このような時代の要請に応え、本コースでは、ただ単に資格を持ったパイロットを育てるというのではなく、国際的な舞台で活躍し、社会に役立つ人を育てるという桜美林大学の建学の精神に則って、洗練された教養と豊かな知性、そして強い使命感とマネジメント能力を兼ね備えたパイロットの養成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

フライト・オペレーションコースでは、上記の考え方にに基づき、まずビジネスマネジメント学群の基礎学習である「現代経営入門」や「現代会計入門」等を学び、同時に海外で行われる飛行訓練とその間の生活の基盤となる英語力とコミュニケーションスキルを磨くことに取り組み、ネイティブスピーカー教員の指導下で、TOEFL® PBT 525点（iBT 70～71点）を目指します。

これらに加えて各操縦士免許の取得を目的として、航空機の操縦に必要な知識と技倆を養う科目を配置しています。専門領域として航空無線通信、航空法、航空施設、航空交通官制、空中航法、航空気象、航空機システム、航空機用エンジン、航空力学、航空生理、基本操縦法、航空安全等の科目を系統立てて学び、本学の提携校であるネルソン・マルボロ国立工科大学で2年間に渡って行われる飛行訓練課程で操縦技倆を修得します。

【取得可能な資格】

国土交通省航空局：事業用操縦士技能証明(単発・多発)、計器飛行証明

ニュージーランド航空局：自家用操縦士技能証明、事業用操縦士技能証明(単発・多発)、計器飛行証明

総務省：航空無線通信士

※詳細は、P. 258を参照してください。

メジャー：「フライト・オペレーション科目群」から24単位、学群共通科目、学類共通科目、学類専攻科目群の中から自由に選択24単位、合計48単位以上修得してください。

マイナー：なし

5. ガイダンス・専攻科目と諸注意

- ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

新宿キャンパス移転以降は、「」や「」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付加されたり、履修不可となる場合があります。詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
ガイダンス科目	社会人基礎Ⅰ	2	1	100	×		
	社会人基礎Ⅱ	2	1	100	×		社会人基礎Ⅰ
	現代経営入門	2	1	100	○		
	現代会計入門	2	1	100	○		
	現代法入門	2	1	100	○		
外国語科目	BM TOEIC® I A	2	2	200	×		英語コアⅡA、ⅡB
	BM TOEIC® I B	2	2	200	×		英語コアⅡA、ⅡB
	BM TOEIC® II A	2	3	300	×		BM TOEIC® I A
	BM TOEIC® II B	2	3	300	×		BM TOEIC® I B ⅡB
	アビエーション英語ⅠA	2	1	100	×		
	アビエーション英語ⅠB	2	1	100	×		
	アビエーション英語ⅡA	2	1	100	×		
	アビエーション英語ⅡB	2	1	100	×		
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠA	2	2	200	○		
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅠB	2	2	200	○		
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡA	2	2	300	○		
	ビジネスコミュニケーション(英語)ⅡB	2	2	300	○		
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠA	2	2	200	○		
	ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅠB	2	2	200	○		
ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡA	2	2	300	○			
ビジネスコミュニケーション(中国語)ⅡB	2	2	300	○			
実習科目	インターンシップ	2~6	2	300	○		
	国内ビジネス研修	2~6	2	300	○		
	海外ビジネス研修	2~6	2	300	○		
	ビジネス演習	2~6	2	300	○		
	フィールドトリップ	1~4	2	200	○		
学群共通科目	海外留学研修準備学習	2	1	100	○		
	職業指導Ⅰ	2	2	200	○		職業指導
	職業指導Ⅱ	2	2	200	○		
	留学のための英語TOEFL	2	1	200	○		
	留学生のためのビジネス書講読Ⅰ	2	1	100	○		
	留学生のためのビジネス書講読Ⅱ	2	2	200	○		
特別講義Ⅰ	2	2	200	○			

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学群共通科目	特別講義Ⅱ	2	2	200	○		
	特別講義Ⅲ	2	2	200	○		
	特別講義Ⅳ	2	2	200	○		
	特別講義Ⅴ	2	2	200	○		
	専攻演習Ⅰ	2	2	200	○		
	専攻演習Ⅱ	2	3	300	○		
	専攻演習Ⅲ	2	3	300	○		
	専攻演習Ⅳ	2	4	300	○		
	卒業論文	2	4	400	○		
学類共通科目	経済学入門	2	1	100	○		
	日本の経営者	2	1	100	○		
	ビジネス数字の読み方	2	1	100	○		
	はじめての金融	2	1	100	○		
	現代ホスピタリティ	2	1	100	○		
	ビジネスマナー	2	1	100	○		
	企業経営と情報入門	2	1	100	○		
	日本経済入門	2	2	200	○		
	経営戦略入門	2	2	200	○		
	マーケティング入門	2	2	200	○		
	消費者心理入門	2	2	200	○		
	ビジネス統計	2	2	200	○		
	ビジネス法務	2	2	200	○		
	管理会計入門	2	2	200	○		
	組織と心理	2	2	200	○		
	ビジネス倫理	2	2	200	○		
	企業法Ⅰ(会社法)	2	2	300	○		
	企業法Ⅱ(商法・金融商品取引法)	2	2	300	○		
	経営史入門	2	2	200	○		
	民法Ⅰ(財産・取引)	2	2	200	○		
	民法Ⅱ(契約・不法行為・家族)	2	2	200	○		
	リスクマネジメント入門	2	2	200	○		
	経営管理論Ⅰ	2	2	300	○		
	経営管理論Ⅱ	2	2	300	○		
	経営情報論	2	2	200	○		
	経営戦略論Ⅰ	2	2	200	○		
	経営戦略論Ⅱ	2	2	300	○		経営戦略論Ⅰ
	財務管理論Ⅰ	2	2	200	○		
	財務管理論Ⅱ	2	2	200	○		
	人事管理論Ⅰ	2	2	300	○		
人事管理論Ⅱ	2	2	300	○			
生産管理論Ⅰ	2	2	300	○			

(次のページに続く)

注意「卒業論文」は、卒業を希望する Semester に登録してください。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学類共通科目	生産管理論Ⅱ	2	2	300	○		生産管理論Ⅰ
	中小企業経営論	2	2	200	○		
	ベンチャービジネス	2	2	300	○		
	保険と経営	2	2	200	○		
	現代社会と監査	2	2	200	○		
	内部統制とリスクマネジメント	2	2	200	○		
	意思決定のための管理会計	2	2	300	○		
	業績管理会計	2	2	300	○		
	財務会計論Ⅰ	2	2	200	○		
	財務会計論Ⅱ	2	2	200	○		
	税務会計Ⅰ	2	2	300	○		
	税務会計Ⅱ	2	2	300	○		
	自由な競争の法律(経済法Ⅰ)	2	2	300	○		
	公正な競争の法律(経済法Ⅱ)	2	2	300	○		
	ブランドと名称の法律(知的財産権法Ⅰ)	2	2	300	○		
	著作権ビジネスと法律(知的財産権法Ⅱ)	2	2	300	○		
	国際取引法	2	2	300	○		
	税法概説	2	2	200	○		
	登記と手続	2	2	200	○		
	基礎数学Ⅰ	2	1	100	×		
	基礎数学Ⅱ	2	1	200	×		基礎数学Ⅰ
	簿記Ⅰ	2	1	100	○		
	簿記Ⅱ	2	2	200	○		
簿記Ⅲ	2	2	200	○			
簿記Ⅳ	2	3	300	○			
簿記Ⅴ	2	3	300	○			
エアライン・ビジネス科目群	貿易論	2	2	200	○	○	
	貿易実務	2	2	200	○	○	
	国際ロジスティクス	2	2	300	○	○	
	物流入門	2	1	100	○	○	
	流通入門	2	1	100	○	○	
	外国為替入門	2	2	200	○	○	
	金融リスク管理	2	2	300	○	○	
	消費者法	2	2	200	○	○	
	異文化経営論	2	2	200	○	○	
	グローバル経営入門	2	2	200	○	○	
	消費者行動論	2	2	300	○	○	
	航空関連法規基礎	2	2	200	○	○	
	エアラインにおける安全管理	2	2	200	○	○	
	航空法入門Ⅰ	2	1	100	○	○	
	航空法入門Ⅱ	2	1	100	○	○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
エアライン・ビジネス科目群	オペレーションコントロール概論	2	2	200	○	○	
	航空貨物輸送論Ⅰ	2	2	200	○	○	
	航空貨物輸送論Ⅱ	2	2	300	○	○	航空貨物輸送論Ⅰ
	エアラインの整備事業Ⅰ	2	2	200	○	○	
	エアラインの整備事業Ⅱ	2	2	300	○	○	エアラインの整備事業Ⅰ
	航空実務概論	2	2	200	×	△	アビエーションマネジメント学類の学生のみ履修可
	乗員養成と乗員計画	2	2	200	○	○	
	エアラインの営業戦略	2	2	300	○	○	
	航空とICT	2	2	200	○	○	
	航空輸送概論	2	2	200	○	○	
	交通経営論	2	3	300	○	○	
	航空特論Ⅰ	2	2	300	○	○	
	航空特論Ⅱ	2	3	300	○	○	
	航空輸送産業実習	2～4	2	300	×	△	アビエーションマネジメント学類の学生のみ履修可
エアライン・ホスピタリティ科目群	ホスピタリティ経営論	2	2	200	○	○	
	国際社会論	2	1	200	○	○	
	国際コミュニケーション論	2	1	200	○	○	
	サービスマーケティング論	2	2	200	○	○	
	Webマーケティング	2	2	200	○	○	
	顧客心理	2	2	200	○	○	
	サービスマネジメント	2	2	300	○	○	
	エアライン・コミュニケーションⅠ(英語)	2	2	200	○	○	
	エアライン・コミュニケーションⅡ(英語)	2	3	300	○	○	
	サービス・コミュニケーション	2	2	200	○	○	
	救急救命法	2	2	200	×	○	
	ホスピタリティ・コミュニケーションA(英語)	2	2	300	○	○	
	ホスピタリティ・コミュニケーションB(英語)	2	2	300	○	○	
	グローバル教養論	2	2	200	○	○	
	観光情報戦略論Ⅰ	2	2	300	×	○	観光情報戦略論Ⅱと同時に履修
	観光情報戦略論Ⅱ	2	2	300	×	○	観光情報戦略論Ⅰと同時に履修
	国際ツーリズム論	2	2	300	○	○	
	国際交通論	2	3	300	○	○	
	ホスピタリティマネジメント	2	2	300	○	○	
	交通経済論	2	3	300	○	○	
	航空マーケティング	2	2	300	○	○	
国際ビジネス戦略論	2	3	300	○	○		
ホスピタリティ特論Ⅰ	2	2	300	○	○		
ホスピタリティ特論Ⅱ	2	3	300	○	○		
日本企業経営論(英語)	2	2	200	○	○		
日本ホスピタリティ産業論(英語)	2	2	200	○	○		
レジャー論	2	1	100	○	○		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学部学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
ビジネス ・ 観光 ・ 日英 ・ 翻訳	観光学概論	2	1	100	○	○	
	ホスピタリティと法律	2	2	200	○	○	
	海外航空実務概論	2～4	2	300	×	△	
フライト・オペレーション科目群	ICAO英語テストスキルⅠ	1	1	100	×	×	
	ICAO英語テストスキルⅡ	1	1	100	×	×	
	海外研修英語A	1	2	200	×	×	
	海外研修英語B	1	2	200	×	×	
	海外研修英語C	1	2	200	×	×	
	海外研修英語D	1	2	200	×	×	
	航空交通管制コミュニケーション(英語)	1	2	200	×	×	
	航空運送事業操縦士概論(英語)	1	4	400	×	×	
	飛行の基礎Ⅰ	2	1	100	×	×	
	飛行の基礎Ⅱ	2	1	200	×	×	飛行の基礎Ⅰ
	操縦の基礎	2	2	200	×	×	
	航空無線電話と電波法	1	1	100	×	×	
	航空施設	1	1	200	×	×	
	航空交通管制の仕組みⅠ-1	1	1	100	×	×	
	航空交通管制の仕組みⅠ-2	1	1	100	×	×	
	航空交通管制の仕組みⅡ	2	2	200	×	×	航空交通管制の仕組みⅠ-1、航空交通管制の仕組みⅠ-2
	航空交通管制の仕組みⅢ	3	2	300	×	×	航空交通管制の仕組みⅡ
	空中航法Ⅰ-1	1	1	100	×	×	
	空中航法Ⅰ-2	2	1	100	×	×	
	空中航法Ⅱ	1	2	200	×	×	空中航法Ⅰ-1、空中航法Ⅰ-2
	空中航法Ⅲ	3	3	300	×	×	空中航法Ⅱ
	航空気象Ⅰ-1	2	1	100	×	×	
	航空気象Ⅰ-2	1	1	100	×	×	
	航空気象Ⅱ	1	2	200	×	×	航空気象Ⅰ-1、航空気象Ⅰ-2
	航空気象Ⅲ	3	2	300	×	×	航空気象Ⅱ
	応用航空気象	2	4	400	×	×	
	健康管理と航空生理	1	2	200	×	×	
	航空力学1	1	1	200	×	×	
	航空力学2	1	1	200	×	×	
	航空機に搭載されるエンジン	1	2	200	×	×	
	航空機の仕組みと構造1	1	1	100	×	×	
	航空機の仕組みと構造2	1	1	200	×	×	
	航空機の仕組みと構造3	1	1	200	×	×	
航空機の仕組みと構造4	3	3	300	×	×		
フライトオペレーション特論Ⅰ	2	1	200	×	×		
フライトオペレーション特論Ⅱ	1	2	300	×	×		
フライトオペレーション特論Ⅲ	3	4	400	×	×		
航空安全Ⅰ	4	2	200	×	×		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学部学生の履修	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
フライト・オペレーション科目群	航空安全Ⅱ	4	3	300	×	×	
	航空安全Ⅲ	2	3	400	×	×	
	航空法Ⅰ	1	1	100	×	×	
	航空法Ⅱ	1	2	200	×	×	航空法Ⅰ
	ヒューマンファクター	2	4	400	×	×	
	航空安全とヒューマンファクター	3	3	400	×	×	
	操縦法と知識Ⅰ	3	2	200	×	×	
	操縦法と知識Ⅱ	3	2	200	×	×	
	操縦法と知識Ⅲ	3	2	300	×	×	
	操縦法と知識Ⅳ	1	3	300	×	×	
	操縦実技Ⅰ	2	2	200	×	×	
	操縦実技Ⅱ	3	3	300	×	×	
	操縦実技Ⅲ	1	3	300	×	×	
	操縦実技Ⅳ	1	3	300	×	×	
	操縦実技Ⅴ	2	4	400	×	×	

5. 健康福祉学群

1. 健康福祉学群について

健康福祉学群は、本学の教育目標にある、「キリスト教主義に基づく教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」を基本に据えています。その上で、乳幼児から高齢者、障害者まで、さまざまな人を対象とした「健康」と「福祉」について学ぶことを目的にしています。健康福祉学群には「社会福祉」「精神保健福祉」「健康科学」「保育」の4つの専修があり、各分野で活躍できる高い専門性を持ったスペシャリストを養成するプロフェッショナルアーツをめざしています。少子・高齢化社会にある現代のわが国において、健康や福祉を学び、人々の生活の質を向上させる人材の育成に関する社会的ニーズは高いといえます。4つの専修のいずれの専門分野も、「ひと」とのつながりが重要な要素となる対人援助職が中核となっています。そのため、「人を活かす」カウンセリング・マインドをもった人材養成を重視しています。また、今日の日本では、専門性の高さはもちろんのこと、他分野と連携し総合的に活躍できる人材が望まれています。本学群は、隣接する4つの分野で構成されており、関連他分野についても幅広く学ぶことができます。他者の悩みや喜びに共感できる豊かな人間性と、専門知識に基づいて物事に冷静に対処する力を併せ持つ人材は、福祉、スポーツ指導、幼児教育といった幅広い現場で即戦力としての活躍が期待できます。

2. カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

健康福祉学群の教育課程の編成は、社会福祉専修・精神保健福祉専修・健康科学専修・保育専修の4専修で構成されています。各領域に関連する資格取得に向けた実践的なカリキュラムを中心に据えています。

また、それぞれの資格に係る学習のみでなく、人間の一生を「福祉、健康、メンタルサポート」の3点から総合的に学ぶことを目標として、学群共通科目も設定されています。

教育課程の実施については、1年次に書く先週の基礎教育科目(ガイダンス科目)社会福祉専修は「社会福祉とマネジメント」、精神保健福祉専修は「精神保健学」、健康科学専修は「健康科学論」、保育専修は「保育学」を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして1年次または2年次に、他専修の基礎教育科目(ガイダンス科目)や「今日の健康と福祉」「心理学」「人間関係論」など、学群共通科目を履修し、「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、各専修の専門科目である専修科目を履修することにより、専門性を強化します。専修科目には、演習・実験・実習・実技科目があり、現場で経験も積むことができます。専修科目の、ある領域に焦点をあてて、より深く学ぶために、3年次から専攻演習(ゼミ)があり、各自が関心を持つテーマでゼミ論文を作成します。ゼミ論文をさらに発展させ、大学での学びの集大成である卒業論文・卒業研究に取り組むこともできます。

また、「社会福祉」と「健康科学」にはマイナー制度があり、要件を満たすことによって、専門として学習したことが認められます。

3. ディプロマポリシー(学位授与の方針)

健康福祉学群は以下の要件を満たす学生に対し、「学士(社会福祉学)」、「学士(精神保健学)」、「学士(健康科学)」、「学士(保育学)」、または「学士(健康福祉学)」を授与します。

① 学園の精神である、「工且読書」、「学而事人」を实践できる。

- ② 社会人としての常識とモラルを持つ。
- ③ 多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与する。
- ④ 人を活かすカウンセリング・マインドを持つ。
- ⑤ 前向きに物事に臨み、可能性を最大限に活かす
- ⑥ 本学群の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位(基礎教育科目22単位以上、

健康福祉学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

(1) 社会福祉専修

基礎教育科目: コア科目 16 単位、ガイダンス科目「社会福祉とマネジメント」4 単位、合計20単位

専攻科目: 学群共通科目から、ガイダンス科目(社会福祉とマネジメント)を除く16 単位、社会福祉専修科目より38 単位、合計54 単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124 単位

入学時からの通算 GPA が 1.5 以上

(2) 精神保健福祉専修

基礎教育科目: コア科目 16 単位、ガイダンス科目「精神保健学」4 単位、合計 20 単位

専攻科目: 学群共通科目から、ガイダンス科目(精神保健学)を除く16 単位、精神保健福祉専修科目より38 単位、合計54 単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124 単位

入学時からの通算 GPA が 1.5 以上

(3) 健康科学専修

基礎教育科目: コア科目16単位、ガイダンス科目「健康科学論」4単位、合計20単位

基礎教育科目: コア科目 16 単位、ガイダンス科目「健康科学論」4 単位、合計 20 単位

専攻科目: 学群共通科目から、ガイダンス科目(健康科学論)を除く16 単位、健康科学専修科目より38 単位、合計54 単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124 単位

入学時からの通算 GPA が 1.5 以上

(4) 保育専修

基礎教育科目: コア科目 16 単位、ガイダンス科目「保育学」4 単位、合計 20 単位

専攻科目: 学群共通科目から、ガイダンス科目(保育学)を除く16 単位、保育専修科目より38 単位、合計54 単位

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124 単位

入学時からの通算 GPA が 1.5 以上

4. 卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

		健康福祉学群			
		社会福祉専修	精神保健福祉専修	健康科学専修	保育専修
基礎教育科目 20単位 (最低必要単位)	コア科目 (注) 16単位必修	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ②			
	ガイダンス科目 4単位必修	社会福祉と マネージメント④	精神保健学④	健康科学論④	保育学④
専攻科目 54単位 (最低必要単位)	学群共通科目 24単位必修	学群共通科目から、 ガイダンス科目(社会福祉とマネージメント) を除く16単位	学群共通科目から、 ガイダンス科目 (精神保健学) を除く16単位	学群共通科目から、 ガイダンス科目 (健康科学論) を除く16単位	学群共通科目から、 ガイダンス科目 (保育学) を除く16単位
	専修科目 30単位必修	社会福祉専修科目より38単位	精神保健福祉専修科目より38単位	健康科学専修科目より38単位	保育専修科目より38単位
自由選択		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位 ・自学群他専修科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育院の科目(外国語科目を含む) ・他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む) 認定単位(P.194) ・各種技能審査による認定単位(P.195) 			
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、自由選択、あわせて 124単位		【その他の要件】 1. 入学時からの通算GPAが1.5以上 2. 各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること			

(注) 一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等(日本語を母語としない者)は、「文章表現Ⅰ」、「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」合計10単位を必修とします。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

- ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。
1. マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。
 2. 他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。
 3. 他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

5. 専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。健康福祉学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、健康福祉学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、健康福祉学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。マイナーは、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで変更することができます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

健康福祉学群

専攻コース	メジャー	マイナー
社会福祉	○	○
精神保健福祉	○	△
健康科学	○	○
保育	○	△

社会福祉コース

1. 教育目的

一人一人の人間が安心できる社会生活を送れるようにするために、ライフコースにわたって援助する事業が福祉です。人間が生まれてから死ぬまでの生活問題をテーマに多面的に探究するのが学問としての福祉です。児童期から政策といった包括的な視点から福祉を学習します。一人一人の人間はかけがえのない存在です。現代の福祉は、一人一人の個性を正しくとらえ、その人らしい生き方のできる援助を考えています。この専修は、福祉についての総合的な知識やスキルを習得し、正しい人間理解と援助を身につけることをねらいとしています。「福祉マインド」を有する人間性の向上と科学的思考方法を身につけることに力点を置いた教育を目的としています。そして、福祉のさまざまな課題に取り組むことができる人材の育成を目指しています。

2. カリキュラムの特徴

(1) オリジナルに富むカリキュラム

本専修の特色をもつ科目を開講しています。地域を基盤にした新しい観点から[人一環境]を考える、「地域住環境論」「地域エンパワーメント方法論」などがあります。聴覚の障害をもつ人をより身近に考えられる、「聴覚障害者のコミュニケーション」もあります。また、現代社会には欠かせない[経営]の視点から福祉を考える、「福祉事業経営論」「福祉施設経営論」などがあります。

(2) 理論と実践とをつなぐ実習教育と演習科目

社会福祉士資格取得を目指す専門職養成に向けた24日間以上の「相談援助現場実習」と、実習前後の学習をより効果的にするために「相談援助現場実習指導（Ⅰ～Ⅲ）」を設け、よりきめ細かい実習プログラムで一人一人の実習生に応じた指導を行っています。また「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」も開講し、理論と実践をつなぐ応用的な科目があります。

メジャー：「社会福祉とマネジメント」4単位、学群共通科目から、ガイダンス科目（社会福祉とマネジメント）を除く16単位、社会福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「社会福祉とマネジメント」4単位、社会福祉専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

精神保健福祉コース

1. 教育目的

この専修では、精神保健福祉士をめざす人の教育を主軸としています。精神保健福祉士は、精神科ソーシャルワーカー（PSW）の国家資格として1997年に誕生しました。PSWは精神障害のある人のさまざまな相談を受け、生活支援や社会復帰の援助を行う大切な職種です。

我が国の精神保健福祉のあり方については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院等の問題が指摘されています。精神保健福祉士は、医療機関におけるチームの一員として、また精神障害者の地域移行や地域生活の支援者として、ますます重要な役割を担っています。また近年、司法・教育・労働などの分野においても、多様な精神保健福祉の課題に取り組む役割が求められるようになりました。ストレス社会と言われる現代では心の病は特別なものではなく、誰もが危機と背中合わせに生きていますから、心の健康が損なわれたときに安心して治療を受け回復していけるようなシステムづくりも重要です。こうした時代の要請に応じて精神保健福祉を担う人材を育成することが本専修の目的です。

2. カリキュラムの特徴

精神保健福祉は社会福祉の一分野であると同時に、精神障害者の保健医療に関わる専門領域でもあります。福祉系科目（「精神保健福祉相談援助の基盤」「障害者福祉論」など）と、精神保健系科目（「精神保健学」「精神医学」など）の双方を学び、その上に「精神保健福祉援助技術各論」「精神保健福祉に関する制度とサービス」といった専門的な学習を積み重ねていきます。

相談援助の専門職として実践力を高めるため、カリキュラムで重視されるのは、演習・実習などでの主体的な学習です。本学では、2年次に精神科病院や福祉施設を訪問して現場についての理解を深め（見学実習）、3年からの配属実習に備えます。また、実習後のふり返りに十分な時間をかけるなど、実習教育には特に力を入れています。少人数であることを生かした発表・討議形式の授業や、コミュニケーションスキルの向上を図る演習など、頭だけではなく心と身体を働かせて学生同士がふれあう時間が多いのも特徴です。

また、相談援助に不可欠な心理的支援も重視し、関連科目を設置しています。所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで、認定心理士、認定健康心理士の資格取得も可能です。

メジャー：「精神保健学」4単位、学群共通科目からガイダンス科目（精神保健学）を除く16単位、精神保健福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

健康科学コース

1. 教育目的

健康科学専修では、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の「からだの健康」を探求し、よりよく生きるための“生活の質”（Quality of Life：QOL）を追究いたします。そして、総合的に、健康と運動・スポーツをはじめとする身体活動との関係を、「からだ」と「ところ」の両面から理論的に理解することを目的とします。さらに、体育・スポーツ現場や児童厚生施設、高齢者福祉施設、障害者福祉施設をはじめとする福祉現場などにおいて応用できるスポーツ科学やスポーツ実技を学び、現場で実践するための技量を養います。また、社会福祉、精神保健福祉、保育などの関連分野と連携することで、障害者・高齢者福祉、幼児・児童に関心をもつことによる「Sports for All」の実現と、心のケアもできる“カウンセリング・マインド”をもった保健体育科教員、健康運動実践指導者、障害者スポーツ指導員、インストラクター、コーチ、トレーナーなどになることも期待されます。加えて、所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで認定心理士、健康心理士の資格取得も可能です。

2. カリキュラムの特徴

健康科学専修では、「健康増進」や「スポーツ科学」について、体系的に学ぶためのカリキュラムを設定しています。まず、「健康科学論」を履修し、健康、体のしくみと働き、スポーツ障害・処置法など健康科学に必要な基礎知識を学習します。そして、将来の目的や進路に応じ、基礎科目（生理学、運動学、栄養学、各種スポーツ実技など）、専門科目（スポーツ生理学、スポーツコーチ学、スポーツ栄養学、スポーツ心理学、体力測定評価実習、健康栄養学実験、各種スポーツ指導法、スポーツS種目など）を履修します。また、健康の観点からは、「足の健康科学」「ストレスマネジメント」「ヘルスカウンセリング」などを学ぶことが出来ます。さらに専攻科目を深く学ぶために、3年次から専攻演習（ゼミ）があります。ここでは、各自が関心を持つテーマでゼミ論を作成いたします。また、これをさらに発展させ、卒業論文を作成することもできます。

メジャー：「健康科学論」4単位、学群共通科目から、ガイダンス科目（健康科学論）を除く16単位、健康科学専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「健康科学論」4単位、健康科学専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

保育コース

1. 教育目的

現代社会では、女性の社会進出、親子関係の変化、外国籍の子どもの増大など、子どもをとりまく状況が大きく変化し、このような社会の変化に柔軟に対応できる保育士の養成が求められています。

保育専修では、一般的には2年間とされる保育士養成プログラムを4年と捉え、乳幼児の健康や発達の知識にとどまらず、社会福祉、精神保健福祉、健康科学といった隣接領域の学びを通じて、幅広い知識を身につけた質の高い保育士の養成をめざします。さらに子どもが置かれているさまざまな状況への理解を深めるために、カウンセリング能力、外国籍の子どもや保護者とのコミュニケーション能力を養います。また講義だけでなく、保育実習などの現場体験活動を通じて、児童福祉専門職としての基礎的な経験を積み重ねます。

こうした学びを通じて、精神と健康の両面から子どもをしっかりとサポートできる保育士の養成を目的とします。さらに、幼稚園教諭を目指す学生に対しては、幼稚園教諭1種免許状取得のための教職課程が用意されています(P. 236～239参照)。

2. カリキュラムの特徴

①保育士資格取得の科目

保育専修では、保育士の資格を得るために、71科目を設置しています。本学授業科目より指定された単位数以上を修得することで、保育士資格が取得できます。

②保育の多様なニーズに応える科目

保育士として福祉を学ぶための基礎学習である「社会福祉とマネジメント」「健康科学論」「老年学」「社会学」「法学」が選択必修として設定されています。また、子育て支援や国際化に応えるために、「家庭支援論」「教育相談」や「児童英語教育入門」「保育の英語」などの科目も設定されています。

③幅広い視点で健康や福祉などに関する知識、技能を身に付ける科目

福祉のエキスパートを養成するために、「介護概論」「福祉カウンセリング」「足の健康科学」「健康と食生活」など広範囲に科目が設定されています。また、自由学習において、全学共通科目の中から学びたい科目を履修することで、深い教養と豊かな人間性を培います。

メジャー：「保育学」4単位、学群共通科目から、ガイダンス科目(保育学)を除く16単位、保育専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

6. ガイダンス・専攻科目と諸注意

- ① 履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ② 他学群の学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。
 ③ 先修条件とは、ある科目を履修するために修得しなければならない科目です。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	日学群内他専修の学生の履修	先修条件ほか
ガイダンス科目	社会福祉とマネージメント	4	1	100	○	—	
	精神保健学	4	1	100	○	—	
	健康科学論	4	1	100	○	—	
	保育学	4	1	100	○	—	
学群共通科目	心理学	4	1	100	○	—	
	老年学	4	1	100	○	—	
	児童福祉論	4	2	200	○	—	
	医学一般	4	1	100	○	—	
	社会学	4	1	100	○	—	
	法学	4	1	100	○	—	
	今日の健康と福祉	2	1	100	○	—	
	人間関係論	2	1	100	○	—	
	健康心理学概論	2	1	100	○	—	
	専攻演習	4	3	300	△	—	(注1)
卒業論文	6	4	400	△	—	専攻演習	
卒業研究	6	4	400	△	—	〃	
社会福祉専修科目	老人福祉論	4	2	200	○	○	
	障害者福祉論	4	1	200	○	○	
	地域福祉論	4	2	200	○	○	
	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	3	200	○	○	
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	3	200	○	○	社会福祉援助技術論Ⅰ
	相談援助演習Ⅰ	4	3	300	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、実習のための社会福祉入門、社会保障論、なお、社会福祉援助技術論Ⅰと相談援助現場実習指導Ⅰを同時履修すること
	相談援助演習Ⅱ	4	3	300	×	×	児童福祉論、医学一般、相談援助演習Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅰ、なお、社会福祉援助技術論Ⅱを同時履修すること
	相談援助演習Ⅲ	2	4	300	×	×	社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ
	相談援助現場実習	4	3	200	×	×	相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習指導Ⅱを同時履修すること
	相談援助現場実習指導Ⅰ	2	3	200	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、社会保障論、実習のための社会福祉入門、なお、社会福祉援助技術論Ⅰを同時履修すること
相談援助現場実習指導Ⅱ	2	3	200	×	×	児童福祉論、医学一般、社会福祉援助技術論Ⅰ、相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、社会福祉援助技術論Ⅱと相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習を同時履修すること	
相談援助現場実習指導Ⅲ	2	4	300	×	×	相談援助現場実習、相談援助現場実習指導Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ、なお、相談援助演習Ⅲを同時履修すること	
心理学概論	4	1	100	○	○		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群内他専修の学生の履修	先修条件ほか
社会福祉専修科目	社会学概論	4	1	100	○	○	
	憲法	4	1	100	○	○	
	民法	4	1	100	○	○	
	行政法	2	2	300	○	○	
	介護概論	2	2	200	○	○	
	地域住環境論	4	2	200	○	○	
	福祉事業経営論	4	2	200	○	○	
	社会政策論	4	2	300	○	○	
	福祉施設経営論	4	2	200	○	○	
	福祉のための諸科学Ⅰ	2	3	300	×	△	国家試験(社会福祉士、精神保健福祉士)受験者対象科目
	福祉のための諸科学Ⅱ	2	3	300	×	△	国家試験(社会福祉士、精神保健福祉士)受験者対象科目
	社会福祉法制論	2	2	300	○	○	
	医療ソーシャルワーク論	4	2	200	○	○	
	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1	100	○	○	
	地域エンパワーメント方法論	2	2	300	○	○	
	実習のための社会福祉入門	2	1	100	×	○	
	社会調査の基礎	2	3	300	○	○	
	相談援助の基盤と専門職	4	1	100	○	○	
	福祉行財政と福祉計画	2	3	300	○	○	
	福祉サービスの組織と経営	2	2	200	○	○	
	相談援助活動と就労支援・更生保護	2	2	300	○	○	
	権利擁護と成年後見制度	2	3	300	○	○	
	加齢及び障害に関する理解	2	1	100	○	○	
	福祉マネジメント演習A(対人援助サービス)	2	3	300	×	△	
	福祉マネジメント演習B(ユニバーサルデザイン)	2	3	300	×	△	
	福祉マネジメント演習C(経営・福祉ビジネス)	2	3	300	×	△	
認知症ケア論	2	2	200	○	○		
社会福祉原論	4	2	200	△	○		
社会保障論	4	2	200	○	○		
精神保健福祉専修科目	精神医学	4	1	200	○	○	
	精神科リハビリテーション学	4	2	200	○	○	精神保健学
	社会保障論	4	2	200	○	○	
	公的扶助論	2	2	200	○	○	
	保健医療サービス	2	2	200	○	○	
	精神保健福祉相談援助の基盤	4	1	100	○	○	
	精神保健福祉援助技術各論	4	2	200	○	○	精神保健福祉相談援助の基盤
	福祉カウンセリング	2	2	200	○	○	
	学校ソーシャルワーク論	2	3	300	○	○	
	社会調査の基礎	2	3	300	○	○	

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群内他専修の学生の履修	先修条件ほか	
精神保健福祉専修科目	地域福祉論	4	2	200	○	○		
	福祉行政財と福祉計画	2	3	300	○	○		
	権利擁護と成年後見制度	2	3	300	○	○		
	障害者福祉論	4	1	200	○	○		
	社会福祉原論	4	2	200	△	○		
	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	3	300	○	○		
	精神障害者の生活支援システム	2	3	300	○	○		
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	2	200	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	3	300	×	×	精神保健福祉援助演習Ⅰ	
	精神保健福祉実習指導Ⅰ	4	2	200	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤、または精神医学	
	精神保健福祉実習指導Ⅱ	4	3	300	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅰ、精神医学、精神保健福祉相談援助の基盤	
	精神保健福祉実習指導Ⅲ	4	4	300	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神医学、アビリティーション学、精神保健福祉援助技術概論	
	精神保健福祉現場実習Ⅰ	2	3	300	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅰ	
	精神保健福祉現場実習Ⅱ	2	4	300	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱ	
	グループ・アプローチ	2	2	200	○	○		
	臨床心理学	4	2	200	○	○		
	家族心理学	4	2	200	○	○		
	健康福祉専修科目	運動学	2	1	100	○	○	
		健康とスポーツ	2	1	100	○	○	
		生理学	2	1	100	○	○	
スポーツ社会学		2	1	100	○	○		
スポーツ経営学		2	2	200	○	○	スポーツ社会学	
栄養学		2	1	100	○	○		
学校保健学		2	1	100	○	○		
障害学		2	1	100	○	○		
衛生学		2	2	200	○	○		
公衆衛生学		2	2	200	○	○		
高齢者レクリエーション		2	2	200	○	○		
障害者レクリエーション		2	2	200	○	○	障害学	
足の健康科学		4	2	200	○	○		
スポーツコーチ学		4	2	200	○	○	生理学または運動学	
スポーツ栄養学		4	2	200	○	○	栄養学	
スポーツ心理学		4	2	200	○	○	心理学または心理学概論	
解剖学		2	1	100	○	○		
発育発達学		2	1	100	○	○		
スポーツ医学		2	1	100	○	○		
救急処置法		2	1	200	△	○	解剖学	
スポーツ生理学	2	2	200	○	○	生理学		
体力測定評価実習	1	2	200	△	○	〃		

(次のページに続く)

科目区分	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群内他専修の学生の履修	先修条件ほか
健康科学専修科目	ストレスマネジメント	2	1	200	○	○	心理学
	健康行動科学	2	2	200	○	○	
	健康支援学	2	2	200	○	○	
	ヘルスカウンセリング	4	2	200	○	○	
	健康と食生活	2	1	100	○	○	
	健康栄養学実験	2	2	200	△	○	栄養学または健康と食生活
	スポーツ・体育史	2	1	100	○	○	
	スポーツ倫理学	2	1	200	○	○	
	健康心理カウンセリング概論	2	3	300	○	○	健康心理学(LA)
	学校カウンセリング論	2	3	300	⊖→△	○	LA・健福のみ
	生涯発達心理学	4	2→1	200	○	○	
	スポーツ産業論	2	2	300	○	○	
	スポーツ組織論	2	1	100	○	○	
	スポーツマーケティング	2	2	200	○	○	
	特別講義	2	1	100	○	○	
	スポーツ(ウィークリースポーツ)	1	別記	別記	○	○	スポーツ実技科目一覧参照
	スポーツ(シーズンスポーツ)	1	別記	別記	○	○	〃
保育専修科目	保育原理	2	1	100	○	○	
	社会的養護 I	2	2	200	○	○	
	教育原理(保育)	2	1	100	×	○	
	子ども家庭福祉	2	1	100	○	○	
	社会福祉	2	1	100	○	○	
	発達心理学	2	2	200	○	○	
	教育心理学(保育)	2	2	200	×	○	
	子どもの保健 I	4	2	200	×	○	子どもの保健 II と同時に履修
	子どもの保健 II	2	2	200	×	○	子どもの保健 I と同時履修も可)
	子どもの食と栄養	2	2	200	×	○	
	家庭支援論	2	2	200	○	○	
	保育内容総論	2	2	300	×	○	
	保育内容(健康)	2	3	300	×	○	
	保育内容(人間関係)	2	3	300	×	○	
	保育内容(環境)	2	3	300	×	○	
	保育内容(言葉)	2	3	300	×	○	
	保育内容(表現)	2	3	300	×	○	
乳児保育	2	2	200	×	○		
障害児保育	2	2	200	×	○		
社会的養護 II	2	2	200	×	○	社会的養護 I	
保育表現技術(音楽)	2	1	100	×	△		
保育表現技術(造形)	2	2	200	×	○		

(次のページに続く)

科目区分	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	自学群内他専修の学生の履修	先修条件ほか
保 育 専 修 科 目	保育表現技術(体育)	2	2	200	×	○	
	保育実習指導Ⅰ	2	2	200	×	×	保育学、保育原理
	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2	200	×	×	保育学、保育原理
	保育実習Ⅰ(施設)	2	3	200	×	×	保育学、保育原理
	教育相談	2	2	200	×	○	
	保育の英語Ⅰ	2	2	200	×	○	
	保育の英語Ⅱ	2	2	200	×	○	保育の英語Ⅰ
	児童英語教育入門	2	1	100	×	○	
	音楽実技Ⅰ	1	1	100	×	△	
	音楽実技ⅡA	1	2	200	×	△	音楽実技Ⅰ
	音楽実技ⅡB	1	2	200	×	△	音楽実技Ⅰ
	音楽実技ⅡC	1	2	200	×	△	音楽実技Ⅰ
	造形基礎	2	1	100	×	○	
	保育実習指導Ⅱ	2	3	300	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所)、 保育実習Ⅰ(施設)
	保育実習Ⅱ	2	3	300	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所)、 保育実習Ⅰ(施設)
	保育実習指導Ⅲ	2	3	300	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所)、 保育実習Ⅰ(施設)
	保育実習Ⅲ	2	3	300	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所)、 保育実習Ⅰ(施設)
	児童文化	2	2	200	×	○	
	保育ソーシャルワーク	2	3	300	×	○	
	教職入門(保育)	2	1	100	×	○	
	教育制度論(保育)	2	2	200	×	○	
	教育関係法規(保育)	2	2	200	×	○	
	教育課程論(保育)	2	2	200	×	○	
	教育方法論(保育)	2	2	200	×	○	
	子どもとメディア	2	3	300	×	○	
	幼児理解の理論と方法	2	2	300	×	○	
	子どもとことば	2	3	300	×	○	
	あそびと生活	2	3	300	×	○	
	音楽表現法	2	2	100	×	○	
	子どものからだと健康	2	3	300	×	○	
	教育実習事前・事後指導	1	3	300	×	×	
	教育実習Ⅰ	2	3	300	×	×	教職入門(保育)、教育原理(保育)
教育実習Ⅱ	2	4	300	×	×	教育実習Ⅰ	
教職実践演習(保育)	2	4	400	×	×		

諸注意

①スポーツ実技科目（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）一覧

科目区分	種目名	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
スポーツ（ウィークリースポーツ）	バスケットボールⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	バスケットボールⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	バスケットボールS	1	2	200	○	
	バレーボールⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	バレーボールⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	バレーボールS	1	2	200	○	
	サッカーⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	サッカーⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	サッカーS	1	2	200	○	
	ソフトボールⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	ソフトボールⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	ソフトボールS	1	2	200	○	
	ハンドボールⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	ハンドボールⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	軟式野球Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○	
	軟式野球Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○	
	テニスⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	テニスⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	テニスS	1	2	200	○	
	バドミントンⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	バドミントンⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	バドミントンS	1	2	200	○	
	ゴルフⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	ゴルフⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	エアロビクスⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	エアロビクスⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
エアロビクスS	1	2	200	○		
レクリエーションⅠ・Ⅱ	1	1	100	○		
レクリエーションⅢ・Ⅳ	1	2	100	○		
フィットネスⅠ・Ⅱ	1	1	100	○		
フィットネスⅢ・Ⅳ	1	2	100	○		
トレーニングⅠ・Ⅱ	1	1	100	○		
トレーニングⅢ・Ⅳ	1	2	100	○		
柔道Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○		
柔道Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○		
剣道Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○		
剣道Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○		

(次のページに続く)

科目区分	種目名	単位数	履修年次	レベル	他学群学生の履修	先修条件ほか
スポーツ (ウィークリー) スポーツ	器械体操Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○	
	器械体操Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○	
	陸上競技Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○	
	陸上競技Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○	
	創作ダンスⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	創作ダンスⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	体づくり運動Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○	
	体づくり運動Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○	
	ラグビーⅠ・Ⅱ	1	1	100	○	
	ラグビーⅢ・Ⅳ	1	2	100	○	
	卓球Ⅰ・Ⅱ	1	1	100	○	
	卓球Ⅲ・Ⅳ	1	2	100	○	
	柔道指導法	1	2	200	○	柔道Ⅰ
	剣道指導法	1	2	200	○	剣道Ⅰ
器械体操指導法	1	2	200	○	器械体操Ⅰ	
陸上競技指導法	1	2	200	○	陸上競技Ⅰ	
スポーツ (シーズン) スポーツ	キャンプⅠ	1	1	100	○	
	キャンプⅡ	1	2	100	○	
	キャンプⅢ	1	3	100	○	
	キャンプⅣ	1	4	100	○	
	スキーⅠ	1	1	100	○	
	スキーⅡ	1	2	100	○	
	スキーⅢ	1	3	100	○	
	スキーⅣ	1	4	100	○	
	水泳Ⅰ	1	1	100	○	
	水泳Ⅱ	1	2	100	○	
	水泳Ⅲ	1	3	100	○	
	水泳Ⅳ	1	4	100	○	
	水泳指導法	1	2	200	○	水泳Ⅰ

スポーツ実技科目の履修制限

イ. 末尾に「Ⅰ～Ⅳ」の付いている種目は、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順で履修してください。

ロ. 「指導法」には、先修条件があるので注意してください。

ハ. 同一年度の同一学期に、同一種目を履修することは出来ません。ただし、「S種目」、「指導法」はこの限りではありません。

(例) 「サッカーⅠ」と「サッカーS」は履修できます。

「柔道Ⅱ」と「柔道指導法」は履修できます。

ニ. ウィークリースポーツとシーズンスポーツを、同時に履修することができます。

②専修の変更

専修の変更は、定められた期間に願い出て、審査のうえ認められることがあります。

(注1)「専攻演習」

イ. 3年次より、「専攻演習」を履修することができます。この「専攻演習」の登録は2年次の秋学期に事前登録をしてください。希望者が集中した場合には選抜が行われ、その際はそれまでに修得した科目及び成績が考慮されます。

ロ. 「専攻演習」を履修する場合には、原則として担当教員の指定する科目が修得済みでなければなりません。(詳細は別冊の「専攻演習」履修案内を参照してください。)

IV 他大学等における履修

1. 海外留学による修得単位の認定

1. 本学と単位互換の協定を結んでいる提携校への長期留学

- (1) 修得した単位が本学のどの分野の科目として認定されるかは、各学群教授会の認定によります。
- (2) 2年以内に限り、留学期間も本学における在学期間に算入されます。
- (3) 事前にアドバイザーに相談してください。

2. 提携校以外への留学

- (1) 教育上有益と認められる場合、修得した単位が本学卒業に必要な単位として認められることがあります。
- (2) 事前にアドバイザーに相談してください。

2. 特別聴講学習プログラム

1. 他大学等における履修(海外留学を除く)

他大学等において授業科目を履修し、単位を修得したとき、その単位を本学の卒業に必要な単位の算入することができます。

ただし、大学・短期大学で修得した単位であること、本学の教育上有益であると認められるものであることが条件となります。なお、履修に際してはアドバイザーの承認を必要とし、**履修単位は学期ごとの履修単位数の上限に含まれます。**

本学においては、以下のとおり他大学との単位互換協定に基づいた相互交流（特別聴講生としての派遣と受入れ）が可能となっています。各々の募集や追加項目については、掲示等でお知らせします。

<単位互換協定校>

- (1) 沖縄国際大学、名桜大学
- (2) 放送大学
- (3) 首都圏西部大学単位互換協定会加盟校
- (4) 学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟校

V 技能審査による単位認定

1. 英語

各種技能審査(実用英語技能検定、TOEFL®、TOEIC®、IELTS™)のスコアにもとづき、以下の要領で単位認定を行ないます。

名称	級・得点	認定単位数
実用英語技能検定	1級	8
	準1級	4
TOEFL® (IBT)	100~120	8
	92~99	6
	79~91	4
	61~78	2
TOEIC®	875~990	8
	810~874	6
	730~809	4
	700~729	2
IELTS™ (アカデミック・モジュール)	7~9	8
	6.5	6
	6	4
	5.5	2

- 1) 英語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。該当する可能性のある者は、あらかじめ学 而 館 3 階 コーナーストーンセンター事務室で確認してください。
- 2) 単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の2週間前より、定期試験期間終了日まで学 而 館 3階コーナーストーンセンター事務室で受け付けます。複数の技能審査をまとめて申請することが可能です。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って7ヶ月以内に取得したものに限りです。
- 3) 申請時には、学生証、スコア等証明書の原本を提出する必要があります。
- 4) 資格・得点については、申請受付開始日より遡って7ヶ月以内に取得したものが対象となります(受験日=スコア取得日。ただし、英検は合格証書に記載された発行日)。単位は申請した学期の単位(自由選択)として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。
- 5) 2回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。
 - a. 同一技能審査の級・得点が上がったことによる認定単位数は、上位の認定単位数に置き換えられます。
 - b. 技能審査の種類ごとに単位を認定します。
- 6) 単位認定は12単位(組み合わせ自由)を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。
- 7) TOEFL®-ITP、TOEIC®-IP、IELTS™ジェネラル・トレーニング・モジュールのスコアは対象としません。
*ITP/IP=Institutional (Testing) Program …大学等での団体受験
- 8) ~~TOEFL®とTOEIC®のスコアは、申請時に本人確認の必要があるため、スコアシートに顔写真が印刷されているもののみ単位認定の対象とします。~~
- 9) 郵送による申請、本人以外からの申請は受け付けません。
- 9) 休学中の申請はできません。

言語ごとに

2. 中国語

各種技能審査（漢語水平考試験 HSK および中国語検定試験）のスコアに基づき、以下の要領で単位認定を行います。

名称	級	認定単位数
漢語水平考試 (HSK)	6 級 (180 点以上)*	8
	5 級 (180 点以上)*	4
	4 級	2
中国語検定試験	1 級	8
	準 1 級	6
	2 級	4
	3 級	2

※ただし、聞き取り、読解、作文の各分野で 60 点以上を取得していること。

- 1) 中国語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。
 - 2) 単位認定申請前に上記 1) の確認のための面談を受けて「単位認定申請資格証明書」を取得し、申請時に提出してください。
 - 3) 「単位認定申請資格証明書」が無い場合は、申請を受け付けません。
 - 4) 単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の 2 週間前より、定期試験期間終了日まで、学術館 3 階コーナーストーンセンター事務室で受け付けます。複数の技能審査を申請する場合は、まとめて申請してください。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って 7 ヶ月以内に取得したものに限りです。
 - 6) **級** については、申請受付開始日より遡って 7 ヶ月以内に取得したものが対象となります（受験日＝スコア取得日）。単位は申請した学期の単位（自由選択）として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。ただし、中検は合格証書に記載された発行日
 - 7) 2 回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。
 - a. 同一技能審査の級が上がったことによる認定単位数は、上位の認定単位数に置き換えられます。
 - b. 技能審査の種類ごとに単位を認定します。
 - 8) 単位認定は 12 単位（組み合わせ自由）を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第 45 条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限 60 単位に含まれます。言語ごとに
 - 10) 郵送による申請、本人以外からの申請は受け付けません。
 - 11) 休学中の申請はできません。
- 5) 申請時には、学生証、スコア等証明書の原本、単位認定資格証明書を提出する必要があります。
- 9) HSK 口試のスコアは対象としません。

	リベラル アーツ 学	ベ ー ラ ル ツ 群	総 合 学	文 化 群	ビ ジ ネ ス ト 群	健 康 福 祉 群	備 考
日本語教員養成課程	○	○	○	○	○	○	2種類の各コース修了後、卒業年度に申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。

196 資格等／本学で取得できる資格一覧

VI 資格等

本学で取得できる資格等一覧

本学で取得できる資格は、以下の表のとおりです。詳細は、次ページ以降のそれぞれの資格の項目を参照してください。

児童福祉司任用資格 ・リベラルアーツ学群（心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻メジャー修了）
児童心理司任用資格 ・健康福祉学群（社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修）
・リベラルアーツ学群（心理学専攻メジャー修了）

	リベラル アーツ 学	ベ ー ラ ル ツ 群	総 合 学	文 化 群	ビ ジ ネ ス ト 群	健 康 福 祉 群	備 考		
教育職員免許状 中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状 (国家資格)	○ 学群によって取得できる免許状の種類・教科は 異なります。						課程修了後、大学が一括申請しま す。 卒業と同時に免許状が授与されま す。		
学校図書館司書教諭 (国家資格)	○ 教職課程の履修登録者のみ。 資格取得には教員免許状取得が条件。						所定の科目を修得し、卒業年度に資格 申請してください。 卒業後に修了証が交付されます。		
博物館学芸員 (国家資格)	○						課程修了後、卒業年度に申請してくだ さい。卒業と同時に資格が取得できま す。		
社会福祉士 (国家資格)※受験資格のみ	/			/			○ 社会福祉 専修のみ	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られま す。	
精神保健福祉士 (国家資格)※受験資格のみ	/			/			○ 精神保健福祉 専修のみ	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られま す。	
認定心理士 (<small>（公社）</small> 日本心理学会認定)	○	/			/			○ 健康科学・ 精神保健福祉 専修のみ	所定の科目を修得し、卒業年度に資 格 申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
健康心理士 (日本健康心理学会認定)	○	/			/			○ 健康科学・ 精神保健福祉 専修のみ	所定の科目を修得し、卒業年度に資 格 申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
健康運動実践指導者 (<small>（公財）</small> 健康・体力づくり事業団認定 ※認定試験合格が条件)	/			/			○	所定の科目を修得し、認定試験に合 格 後、財団に登録してください。 卒業と同時に資格が取得できます。	
スポーツ指導者養成講習会 (共通科目Ⅰ+Ⅱ)免除適応コース (<small>（公財）</small> 日本体育協会公認)	/			/			○	所定の科目を修得すると、講習会・試 験の一部が免除となります。	
公認障害者スポーツ指導者 (<small>（公財）</small> 日本障害者スポーツ協会 公認)	/			/			○	所定の科目を修得し、資格申請してく ださい。 認定されると資格が取得できます。	
保育士 (国家資格)	/			/			○ 保育専修のみ	課程修了後、大学が一括申請しま す。 卒業と同時に資格が取得できます。	
幼稚園教諭1種免許状 (国家資格)	/			/			○ 保育専修のみ	課程修了後、大学が一括申請しま す。 卒業と同時に資格が取得できます。	
社会福祉主事任用資格	○						所定の科目を修得してください。 卒業と同時に任用資格が得られま す。		
児童指導員任用資格	○	/			/			○	卒業と同時に任用資格が得られます。
操縦士 (国家資格) ※国家試験合格が条件	/			/			○ アビエーション マネジメント学類 フライト・オペレー ションコースのみ	養成課程を経て、国家試験に合格する 必要があります。	
ECO-TOPプログラム <東京都認定証>	○						所定の科目を修得すると、 東京都に認証され登録されます。		

心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻メジャー修了の学生のみ

1. 教育職員免許状(国家資格)

1. 教育職員免許状の取得について

教員になろうとする者は、国・公・私立学校を問わず、それぞれの学校の相当の教育職員免許状(以下、免許状という)を取得していることが必要です。

免許状は「教育職員免許法」に定められるとおり、基礎資格を有し、文部科学省の認定を受けた大学の課程で所定の単位を修得し、当該免許状の授与権者である都道府県の教育委員会に申請することで、免許状が授与されます。

したがって、教員になることを志望する学生は、免許状を取得するために本学教職課程における所定の単位を修得しなければなりません。

また、公立学校の教員になろうとする場合には、さらに都道府県の教育委員会が行う教員採用候補者選考試験に合格しなければ採用されません。私立学校については各都道府県の私学団体が適性検査を実施している場合もあります。中学校・高等学校一括方式の教員採用が増加しているので中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の両方を取得することが望まれます。

2. 本学の教職課程

本学において、文部科学省の認定を受けている各学群の教職課程は以下に示すとおりです。

学 群	種 類	教 科
リベラルアーツ学群	中学校教諭1種免許状	国語
		社会
		数学
		理科 ※1
		外国語(英語)
		外国語(中国語)
	高等学校教諭1種免許状	国語
		地理歴史
		公民
		数学
		理科 ※1
		情報
		外国語(英語)
		外国語(中国語)
総合文化学群	中学校教諭1種免許状	音楽 ※2
		美術 ※3
	高等学校教諭1種免許状	音楽 ※2
		美術 ※3
ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類	高等学校教諭1種免許状	商業
健康福祉学群	中学校教諭1種免許状	保健体育
	高等学校教諭1種免許状	保健体育
		福祉 ※4
	幼稚園教諭1種免許状 ※5	

※1 リベラルアーツ学群の学生のみ履修できます。

※2 総合文化学群音楽専修の学生のみ履修できます。

※3 総合文化学群造形デザイン専修の学生のみ履修できます。

※4 健康福祉学群社会福祉専修の学生のみ履修できます。

※5 健康福祉学群保育専修の学生のみ履修できます。履修についてはP. 252を参照してください。

3. 教職課程履修上の注意事項

① 課程の登録について

教職課程の履修に際しては強い意志と早い段階から綿密な学習計画が必要となるため、教職の意義などについて深く学び、自己の適性について考えることが必要です。1年次秋学期に教職課程ガイダンスで履修の詳細について説明を行いますので、履修希望者は必ず出席してください。正式には2年次春学期の定められた期間中に課程登録費の納入及び個人票、その他必要書類の提出により、課程の登録を行ってください。登録者には『教職課程ハンドブック』をお渡しします。

② 「履修カルテ」について

「履修カルテ」とは、教職課程の学習や活動について各自が記録するものです。教職課程登録時より記入を開始し、4年次に「教職実践演習」を履修するための基礎データとして使用されます。この「履修カルテ」を作成しない者は「教職実践演習」を履修することができません。また、4年次まで使用するので、提出・返却については教職センター事務室からの連絡をよく確認し、各自で責任をもって大切に保管してください。

③ 履修単位と履修登録について

教職課程の修得単位は、すべて卒業要件単位に含まれます。また、各学期の履修の上限単位数にも含まれます。抽選科目や教育実習関連の科目の履修については単位数や履修方法に注意して履修登録を行ってください。

④ 教職課程オリエンテーションと各種説明会について

毎年春学期のオリエンテーション期間中に教職課程オリエンテーションを行います（1年次のみ秋学期に実施）。学年ごとに事務手続き等の説明を行うので、毎年必ず出席してください。欠席の場合は課程を辞退したものとみなします。

教育実習、介護等体験、教員免許状大学一括申請については別途説明会を開催し、詳細な説明と資料の配布を行います。日程等は掲示でお知らせします。

⑤ 掲示連絡について

教職課程に関する連絡は教職課程の掲示板またはe-Campus掲示板【資格教職】で行います。頻繁に掲示板を確認する習慣をつけてください。見落としした場合、実習や免許状取得に支障をきたすことがあります。自己責任となりますので十分に注意してください。特に介護等体験や教育実習が近くなると連絡事項が多くなります。連絡を受けたら、迅速に対応してください。

⑥ 海外留学・休学・早期卒業について

教職課程登録者で、長期留学を予定している学生は教職に関する履修相談を受けてください。また、留学することが確定した段階で必ず教職センター事務室に留学届けを提出し、留学中または留学前後の教職に関する事務手続きの確認をしてください。休学・早期卒業についても事前に教職センター事務室へ相談してください。

⑦ 教職課程の辞退について

教職課程を辞退する場合は、必ず教職センター事務室に申し出てください。免許状取得のために教職センター事務室は様々な手続きを行っているので進行中の手続きを確実に停止させる必要があります。

⑧ 教職課程に関する相談について

履修相談や事務手続きについての相談は教職センター事務室まで十分な時間の余裕を持って問い合わせてください。（原則として、電話による相談は、受け付けていません。）

また、教育上の質問や相談は教職の担当教員へ事前にメールで連絡を行い、オフィスアワーに教員オフィスを訪問してください。

⑨ 教職指導室の利用について

教職指導室は教職に関する図書の貸出しや資料の閲覧、自習などに利用できます。教育関係の就職情報や教員採用試験に関する情報も揃えています。積極的に活用してください。

4. 教職課程の構成

法令に定められた教職課程の科目区分は【教職に関する科目】【教科に関する科目】【教科又は教職に関する科目】及び【施行規則第66条の6で定める科目】で、それぞれの最低修得単位数は第1表に示すとおりです。

第1表 大学において修得することを必要とする最低単位数

(数字は単位数)

免許状の学校種	最低修得単位数	教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則第66条の6に定める科目	合計
中学校1種免許状		31	20	8	8	67
高等学校1種免許状		23	20	16	8	67

第2表 桜美林大学教職課程の最低修得単位数一覧

教科に関する科目が開設されている学群	最低修得単位数	教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則第66条の6に定める科目	合計
リベラルアーツ学群	中1種 国語	34	24	1	8	67
	高1種 国語	29	22	8	8	67
	中1種 社会	36	26	0	8	70
	高1種 地歴	27	22	10	8	67
	高1種 公民	27	20	12	8	67
	中1種 数学	34	20	5	8	67
	高1種 数学	29	20	10	8	67
	中1種 理科	36	32	0	8	76
	高1種 理科	31	32	0	8	71
	高1種 情報	29	24	6	8	67
	中1種 外国語（英語）	34	40※	0	8	82※
	高1種 外国語（英語）	29	40※	0	8	77※
	中1種 外国語（中国語）	34	23	2	8	67
	高1種 外国語（中国語）	29	23	7	8	67
総合文化学群	中1種 音楽	34	24	1	8	67
	高1種 音楽	29	24	6	8	67
	中1種 美術	34	26	0	8	68
	高1種 美術	29	24	6	8	67
ビジネスマネジメント学群	高1種 商業	29	20	10	8	67
健康福祉学群	中1種 保健体育	34	32	0	8	74
	高1種 保健体育	29	32	0	8	69
	高1種 福祉	29	42	0	8	79

※その他修得を要する科目があるので、詳しくはP. 217を参照してください。

ビジネスマネジメント学類

5. 「教職に関する科目」の履修方法

本学における免許状取得に必要な「教職に関する科目」とその最低修得単位数は、第3表に示す通りです。必修科目を満たし、必要単位数を修得してください。

第3表「教職に関する科目」開講科目一覧

単位欄の○付数字…必修科目

第1欄	教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	必要単位数	本学における授業科目	単位	履修年次	備考
第2欄	教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種機会 	2	教職入門	②	1	
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 	6	教育原理(教職課程)	②	1	
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) 		教育心理学(教職課程)※	②	2	
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 		教育制度論	②	2	
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 	中14 ┆ 16 高10 ┆ 14	教育課程論	②	2	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の指導法 		中等教科教育法Ⅰ※	②	2	教科によって異なるため第4表を参照のこと
				中等教科教育法Ⅱ※	②	2・3	
				中等教科教育法Ⅲ※	(②)	3	
				中等教科教育法Ⅳ※	(②)	3・4	
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指導法 	道徳教育論	2	2	中1種必修		
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の指導法 	特別活動論	②	2				
第4欄	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 	4	生徒指導論(生徒理解と教育相談)	②	2	
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の理論及び方法 		進路指導論	②	2	
第5欄	教育実習		中5 高3	教育実習事前・事後指導A※	1	3	中1種必修
				教育実習事前・事後指導B※	①	3	
第5欄	教育実習		中5 高3	教育実習A※	2	4	中1種必修
				教育実習B※	②	4	
第6欄	教職実践演習		2	教職実践演習(中・高)※	②	4	先修条件「教育実習B」

※教職課程登録者のみ履修可能です。

第4表 各教科の指導法の履修と必修科目

中・高1種「国語」		
授業科目	単位数	先修条件
中等国語科教育法 I	②	
中等国語科教育法 II	②	中等国語科教育法 I
中等国語科教育法 III	②	中等国語科教育法 II
中等国語科教育法 IV	2	中等国語科教育法 III
中1種「社会」		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・地理歴史科教育法 I	②	
中等社会科・地理歴史科教育法 II	②	中等社会科・地理歴史科教育法 I
中等社会科・公民科教育法 I	②	
中等社会科・公民科教育法 II	②	中等社会科・公民科教育法 I
高1種「地理歴史」		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・地理歴史科教育法 I	②	
中等社会科・地理歴史科教育法 II	②	中等社会科・地理歴史科教育法 I
高1種「公民」		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・公民科教育法 I	②	
中等社会科・公民科教育法 II	②	中等社会科・公民科教育法 I
中・高1種「数学」		
授業科目	単位数	先修条件
中等数学科教育法 I	②	
中等数学科教育法 II	②	中等数学科教育法 I
中等数学科教育法 III	②	中等数学科教育法 II
中等数学科教育法 IV	2	中等数学科教育法 III
中・高1種「理科」		
授業科目	単位数	先修条件
中等理科教育法 I	②	
中等理科教育法 II	②	中等理科教育法 I
中等理科教育法 III	②	中等理科教育法 II
中等理科教育法 IV	②	中等理科教育法 III
高1種「情報」		
授業科目	単位数	先修条件
中等情報科教育法 I	②	
中等情報科教育法 II	②	中等情報科教育法 I
中等情報科教育法 III	②	中等情報科教育法 II
中等情報科教育法 IV	2	中等情報科教育法 III

中・高1種「外国語(英語)」		
授業科目	単位数	先修条件
中等英語科教育法 I	②	
中等英語科教育法 II	②	中等英語科教育法 I
中等英語科教育法 III	②	中等英語科教育法 II
中等英語科教育法 IV	2	中等英語科教育法 III
中・高1種「外国語(中国語)」		
授業科目	単位数	先修条件
中等中国語科教育法 I	②	
中等中国語科教育法 II	②	中等中国語科教育法 I
中等中国語科教育法 III	②	中等中国語科教育法 II
中等中国語科教育法 IV	2	中等中国語科教育法 III
中・高1種「音楽」		
授業科目	単位数	先修条件
中等音楽科教育法 I	②	
中等音楽科教育法 II	②	中等音楽科教育法 I
中等音楽科教育法 III	②	中等音楽科教育法 II
中等音楽科教育法 IV	2	中等音楽科教育法 III
中・高1種「美術」		
授業科目	単位数	先修条件
中等美術科教育法 I	②	
中等美術科教育法 II	②	中等美術科教育法 I
中等美術科教育法 III	②	中等美術科教育法 II
中等美術科教育法 IV	2	中等美術科教育法 III
高1種「商業」		
授業科目	単位数	先修条件
中等商業科教育法 I	②	
中等商業科教育法 II	②	中等商業科教育法 I
中等商業科教育法 III	②	中等商業科教育法 II
中等商業科教育法 IV	2	中等商業科教育法 III
中・高1種「保健体育」		
授業科目	単位数	先修条件
中等保健体育科教育法 I	②	
中等保健体育科教育法 II	②	中等保健体育科教育法 I
中等保健体育科教育法 III	②	中等保健体育科教育法 II
中等保健体育科教育法 IV	2	中等保健体育科教育法 III
高1種「福祉」		
授業科目	単位数	先修条件
中等福祉科教育法 I	②	
中等福祉科教育法 II	②	中等福祉科教育法 I
中等福祉科教育法 III	②	中等福祉科教育法 II
中等福祉科教育法 IV	2	中等福祉科教育法 III

「教職に関する科目」と諸注意

履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	備 考
教職入門	2	1	100	
教育原理(教職課程)	2	1	200	
教育心理学(教職課程)	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
教育制度論	2	2	200	
教育関係法規Ⅰ	2	2	300	教職課程登録者のみ履修可
教育関係法規Ⅱ	2	2	300	教職課程登録者のみ履修可
教育課程論	2	2	200	
道徳教育論	2	2	300	
特別活動論	2	2	300	
教育方法論	2	2	300	
生徒指導論(生徒理解と教育相談)	2	2	300	
進路指導論	2	2	300	
教職実践演習(中・高)	2	4	400	教職課程登録者のみ履修可
教育実習事前・事後指導A	1	3	200	教職課程登録者のみ履修可
教育実習事前・事後指導B	1	3	300	教職課程登録者のみ履修可
教育実習A	2	4	400	教職課程登録者のみ履修可
教育実習B	2	4	400	教職課程登録者のみ履修可
中等国語科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等国語科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等国語科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等国語科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等数学科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等数学科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等数学科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等数学科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等理科教育法Ⅰ	2	2	200	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
中等理科教育法Ⅱ	2	3	300	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
中等理科教育法Ⅲ	2	3	300	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
中等理科教育法Ⅳ	2	4	400	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可

(次ページに続く)

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	備 考
中等情報科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等情報科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等情報科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等情報科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等英語科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等英語科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等英語科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等英語科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等中国語科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等中国語科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等中国語科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等中国語科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等音楽科教育法Ⅰ	2	2	200	総合文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
中等音楽科教育法Ⅱ	2	3	200	総合文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
中等音楽科教育法Ⅲ	2	3	300	総合文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
中等音楽科教育法Ⅳ	2	4	300	総合文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
中等美術科教育法Ⅰ	2	2	200	総合文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
中等美術科教育法Ⅱ	2	3	200	総合文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
中等美術科教育法Ⅲ	2	3	300	総合文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
中等美術科教育法Ⅳ	2	4	300	総合文化学群造形デザイン専修の教職課程登録者のみ履修可
中等商業科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等商業科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等商業科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等商業科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等保健体育科教育法Ⅰ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等保健体育科教育法Ⅱ	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可
中等保健体育科教育法Ⅲ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等保健体育科教育法Ⅳ	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
中等福祉科教育法Ⅰ	2	2	200	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
中等福祉科教育法Ⅱ	2	2	200	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
中等福祉科教育法Ⅲ	2	3	300	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可
中等福祉科教育法Ⅳ	2	3	300	健康福祉学群社会福祉専修の教職課程登録者のみ履修可

6. 「教科に関する科目」の履修方法

「教科に関する科目」とは、取得しようとする免許状の教科の内容に関連した科目をいい、本学認定課程における各教科の最低修得単位数は次に示す通りです。具体的な履修の方法は、科目が開設されている該当学群によって異なるので、それぞれの履修方法を理解した上で、履修科目を決定してください。

【1】「国語」の教科に関する科目(リベラルアーツ学群の課程)

中1種免許状「国語」は、科目区分『国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)]』『国文学(国文学史を含む。)]』『漢文学』』『書道(書写を中心とする。)]』より、必修、選択必修科目を含め、24単位以上を修得する。

高1種免許状「国語」は、科目区分『国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)]』『国文学(国文学史を含む。)]』『漢文学』』より、必修、選択必修科目を含め、22単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論	2	○
	日本語の文字・表記	2	
	日本語の表現	4	
	日本語の語彙・意味	4	
	日本語の音声	2	
	日本語の文法	4	
	日本語史	2	
	言語表現A	2	
	言語表現B	2	
国文学 (国文学史を含む。)	日本文学史A	4	1科目以上必修
	日本文学史B	4	
	古代文学講読	2	1科目以上必修
	平安文学講読	2	
	中世文学講読	2	
	江戸文学講読	2	
	近代文学講読	2	
	平安文学の世界	4	1科目以上必修
	中世文学の世界	4	
	江戸文学の世界	4	
	近代文学の世界	4	
	現代文学の世界	4	
	児童文学研究	2	
	漢文学	中国文言文講読	
中国古典文学研究		4	
中国古代思想研究		4	
中国文字学研究		4	
		4	

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
書道※ (書写を中心とする。)	書写	2	○
	書道研究Ⅰ	2	
	書道研究Ⅱ	2	

※中1種のみ

【2】「社会」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「社会」は、科目区分『日本史及び外国史』『地理学（地誌を含む。）』『法律学、政治学』『社会学、経済学』『哲学、倫理学、宗教学』より、必修、選択必修科目を含め、26単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)	備考※
日本史及び外国史	日本史概論	4	○	地歴
	日本の歴史Ⅰ	4		地歴
	日本の歴史Ⅱ	4		地歴
	世界史における日本	4		地歴
	世界史概論	4	○	地歴
	国際関係史Ⅰ	4		地歴
	国際関係史Ⅱ	4		地歴
	アメリカの歴史	4		地歴
	アメリカ社会史	4		地歴
	アジアの歴史Ⅰ	4		地歴
	アジアの歴史Ⅱ	4		地歴
	経済史	4		
	日本経済史	4		
	社会思想史	4		
地理学（地誌を含む。）	地理学概論	4	○	地歴
	文化地理学	4		地歴
	自然地理学概論	4		地歴
	文化人類学	4		地歴
	発展途上国論	4		地歴
	地球規模環境論Ⅰ	2		地歴
	地球規模環境論Ⅱ	2		地歴
	地誌学概論	2	○	地歴
	アジア研究概論	4		地歴
	東アジア研究	4		地歴
	東南アジア研究	4		地歴
	南アジア研究	4		地歴
	アメリカ研究概論	4		地歴
	オセアニアの政治と経済	4		地歴
	日本研究概論	4		地歴

(次のページに続く)

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法	備考※
「法律学、政治学」	政治学概論	4	} 1科目以上必修	公民
	法律学概論（国際法を含む）	4		公民
	国際法	4		公民
	国際協力法	4		公民
	国際政治論	4		公民
	政治過程論	4		公民
	比較政治学	4		公民
	国際機構論	4		公民
	平和論	4		公民
	アメリカの政治	4		公民
	日本の政治	4		公民
	アジアの政治	4		公民
	「社会学、経済学」	経済学概論	4	} 1科目以上必修
社会学概論		4	公民	
比較社会学		4		公民
国際経済論		4		公民
国際金融論		4		公民
国際貿易論		4		公民
多国籍企業論		4		公民
アメリカの経済		4		公民
アジアの経済		4		公民
社会政策		4		公民
ミクロ経済学		4		公民
マクロ経済学		4		公民
経済開発論		4		公民
経済統計論		4		公民
財政学		4		公民
金融論		4		公民
経済政策	4		公民	
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論	4	} 1科目以上必修	公民
	倫理学概論	4		公民
	宗教学概論	4		公民
	日本の宗教	4		公民
	アジアの思想と宗教	4		公民
	キリスト教文化論	4		公民
	仏教文化論	4		公民
	儒教文化論	4		公民
	イスラーム文化論	4		公民
	日本文化論	4		公民

※備考欄 地歴：高1種「地理歴史」の教科に関する科目 公民：高1種「公民」の教科に関する科目

【3】 「地理歴史」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「地理歴史」は、科目区分『日本史』『外国史』『人文地理学及び自然地理学』『地誌』より、必修、選択必修科目を含め、22単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)	備考※
日本史	日本史概論	4	○	社会
	日本の歴史Ⅰ	4		社会
	日本の歴史Ⅱ	4		社会
	世界史における日本	4		社会
外国史	世界史概論	4	○	社会
	国際関係史Ⅰ	4		社会
	国際関係史Ⅱ	4		社会
	アメリカの歴史	4		社会
	アメリカ社会史	4		社会
	アジアの歴史Ⅰ	4		社会
	アジアの歴史Ⅱ	4		社会
人文地理学及び自然地理学	地理学概論	4	○	社会
	文化地理学	4		社会
	自然地理学概論	4		社会
	文化人類学	4		社会
	発展途上国論	4		社会
	地球規模環境論Ⅰ	2		社会
	地球規模環境論Ⅱ	2		社会
地誌	地誌学概論	2	○	社会
	アジア研究概論	4		社会
	東アジア研究	4		社会
	東南アジア研究	4		社会
	南アジア研究	4		社会
	アメリカ研究概論	4		社会
	オセアニアの政治と経済	4		社会
	日本研究概論	4		社会

※備考欄 社会:中1種「社会」の教科に関する科目

【4】「公民」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「公民」は、科目区分『「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」』『「社会学、経済学（国際経済を含む。）」』『「哲学、倫理学、宗教学、心理学」』より、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)	備考※
「法学(国際法を含む。)、 政治学(国際政治を含む。)」	政治学概論	4	○	社会
	法学概論(国際法を含む)	4		社会
	国際法Ⅰ	4		社会
	国際協力法	4		社会
	国際政治論	4		社会
	政治過程論	4		社会
	比較政治学	4		社会
	国際機構論	4		社会
	平和論	4		社会
	アメリカの政治	4		社会
	日本の政治	4		社会
	アジアの政治	4		社会
	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	経済学概論	4	○
社会学概論		4		社会
比較社会学		4		社会
国際経済論		4		社会
国際金融論		4		社会
国際貿易論		4		社会
多国籍企業論		4		社会
アメリカの経済		4		社会
アジアの経済		4		社会
社会政策		4		社会
ミクロ経済学		4		社会
マクロ経済学		4		社会
経済開発論		4		社会
経済統計論		4		社会
財政学		4		社会
金融論		4		社会
経済政策	4		社会	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論	4	} 1科目以上必修	社会
	倫理学概論	4		社会
	宗教学概論	4		社会
	心理学概論	4		
	日本の宗教	4		社会
	アジアの思想と宗教	4		社会
	キリスト教文化論	4		社会
	仏教文化論	4		社会
	儒教文化論	4		社会
	イスラーム文化論	4		社会
	日本文化論	4		社会

※備考欄 社会:中1種「社会」の教科に関する科目

【5】「理科」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程 リベラルアーツ学群の学生のみ履修可）

中1種免許状「理科」は、科目区分『物理学』『物理学実験（コンピュータ活用を含む。）』『化学』『化学実験（コンピュータ活用を含む。）』『生物学』『生物学実験（コンピュータ活用を含む。）』『地学』『地学実験（コンピュータ活用を含む。）』より、必修、選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
物理学	物理学概論	2	○
	力学I	2	○
	力学II	2	
	電磁気学I	2	○
	電磁気学II	2	
	統計力学	2	
	熱力学	2	
	量子力学I	2	
	量子力学II	2	
	物理学特論I	2	
	物理学特論II	2	
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	物理学実験I	2	○
	物理学実験II	2	
化学	化学概論	2	○
	基礎有機化学	2	○
	有機合成化学	2	
	化学熱力学・反応速度	2	
	量子化学	2	
	基礎分析化学	2	
	機器分析化学	2	
	無機化学I	2	○
	無機化学II	2	
	化学特論	2	
	エネルギー化学	2	
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	化学実験I	2	○
	化学実験II	2	

(次のページに続く)

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)	
生物学	生物学概論	2	○	
	植物学I	2	○	
	植物学II	2		
	動物学I	2	○	
	動物学II	2		
	生態学I	2		
	生態学II	2		
	生理学I	2		
	生理学II	2		
	遺伝と進化	2		
	生化学	2		
	生物学特論(注)	各2		
	生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	生物学実験I	2	○
		生物学実験II	2	
地学	地学概論	2	○	
	地球物理学I	2	①「地球物理学I」 又は「地質学I」か ら1科目以上必修	
	地球物理学II	2		
	気象学I	2		
	気象学II	2	②「気象学I」又 は「天文学I」か ら1科目以上必修	
	天文学I	2		
	天文学II	2		
	地質学I	2		
	地質学II	2		
	古生物学	2		
	地球科学特論(注)	各2		
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	地学実験I	2	○	
	地学実験II	2		

(注)重複履修可の科目

高1種免許状「理科」は、科目区分『物理学』『化学』『生物学』『地学』『物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、化学実験(コンピュータ活用を含む。)、生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、地学実験(コンピュータ活用を含む。)]より、必修、選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
物理学	物理学概論	2	○
	力学I	2	○
	力学II	2	
	電磁気学I	2	○
	電磁気学II	2	
	統計力学	2	
	熱力学	2	
	量子力学I	2	
	量子力学II	2	
	物理学特論I	2	
	物理学特論II	2	
化学	化学概論	2	○
	基礎有機化学	2	○
	有機合成化学	2	
	化学熱力学・反応速度	2	
	量子化学	2	
	基礎分析化学	2	
	機器分析化学	2	
	無機化学I	2	○
	無機化学II	2	
	化学特論	2	
	エネルギー化学	2	
生物学	生物学概論	2	○
	植物学I	2	○
	植物学II	2	
	動物学I	2	○
	動物学II	2	
	生態学I	2	
	生態学II	2	
	生理学I	2	
	生理学II	2	
	遺伝と進化	2	
	生化学	2	
	生物学特論(注)	各2	

(次ページに続く)

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
地学	地学概論	2	○
	地球物理学I	2	①「地球物理学I」 又は「地質学I」か ら1科目以上必修
	地球物理学II	2	
	気象学I	2	
	気象学II	2	
	天文学I	2	
	天文学II	2	
	地質学I	2	
	地質学II	2	
	古生物学	2	
	地球科学特論(注)	各2	
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	物理学実験I	2	○
	物理学実験II	2	
	化学実験I	2	○
	化学実験II	2	
	生物学実験I	2	○
	生物学実験II	2	
	地学実験I	2	○
	地学実験II	2	

(注) 重複履修可の科目

【6】「数学」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中1種免許状「数学」、高1種免許状「数学」は、科目区分『代数学』『幾何学』『解析学』『確率論、統計学』『コンピュータ』より、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
代数学	線形代数学	4	○
	代数学	4	
	数学概論	2	
幾何学	幾何学	4	○
	離散数学	4	
解析学	微分積分学	4	○
	数学演習	2	} 1科目以上必修
	解析学	4	
「確率論、統計学」	確率論と統計学	4	
コンピュータ	コンピュータとデータ解析	2	○

【7】「外国語(英語)」の教科に関する科目(リベラルアーツ学群の課程)

中1種免許状「外国語(英語)」、高1種免許状「外国語(英語)」は、科目区分『英語学』『英米文学』『英語コミュニケーション』『異文化理解』より、必修、選択必修科目を含め、24単位以上を修得したうえで、さらに下記のとおり20単位を修得する。

①「英語エクステンションA、B」から合計4単位修得する。

(この4単位は、リベラルアーツ学群のGOプログラム参加による「外国語」8単位免除によって替えることはできない。)

②「英語学」科目区分から12単位、「英米文学」科目区分から4単位、計16単位を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
英語学	英語学入門	4	○
	英語の音声	4	○
	英語の歴史	4	
	英語の語彙	4	
	英語の構造	4	
	英語の意味	4	
	応用言語学	4	
	英文法I	2	
	英文法II	2	
	早期英語教育	4	
英米文学	英米文学入門	4	○
	イギリス文学研究	4	
	英米小説(注)	各4	
	アメリカ文学研究	4	
	英米文学と宗教	4	
	英米演劇	4	
	英米詩	4	
	英米文学講読	4	
	英米児童文学	4	
	批評理論	4	
英語コミュニケーション	Speech Communication Skills (G)	4	} 1科目以上必修
	Speech Communication Skills (A)	4	
	Written Communication Skills (G)	4	} 1科目以上必修
	Written Communication Skills (A)	4	
	翻訳(英→日)	4	
	翻訳(日→英)	4	
	英語通訳I	4	
	英語通訳II	4	
異文化理解	アメリカ文化	4	} 1科目以上必修
	イギリス文化	4	
	コモンウェルスの文化	4	
	英語圏の映画と文化	4	
	英米文化講読	4	
	英米文化研究(注)	各4	

(注) 重複履修可の科目

【8】「外国語(中国語)」の教科に関する科目(リベラルアーツ学群の課程)

中1種免許状「外国語(中国語)」、高1種免許状「外国語(中国語)」は、科目区分『中国語学』『中国文学』『中国語コミュニケーション』『異文化理解』より、必修、選択必修科目を含め、23単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
中国語学	中国語学概論	2	○
	中国語音声学	4	○
	中国語文法	4	○
	中国語教育研究	4	
	日中対照言語研究	4	
中国文学	中国文学概論	4	○
	中国古典文学史	4	
中国語コミュニケーション	中国近現代文学史	4	1科目以上必修
	中国語発音トレーニング	1	
	中国語リスニングⅠ	1	
	中国語リスニングⅡ	2	
	中国語会話Ⅰ	2	
	中国語会話Ⅱ	2	1科目以上必修
	中国語会話Ⅲ	2	
	中国語会話Ⅳ	2	
	中国語会話Ⅴ	2	
	中国語会話Ⅵ	2	
	中国語講読Ⅰ	2	1科目以上必修
	中国語講読Ⅱ	2	
	中国語作文Ⅰ	2	
	中国語作文Ⅱ	2	
	ビジネス中国語Ⅰ	2	
	ビジネス中国語Ⅱ	2	
	ビジネス中国語Ⅲ	2	
時事中国語	2		
日中翻訳技法	2		
日中通訳技法	2		
異文化理解	中国思想史	4	1科目以上必修
	現代中国文化論	4	
	中国の芸術	4	
	日中比較文化	4	

【9】「情報」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高1種免許状「情報」は、科目区分『情報社会及び情報倫理』『コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）』『情報システム（実習を含む。）』『情報通信ネットワーク（実習を含む。）』『マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）』『情報と職業』より、必修科目を含め、24単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
情報社会及び情報倫理	情報と社会	2	○
	情報と倫理	2	○
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	ソフトウェア概論	4	○
	コンピュータリテラシーⅡ	2	○
	情報デザイン論	2	
	プログラミングⅠ	2	
	プログラミングⅡ	2	
	Webページプログラミング	2	
	知識表現とプログラミング	2	
情報システム (実習を含む。)	情報システム論	4	○
	応用表計算	2	○
	システム設計論	4	
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	
	情報分析論	4	
	データベースⅠ	4	
	データベースⅡ	4	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報ネットワーク	2	○
	情報セキュリティ論	2	
	情報ネットワーク演習	2	
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	マルチメディア表現Ⅰ	4	○
	マルチメディア表現Ⅱ	4	
情報と職業	情報と職業	2	○

【10】「音楽」の教科に関する科目（総合文化学群の課程 ※総合文化学群音楽専修の学生のみ履修可）

中1種免許状「音楽」、高1種免許状「音楽」は科目区分『ソルフェージュ』『声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）』『器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）』『指揮法』『音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）』より、必修、選択必修科目を含め24単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	○
	ソルフェージュⅡ	1	○
声楽 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	声楽AⅠ～Ⅷ	各2	} 2単位以上必修
	声楽BⅠ～Ⅷ	各1	
	合唱A(注)	各1	} 2単位以上必修
	合唱B(注)	各1	
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	器楽概論	2	○
	管弦楽概論	2	
	器楽実技AⅠ～Ⅷ	各2	} 4単位以上必修
	器楽実技BⅠ～Ⅷ	各1	
	ピアノAⅠ～Ⅷ	各2	
	ピアノBⅠ～Ⅷ	各1	
	管楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各1	
	弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各1	
	管弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ	各2	
	伴奏法Ⅰ	2	
	伴奏法Ⅱ	2	
指揮法	指揮法	2	○
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。） 及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽入門	2	○
	音楽学	4	
	音楽制作演習	2	○
	西洋音楽史	4	○
	東洋音楽史	2	○
	民族音楽研究	2	
	ヨーロッパの大衆音楽	4	
	宗教音楽史	4	
	和声学	4	
対位法	4		

(注) 重複履修可の科目

【11】「美術」の教科に関する科目（総合文化学群の課程 ※総合文化学群造形デザイン専修の学生のみ履修可）

中1種免許状「美術」は、科目区分『絵画(映像メディア表現を含む。)]』『彫刻』『デザイン(映像メディア表現を含む。)]』『美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)]』より、必修、選択必修科目を含め26単位以上を修得する。

高1種免許状「美術」は、科目区分『絵画(映像メディア表現を含む。)]』『彫刻』『デザイン(映像メディア表現を含む。)]』『美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)]』より、必修、選択必修科目を含め24単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)	
絵画 (映像メディア表現を含む。)	美術演習A(注)	各2	} 1科目以上必修	
	美術演習B(注)	各2		
	造形実技入門B(注)	各2		
		コンピュータ造形Ⅰ(注)	各4	} 1科目以上必修
		コンピュータ造形Ⅱ(注)	各4	
		フォトアート演習(注)	各2	
彫刻 デザイン (映像メディア表現を含む。)	美術演習D(注)	各2	○	
	デザイン論(注)	各4	○	
	造形実技入門A(注)	各2	} 1科目以上必修	
	造形実技入門C(注)	各2		
	デザイン演習A(注)	各4		
	デザイン演習B(注)	各4		
	デザイン演習C(注)	各4		
	デザイン演習D(注)	各4		
	デザイン演習E(注)	各4		
デザイン演習G(注)	各4			
工芸※	工芸概論	2	○	
	美術演習C(注)	各2		
	テキスタイル演習A(注)	各2		
	テキスタイル演習B(注)	各2		
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	造形芸術入門	2	○	
	美学	4		
	現代美術論	4		
	色彩構成演習(注)	各1		
	西洋美術史A	4		
	西洋美術史B	4		
	日本美術史	4	○	
	東洋美術史	4	○	

(注) 重複履修可の科目

※中1種のみ

【12】「商業」の教科に関する科目（ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類の課程）

高1種免許状「商業」は、科目区分『商業の関係科目』『職業指導』より、必修科目を含め20単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
商業の関係科目	現代法入門	2	○
	現代経営入門	2	○
	現代会計入門	2	○
	経営史入門	2	
	経営管理論Ⅰ	2	
	経営管理論Ⅱ	2	
	パソコン利用のグラフ意思決定	2	
	パソコン利用の管理シミュレーション	2	
	マーケティング論Ⅰ	2	
	マーケティング論Ⅱ	2	
	流通入門	2	
	組織と心理	2	
	組織と集団	2	
	財務管理論Ⅰ	2	
	財務管理論Ⅱ	2	
	家計と金融	2	
	小売店舗経営論	2	
	ビジネス倫理	2	
	財務会計論Ⅰ	2	
	財務会計論Ⅱ	2	
	中小企業経営論	2	
	ベンチャービジネス	2	
	外国為替入門	2	
	金融リスク管理	2	
	グローバル経営入門	2	
	国際会計Ⅰ	2	
	国際会計Ⅱ	2	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	2	
	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	2	
	異文化経営論	2	
	グローバル企業戦略論Ⅰ	2	
	グローバル企業戦略論Ⅱ	2	
アジア企業経営論	2		
中国企業経営論	2		
民法Ⅰ	2		
民法Ⅱ	2		
簿記Ⅰ	2		
簿記Ⅱ	2		
職業指導	職業指導Ⅰ	2	○
	職業指導Ⅱ	2	○

【13】「福祉」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程 ※社会福祉専修の学生のみ履修可）

高1種免許状「福祉」は、科目区分『社会福祉学（職業指導を含む。）』『高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉』『社会福祉援助技術』『介護理論及び介護技術』『社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）』『人体構造及び日常生活行動に関する理解』『加齢及び障害に関する理解』より、必修科目を含め42単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法(○は必修)
社会福祉学 (職業指導を含む。)	社会福祉原論	4	○
	地域福祉論	4	
	社会福祉とマネージメント	4	
高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉	老人福祉論	4	○
	児童福祉論	4	○
	障害者福祉論	4	○
社会福祉援助技術	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	○
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2	
介護理論及び介護技術	介護概論	2	○
社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)	相談援助演習Ⅰ	4	○
	相談援助演習Ⅱ	4	○
	相談援助現場実習	4	○
	相談援助現場実習指導Ⅰ	2	○
	相談援助現場実習指導Ⅱ	2	○
人体構造及び日常生活行動に関する理解	医学一般	4	○
加齢及び障害に関する理解	加齢及び障害に関する理解	2	○

【14】「保健体育」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程）

中1種免許状「保健体育」、高1種免許状「保健体育」は、科目区分『体育実技』『「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法等を含む。）』『生理学（運動生理学を含む。）』『衛生学及び公衆衛生学』『学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）』より、必修科目を含め、32単位以上を修得する。

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修）
体育実技	スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1	(注)
	スポーツ（シーズンスポーツ）	各1	(注)
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	健康科学論	4	
	健康とスポーツ	2	○
	スポーツ心理学	4	
	スポーツ社会学	2	○
	スポーツ経営学	2	
	運動学	2	○
	スポーツコーチ学	4	
	スポーツ・体育史	2	
	スポーツ倫理学	2	○
	障害者レクリエーション	2	
健康心理学	4	リベラルアーツ学群専攻科目	
生理学 (運動生理学を含む。)	生理学	2	○
	栄養学	2	
	スポーツ栄養学	4	
	足の健康科学	4	
	解剖学	2	
	発育発達学	2	
	スポーツ生理学	2	
	健康と食生活	2	
	健康栄養学実験	2	
	体力測定評価実習	1	
衛生学及び公衆衛生学	衛生学	2	○
	公衆衛生学	2	○
(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学	2	○
	精神保健学	4	
	精神医学	4	
	健康心理カウンセリング概論	2	
	学校カウンセリング論	2	
	救急処置法	2	
	ストレスマネジメント	2	
	ヘルスカウンセリング	4	

(注)スポーツ(ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ)は以下のとおり合計16単位以上修得すること。

種目	履修方法(○は必修)
体づくり運動 I～IV	○(1単位必修)
器械体操 I～IV	} 2種目2単位選択必修
陸上競技 I～IV	
水泳 I～IV	
バスケットボール I～IV	
ハンドボール I～IV	○(1単位必修)
サッカー I～IV	○(1単位必修)
ラグビー I～IV	
バレーボール I～IV	
テニス I～IV	○(1単位必修)
卓球 I～IV	
バドミントン I～IV	○(1単位必修)
ソフトボール I～IV	
軟式野球 I～IV	
ゴルフ I～IV	
柔道 I～IV	} 1種目1単位選択必修
剣道 I～IV	
創作ダンス I～IV	○(1単位必修)
エアロビクス I～IV	
フィットネス I～IV	
トレーニング I～IV	
レクリエーション I～IV	
器械体操指導法	} 2種目選択必修
陸上競技指導法	
水泳指導法	
柔道指導法	} 1種目選択必修
剣道指導法	
バスケットボールS	○
バレーボールS	○
サッカーS	} 1種目選択必修
テニスS	
バドミントンS	
ソフトボールS	
エアロビクスS	
キャンプ I～IV	} 1種目1単位選択必修
スキー I～IV	

7. 「教科又は教職に関する科目」の履修方法

「教科又は教職に関する科目」の単位の修得方法は、「教科に関する科目」又は、「教職に関する科目」についての規定の最低修得単位を超えて修得した単位数をもってこれに充てることができる。第5表－1に示すとおり、修得しなければなりません。

さらに、本学は、「大学が加えるこれに準ずる科目」として、第5表－2にあげた科目が認定を受けており、この科目を修得することで「教科又は教職に関する科目」の単位の充てることができます。

第5表－1

教科又は教職に関する科目の 最低修得単位数	中 1 種	8 単 位
	高 1 種	16 単 位

第5表－2

授業科目	単 位 数	備 考
学校経営と学校図書館	2	学校図書館司書教諭講習の開講科目 ※P.233の(2)を参照
学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	
読書と豊かな人間性	2	
情報メディアの活用	2	

8. 「教育職員免許法施行規則66条の6で定める科目（一般教養科目）」の必要単位数

「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」からそれぞれ2単位以上を修得します。できる限り1年次に修得することが望ましい。

第6表 一般教養科目

免許状の規定		授 業 科 目	単 位	履 修 方 法	
科 目	単 位 数				
日 本 国 憲 法	2	日本国憲法	②	リベラルアーツ学群専攻科目	
体 育	2	健康とスポーツ	2	2単位必修	健康福祉学群 専攻科目
		スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1		
		スポーツ（シーズンスポーツ）	各1		
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	英語コアⅠA	2	2単位必修	コア科目
		英語コアⅠB	2		
		英語コアⅡA	2		
		英語コアⅡB	2		
		英語エクステンションA	各2		外国語科目
		英語エクステンションB	各1		
情 報 機 器 の 操 作	2	コンピュータリテラシーⅠ	2	2単位必修	コア科目
		コンピュータリテラシーⅡ	2		基盤教育科目

9. 「介護等体験」「教育実習」について

◎「教育実習事前・事後指導A」の履修と介護等体験について

「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定に伴い、中学校教諭の免許状を取得する場合に、社会福祉施設等における介護等体験が義務づけられました。

本学における介護等体験の流れ

(1) 「教育実習事前・事後指導A」の履修

中学校1種免許状の取得を希望する学生は、3年次春学期に「教育実習事前・事後指導A」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行ってください。履修単位（1単位）は秋学期に加算されます。通常の授業の形式と異なるため、日程は掲示にてお知らせします。

(2) 介護等体験の受け入れ先と体験日数

原則として、社会福祉施設等5日間、特別支援学校2日間、計7日間実施します。

(3) 介護等体験の申し込み手続きと介護等体験

3年次春学期のオリエンテーション期間に説明会を行います。各自、必要書類を期限までに必ず提出してください。大学が一括して申し込み手続きを行いますので、個人での申し込みはできません。

体験先の施設・学校と体験日は5月以降に決定し次第、掲示でお知らせします。体験先の資料等を教職センター事務室で受け取ってください。なお、施設・体験日は原則として変更することはできません。体験先により必要書類（細菌検査等）が異なり、事前に準備が必要です。また、体験当日の遅刻や無断欠席の場合は体験が中止となることもあります。

(4) 介護等体験証明書

介護等体験の終了後、施設長及び学校長より「介護等体験証明書」に施設名・住所、体験内容、施設長名等の記載と証明印を頂き、教職センター事務室に提出してください。中学校教諭1種免許状申請の際に必要な書類となります。

◎「教育実習事前・事後指導B」「教育実習A」「教育実習B」の履修と教育実習について

教育実習は「教職に関する科目」のひとつとして履修するものであり、学外の実習校において、実地に授業その他の教育活動に参加して行われるものです。本学が責任を持ち、受け入れ側の実習校との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を遵守しなければなりません。教育実習中の就職活動や部活動は一切行うことはできません。

本学における教育実習の流れ

(1) 教育実習校の内諾について

教育実習前年度の12月までに、教育実習予定校（原則として出身校）から教育実習の内諾を得てください。学校によっては面接を行う場合や先着順で受付を締切ってしまう場合もあります。各自責任を持って、実習予定校と連絡を取ってください。実習校を訪問する際には服装や言動に充分注意してください。内諾が得られなければ、教育実習はできません。また、実習校によっては教育委員会の手続きが必要となる場合もあります。すみやかに教職センター事務室まで連絡を取ってください。

(2) 「教育実習事前・事後指導B」の履修

教育実習を予定する年度の前年度秋学期に「教育実習事前・事後指導B」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行います。履修単位数（1単位）は春学期に加算されます。通常の授業の形式と異なる為日程は掲示にてお知らせします。

(3) 教育実習派遣の決定

「教育実習事前・事後指導B」の履修者は教育実習派遣審査の対象となります。派遣審査は教育実習前年度までの単位修得状況が下記審査基準を満たしているかどうかを審査し、さらに総合的に判断して派遣の可否を決定します。審査の結果が不合格の場合は教育実習を行うことはできません。派遣決定者は3月末に掲示にて発表します。

《審査基準》

本学からの教育実習派遣は以下のすべての条件を教育実習予定の前年度までに満たしていることを基準とする。

- ①『教職に関する科目』の「教育実習事前・事後指導A」「教育実習事前・事後指導B」「教育実習A」「教育実習B」「教職実践演習（中・高）」以外の必修科目すべてを修得済みであること。
- ②『教科に関する科目』は、必修科目を含んだ20単位以上を単位修得済みであること。
- ③必修科目である『66条の6に定める科目』（「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」各2単位）を、すべて単位修得済みであること。
- ④教育実習予定科目にかかわる必修科目である「各教科の指導法」を、すべて単位修得済みであること。
- ⑤卒業に必要な単位の修得が100単位以上であること。

(4) 「教育実習A」「教育実習B」の履修方法について

取得希望免許状に応じて下記の科目を4年次春学期に履修します。授業は指定クラスとなるので、時間割表で確認し、該当するクラスで履修登録を行ってください。

免許状種類	科目名称	単位数
中1種のみ	「教育実習A」	2
	「教育実習B」	2
中1種及び高1種	「教育実習A」	2
	「教育実習B」	2
高1種のみ	「教育実習B」	2

教育実習の辞退について

教育実習予定校より内諾をいただいた後に教育実習を行うことが不可能となった場合は、すみやかに教職センター事務室に連絡をし、その後の指示を受けてください。教育実習の直前に辞退することは、事前に受け入れ準備を行なっていたいただいた実習校へ多大な迷惑をかけることになり、大学の責任を問われる結果となります。4月以降に実習辞退を行うことがないよう、健康管理を十分に行い、将来の進路についても方針を定めておく必要があります。

≪教職課程の履修と事務手続きの日程≫

※内容及び予定は事情により変更になる場合があります。

学期	1年生	2年生	3年生	4年生
春 学 期		<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 課程登録費の納入 個人票の提出(課程登録) 教育実習校の事前調査</p> <p>各教科の指導法の履修開始 (音楽・美術・理科を除く)</p> <p>「履修カルテ」提出</p>	<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 個人票の提出(履修継続の意 志確認) 教育実習内諾関係書類の配布 「履修カルテ」提出</p> <p>教育実習予定校へ内諾申請 (4月-12月)</p> <p>介護等体験事務説明会 「教育実習事前・事後指導A」春 秋通年の履修 介護等体験開始(6月-3月)</p>	<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 個人票の提出(履修継続の意 志確認) 「履修カルテ」提出</p> <p>教育実習直前事務説明会 「教育実習A」・「教育実習B」の 履修 教育実習開始(5月-12月)</p>
秋 学 期	<p>9月</p> <p>教職課程ガイダンス</p>	<p>9月</p> <p>各教科の指導法の履修開始 (音楽・美術・理科)</p>	<p>9月</p> <p>「教育実習事前・事後指導B」秋 春通年の履修</p> <p>12月</p> <p>教育実習校の決定</p> <p>1月</p> <p>「教育実習事前・事後指導A」(事 後指導)授業</p> <p>3月</p> <p>教育実習派遣審査 教育実習派遣者の決定</p>	<p>9月</p> <p>履修説明会(教職課程の単位修 得状況の確認) 「教職実践演習(中・高)」の履修</p> <p>10月</p> <p>教職免許状大学一括申請事務説 明会</p> <p>12月</p> <p>大学一括申請 宣誓書捺印 「学校図書館司書教諭講習修了 書交付」申請</p> <p>3月</p> <p>免許状授与</p>
教 職 課 程 履 修 の め や す	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目を履修する。 *教職入門</p> <p>◎基礎教育科目に加えて下記の 科目を履修する。 *日本国憲法 健康とスポーツ スポーツ (ウィークリースポーツ) (シーズンスポーツ)</p>	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目のうち5-7科目を 履修する。 *中等教科教育法Ⅰ *中等教科教育法Ⅱ *教育原理 *教育心理学 *教育制度論 *教育課程論 *道徳教育論 *特別活動論 *教育方法論 *生徒指導論 *進路指導論</p> <p>◎各教科の「教科に関する科目」 の必修、選択必修科目を中心 に履修する。</p>	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目の履修を完了する。 *中等教科教育法Ⅱ *中等教科教育法Ⅲ *中等教科教育法Ⅳ *教育実習事前・事後指導△ *教育実習事前・事後指導B *教育原理 *教育心理学 *教育制度論 *教育課程論 *道徳教育論 *特別活動論 *教育方法論 *生徒指導論 *進路指導論</p> <p>◎各教科の「教科に関する科目」 の必修、選択必修科目を中心 に派遣審査の基準を充たすよ うに履修する。</p>	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目を履修する。 *中等教科教育法Ⅳ *教育実習△ *教育実習B *教職実践演習(中・高)</p> <p>◎「教職に関する科目」「教科 に関する科目」「教科又は教 職に関する科目」の必要単位 数をすべて充たすように履修 する。</p>

*は教職課程の必修科目

下線の科目は当該年次に必修科目

10. 他学群聴講による免許状取得について

本学では所属学群以外の教職課程（※）の履修も可能ですが、修得した「教科に関する科目」が専攻科目ではないため、卒業要件を満たした上で、免許状を取得するには非常に多くの単位を修得する必要があります。また、それぞれの必修科目が時間割上、重なる場合があるため、入念な履修計画が必要となります。さらに、教科の専門知識が十分に得られない場合も考えられます。履修を始めるにあたっては、教職センター事務室に必ず相談してください。（※「理科」、「福祉」、「音楽」、「美術」を除く）

11. 教育職員免許状の申請

免許状は、教育職員免許法第5条第6項により、各都道府県教育委員会が授与します。卒業年度の9月以降に申請手続きについての学内説明会を行いますので申請希望者（課程修了見込みの学生）は申し込み書を提出してください。大学が一括して東京都教育委員会へ免許状授与の申請を行います（大学一括申請）。日程等の詳細は掲示にてお知らせします。

なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請となります（個人申請）。個人申請は住所地の教育委員会への申請となりますので、各教育委員会へ必要書類等を確認してください。その際、必要となる本学教職課程における修得期間、修得単位に関する証明書（「学力に関する証明書」）を発行いたしますので、教職センター事務室で申請してください。詳細については教職センター事務室まで問い合わせてください。

12. 各種証明書

教職センター事務室で発行する証明書は以下の通りです。（有料）

- ・教育職員免許状取得見込証明書（1通100円）
- ・「学力に関する証明書」（1通200円）

※発行には日数を要するので、必要と思われる場合には早めに申し込んでください。

《参考資料》 授与される免許状の種類と法令上の必要最低単位数

教育職員免許法施行規則に定められている免許状取得に必要な各区分の最低単位数は、次に示す通りです。

(教育職員免許法第5条関係 別表第1より)

第1欄	免許状の種類 所要資格		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
第2欄	基礎資格		修士の学位を有すること	学士の学位を有すること	短期大学士の学位を有すること	修士の学位を有すること	学士の学位を有すること
第3欄	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数	教科に関する科目	20	20	10	20	20
		教職に関する科目	31	31	21	23	23
		教科又は教職に関する科目	32	8	4	40	16

(教育職員免許法施行規則第6条)「教職に関する科目」の最低修得単位数

第1欄	免許状の種類 教職に関する科目		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
第2欄	教職の意義等に関する科目		2	2	2	2	2
第3欄	教育の基礎理論に関する科目		6	6	4	6	6
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目		12	12	4	6	6
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		4	4	4	4	4
第5欄	教育実習		5	5	5	3	3
第6欄	教職実践演習		2	2	2	2	2

(教育職員免許法施行規則第66条の6)

第1欄	免許状の種類 66条の6の科目		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
	日本国憲法		2	2	2	2	2
	体育		2	2	2	2	2
	外国語コミュニケーション		2	2	2	2	2
	情報機器の操作		2	2	2	2	2

2. 学校図書館司書教諭(国家資格)

学校図書館司書教諭は、学校図書館の専門的職務にたずさわることを目的とし、「学校図書館法」によって定められたもので、文部科学省令で規定している講習を受けてはじめて与えられる資格です。

(1) 学校図書館司書教諭の資格取得

学校図書館司書教諭講習の受講生は教職課程を必ず履修登録していなければなりません。また、学校図書館司書教諭講習規定の定めによって、大学で文部科学省の法令で定められた講習に相当する単位（5科目10単位）を修得しなければなりません。

※教育職員免許状を取得していないと申請できません。

(2) 学校図書館司書教諭の資格を取得するための必修単位

所定の単位は、学校図書館司書教諭講習規程第3条第1項に示されていますが、関連する本学における開講科目は次表の通りです。

《学校図書館司書教諭講習の開講授業科目》

本学の授業科目名	単位	履修年次	レベル	先修条件ほか
学校経営と学校図書館	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
学校図書館メディアの構成	2	3	300	
学習指導と学校図書館	2	3	300	教職課程登録者のみ履修可
読書と豊かな人間性	2	3	300	
情報メディアの活用	2	3	300	

(3) 学校図書館司書教諭の修了書交付申請について

本学の学校図書館司書教諭講習での所定の単位を修得した学生は、講習規定第6条の規定により、免許状を交付された後（卒業後）に所定の手続きに沿って学校図書館司書教諭講習修了証（以下、修了証という）の交付申請を行います。

この修了証の交付を申請する学生は、卒業年度12月に申請手続きをしてください（詳細については掲示します）。なお、申請者には卒業後約1年後に、修了証を本学より郵送します。

3. 博物館学芸員(国家資格)

1. 開設の趣旨

博物館は、近代社会が生んだ最高の文化装置のひとつと言われています。日本はもちろん世界各国において、社会の近代化と国民文化・教育の振興のために、博物館は重要な貢献をしてきました。

博物館はまた、現代社会の中で、市民に開かれた自由な学習の場として、時には非日常的な啓示的体験の場として、いつまでも心に残る魅力的な娯楽の場として、さらには強力な情報メディアとして、多様な姿を現しつつあります。ゆとりある精神的に充実した未来社会の実現は、博物館なしでは考えられないでしょう。

そのような博物館で、調査研究活動や教育活動の中心となって働くのが学芸員です。本学の博物館学芸員課程では、激しく変化しつつある現代社会における博物館の地位と役割をしっかりと見据え、その中でリーダーシップを発揮して新しい博物館活動を推進していけるような、積極的で創造的な学芸員資質の教育を目指しています。

2. 履修方法

博物館学芸員に関する科目としては、博物館法施行規則により定められた必修科目を19単位以上修得することが定められていますが、本学の課程では、次の通りの単位修得が必要です。

- (1) 必修科目 9科目19単位
- (2) 選択科目 本学独自に指定する5分野の科目から2分野以上にわたり8単位以上

(1) 必修科目 (リベラルアーツ学群専攻科目)

本学開設授業科目	単位	履修年次	先修条件ほか
生涯学習概論	2	1	
博物館概論	2	1	
博物館教育論	2	1	
博物館経営論	2	2	博物館概論
博物館資料論	2	2	博物館概論
博物館資料保存論	2	2	博物館概論
博物館展示論	2	2	博物館概論
博物館情報・メディア論	2	2	博物館概論
博物館実習	3	3	他の全ての必修科目 履修内容についてはP.235を参照のこと

◎ 「博物館実習」(3単位)の履修方法

「博物館実習」を履修するには、博物館学芸員課程の他のすべての必修科目の単位を修得し、課程登録をすることが必要です。課程登録は、実習を希望する前年度の秋学期中に行われる2回のガイダンスに出席して仮登録を行い、その上で、実習年度の4月に課程登録費（3万円）を納入し、本登録を行います。

また、本学の「博物館実習」は、学内実習プログラム（A、B群）及び館務実習（C群）を組み合わせたポイント制で履修します。下記A、B、C群から各1ポイント以上、合計6ポイント以上の取得をもって3単位の修得とします。

※詳細は「博物館実習仮登録ガイダンス」及び「博物館実習本登録ガイダンス」にて説明しますので必ず出席してください。

	実習プログラム		ポイント	履修方法
A群	I	博物館実習入門	1	春学期オリエンテーション期間中に2回の集中講義(必修)
	II	博物館見学実習	各0.5	学内実習プログラムより選択
B群	III	視聴覚教育技術実習	各1	学内実習プログラムより選択
	IV	調査研究実習	各1	学内実習プログラムより選択
	V	博物館資料収集・整理実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VI	博物館教育普及活動実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VII	展示実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VIII	バリアフリー実習	各1	学内実習プログラムより選択
C群	IX	博物館館務実習	1~3	博物館園での委託館務実習（日数によりポイントは異なる）

(2) 選択科目

本学の独自のカリキュラムとして、次の I~V の5分野のうちから2分野以上にわたり、それぞれの分野から4単位以上、計8単位以上の修得が必要です。充実した専門知識は博物館学芸員として不可欠のものであるため、各分野ともできるだけ多く修得することが望めます。

分野		授業科目名	単位	履修年次	科目の開講学群	先修条件
I	民俗／ 民族学分野	文化地理学	4	1	リベラルアーツ学群	
		日本民俗学	2	3	リベラルアーツ学群	
		文化人類学	4	1	リベラルアーツ学群	
		宗教人類学	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の民俗	2	1	リベラルアーツ学群	
II	歴史／ 文化史分野	中国文化史	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本考古学	2	3	リベラルアーツ学群	
		韓国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		中国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅰ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅱ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論	4	2	総合文化学群	
III	美術／ 美術史分野	アートマネジメント論	2	3	総合文化学群	
		西洋美術史 A	4	1	総合文化学群	
		西洋美術史 B	4	1	総合文化学群	
		日本美術史	4	1	総合文化学群	
		東洋美術史	4	1	総合文化学群	
		現代美術論	4	3	総合文化学群	
IV	生物分野	植物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		植物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	植物学Ⅰ(同時履修可)
		動物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		動物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	動物学Ⅰ(同時履修可)
		生態学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		生態学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	生態学Ⅰ(同時履修可)
		生理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	
		生理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	生理学Ⅰ(同時履修可)
		生化学	2	3	リベラルアーツ学群	
遺伝と進化	2	3	リベラルアーツ学群			
V	地学分野	地球物理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		地球物理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	地球物理学Ⅰ(同時履修可)
		気象学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	物理学概論
		気象学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	気象学Ⅰ(同時履修可)
		天文学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		天文学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	天文学Ⅰ(同時履修可)
		地質学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		地質学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	地質学Ⅰ(同時履修可)

4. 博物館学芸員課程の流れ(資格取得まで)

実施時期	博物館学芸員課程	備 考
春学期 オリエンテーション期間	博物館学芸員課程説明会	対象：1年生～3年生で博物館学芸員資格に興味・関心のある者 博物館課程の概要及び資格取得の流れについて説明
春・秋開講	<p>★以下の必修8科目を履修</p> <ul style="list-style-type: none"> *「博物館概論」 (博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館情報・メディア論の先修条件) *「生涯学習概論」 *「博物館教育論」 *「博物館経営論」 *「博物館資料論」 *「博物館資料保存論」 *「博物館展示論」 *「博物館情報・メディア論」 	<p>修得には2セメスター以上を要す (ただし、1年次から履修の場合は、2年間を要す。)</p>
春・秋開講	★選択科目 2分野8単位以上を履修	P. 236を参照 (館務実習までに履修しておくことが望ましい。)
「博物館実習」 履修前年 秋学期	<p>第1回博物館実習仮登録ガイダンス(11月上旬)</p> <p>第2回博物館実習仮登録ガイダンス(12月上旬)</p> <p>仮登録票の提出</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>対象：必修8科目を修得見込みで次年度に「博物館実習」の履修を希望する者 仮登録に関する説明(館務実習先博物館の選定や手続きについて) 両日とも必ず出席すること。</p>
春学期 オリエンテーション期間	<p>博物館実習本登録ガイダンス ※1</p> <p>本登録票の提出</p>	<p>対象：仮登録を行った者全員</p> <p>本登録に関する説明(館務実習先博物館の決定とその他の手続きについて)</p> <p>課程登録費納入</p>
春→秋通年	<p>★「博物館実習」(3単位)の履修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修プログラム(博物館実習入門①②) ※2 ・学内実習プログラム(申し込み先着順 ※3) ・館務実習 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>必修科目、選択科目の修得及び学位取得の確認</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>※2 集中授業 ポイント制(6ポイント)の取得 詳細はP. 235</p> <p>※1、※2、※3とも春学期オリエンテーション時期に実施される。 無断欠席・遅刻の場合ポイントはFとなる。</p>
卒業時	「学芸員資証証明書」発行	

◎ 説明会及び各種ガイダンスの日程、教室等についてはオリエンテーション日程表、掲示でお知らせします。

4. 社会福祉士(国家資格)

社会福祉士になるためには、大学等において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」を修めて卒業することにより受験資格を取得して、毎年1回行われる国家試験に合格し、登録しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群社会福祉専修の学生に限られます。

1. 社会福祉士の資格制度の目的

我が国の人口構造の高齢化は、平均寿命の伸びや出生率の低下により一層急速なテンポで進展してきています。それとともに、高齢者や障害者等福祉に関する相談や介護を必要とする人が急激に増大することが確実にようになってきており、それらの人々が信頼し、安心して相談や助言・指導を受けることができる専門家が求められています。

このような社会的要請にこたえて、我が国の社会福祉分野における初めての国家資格制度として、昭和62年5月26日、社会福祉士及び介護福祉士法(昭和62年法律第30号)が制定され、社会福祉士が誕生しました。この資格制度は名称独占制度ですが、社会福祉士でない者はその仕事としてはならないという規定はありません。したがって業務独占ではありません。

2. 社会福祉士の業務内容

社会福祉士は、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいいます。多くの人が、社会福祉士の資格を得て、福祉の専門家として地域や機関・施設で中心的役割を果たすことが期待されています。

3. 社会福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学健康福祉学群社会福祉専修では、国家試験の受験資格を得るために、社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づいて、次頁の表の通り28科目を設置しています。国家試験受験資格取得のためには、本学授業科目より23科目以上を修得しなければなりません。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

(1) 相談援助演習の履修方法

3年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、2年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて、履修制限を行うため、選考を実施する。

(2) 相談援助現場実習指導及び相談援助現場実習の履修方法

3年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、先修条件を満たす者のうち、2年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて、履修制限を行うため、選考を実施する。

(3) 相談援助現場実習の時間数

相談援助現場実習を行う学生は、配属実習先において合計180時間以上の実習を行うものとする。

「社会福祉士」指定科目及び本学科目対照表

領域	指定科目	本学授業科目	単位	履修年次	備考
知識領域	現代社会と福祉	社会福祉原論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地域福祉論	4	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2	3	〃
	福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2	2	〃
	社会保障	社会保障論	4	2	〃
	高齢者に対する支援と介護保険制度	老人福祉論	4	2	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	4	1	〃
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	2	〃
	保健医療サービス	保健医療サービス	2	2	〃
	就労支援サービス	相談援助活動と就労支援・更生保護	2	3⇒2	1科目 選択必修
	更生保護制度				
	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	2	3	
技術領域	社会調査の基礎	社会調査の基礎	2	3	必修
	相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	4	1	〃
	相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	3	〃
		社会福祉援助技術論Ⅱ	2	3	〃
	相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	4	3	〃
		相談援助演習Ⅱ	4	3	〃
		相談援助演習Ⅲ	2	4	〃
	相談援助実習指導	相談援助 ^{現場} 実習指導Ⅰ	2	3	〃
		相談援助 ^{現場} 実習指導Ⅱ	2	3	〃
		相談援助 ^{現場} 実習指導Ⅲ	2	4	〃
相談援助実習	相談援助現場実習	4	3	〃	
関連知識領域	人体の構造と機能及び疾病	医学一般	4	1	1科目 選択必修
	心理学理論と心理的支援	心理学	4	1	
		心理学概論	4	1	
	社会理論と社会システム	社会学	4	1	
社会学概論		4	1		

5. 精神保健福祉士(国家資格)

精神保健福祉士になるためには、受験資格を取得して、毎年1回行われる国家試験に合格しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 精神保健福祉士の資格制度の目的

我が国の精神保健福祉の現状については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院の問題等が指摘されており、精神障害者の社会復帰を促進し、地域生活を支援することが緊急の課題となっています。

このため、精神障害者が社会復帰を果たす上で障害となっている諸問題の解決を図る必要があり、相談援助にたずさわる人材の養成・確保を図るため精神保健福祉士の資格制度が創設されました。

2. 精神保健福祉士の業務内容

精神保健福祉士は、精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識や技能をもって、精神科病院その他の医療機関、地域生活支援施設、福祉行政機関等において、精神障害者の社会復帰のための支援を行う専門職です。その主な業務には①精神障害者の社会復帰のための相談、②退院後の住居や就労の場についての助言や指導、③日常生活への適応のために必要な訓練などがあります。また、近年、司法・教育・労働などの幅広い分野において、精神保健福祉の課題に取り組む役割も期待されています。

3. 精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学の健康福祉学群では、国家試験の受験資格を得るために、精神保健福祉士法第7条第1号の規定に基づいて、次頁の表の通り指定科目25科目を設置しています。受験資格取得のための最少必要科目は23科目ですが、実際の国家試験は全科目から出題されますので、すべてを修得しておくことが望まれます。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、履修年次や先修条件に特に注意してください。精神保健福祉士の国家資格を取得する場合、1年次には「精神保健学」に加えて、「精神保健福祉相談援助の基盤」または「精神医学」の履修が必要です。また、「精神保健福祉相談援助の基盤」と「精神医学」の両方を2年次終了までに修得しておかなければ、3年次の「精神保健福祉実習指導Ⅱ」の履修ができません。

2年次に「精神保健福祉実習指導Ⅰ」を終えた後、3年で「精神保健福祉実習指導Ⅱ」に進み、1回目の施設での配属実習を行います。この単位は、「精神保健福祉現場実習Ⅰ」として登録します。2度目の配属実習は「精神保健福祉現場実習Ⅱ」として、4年次の「精神保健福祉実習指導Ⅲ」と同時に履修登録を行うこととなります。このように精神科医療機関や障害福祉サービス施設などでの実習が資格取得には必須なので、「精神保健福祉士」になるという目的意識を明確に持ち、学習を計画的に進めていくことが望まれます。こうした履修上の重要事項については、入学時や各学期始めのオリエンテーションで説明するので、情報収集に留意し、不明な点は教員に確認してください。

「精神保健福祉士」指定科目及び本学科目対照表

	指 定 科 目	本 学 授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
社会福祉士との 共通科目	人体の構造と機能及び疾病	医学一般	4	1	1科目 選択必修
	心理学理論と心理的支援	心理学	4	1	
	社会理論と社会システム	社会学	4	1	
	現代社会と福祉	社会福祉原論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地域福祉論	4	2	〃
	社会保障	社会保障論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2	3	〃
	保健医療サービス	保健医療サービス	2	2	〃
	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	2	3	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	4	1	〃
精神保健福祉士 専門科目	精神疾患とその治療	精神医学	4	1	〃
	精神保健の課題と支援	精神保健学	4	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	精神保健福祉相談援助の基盤	4	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）				
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論	4	2	〃
		精神科リハビリテーション学	4	2	〃
	精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	3	〃
	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	2	3	〃
	精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	2	〃
	精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	3	〃
	精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉実習指導Ⅰ	4	2	〃
		精神保健福祉実習指導Ⅱ	4	3	〃
		精神保健福祉実習指導Ⅲ	4	4	〃
	精神保健福祉援助実習	精神保健福祉現場実習Ⅰ	2	3	〃
精神保健福祉現場実習Ⅱ		2	4	〃	

6. 認定心理士（公益社団法人日本心理学会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群健康科学専修・精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 認定心理士の資格とは

この資格は、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられました。4年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を習得していると日本心理学会が認定した人に対して与えられる資格です。この資格認定は、わが国の各職場で活躍している心理学専攻者の利益の擁護とともに、その資質の向上、すなわち新しい知識・技術の学習の促進のために設置されました。

2. 認定心理士の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

- (1) 16歳以降、通算2年以上日本国に滞在した経験を有する者。
- (2) 学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位を修得し、卒業または修了した者、及び、それと同等以上の学力を有すると認められた者。

	領域		本学授業科目名	履修年次	単位	備考	
基礎科目	a	心理学	基本主題	心理学	1	4	a,b は各4単位以上、cは3単位以上修得し、合計で12単位以上
	b	心理学研究法	基本主題	心理学研究法	2	2	
			基本主題	心理統計法	2	2	
			基本主題	心理測定法	1	2	
	c	心理学実験・実習	基本主題	心理学基礎実験(注1)	2	2	
基本主題			心理学実験実習(注1)	3	2		
選択必修科目	d	知覚心理学 ・学習心理学	基本主題	学習心理学	2	4	d～hの5領域のうち3領域以上で、各4単位以上、合計で16単位以上
			基本主題	認知心理学	3	4	
	e	比較心理学 ・生理心理学	基本主題	生理心理学	2	2	
			基本主題	教育心理学	2	4	
f	教育心理学 ・発達心理学	基本主題	教育心理学	2	4		
		基本主題	生涯発達心理学	1	4		

(次のページに続く)

	領域	基本主題	本学授業科目名	履修年次	単位	備考
選択必修科目	G人格心理学 ・臨床心理学	基本主題	人格心理学	2	4	
		基本主題	臨床心理学	2	4	
		基本主題	異常心理学	2	4	
		基本主題	健康心理学	2	4	
		基本主題	健康心理カウンセリング概論(注1)	3	2	
		基本主題	健康心理アセスメント概論(注1)	3	2	
		基本主題	学校カウンセリング論(注1)	3	2	
		基本主題	人間性心理学	2	2	
		基本副次主題	精神保健学	1・2(注2)	4	
		副次主題	精神医学	1・2(注2)	4	
		H社会心理学 ・産業心理学		基本主題	社会心理学	
基本主題	家族心理学			2	4	
基本主題	産業・組織心理学			2	4	
基本主題	人間関係論(注3)			2	4	
基本主題	社会心理学調査実習(注1)			2	2	
基本主題	文化心理学			2	2	
その他の科目	I心理学関連の科目・卒業論文		宗教心理学	2	2	卒業論文は最大4単位までを認める
			スポーツ心理学(注1)	2	4	
			専攻演習(心理学)(注1)	3	4	
			卒業論文(注1)	4	6	
			卒業研究(注1)	4	6	

(注1)各科目の先修条件を確認の上、履修してください。

※上記の科目は、リベラルアーツ学群専攻科目、健康福祉学群専攻科目に置かれています。各自確認のうえ、履修してください。

(注2)健康福祉学群生は1年次より履修可能、リベラルアーツ学群は2年次より履修可能です。

(注3)リベラルアーツ学群専攻科目を履修してください。

3. 履修上の注意

「認定心理士」の資格認定を受けるためには、別表に記載されている科目の中から合計36単位以上を修得しなければなりません。その内訳は「基礎科目」A～Cの各領域から計12単位以上、「選択必修科目」D～Hの5領域のうち3領域以上で各4単位以上で計16単位以上、他の8単位はD～Hの任意の科目または「その他の科目」Iで充当します。

各領域の副次主題に該当する本学授業科目の修得単位は申請時の認定単位が1/2になるので注意してください。

4. 認定心理士の資格申請

上記の条件を満たした人は、公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を払い込んで資格申請を行います。申請書類等については公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会発行の、日本心理学会認定心理士資格申請の手引き、又は日本心理学会のホームページを参照してください。

7. 健康心理士(日本健康心理学会認定資格)

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群健康科学専修・精神保健福祉専修の学生に限られます。

1. 「健康心理士」とは

健康の維持・増進、疾病の予防、健康的な生活習慣の形成をめざして、その実践に必要な知識と技術を備え、健康心理学を中心とした学際的視野から真の健康生活に貢献するために、専門的な立場から助言・勧告、及び援助活動を行います。

2. 「健康心理士」の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

- (1) 健康心理学基礎科目（合計8単位以上、内訳は、A・B領域から各1科目を必修として計4単位以上、及びC~E領域から2領域を選び各1科目計4単位以上必要）

A領域:心理学(4)、心理学概論(4)

B領域:心理学研究法(2)

C領域:生涯発達心理学(4)、教育心理学(4)、学習心理学(4)

D領域:臨床心理学(4)、人格心理学(4)

E領域:社会心理学(4)、産業・組織心理学(4)

- (2) 健康心理学専門必修科目（F~Jの5領域にわたり各領域1科目以上、合計10単位以上必要）

F領域:健康心理学(4)

G領域:健康教育概論(2)

H領域:健康心理カウンセリング概論(2)

I領域:健康心理アセスメント概論(2)

J領域:健康心理学基礎実習(2)

- (3) 健康心理学関連選択科目（1科目以上、2単位以上必要）

科目名:医学一般(4)、精神医学(4)、精神保健学(4)、公衆衛生学(2)、

社会福祉原論(4)、社会保障論(4)

※上記の科目は、リベラルアーツ学群専攻科目、健康福祉学群専攻科目に置かれています。各自確認のうえ、履修してください。

3. 資格認定の申請方法

資格認定を希望する人は、認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を添えて認定委員会に提出します。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

8. 健康運動実践指導者(公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格)

健康運動実践指導者になるためには、受験資格を取得し、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。

この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群の学生に限られます。

1. 健康運動実践指導者の資格とは

この資格は、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳及び水中運動等のエアロビックエクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことが出来ると認められた者に対して与えられる資格です。

2. 健康運動実践指導者の資格を取得するためには

本学健康福祉学群健康科学専修の所定の科目(表参照)をすべて修得し、受験資格を取得した後、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。

認定試験は、筆記試験と指導実技試験からなります。

3. 履修上の注意

先修条件がついている科目があるので、その条件を確認の上、履修登録を行ってください。また、「フィットネス」は、水泳の実習が含まれるため、各種泳法を泳げる人が履修することが望まれます。さらに、資格関係以外の健康科学専修の科目の履修が望まれます。

【注】4月に行われる説明会に出席し、必ず希望調査票を提出すること。なお、希望調査票未提出者は、受験しないものとする。

4. 資格認定の申請及び登録について

認定試験を希望する人は、所定の書類等を整え、受験料を添えて財団に申請します。また、合格した人は、登録の申請料を添えて財団に登録します。登録は、5年間有効で、所定の講習会を受講して登録の更新をした人は、更に5年間登録が更新されます。

本学授業科目一覧

	科目名	単位数	履修年次
1	健康科学論	4	1
2	運動学	2	1
3	健康とスポーツ	2	1
4	生理学	2	1
5	栄養学	2	1
6	公衆衛生学	2	2

(次のページに続く)

本学授業科目一覧

	科目名	単位数	履修年次
7	スポーツ心理学	4	2
8	解剖学	2	1
9	発育発達学	2	1
10	救急処置法	2	1
11	スポーツ生理学	2	2
12	体力測定評価実習	1	2
13	エアロビクス I	1	1
14	フィットネス I	1	1
15	トレーニング I	1	1
16	陸上競技 I	1	1
17	体づくり運動 I	1	1

9. 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コース

この資格の課程を履修することができるのは健康福祉学群の学生に限られます。

1. (公財) 日本体育協会公認スポーツ指導者とは

(公財) 日本体育協会及び加盟競技団体等が、資格認定する指導者で、スポーツ医・科学の知識を生かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝える事が出来る指導者です。

2. 公認スポーツ指導者養成講習会(共通科目Ⅰ＋Ⅱ)免除適応コースとは

(公財) 日本体育協会が実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラム（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）を本学健康福祉学群で履修することができ、講習会・試験の一部が免除されるシステムです。本学においては、指定の科目を履修し単位修得することで、「共通科目Ⅰ＋Ⅱコース」が免除されます。

卒業年度に修了証明書を申請することにより、「共通科目Ⅰ＋Ⅱ修了証明書」と併せて「スポーツリーダー」（地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者）として認定され「スポーツリーダー認定証」が発行されます。修了証明書発行にあたっては所定の費用が必要となります。卒業後の修了証明書の発行は行いません。

詳細は（公財）日本体育協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/coach/index.html> を参照するか、または実習支援センターまでお問い合わせください。

「共通科目Ⅰ＋Ⅱ」免除適応コースは、以下の科目を履修してください。

「公認スポーツ指導者養成講習会 共通科目Ⅰ＋Ⅱ 免除適応コース」

本学授業科目一覧

	科目名	単位数	履修年次
1	スポーツ社会学	2	1
2	障害者レクリエーション	2	2
3	スポーツコーチ学	4	2
4	発育発達学	2	1
5	スポーツ栄養学	4	2
6	スポーツ医学	2	1
7	救急処置法	2	1
8	スポーツ心理学	4	2
9	スポーツ経営学	2	2

10. 公認障害者スポーツ指導者（公益財団法人日本障害者スポーツ協会資格）

この資格の課程は、全ての学群の学生が履修できます。

1. 公認障害者スポーツ指導者とは

この資格は、障害者の適性に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、障害者の健康・体力の維持・増進と競技力の向上に寄与することを責務とするものです。

なお、詳細は日本障害者スポーツ協会のホームページ <http://www.jsad.or.jp/> を参照してください。

2. 公認障害者スポーツ指導者の資格を取得するためには

本学は、同協会の資格認定校であり、所定の科目を修得した後、協会に申請することにより、初級スポーツ指導員の資格が取得できます。資格申請・登録には、所定用紙とともに諸費用を添える必要があります。

必修科目：「障害学」「障害者レクリエーション」の2科目

11. 保育士(国家資格)

保育士になるためには、厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設（指定保育士養成施設）を卒業するか、都道府県が実施する保育士試験に合格し、都道府県の備える保育士登録簿に氏名・生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録を行わなければなりません。

平成18年度より、本学健康福祉学群保育専修は厚生労働大臣指定の「指定保育士養成施設」として設置認可され、この資格の養成課程を履修できるのは健康福祉学群保育専修の学生に限ります。

1. 保育士の資格制度の目的

近年、少子化社会の時代にあっても、働く女性が増えるなどの社会背景の中で、保育士のニーズは増えてきています。社会の多様化が進む中で、保育士に求められる資質も変化してきており、精神的援助が行え、健康的側面からの支援ができ、国際的な視野と語学力を備えた保育士が求められています。

このような現状から、平成13年11月30日に児童福祉法の一部を改正する法律が公布され、保育士の資格が法定化されました。この資格制度は名称独占制度であるので、保育士でない者が、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用することは児童福祉法により禁止されています。

2. 保育士の業務内容

保育士は、保育士の名称を用いて専門知識及び技術をもって児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいい、保育所や児童福祉施設が主な活躍の場となります。社会環境や福祉の知識、精神保健の知識、カウンセリング経験、外国籍の子どもや保護者ともコミュニケーションができる力などを身につけた人材が求められています。

3. 保育士の資格を取得するためには

本学健康福祉学群保育専修では、保育士の資格を得るために、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号に基づいて、次頁表の通り71科目を設置しています。保育士の資格取得のためには、表中の「教養科目」、「必須科目」、「選択必修科目」のそれぞれの分野から、指定された単位数を習得することが必要です。

4. 履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

「保育士」指定科目及び本学科目対照表

教科目の種別	告示による教科目		本学の科目名	単位数	履修年次	備考
(10 単位以上設置) 教養科目	外国語、体育以外の科目		キリスト教入門	2	1	必修
			口語表現Ⅰ	2	1	4 単位以上を選択必修
			文章表現Ⅰ	2	1	
			文章表現Ⅱ	2	1	
			コンピュータリテラシーⅠ	2	1	
			コンピュータリテラシーⅡ	2	1	
			自己実現とキャリアデザイン	2	1	
	外国語		英語コアⅠA	2	1	
			英語コアⅠB	2	1	
			英語コアⅡA	2	1	
			英語コアⅡB	2	1	
	体育		健康とスポーツ	2	1	必修
			スポーツ(ウィークリースポーツ)	1	1	1科目選択必修
スポーツ(シーズンスポーツ)			1	1		
告示別表第一による教科目 必修(51単位以上設置)	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	2	1	必修
		教育原理	教育原理(保育)	2	1	〃
		児童家庭福祉	子ども家庭福祉	2	1	〃
		社会福祉	社会福祉	2	1	〃
		相談援助	保育ソーシャルワーク	2	3	〃
		社会的養護	社会的養護Ⅰ	2	2	〃
		保育者論	教職入門(保育)	2	1	〃
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	発達心理学	2	2	〃
		保育の心理学Ⅱ	教育心理学(保育)	2	2	〃
		子どもの保健Ⅰ	子どもの保健Ⅰ	4	2	〃
		子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅱ	2	2	〃
		子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	2	2	〃
		家庭支援論	家庭支援論	2	2	〃
	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	教育課程論(保育)	2	2	〃
		保育内容総論	保育内容総論	2	2	〃
		保育内容演習	保育内容(健康)	2	3	〃
			保育内容(人間関係)	2	3	〃
			保育内容(環境)	2	3	〃
			保育内容(言葉)	2	3	〃
			保育内容(表現)	2	3	〃
		乳児保育	乳児保育	2	2	〃
		障害児保育	障害児保育	2	2	〃
		社会的養護内容	社会的養護Ⅱ	2	2	〃
		保育相談支援	教育相談	2	2	〃
	保育の表現技術	保育の表現技術	保育表現技術(音楽)	2	1	〃
			保育表現技術(造形)	2	2	〃
			保育表現技術(体育)	2	2	〃
	保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所)	2	2	〃
			保育実習Ⅰ(施設)	2	3	〃
		保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅰ	2	2	〃
	総合演習	保育実践演習	教職実践演習(保育)	2	4	〃

選 択 告 示 必 修 表 第 二 に よ る 8 単 位 以 上 教 科 目 （ ）	保育の本質・目的に関する科目		地域福祉論	4	2	8 単 位 以 上 を 選 択 必 修
			児童福祉論	4	2	
	保育の対象の理解に関する科目		発育発達学	2	1	
			救急処置法	2	1	
			心理学	4	1	
			医学一般	4	1	
			精神保健学	4	1	
	保育の内容・方法に関する科目		児童英語教育入門	2	1	
			保育の英語 I	2	2	
			保育の英語 II	2	2	
			児童文化	2	2	
	保育の表現技術		運動学	2	1	
			音楽実技 I	1	1	
			音楽実技 II A	1	2	
			音楽実技 II B	1	2	
			音楽実技 II C	1	2	
			造形基礎	2	1	
	保育実習	保育実習 II	保育実習 II	2	3	※
		保育実習指導 II	保育実習指導 II	2	3	
		保育実習 III	保育実習 III	2	3	
保育実習指導 III		保育実習指導 III	2	3		
保育士資格取得科目ではないが、 学校独自の科目として設定され ている教科目		社会福祉とマネージメント	4	1	選 択 必 修	
		健康科学論	4	1		
		老年学	4	1		
		社会学	4	1		
		法学	4	1		

※ 保育実習 II と保育実習指導 II または保育実習 III と保育実習指導 III のうち、いずれかを選択必修

12. 幼稚園教諭1種免許状(国家資格)

この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群保育専修の学生に限られます。

1. 幼稚園教諭免許状の取得について

幼稚園教諭になるためには、国・公・私立幼稚園を問わず、幼稚園の教育職員免許状（以下、免許状）を取得していることが必要です。

免許状は「教育職員免許法」に基づき文部科学省の認定を受けた課程で所定の単位を修得することにより、取得することができます。つまり、本学を卒業し、免許状の授与を受けるために必要な単位を修得し、免許状の授与権者である都道府県の教育委員会に申請することで、免許状の授与を受けることができます。

また、公立幼稚園の教員になろうとする場合は、さらに各自治体の教育委員会が行う幼稚園教員採用候補者選考試験に合格しなければ採用されません。

2. 幼稚園教諭1種免許状を取得するための手続き

(1) 幼稚園教職課程登録

幼稚園教諭1種免許状の取得を希望する学生は、2年次春に幼稚園教職課程の登録を行なう必要があります。

(2) 免許状取得のための条件

- ① 卒業に必要な科目及び単位を修得すること
- ② 免許状取得に必要な科目及び単位を修得すること

(3) 免許申請の手続き

幼稚園教職課程登録をした学生のうち、秋学期卒業の学生については、免許状取得のための東京都教育委員会への申請を本学が一括して手続きを行います（大学一括申請）。なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請になります。

幼稚園教諭の免許状の授与を希望する学生は、4年次の一括申請手続説明会に必ず出席し、所定の手続きを行ってください。

(4) 幼稚園教職課程登録の取り下げ

幼稚園教職課程登録を取り下げの場合は、速やかに実習支援センターに相談し、所定の手続きを行ってください。

3. 幼稚園教諭1種免許状取得に必要な科目及び単位数

<教科に関する科目> 6単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学開設授業科目 (○印は必修)	単位数	履修年次
教科目	単位数			
国語	6	子どもとことば	2	3
生活		あそびと生活	2	3
音楽		○保育表現技術(音楽)	2	1
		音楽実技Ⅰ	1	1
		音楽実技ⅡA	1	2
		音楽実技ⅡB	1	2
		音楽実技ⅡC	1	2
		音楽表現法	2	2
図画工作		○保育表現技術(造形)	2	2
		造形基礎	2	1
体育		○保育表現技術(体育)	2	2
		子どものからだと健康	2	3
その他準ずる科目	児童文化	2	2	

<教職に関する科目> 35単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学開設授業科目 (○印は必修)	単位数	履修年次
科目	単位数			
教職の意義等に関する科目	2	○教職入門(保育)	2	1
教育の基礎理論に関する科目	6	○教育原理(保育)	2	1
		○教育心理学(保育)	2	2
		発達心理学	2	2
		○教育制度論(保育)	2	2
		教育関係法規(保育)	2	2
教育課程及び指導法に関する	18	○教育課程論(保育)	2	2
		○保育内容総論	2	2
		○保育内容(健康)	2	3
		○保育内容(人間関係)	2	3
		○保育内容(環境)	2	3
		○保育内容(言葉)	2	3
		○保育内容(表現)	2	3
		○障害児保育	2	2
		○教育方法論(保育)	2	2
		子どもとメディア	2	3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	幼児理解の理論と方法	2	2
		○教育相談	2	2
教育実習	5	○教育実習事前・事後指導(保育)	1	3
		○教育実習Ⅰ(保育)	2	3
		○教育実習Ⅱ(保育)	2	4
教職実践演習	2	○教職実践演習(保育)	2	4

＜教科又は教職に関する科目＞ 10単位以上

教育職員免許法第5条別表第1により、「教科又は教職に関する科目」として幼稚園教諭1種免許状の所要単位として10単位以上を修得しなければなりません。

「教科又は教職に関する科目」の単位の修得方法は、「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」についての規程の最低修得単位を超えて修得した単位数をもってこれに充てることができます。

＜免許法施行規則第66条の6に定める科目＞ 8単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数		授業科目（○印は必修）	単位	履修方法	
科目	単位数				
日 本 国 憲 法	2	○日本国憲法	2	必修科目	リベラルアーツ学群 専攻科目
体 育	2	○健康とスポーツ スポーツ（ウィークリースポーツ） スポーツ（シーズンスポーツ）	2 各1 各1	} 1単位以上必修	健康福祉学群 専攻科目
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	英語コアⅠA 英語コアⅠB 英語コアⅡA 英語コアⅡB 英語エクステンションA 英語エクステンションB	2 2 2 2 各2 各1		
情 報 機 器 の 操 作	2	コンピュータリテラシーⅠ コンピュータリテラシーⅡ	2 2	} 2単位以上必修	コア科目 基盤教育科目

4. 幼稚園教諭の免許状取得に必要な教育実習

教育実習は教職に関する科目のひとつとして履修するものです。学外の実習園において、実地に保育に参加して行われるものです。しかし、それは本学が責任を持ち、受け入れ側実習園との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を守らなければなりません。

(1) 実習時期と実習期間

幼稚園教諭1種の免許状の取得に必要な教育実習期間は、4週間です。

教育実習Ⅰ（観察、参加実習）2週間 3年次秋学期

教育実習Ⅱ（部分、責任実習）2週間 4年次春学期

時期については事情により変更することがあります。

(2) 教育実習履修資格

教育実習を行うにあたっては、以下の科目を修得済であることが条件となります。

「教職入門(保育)」「教育原理(保育)」

(3) 教育実習園の決定

本学では、原則、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱの実習園は同一園とします。但し実習園の都合等により同一園にならない場合もあります。また、実習先は、幼稚園教職課程登録時に提出する希望調査票に基づいて、配属を決定し、大学から幼稚園へ依頼し内諾を得ます。

(4) 教育実習を行なううえでの注意点

予定された教育実習が不可能となった場合や問題が生じた場合は、速やかに実習支援センターに連絡をして、その後の指示を受けてください。

(5) 「教育実習事前・事後指導」の履修

教育実習を行うにあたっては「教育実習事前・事後指導」の授業を履修し、一定以上の出席をしていることが条件となります。また、授業とは別に教育実習に関する書類の配布、申込方法の説明などの事前指導等を行いますので、必ず出席してください。

13. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格は本来、各地方自治体の福祉事務所などに従事する公務員（ケースワーカーなど）として任用される者に要求される資格ですが、社会福祉施設の職員等の資格にも準用されています。

なお、任用資格とは、所定の要件を満たし、該当する職種に就いて初めて通用するものです。

本学では、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目（以下「指定科目」という）から3科目以上を修得して卒業した者に対し、申請により証明書の発行を行っています。

また、指定科目の読替の範囲としてあげられている科目名と同じ名称の科目を修得していれば、指定科目を修得したこととなります。詳細は、厚生労働省ホームページを参照してください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/shakai-kaigo-fukushi8.html>

社会福祉概論、社会保障論、社会福祉行政論、公的扶助論、身体障害者福祉論、老人福祉論、児童福祉論、家庭福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、社会学、心理学、社会福祉施設経営論、社会福祉援助技術論、社会福祉事業史、地域福祉論、保育理論、社会福祉調査論、医学一般、看護学、公衆衛生学、栄養学、家政学、倫理学、教育学、経済学、経済政策、社会政策、法学、民法、行政法、医療社会事業論、リハビリテーション論、介護概論

14. 児童指導員任用資格

児童指導員は、家庭の事情や障害などのため、児童福祉施設で生活する児童を援助、育成、指導する職種であり、児童指導員任用資格は、児童福祉施設が児童指導員を採用する際の基準として定められた資格です。

およびリベラルアーツ学群（心理学専攻、教育学専攻、もしくは社会学専攻修了）

本学における資格取得対象となり得る学生は、健康福祉学群の卒業生 ~~及び中学校・高等学校の教員免許（教科は不問）を取得した者~~ であり、申請により証明書の発行を行っています。

15. 操縦士(国家資格)

操縦士の資格を取得するためには、国土交通省航空局（ニュージーランドの資格はニュージーランド航空局）の定める国家試験に合格しなければなりません。

この資格の養成課程を履修できるのはビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類フライト・オペレーションコースの学生に限ります。

1. 操縦士の業務範囲

操縦士は、航空機に乗り組んで操縦を行うことを業務とします。資格によって行うことができる業務は異なっており、報酬を受けて操縦士としての業務を行う場合は「事業用操縦士技能証明」の資格が必要となります。

2. 国家試験について

操縦士になるためには、一定の年齢及び飛行経歴を充足し、資格別、航空機の種類別に行われる国家試験を受け、合格する必要があります。国家試験には、学科試験と実地試験があり、学科試験に合格しなければ実地試験を受験することはできません。また、操縦士は常に健康の保持に留意しなければならず、国が指定した機関及び指定した航空身体検査医による身体検査を受けて合格し、第1種航空身体検査証明の交付を受ける必要があります。さらに、電波法に基づく航空無線通信士(国家資格)の取得も必要です。

3. 本学の養成課程で取得を目指す資格

国土交通省航空局：「事業用操縦士技能証明(単発・多発)」、「計器飛行証明」
 ニュージーランド航空局：「自家用操縦士技能免許」、「事業用操縦士技能証明(単発・多発)」、
 「計器飛行証明」
 総務省：「航空無線通信士」

4. 資格取得までのスケジュール

1年次春学期から2年次春学期までに、国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」・「計器飛行証明」の学科試験合格及び総務省「航空無線通信士」の資格取得を目指します。

2年次秋学期から4年次春学期までは、本学の提携校であるネルソン・マルボロ国立工科大学（以下、「NMIT」といいます）で2年間に渡って行われる飛行訓練課程で操縦技倆を修得し、ニュージーランド航空局「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」の取得及び国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」実地試験合格を目指します。

5. 履修上の注意

2年次秋学期から始まるNMITでの操縦実技科目を履修するためには、以下の①～④の要件を全て満たす必要があります。

- ① 国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」及び「計器飛行証明」の学科試験合格
- ② 総務省「航空無線通信士」の資格取得
- ③ TOEFL®PBT525点(iBT70～71点)以上

④ GPA2.5以上（2年次春学期まで）

学習内容及び適性において、操縦実技科目の履修に支障があると認められた者に対しては、資格取得を中止（渡航中の場合は帰国）させることがあります。

16. ECO-TOPプログラム(東京都認証)

1. ECO-TOPプログラムとは

「ECO-TOPプログラム」とは、今後の持続可能な社会の構築に向けて、自然環境分野で幅広い知識と専門性を備えアクティブに行動できる人材を育成し、人材の能力を認証するための、東京都の人材育成プログラムです。(「ECO-TOP」とは、「自然環境保全のための人材育成プログラム」の英語訳である、**Ecological Conservation-Training of Personnel Program**の頭文字を取った略称です。)

「ECO-TOPプログラム」の修了者は、東京都に登録され、自然環境分野に関する情報を定期的に得られたり、企業・NPO・行政から構成されるネットワークに入ることができるといった、フォローアップが受けられます。

詳細は、東京都のECO-TOPプログラム ホームページを参照してください。

<http://www.eco-top.jp/index.php>

2. ECO-TOPプログラムの認定取得に必要な科目と単位数

授業概要に定める科目区分		単位数	科目名	単位数	備考
必修科目	カリキュラムの導入科目	4単位必修	環境と文明	4	
	カリキュラムの最終科目	2単位必修	環境科学総合演習	2	卒業論文に条件を課すもの
	安全管理・救急救命に関する科目	2単位必修	野外安全管理 救急救命演習	1 1	
選択科目	カリキュラムの導入科目	2単位 選択必修	自然科学基礎 (ヒトの生物学)	2	
			自然科学基礎 (生物の一様性と多様性)	2	「生物学概論」との重複履修不可
			生物学概論	2	「自然科学基礎 (生物の一様性と多様性)」との重複履修不可
			自然科学基礎 (環境の化学)	2	
			自然科学基礎 (物質の世界)	2	「化学概論」との重複履修不可
			化学概論	2	「自然科学基礎 (物質の世界)」との重複履修不可
			地学概論	2	
	2単位 選択必修	学際・統合科学基礎 (地方政治と環境政策)	2		
	専攻入門 (環境学)	2			
	自然環境に関する自然科学分野の科目	4単位 選択必修	動物学I	2	
			動物学II	2	
			植物学I	2	
			植物学II	2	
			生態学I	2	
生態学II			2		
生物学実験I			2		
生物学実験II			2		
2単位 選択必修		人と自然	2		
		環境生物学	2		
4単位選択 必修(注1)	自然環境調査法	2			
	生体物質化学	2			
	エネルギーと環境	2			
	地球規模環境論I	2			
	地球規模環境論II	2			
	海洋学	2			
	感覚公害論	2			
専攻演習 I	2	(注1)社会科学分野の専攻演習I・IIと合わせた4科目から4単位選択必修			
専攻演習 II	2				

授業概要に定める科目区分		単位数	科目名	単位数	備考
選択科目	自然環境に関する自然科学分野の科目	選択科目	無機化学I	2	
			無機化学II	2	
			基礎有機化学	2	
			有機合成化学	2	
			気象学I	2	
			気象学II	2	
			地質学I	2	
			地質学II	2	
			自然科学基礎(天文学)	2	
			環境化学	2	
選択科目	自然環境に関する社会科学分野の科目	4単位 選択必修	環境法学	4	
			環境経済論	4	
		2単位 選択必修	文系のための環境科学	2	
			環境マネジメント論	2	
			環境ビジネス論	2	
			環境と情報	2	
			環境・エネルギー政策論	2	
			観光リゾート開発論	2	
			地域振興論	2	
			国際環境交渉論	2	
		4単位選択 必修(注2)	専攻演習Ⅰ	2	(注2)自然科学分野の専攻演習Ⅰ・Ⅱと 合わせた4科目から4単位選択必修
			専攻演習Ⅱ	2	
		選択科目	選択科目	都市環境政策I	2
	都市環境政策II			2	
	環境と地域			2	
	環境とまちづくり			2	
	環境社会学			4	
	持続可能な開発			4	
	食品安全論			2	
	化学と人間社会			2	
	環境化学			2	
	国際関係論			4	
	国際協力論			4	
	環境NPO・NGO	2			
社会環境調査法	2				
エコロジー・デザイン特殊講義	2				
自然環境に関する人文科学分野の科目	2単位 選択必修	環境倫理学	2		
		人間環境学	4		
		環境・生命・人権の哲学	2		
		江戸から学ぶ環境	2		
	2単位 選択必修	地理学概論	4		
		オーラルコミュニケーション(話す)	2		
		オーラルコミュニケーション(書く)	2		
		集団コミュニケーション	2		
			環境教育論	2	
必修科目	インターンシップ	6単位必修	ECO-TOPインターンシップ事前研修	1	
			ECO-TOPインターンシップI	2	
			ECO-TOPインターンシップII	2	
			ECO-TOPインターンシップ事後研修	1	
必修科目		14単位	8単位(導入科目、最終科目、安全管理)+6単位(インターン) +4単位(環境法学)		
選択必修科目		24単位	開設102単位のうち24単位を選択必修		
選択科目		(0単位)	開設54単位から自由選択		
修了判定基準		必修条件をクリアし、合計38単位以上			

参 考 資 料

以下は、2012年度の大学学則です。大学学則は変更される場合がありますので、必ず本学公式ホームページを参照し、確認してください。

1. 桜美林大学学則

第1章 総 則

第1節 目的及び達成の評価

(目的)

第1条 桜美林大学(以下「本学」という。)は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。

(目的達成の点検と評価)

第2条 本学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動の状況を点検し評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検、評価及び結果の公表の方法並びに組織については、別に定める。

第2節 組 織

(学群、学系及び学類)

第3条 本学に、学校教育法第85条但し書きに定める組織として、学群及び学系を置く。2前項の学群は、教育上の目的及び機能に応じて組織するものとし、その種類及び定員は次のとおりとする。

学 群 ・ 学 類	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員	備 考
リベラルアーツ学群	950人	—	3800人	
総合文化学群	250人	—	1000人	
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	320人	—	1280人
	アビエーションマネジメント学類	80人	—	320人
健康福祉学群	200人	—	800人	入学定員に保育専修50人を含む

3 第1項の学群において、教育上の目的及び機能に応じて、学類を設けることができる。

4 第2項の学群において、学年定員に欠員が生じた場合等、特別な事情がある場合、編入学等により学生を受け入れることがある。

5 第1項の学系は、研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して組織するものとし、その種類、その他必要な事項は、別に定める。

(養成する人材等)

第3条の2 前条の学群、学類の人材養成等に関する目的は、次のとおりとする。

- (1)リベラルアーツ学群は、広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行う。
- (2)総合文化学群は、演劇、音楽、造形デザイン、映画等の分野を幅広く追求し、アートの専門家として社会に通用するスキルを身につけた人材の養成等を目的として、総合的文化教育（芸術系分野）に係る教育等を行う。
- (3)ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類は、国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の養成等を目的として、幅広い職業人養成に係る教育等を行う。
- (4)ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類は、確かな知識・技倆を身につけ、新しい経営マインドを備えた航空業界で活躍する人材の養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。
- (5)健康福祉学群は、専門領域における確かな知識・技術を身につけ、人々の願い、悩み、喜びに共感できる、感性豊かな人間性をそなえた健康と福祉のエキスパートの養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。

(教育基本組織以外の教育組織)

第4条 本学に、前条の教育基本組織に共通する教育を一括して行うため、教育基本組織以外の教育組織を置くことができる。

2 教育基本組織以外の教育組織に関する規程は、別に定める。

(大学院)

第5条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する学則は、別に定める。

(別科)

第5条の2 本学に、別科の課程として留学生別科、及び中国語特別課程を置く。

2 留学生別科、及び中国語特別課程に関する規程は、別に定める。

(附置研究組織)

第6条 本学に、専門学術研究の振興を目的とし、附置研究組織を置くことができる。

2 附置研究組織に関する規程は、別に定める。

(附属図書館)

第7条 本学に、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教職員及び学生の閲覧に供するため、図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

第3節 教職員(省略)

第4節 大学運営会議及び教授会(省略)

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第22条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第23条 学年を、次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月15日まで

秋学期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第24条 大学における授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律で定められた休日
- (2) 創立記念日（5月29日）
- (3) 春季休業 3月20日から4月5日まで
- (4) 夏季休業 8月1日から9月15日まで
- (5) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、臨時に前項の休業日を変更し、又は休業日に授業を行わせ、もしくは臨時休業日を定めることができる。

(授業期間)

第25条 授業を行う期間は、試験等の期間を含め、年間35週にわたることを原則とする。

第2章 学群通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第26条 学士課程の標準修業年限は、4年とする。編入学者の標準修業年限は第2年次に入学した者については3年、第3年次に入学した者については2年とする。

2 在学年数は、標準修業年限の2倍の年数を超えることはできない。

3 大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、別に定めるところにより、修得した単位数その他の事項を勘案し、2年を上限として第1項の修業年限に通算することができる。

第26条の2 本学は、別に定めるところにより、本学の学群に3年以上在学した学生が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第26条第1項の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

(科目等履修生の在学年限)

第27条 第26条の規定にかかわらず、科目等履修生の在学年限については、学長が別に定める。

第2節 入学

(入学の時期)

第28条 入学の時期は、毎学年の始めとする。但し、第29条の各号に該当する者で、教育上支障がないときは、9月に入学を許可することがある。

(入学資格)

第29条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第30条 本学への入学を志願する者は、所定の入学願書その他の必要書類を入学検定料とともに、本学の指定する期日までに提出しなければならない。

(入学者の選考)

第31条 前条の入学志願者の選考については、別に定める。

(入学の手続き)

第32条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本人と保証人連署の誓約保証書のほか、定められた書類を提出するとともに、定められた期日までに所定の納入金を納付しなければならない。

(入学の許可)

第33条 学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(入学前の既修得単位等の認定)

第34条 本学は、教育上有益と認めるときは、新たに本学の第1年次に入学した学生の、次の各号の一に該当する既修得単位等を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。但し、この認定に関して修業年限の短縮は行わない。

(1) 大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）

(2) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修の本学の認定による単位

2 本学において修得したとみなすことができる単位数は、第44条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て行う。

(編入学等)

第35条 第3条第4項の場合において、次の各号の一に該当する者で、本学への編入学等を志願する者があるときは、選考のうえ第2年次もしくは、第3年次に入学を許可する。

(1) 大学を卒業した者又は大学に2年以上在籍し中途退学した者

(2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（但し、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

2 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目、及び単位数の取扱いについては、卒業要件単位の2分の1を上限として、当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

第3節 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第36条 本学における授業科目並びにその単位数は、別表Iのとおりとする。

(授業科目の区分)

第37条 授業科目はこれを分けて、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

(授業の方法)

第37条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第37条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第38条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で定められた時間の授業をもって1単位とする。但し、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、相応の時間の授業をもって1単位とする。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して定められた時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作、校外学習・個別課題学習等の授業科目及び公の技能審査等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して、適切な単位を授与することができる。

(単位の授与)

第39条 単位の授与は、原則として試験によるものとする。

2 一の授業科目を履修した者に対しては、試験のうえ単位を与えるものとする。

第40条 削除

(受験資格)

第41条 一の授業科目について欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた者は、その科目の試験を受けることができない。

2 授業料その他の学納金未納の者は、試験を受けることができない。

第42条 削除

(成績)

第43条 履修した授業科目の成績は、A、B、C、D、Fをもって表わし、A、B、C、Dを合格とする。但し、学群長は別に定めるところにより、これら以外の表記で成績を表すことを認めることができる。

(他大学等における授業科目の履修等)

第44条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)の授業科目を履修することを認める。

2 本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て行う。

(大学以外の教育施設等における学修)

第45条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修と認める。

2 本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第44条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て行う。

(履修届及び履修科目の登録の上限)

第46条 学生は各学期初めに履修する科目を選定し、学長に届け出るものとする。

2 学生が1学期に履修できる単位数は、卒業の要件とはならない科目を除き、20単位を上限とする。

3 前項の規定にかかわらず、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる学生等については、別に定めるところにより、上限を超えた履修科目の登録を認めることがある。

(取得できる資格)

第47条 本学で取得できる資格は、次の各項のとおりとする。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科名は、次のとおりとする。

学群・学類	免許状の種類	教科名
リベラルアーツ学群	中学校教諭1種免許状	国語
	高等学校教諭1種免許状	国語
	中学校教諭1種免許状	社会
	高等学校教諭1種免許状	地理歴史
	高等学校教諭1種免許状	公民
	中学校教諭1種免許状	数学
	高等学校教諭1種免許状	数学
	中学校教諭1種免許状	理科
	高等学校教諭1種免許状	理科
	高等学校教諭1種免許状	情報
	中学校教諭1種免許状	外国語(英語)

学 群 ・ 学 類	免 許 状 の 種 類	教 科 名	
リベラルアーツ学群	高等学校教諭1種免許状	外国語(英語)	
	中学校教諭1種免許状	外国語(中国語)	
	高等学校教諭1種免許状	外国語(中国語)	
総合文化学群	中学校教諭1種免許状	音 楽	
	高等学校教諭1種免許状	音 楽	
	中学校教諭1種免許状	美 術	
	高等学校教諭1種免許状	美 術	
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	高等学校教諭1種免許状	商 業
健康福祉学群	中学校教諭1種免許状	保 健 体 育	
	高等学校教諭1種免許状	保 健 体 育	
	高等学校教諭1種免許状	福 祉	
	幼稚園教諭1種免許状		

- 3 前項に示した教育職員免許状を得ようとする者は、学士の学位の取得に加え、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。
- 4 博物館法(昭和26年法律第285号)に基づく学芸員の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 5 学校図書館法(昭和28年法律第185号)に基づく司書教諭の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 6 児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)に基づく保育士資格を得ようとする者は、別に定める教科目及び単位数を修得しなければならない。

第4節 休学・転学・留学・転群転類及び退学

(休学)

第48条 病気又はその他やむを得ない事由により就学することができないときは、保証人連署のうえ医師の診断書又は事由書を添えて願い出て、許可を得て休学することができる。

第49条 休学の期間が1年を超えたときは、改めて休学願を提出しなければならない。

第50条 休学の期間は、引続き2年を超えることはできない。

2 休学の期間は、在学中を通じて3年を超えることはできない。

3 前2項の期間は、在学年数に算入しない。

第51条 休学の事由が終わったときは、願い出により復学することができる。

(転学)

第52条 本学から他の大学に転学を志望する者があるときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

(留学)

第53条 外国の大学への留学を志望する者は、学長に願い出てその許可を得て留学することができる。

- 2 許可を受けて留学した者の外国の大学での在学期間は、2年を限度として、本学における在学期間に算入することができる。
- 3 この規定に定める留学に関し必要な事項は、別に定める。

(転群転類)

第54条 本学在学者で本学の他学群・他学類等への転群、転類等を志望する者があるときは、当該両学群の教授会の議を経てこれを認めることがある。

- 2 前項の転群転類者の在学年数については、元の学群、学類等の在学年数の全部又は一部を算入することができる。

(退学)

第55条 本学を退学しようとする者は、事由を付して保証人連署のうえ退学願を提出しなければならない。

- 2 前項の願い出があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

(退学者の再入学)

第56条 退学後再入学を願い出る者があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可することができる。その場合、入学金の半額を即時納入し手続きをしなければならない。

- 2 再入学の時期は、各学期の初めとする。

(除籍)

第57条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 第26条第2項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第50条第1項並びに第2項に定める休学期間を超えてなお就学できない者

- 2 除籍された者には原則として再入学を許可しない。

第5節 卒業及び学位

(卒業要件)

第58条 卒業要件は、大学に4年以上在学し(第26条の2が適用される場合を除く。)、本学において定められた教育課程を履修して、別に定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得することとする。

(学位)

第59条 本学を卒業した者には、次の学士の学位を授与する。

学群・学類		課程	学位(専門分野の名称)
リベラルアーツ学群		学士課程	学士(学術)
総合文化学群		学士課程	学士(総合文化学)
			学士(芸術)
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	学士課程	学士(経営政策学)
	アビエーションマネジメント学類	学士課程	学士(アビエーションマネジメント)
健康福祉学群		学士課程	学士(社会福祉学)
			学士(精神保健福祉学)
			学士(健康科学)
			学士(保育学)
			学士(健康福祉学)

2 この学則に定めるもののほか、学位及びその授与に関し必要な事項は、本学学位規則に定める。

第6節 賞罰

(表彰)

第60条 本学の教育目的に添い、成績優秀で他の模範となる行為のあった者は、これを表彰する。

(懲戒)

第61条 本学の学生で、学則又は学内の規則に反し、その他学生としてふさわしくない行為のあった者には、当該学群の教授会の議を経て懲戒を行うことがある。

第62条 懲戒は、戒告、停学及び退学とする。

2 退学は、次の各号の一に該当する者につきこれを行う。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- (3) 正当な事由がないにもかかわらず出席の正常でない者
- (4) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反する者

第7節 学生指導

(学生指導委員会)

第63条 本学に、学長の諮問に応じ、学生の指導・厚生に関する重要な事項を審議する学生指導委員会を置く。

2 学生指導委員会に関する規程は、別に定める。

第8節 厚生施設及び寄宿舍

(厚生施設)

第64条 教職員及び学生は、別に定める規則に従って、次の施設を利用することができる。

- (1) 医療保健施設及び医務室
- (2) セミナー施設
- (3) その他の施設

(寄宿舍)

第65条 本学に、寄宿舍を置くことができる。

2 寄宿舍に関する規程は、別に定める。

第9節 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生

(科目等履修生)

第66条 本学所定の授業科目のうち1科目又は複数科目の履修を志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ科目履修を認めることがある。

2 科目等履修生に対する単位の授与については、第39条の規定を準用する。

3 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

(聴講生)

第67条 本学所定の授業科目のうち1科目又は複数科目の聴講を志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ聴講を認めることがある。

2 聴講生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

3 聴講生には試験を行わない。

(外国人留学生)

第68条 外国人で、大学において教育を受けることを目的として入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ当該学群の教授会の議を経て外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては第36条に係る別表のほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(特別聴講学生)

第69条 他の大学等(外国の大学を含む。)の学生で、本学において授業科目を履修することを志望する者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

(研究生)

- 第70条** 本学において、特定の専門事項について研究することを志望する者があるときは、当該志望学群の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。
- 2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 研究期間は、1年又は1学期とする。但し、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程)

- 第71条** 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程は、別に定める。

第10節 学納金

(学納金)

- 第72条** 本学の入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費の納入額は、別表Ⅱのとおりとする。
- 第73条** 入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費、その他臨時に定める学納金は、本学の指定する期日までに納付しなければならない。
- 第74条** やむを得ない事由のため学納金の納付が困難となった者については、願い出により納付期限を延長し、又は分納を許可することがある。
- 2 納付期限延長期間を超えて、所定の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者は、学長が除籍する。
- 第75条** 1学期を通じて休学する者は、別表Ⅲに定めた額を納付するものとする。
- 第75条の2** 他の大学（外国の大学を含む。）との共同学位プログラムを学修する者の当該他大学で学修する期間の学納金は、当該他大学が定めた額を当該他大学に直接納付するものとし、本学へは別表Ⅳに定めた額を納付するものとする。
- 第76条** 学期の途中で退学、転学、又は休学した者については、その期の学納金は徴収する。
- 第77条** 科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生の学納金については、別に定める。
- 第78条** 既に納付した学納金は、原則としてこれを返還しない。

第11節 公開講座

(公開講座)

第79条 本学に、随時、公開講座を開設し、学生及び一般市民の文化的向上に資する。

附 則 (一部省略)

附 則

1. 本学則は平成22年4月1日から施行する。

(以下省略)

2. 桜美林大学卒業規則

(趣旨)

第1条 桜美林大学(以下「本学」とし、大学院を除く。)の学生の卒業に関する事項は、この規定の定めるところによる。

(卒業の認定)

第2条 卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に行うことができる。

- (1) 大学に4年以上在学していること。ただし、第2年次に編入学したものは3年以上、第3年次に編入学した者は2年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。
- (3) 在学期間における成績平均値(以下「GPA」とする。)が1.5以上であること。
- (4) 当該学生が卒業を希望していること。

(早期卒業)

第3条 前条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合には、教授会の議を経て、卒業の認定を行うことができる。ただし、学則第26条の3に該当し、修業年限を通算した者を除く。また、各学群において教授会が必要と認めた場合、大学運営会議の議を経て、別に要件を付加することがある。

- (1) 本学に3年以上在学していること。
- (2) 本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。
- (3) 在学期間におけるGPAが3.6以上であること。
- (4) 当該学生が卒業を希望していること。

(卒業予定届)

第4条 卒業を希望する者は、卒業を予定する学期の定められた期日までに、学長に願い出なければならない。

(卒業願出の要件)

第5条 前条の願出は、所定の納付金をすべて納付済みのものでなければ、これを行うことができない。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、卒業に関する必要な事項は、学長が定める。

附則

- ① この規則は、2003(平成15)年4月1日から施行し、2001(平成13)年度入学者から適する。
- ② 第2条のうち、第3号の要件のみを満たしていない者で特別の事情があると認める場合には、教授会の議を経て、卒業を認めることがある。
- ③ 第3条の規定は、2001(平成13)年3月31日以前から引き続き大学に在学する者(同日前に大学に在学し、同日以降に再び大学に在学することになった者を含む。)については、適用しない。

附則

この規則は、2011(平成23)年4月1日から施行する。

附則

この規則は、2012(平成24)年4月1日から施行し、2012(平成24)年度以降に入学した者に適用する。

17 .日本語教員養成課程

1. 日本語教員養成課程とは

「日本語教員養成課程」は、多文化共生社会の担い手となる日本語教育人材(日本語教師、地域の日本語支援者等)を養成するための課程です。本学の「日本語教員養成課程」は、2016年に策定された法務省「日本語教育機関の告示基準」および文科省の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」(以下、「新基準」)に基づいて設置され、日本語教育人材の養成において必要とされる5つの区分(「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」)の教育内容から成ります。

「45単位コース」と「26単位コース」の二種類がありますが、どちらのコースにおいても、上記5区分の教育内容を幅広く学び、所定の修了要件を満たすことで各コースの「修了証明書」が発行されます。日本語教育人材の活動分野は、生活者としての外国人のための日本語教育をはじめ、留学生、日本語指導を必要とする児童生徒、技能実習生等の日本語教育等、多種多様です。指定された5区分の教育内容を幅広く学びつつ、選択必修科目については、それぞれの活動分野で必要とされる内容を把握した上で、履修を進めていくことをお勧めします。

2. 日本語教員養成課程における2種類のコースと各コース修了に必要な科目と単位数

【45単位コース】

- 「社会・文化・地域」から2単位
- 「言語と社会」から2単位
- 「言語と心理」から2単位
- 「言語と教育」から10単位 (「日本語教育実習」4単位は必修)
- 「言語」から6単位

(注) 45単位を満たすために必要な上記単位数以外の23単位分は、「5区分」および「5区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

【26単位コース】

- 「社会・文化・地域」から2単位
- 「言語と社会」から2単位
- 「言語と心理」から2単位
- 「言語と教育」から10単位 (「日本語教育実習」4単位は必修)
- 「言語」から2単位

(注) 26単位を満たすために必要な上記単位数以外の8単位分は、「5区分」および「5区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

3. 日本語教員養成課程「修了証明書」の申請方法

日本語教員に関する「新基準」に基づいた教育内容に必要な本学の「日本語教員養成課程」を修了し、学士の学位を得た学生には、「日本語教員養成課程」の修了証明書を卒業時に発行します。「日本語教員養成課程」の各コース修了要件を満たす見込みがあり、卒業を希望する場合は必ず所定の期限内に「日本語教員養成課程修了証明書発行申請書」を提出してください。詳細は掲示等でお知らせします。

【注意事項】 45単位コースの修了証明書の申請を行った場合でも、修了要件が満たされていない場合は、26単位コースの修了証明書の発行となる場合があります。

日本語教員養成課程 履修科目リスト

5区分	授業科目	単位	履修年次	リベラルアーツ学群 日本語教育 専攻プログラム科目	45 単位 コース	26 単位 コース
社会 ・ 文化 ・ 地域	日本語教育学A	2	1	○(必修)	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	年少者日本語教育	2	3	○		
	文化人類学	4	1	○		
	日本文化論	4	2			
	日本研究概論	4	2			
	韓国文化論	4	2	○		
	社会学概論	4	1			
	世界史における日本	4	2			
	難民・移民の人権	4	2			
	国際人権法	4	2			
	国際交流論	4	2			
	国際関係論	4	1			
	平和構築論	4	2			
	現代日本の政治	4	2			
	宗教と教育	2	2			
	日本の宗教	4	2			
	イスラーム文化論	4	2			
	キリスト教文化論	4	2			
	仏教文化論	4	2			
	家族社会学	4	2			
家庭と教育	2	1				
日本文学史A	4	1				
日本文学史B	4	1				
言語 と 社会	言語と文化	4	2	○	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	多言語交流演習	2	1	○		
	言語政策論	4	2			
	社会言語学	4	2			
	言語とジェンダー	4	2			
	情報と社会	2	1			
言語 と 心理	言語習得法	2	1	○	2 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	早期英語教育	4	2			
	学習心理学	4	2			
	現代コミュニケーション理論	4	1			
	対人コミュニケーション	4	2	○		
	異文化コミュニケーション	4	2			
	国際コミュニケーション	4	2			
	異文化理解教育	4	3			
	教育心理学(教職課程)	2	2			
	社会心理学	4	2			

5区分	授業科目	単位	履修年次	リベラルアーツ学群 日本語教育 専攻プログラム科目	45 単位 コース	26 単位 コース
言語と教育	日本語教育学B	2	1	○(必修)	6 単位 選択必修	6 単位 選択必修
	日本語教育文法	2	2	○		
	日本語教授法	4	2	○(必修)		
	日本語教材開発	2	3	○		
	マルチメディア日本語教育	2	3	○		
	日本語の評価法	2	2	○		
	カリキュラムデザイン	2	3	○		
	海外教育実習	2~4	2	○		
日本語教育実習	4	3	○(メジャーのみ必修)	必修	必修	
言語	日本語学概論	2	1		6 単位 選択必修	2 単位 選択必修
	日本語の音声	2	1	○		
	日本語の語彙・意味	4	1	○		
	日本語の文字・表記	2	1	○		
	日本語の表現	4	1	○		
	日本語の文法	4	2	○		
	ことばの比較	2	1	○		
	日中対照言語学	2	3	○		
	日本語史	2	3	○		
	ブラグマティクス	4	3	○		
	談話分析	4	2	○		
応用言語学	4	2				
5区分関連 スキル・ 方法論	言語データ分析	2	2	○		
	社会統計学	2	2			
	コンピュータリテラシーII	2	1			
	プレゼンテーション演習	2	2			
					合計 45 単位	合計 26 単位

【注】科目によっては、先修条件等の履修の条件が付されているものがあります。履修の際は、各科目の先修条件等を確認してください。

18.児童福祉司任用資格

児童福祉司は、児童相談所において、18 歳未満の子どもや保護者等から子どもの福祉に関する相談や専門的技術に基づいて必要な援助を判断するための調査を行い、子ども、保護者、関係者等に必要な支援や指導、および関係調整などを行います。

本学における資格取得対象者は、以下のとおりです。

(1) 健康福祉学群(社会福祉専修または精神保健福祉専修)で所定の科目を修得後、受験資格を得て国家試験に合格し、社会福祉士、精神保健福祉士資格を取得した者

(2) 健康福祉学群(社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修)の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で1年以上相談援助業務に従事した者

(3) リベラルアーツ学群(心理学専攻、教育学専攻もしくは社会学専攻メジャー修了)の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で1年以上相談援助業務に従事した者

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

19.児童心理司任用資格

児童心理司は、児童相談所において、心理に関する専門的な知識及び技術を必要とする指導をつかさどる所員を指し、18歳未満の子どもや保護者の心理状況を把握するための面談や心理検査による心理診断および、その診断内容に応じた心理療法やカウンセリングを行います。

本学における資格対象者は、以下の通りです。

(1)リベラルアーツ学群(心理学専攻メジャー修了)の卒業生

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

2012年度桜美林大学履修ガイド
2012年4月1日発行
桜美林大学
〒194-0294 東京都町田市常盤町3758
電話 042(797)2661(代表)
製作／株式会社ポートサイド印刷

この履修ガイドは再生紙を使っております。